

平成 18 年度第三者評価結果報告書

平成 19 年 3 月 27 日

財団法人短期大学基準協会

目 次

平成 18 年度第三者評価結果について

1. 平成 18 年度第三者評価結果
2. 平成 18 年度第三者評価結果決定までの日程
3. 平成 18 年度第三者評価の経過

資料 1 財団法人短期大学基準協会の概要

資料 2 評価組織

第三者評価委員会委員一覧

第三者評価審査委員会委員一覧

資料 3 評価員一覧

平成 18 年度第三者評価結果

- 1 札幌国際大学短期大学部
- 2 北海道文教大学短期大学部
- 3 聖和学園短期大学
- 4 桜の聖母短期大学
- 5 千葉敬愛短期大学
- 6 帝京平成看護短期大学
- 7 自由が丘産能短期大学
- 8 実践女子短期大学
- 9 淑徳短期大学
- 10 帝京短期大学
- 11 東京女子体育短期大学
- 12 東京文化短期大学
- 13 桐朋学園芸術短期大学
- 14 立教女学院短期大学
- 15 東海大学医療技術短期大学
- 16 新潟青陵大学短期大学部
- 17 新潟中央短期大学
- 18 金城大学短期大学部
- 19 仁愛女子短期大学
- 20 山梨学院短期大学

- 21 飯田女子短期大学
- 22 愛知学泉短期大学
- 23 愛知江南短期大学
- 24 岡崎女子短期大学
- 25 光陵女子短期大学
- 26 名古屋経営短期大学
- 27 南山短期大学
- 28 華頂短期大学
- 29 京都医療技術短期大学
- 30 京都嵯峨芸術大学短期大学部
- 31 京都短期大学
- 32 京都文教短期大学
- 33 神戸常盤短期大学
- 34 湊川短期大学
- 35 川崎医療短期大学
- 36 作陽短期大学
- 37 広島国際学院大学自動車短期大学部
- 38 岩国短期大学
- 39 山口芸術短期大学
- 40 四国大学短期大学部
- 41 九州造形短期大学
- 42 近畿大学九州短期大学
- 43 精華女子短期大学
- 44 別府大学短期大学部

(都道府県別・五十音順)

参考 会員校一覧

平成 18 年度第三者評価結果について

財団法人短期大学基準協会

1. 平成 18 年度第三者評価結果

財団法人短期大学基準協会（以下「本協会」という。）は次の短期大学に対して平成 18 年度第三者評価を適格と認定しました。

- 1 札幌国際大学短期大学部
- 2 北海道文教大学短期大学部
- 3 聖和学園短期大学
- 4 桜の聖母短期大学
- 5 千葉敬愛短期大学
- 6 帝京平成看護短期大学
- 7 自由が丘産能短期大学
- 8 実践女子短期大学
- 9 淑徳短期大学
- 10 帝京短期大学
- 11 東京女子体育短期大学
- 12 東京文化短期大学
- 13 桐朋学園芸術短期大学
- 14 立教女学院短期大学
- 15 東海大学医療技術短期大学
- 16 新潟青陵大学短期大学部
- 17 新潟中央短期大学
- 18 金城大学短期大学部
- 19 仁愛女子短期大学
- 20 山梨学院短期大学
- 21 飯田女子短期大学
- 22 愛知学泉短期大学
- 23 愛知江南短期大学
- 24 岡崎女子短期大学
- 25 光陵女子短期大学
- 26 名古屋経営短期大学
- 27 南山短期大学
- 28 華頂短期大学
- 29 京都医療技術短期大学
- 30 京都嵯峨芸術大学短期大学部
- 31 京都短期大学

- 32 京都文教短期大学
- 33 神戸常盤短期大学
- 34 湊川短期大学
- 35 川崎医療短期大学
- 36 作陽短期大学
- 37 広島国際学院大学自動車短期大学部
- 38 岩国短期大学
- 39 山口芸術短期大学
- 40 四国大学短期大学部
- 41 九州造形短期大学
- 42 近畿大学九州短期大学
- 43 精華女子短期大学
- 44 別府大学短期大学部

(都道府県別・五十音順)

2. 平成 18 年度第三者評価結果決定までの日程

平成 18 年度の第三者評価決定までの日程は下記のとおりです。

- ・ 平成 17 年 7 月 31 日 平成 18 年度第三者評価申込受付締切
- ・ 平成 17 年 9 月 15 日 評価を受ける短期大学（以下「評価実施校」といいます）の決定
- ・ 平成 17 年 12 月 20 日 ALO（第三者評価連絡調整責任者）対象説明会
- ・ 平成 18 年 6 月 30 日 自己点検・評価報告書の提出締切
(評価員：書面調査開始)
- 平成 18 年 7 月 10・11 日 評価員研修会の実施
- ・ 平成 18 年 9 月 11 日
} 訪問調査の実施
- 平成 18 年 10 月 27 日
- ・ 平成 18 年 11 月 7 日 評価チームから領域別評価の提出
- ・ 平成 18 年 11 月 21・22 日 第三者評価委員会（以下「評価委員会」といいます）分科会及び評価委員会の審議
- 平成 18 年 12 月 6・7 日 評価委員会分科会及び評価委員会の審議
- 平成 18 年 12 月 14 日 評価委員会、理事会の審議
- ・ 平成 18 年 12 月 20 日 評価実施校への機関別評価案の内示
異議申立て受付開始（締切：平成 19 年 1 月 25 日）
- ・ 平成 18 年 2 月 2 日 審査委員会による異議申立ての審査
- ・ 平成 19 年 2 月 15 日 評価委員会、理事会で異議申立ての適否、評価結果の審議・決定
- ・ 平成 19 年 3 月 22 日 評議員会、理事会による評価結果の最終決定
- ・ 平成 19 年 3 月 27 日 評価実施校への評価結果通知
- ・ 平成 19 年 3 月 27 日 第三者評価結果の公表
- ・ 平成 19 年 5 月 14 日 平成 18 年度第三者評価適格認定証贈呈式(予定)

3. 平成 18 年度第三者評価の経過

上記日程に即して平成 18 年度第三者評価の経過を説明します。

- (1) 本協会は平成 17 年 7 月末を締め切りに平成 18 年度第三者評価の申込受付を行い、49 校の短期大学から申込みがありました。そのうち平成 18 年 3 月までに 4 校の短期大学から取下げがありました。
- (2) 本協会は、平成 18 年度評価実施に先立ち、平成 17 年 12 月 20 日に各短期大学の自己点検・評価活動や第三者評価を円滑に進める責任者（ALO）を対象に「平成 18 年度第三者評価 ALO 対象説明会」を開催し、本協会の目指す第三者評価、実施体制、実施方法等について共通理解を図るとともに、第三者評価の円滑な実施のために本協会、評価員と評価実施校との窓口となって連絡・調整の任にあたるよう要請しました。
- (3) 評価委員会では、評価員候補者のうちから 234 名の評価員を選出し、評価実施校 1 校につき 5 名程度で「評価チーム」を編成するとともに、各評価チームにチーム責任者（理事長・学長またはそれらに相当する役職者）をおきました。
- (4) 評価員は、「平成 18 年度第三者評価 評価員研修会」において、本年度の第三者評価に関する基本的な考え方について共通理解を図った後、評価実施校から提出された自己点検・評価報告書に基づき、書面調査、訪問調査に臨み、次の手順で評価を取りまとめていきました。
 - ① 評価員による項目別評価
評価員は、担当する評価実施校から提出された自己点検・評価報告書に基づき、書面調査及び訪問調査を通じて、当該評価実施校の状況を評価項目ごとに把握・分析し、それらに基づき、評価を行いました。
 - ② 評価チームによる領域別評価
評価チームは、訪問調査時には評価員会議を行い、訪問調査終了後には各評価員の項目別評価に基づき、項目別評価と同様な評価を行い、評価チームとしての領域別評価を作成しました。同時に、当該評価実施校の教育活動等の状況のうち、優れていると判断される事項、向上・充実のための課題、または早急に改善を要すると判断される事項についても検討し、それらを合わせた領域別評価票を作成し、評価委員会へ提出しました。
- (5) 評価委員会では、評価実施校 45 校に対して機関別評価原案の作成にあたる分科会として 9 分科会を設けました。

各分科会では、担当する評価チームから提出された領域別評価について検討を加え、当該評価チーム責任者からヒアリングを行ったうえ、機関別評価原案を作成しました。
- (6) 評価委員会では、各分科会で作成された機関別評価原案について、各分科会主査の報告を受けた後、全体的観点から審議し、機関別評価案を作成しました。さらに平成 18 年 12 月 14 日に開催された理事会に機関別評価案の報告を行い、各評価実施校へ内示しました。この内示の

前に1校から評価申請の取り下げがあり、当該短期大学の評価を中止しました。

- (7) 評価委員会からの内示に対して、4校の短期大学から機関別評価案の指摘事項に対する異議申立て書の提出がありました。

これらの異議申立ての申し出を審査委員会に諮り、審査委員会では、提出された資料を中心に事実誤認の有無及び訂正申し出の適否を慎重に審議し、その適否及び必要な修正等を明示して理事会に報告し、理事会は審査委員会のそれらの結果を承認しました。

- (8) 評価委員会から提出された機関別評価案を、審査委員会からの報告書とともに、平成19年2月15日開催の理事会及び平成19年3月22日に開催された評議員会及び理事会に諮りました。理事会では、機関別評価案を審査した結果、平成18年度の評価実施校44校について、本協会の短期大学評価基準を充たしているものとして、すべて適格と認定しました。

さらに、本協会は、すべての評価実施校に対して、当該短期大学における教育活動の更なる向上・充実に資するため、機関別評価結果並びに機関別評価結果の事由の他に、「優れていると判断される事項」、「向上・充実のための課題」、「領域別評価結果」について、コメントを付しました。

資料1 財団法人短期大学基準協会の概要

1. 概要

平成14年に学校教育法の一部が改正され、平成16年度から大学は、当該大学の教育及び研究、組織及び運営並びに施設及び設備等の総合的状況について、少なくとも7年間に一度、文部科学大臣の認証を受けた認証評価機関による評価（認証評価）を受けることが義務づけられました。

財団法人短期大学基準協会は、学校教育法の改正に基づき、平成17年1月14日に認証評価機関として文部科学大臣から認証を受け、我が国の国公立短期大学468校のうち、373校（平成19年1月末現在）が加盟しています。また、本協会の評価事業は公正性や社会からの信頼性を強く求められる公益性の極めて高いものであることから、本協会は、財団法人として、平成17年3月31日に文部科学大臣から許可を受けました。

この学校教育法の改正以前、特に、平成3年の大学審議会答申「大学教育の改善について」から始まった高等教育機関における改革の流れの中で、短期大学関係者は、その改革の基本的な方法として自己点検・評価の組織的な導入の必要性を認識し、短期大学の水準の維持・向上を図るとともに、短期大学の自己点検・評価による改善を支援するため、平成6年4月、任意団体として「短期大学基準協会」を設立しました。その際、日本私立短期大学協会の支援を得て、同協会に加盟しているすべての短期大学が参加しました。

以来、「短期大学基準協会」は、短期大学の自己点検・評価活動や短期大学相互評価の促進並びに支援、及び地域総合科学科の適格認定等の実施等を通じ、短期大学の特色とそのあるべき姿について研究・検討を続け、平成17年3月31日をもって財団法人短期大学基準協会と改組し、現在に至っています。

2. 評価の対象と目的

本協会は、評価を通して短期大学教育の継続的な質の保証を図り、加えて短期大学の主体的な改革・改善を支援することで短期大学教育の向上・充実に資することを目的としています。本協会の行う第三者評価は、評価を希望するすべての短期大学（文部科学省の設置認可後、完成年度を経た短期大学）を対象に、短期大学の教育活動等について総合的に評価するものです。また、本協会の評価に対する社会の理解と支持を得るために、評価システムや評価結果を公表します。

3. 第三者評価の実施体制

(1) 実施体制

本協会は、理事会の下に、第三者評価を行う組織として評価委員会を設けています。評価委員会では、第三者評価に関する基本方針の策定、第三者評価システム全体の点検・改善、機関別評価案の作成に関する事等、第三者評価の実施に関する事項を担当しています。

さらに、第三者評価を円滑に実施するため、次のような組織体制を整えています。

○ALO（Accreditation Liaison Officer：第三者評価連絡調整責任者）

本協会の評価では、各短期大学の相互評価等を含む自己点検・評価活動を基礎にしていることから、その自己点検・評価活動や第三者評価を円滑に進める責任者（ALO）を各短期大学に1名置いています。この責任者をALO（Accreditation Liaison Officer：第三者評価連絡調整責任者）といい、各短期大学が選任し、本協会に登録しています。

○評価員（評価チーム）

評価委員会において、会員短期大学から選出された評価員候補者や学識経験者等のうちから当該年度に必要な評価員を委嘱し、本協会の第三者評価を受ける短期大学1校につき5名程度で「評価チーム」を編成しています。各評価チームは、評価実施校から提出された自己点検・評価報告書に基づき、書面調査及び訪問調査を行います。

また、評価に際して、チーム内の多様な意見を取りまとめ、評価実施校との連絡・調整を図る「チーム責任者」を選任します。

○第三者評価委員会分科会

評価委員会の下に、原則3～4名の評価委員会委員及び分科会2号委員で構成される第三者評価委員会分科会を設け、各評価チームから提出された領域別評価に基づき、機関別評価原案の作成にあたります。

○第三者評価審査委員会

評価委員会が各評価実施校へ内示した機関別評価案に対して、評価実施校から事実誤認等による異議申立てがあった場合の審査機関として、理事会の下に、5名で構成される第三者評価審査委員会を設けています。審査委員会は、本協会理事長の諮問に応じて異議申立てに対する審査を開始し、その審査結果を理事会へ報告します。

(2) 評価の手順

① 短期大学評価基準に基づく自己点検・評価報告書の提出

本協会では、短期大学の教育活動等の状況を多角的に評価するため、10の評価領域で構成されている短期大学評価基準に基づき、第三者評価を実施します。また、各短期大学が短期大学として有すべき水準を充たしているかどうかという視点から、この10領域にそれぞれ複数の評価項目（合計32項目）を設定するとともに、各評価項目を理解し、分析するため、さらに144の評価の観点を示しています。評価実施校は、これら評価領域、評価項目及び評価の観点を踏まえ、教育活動等の状況を分析・評価して、自己点検・評価報告書を作成し、本協会並びに評価員へ提出します。

② 書面調査及び訪問調査

評価員は、評価員研修会において、当該年度の第三者評価に関する基本的な考え方について共通理解を図った後、評価実施校から提出された自己点検・評価報告書に基づき、書面調査、訪問調査に臨み、項目別評価及び領域別評価にあたります。

a. 項目別評価

評価員は、書面調査及び訪問調査を通じて、当該評価実施校の状況を把握・分析し、評価項目ごとに当該評価実施校が短期大学としての水準を充たしているかどうかについて、合・否の2段階による評価を行います。

b. 領域別評価

評価チームは、各評価員が作成した上記の項目別評価に基づき、訪問調査中に行う評価員会議を経て、訪問調査終了時に評価チームとしての評価を検討します。ここでは項目別評価と同様に合・否の2段階による評価を行い領域別評価として集約します。

また、その際、当該評価実施校の教育活動等の状況のうち、優れていると判断される事項、向上・充実のための課題、または早急に改善を要すると判断される事項についても検討し、

それらを合わせた領域別評価票を作成します。

なお、「優れていると判断される事項」は、当該評価実施校の取り組んでいる事項が特色ある優れたものであることを示した項目です。また、「向上・充実のための課題」は、当該短期大学の教育活動が向上・充実するためにその解決、克服が必要となる課題、または現状にとどまらず、更なる向上・充実を図ることが期待される事項を掲げています。さらに、「早急に改善を要すると判断される事項」は、例えば、短期大学設置基準未充足等、短期大学としての水準を充たしていないと判断される事項について指摘したものです。

③ 評価委員会による機関別評価

評価委員会では、各評価チームから提出された領域別評価票に基づき、分科会及び評価委員会でそれぞれ検討を加えます。

a. 分科会

分科会は、分科会毎に担当する評価チームから提出された領域別評価票について検討を加え、当該評価チーム責任者からヒアリングを行ったうえ、機関別評価原案を作成します。各分科会は、この機関別評価原案の作成にあたり、当該評価実施校の教育活動等の状況が、短期大学全体として、短期大学の水準を充たしているか否かを審議します。

b. 評価委員会

評価委員会では、各分科会で作成された機関別評価原案について、各分科会主査の報告を受けた後、全体的観点から審議し、機関別評価案を作成し、各評価実施校へ内示します。

評価委員会は、この評価の時点で、早急に改善を要すると判断される事項について、特に速やかな改善が可能であると判断した場合には、規程(財団法人短期大学基準協会第三者評価実施規程 第9条)に基づき、最終的な判定を保留することとし、評価実施校にその旨、内示します。

保留とした評価実施校には、その通知を受けた日から一定期間内に改善計画書及び改善報告書を提出して再評価を受けることを求め、当該校から提出された改善計画書及び改善報告書を検討し、指摘事項が改善されたか否かを証拠書類に基づいて確認し、改善が完了したと認められる場合には、適格とします。

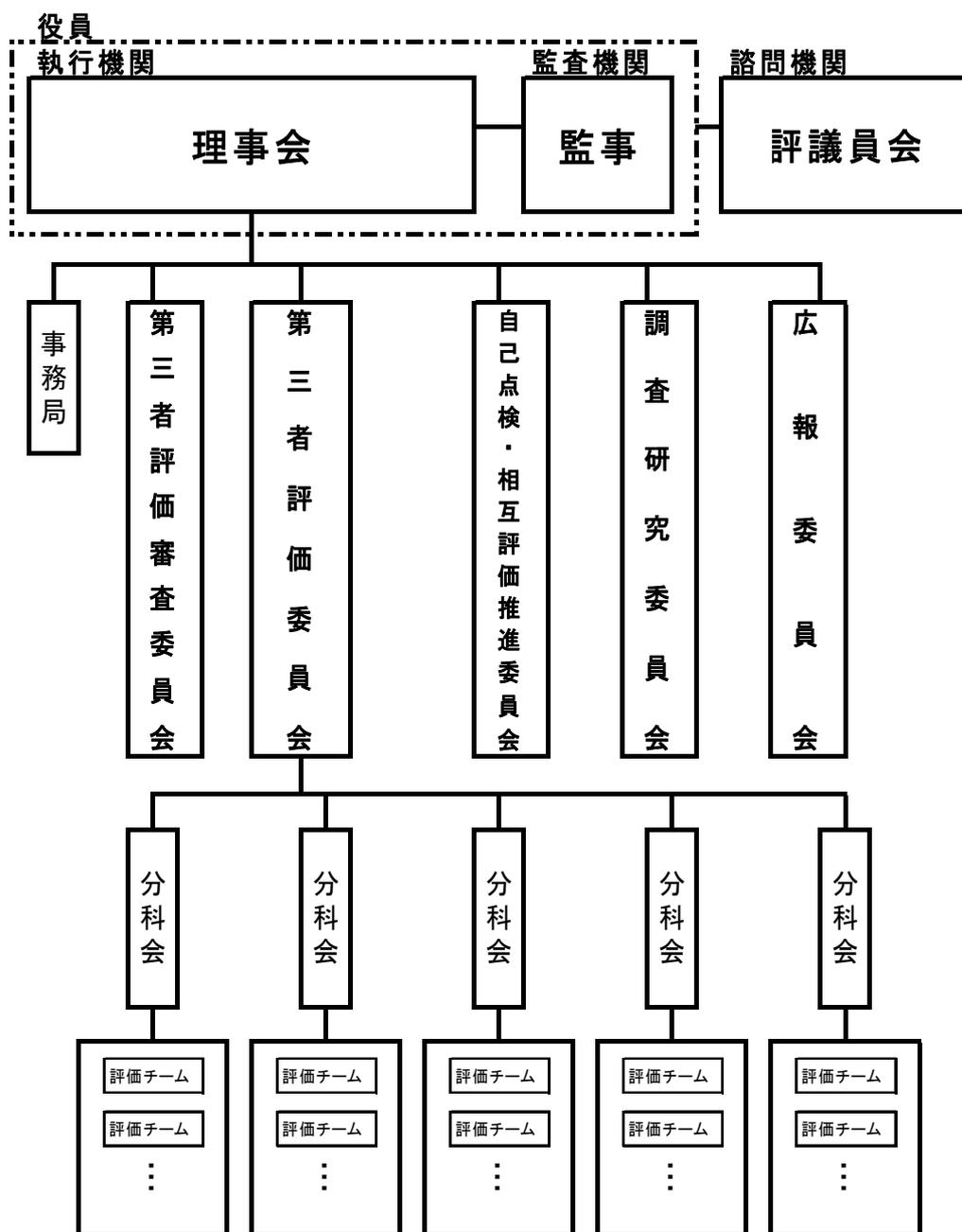
④ 審査委員会による審査

本協会では、内示に際して、機関別評価案の指摘事項に対する異議申立ての機会を保証することとし(財団法人短期大学基準協会第三者評価実施規程 第10条第1項)、評価に重大な事実の誤認等がないように努め、評価実施校から、内示に対して異議申立てが出された場合は、直ちに、審査委員会では、提出された資料を中心に事実誤認の有無及び訂正申し出の適否を十分審議し、必要な修正を行うよう理事会に報告します。

⑤ 理事会での決定

理事会は、評価委員会から提出された機関別評価案に基づき、審査委員会からの報告を踏まえて審議し、評価実施校に対する機関別評価を決定し(財団法人短期大学基準協会第三者評価実施規程 第11条)、各評価実施校へ通知します。

4. 財団法人 短期大学基準協会 組織図



資料2 評価組織

第三者評価委員会委員一覧

◎：委員長 ○：副委員長

氏名	現職	氏名	現職
◎ 関根 秀和	大阪女学院短期大学 / 院長・学長	関口 修	郡山女子大学短期大学部 / 理事長
○ 山内 昭人	香蘭女子短期大学 / 理事長・教授	館 昭	桜美林大学大学院 / 教授
會澤 まりえ	尚綱学院大学 / 教授	谷本 榮子	関西外国語大学短期大学部 / 副理事長
安部 恵美子	長崎短期大学 / 学長・教授	中 明夫	大阪成蹊短期大学 / 理事長
大野 博之	国際学院埼玉短期大学 / 副理事長・副学長	濱名 篤	関西国際大学 / 学長
大村 英子	兵庫大学短期大学部 / 学長	原田 博史	岡山短期大学 / 理事長・学長
金子 邦彦	明治大学 / 教授	福井 有	大手前短期大学 / 理事長・学長
菅野 英孝	福島学院大学短期大学部 / 理事長	藤尾 ミツ子	兵庫大学健康科学部看護学科 教授
草原 克豪	拓殖大学北海道短期大学 / 学長	三神 敬子	山梨学院短期大学 / 学長
栗坪 良樹	青山学院女子短期大学 / 教授	森本 晴生	東京文化短期大学 / 理事長・学長
齋藤 力夫	齋藤力夫公認会計士事務所 / 公認会計士	森脇 道子	自由が丘産能短期大学 / 学長
島田 燦子	文京学院短期大学 / 理事長・学長	山岸 駿介	(財)日本私学教育研究所 / 所長
清水 一彦	筑波大学大学院 / 教授	山田 敏之	湘北短期大学 / 教授
下山 晃	高知学園短期大学 / 学長	脇 俊隆	中日本自動車短期大学 / 学長
(分科会2号委員)			
麻生 隆史	山口短期大学 / 学長	佐藤 榮悦	聖霊女子短期大学 / 副学長
阿部 正	福島学院大学短期大学部 / 学長	瀧川 嘉彦	名古屋文理大学短期大学部 / 理事長・学長
柏木 道子	大阪キリスト教短期大学 / 教授	柳澤 慧二	鶴見大学短期大学部 / 学長
高坂 祐夫	大阪信愛女学院短期大学 / 副学長	山本 伸晴	常葉学園短期大学 / 学長
佐々木 直	一宮女子短期大学 / 学長	吉田 博司	大阪千代田短期大学 / 理事長・学園長

(平成18年12月現在)

※上記の第三者評価委員会委員及び10名の分科会2号委員を委嘱して9分科会が構成されました。

第三者評価審査委員会委員一覧

◎：委員長

氏名	現職	氏名	現職
◎ 坂田 正二	広島文化短期大学 / 理事長	佐々木 公明	霞ヶ関法律会計事務所 / 弁護士
井内 慶次郎	(財)日本視聴覚教育協会 / 会長	田中 義郎	桜美林大学大学院 / 教授
小出 忠孝	愛知学院大学短期大学部 / 学院長・学長		

(平成19年2月現在)

資料3 評価員一覧(平成18年度)

五十音順

青木 重	榎本 律男	國分 三郎	鈴木 忍
青木 純一	江端 源治	小西 律	鈴木 利定
青山 佐喜子	箆 光夫	小林 和久	鈴木 康之
秋葉 英則	江間 淳二	小林 啓延	須藤 賢一
秋元 とし子	遠藤 幸治	小山 岩雄	摺崎 宏
秋山 啓	大久保 治男	近藤 卓夫	高城 宏明
浅井 允晶	太田 信二	近藤 秀章	高澤 勇
朝川 真紀	大谷 岳	斉藤 恭平	高橋 千代
浅見 晴江	大橋 博	酒井 達夫	田久 昌次郎
安宅 一夫	岡田 啓助	酒井 祐太郎	竹内 裕
阿部 和子	岡田 武郎	酒巻 和子	武田 秀美
安保 康治	岡田 敏彦	坂本 美代子	武田 康雄
天根 俊治	岡本 忠廣	酒寄 雅志	田崎 裕美
荒井 俊貴	小川 悦代	佐久間 勝彦	田尻 紀子
荒井 優	小川 賢一	櫻井 奈津子	多田 憲孝
有村 幸嘉	冲永 莊一	桜谷 興道	多田 昌生
安藤 和彦	小倉 嘉夫	酒向 登志郎	多田 稔
安藤 正人	海見 俊宏	流石 智子	田中 恒治
石岡 礼次	香川 幸子	貞廣 實	田中 正浩
石川 浩	香川 達雄	佐藤 清彦	田中 洋一
石田 忠彦	加島 巧	佐藤 修策	田辺 幹夫
伊集院 久信	片岡 輝	佐藤 成一	谷口 裕典
五十川 隆夫	鎌本 京子	佐藤 善一	田村 敦彦
板垣 健太郎	上島 三介	佐藤 宥紹	千草 篤麿
伊藤 克秀	川井 薫	佐藤 稔	乳井 英雄
伊東 勝之	川上 恒夫	佐藤 幸雄	智原 哲郎
伊藤 知子	川瀬 智恵子	里見 憲男	佃 昌道
伊藤 祐子	川名 尚	篠原 寿子	辻原 陽一
井上 淳司	菅野 修一	澁田 英敏	寺田 有恒
今井田 道子	神戸 信寅	清水 敦彦	寺出 浩司
今田 洋	菊池 雅人	志水 暎子	遠山 克美
今道 正樹	城戸 章宏	下川 正廣	時本 久美子
上田 庄一	桐原 由美	下山 晃	戸田 金一
上田 衛	久保内 加菜	白取 肇	豊浦 順昭
上原 敬司	裾沢 栄一	神徳 規子	豊澤 弘伸
宇賀 敏夫	桑野 聡	杉山 道雄	中井 紀代子

永井 秀樹	日高 三郎	安田 尚道
中井 康行	一言 哲也	柳田 博明
長岡 晃夫	平野 賢哉	山口 富彌
長岡 寛治	平野 良明	山田 隆
中川 貞志郎	広瀬 弘道	山田 千秋
中田 晶子	福士 洋子	山中 賢一
永田 靖章	福田 仁	山本 茂紀
中西 啓子	福元 裕二	山本 勝輝
中西 載慶	藤原 卓	山本 昌子
中野 明人	藤森 弘子	横川 砂和子
中野 鈔三郎	布施 千草	吉井 利眞
永福 より子	堀 建治	吉田 修
中村 浩	本城 靖久	吉田 寛治
中村 直樹	前川 秀治	吉田 眞言
中村 雅人	牧 昌生	若栗 幹衛
中山 御由	松川 秀夫	渡辺 波江
夏目 恒雄	松任 茂樹	渡辺 守
成田 直三	松永 晴紀	渡邊 良智
西馬 三郎	松原 武実	以上
西尾 宣明	松本 伸司	
西谷 源展	松本 公文	
西本 眞	松本 昌雄	
西山 明德	三神 敬子	
西山 薫	三木 容彦	
西山 秀人	三嶋 敏雄	
西脇 哲夫	水谷 一郎	
沼田 憲治	峰松 康世	
野澤 智	美濃 順亮	
野々山 喜代子	三好 郁朗	
呑山 委佐子	牟田 緑	
萩原 應至	武藤 薫	
橋本 信子	村井 利彦	
長谷川 吉巨	村上 優	
蜂巢 泉	村田 篤美	
林 堯	元山 和仁	
早田 由美子	森 勝行	

札幌国際大学短期大学部

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 札幌国際大学
理事長	和野内 崇弘
学 長	神尾 和正
A L O	竹内 康二
開設年月日	昭和44年4月1日
所在地	北海道札幌市清田区清田四条1-4-1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
英語コミュニケーション学科		50
総合生活学科		75
幼児教育保育学科		140
	合計	265

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
幼児教育専攻	10
	合計 10

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

札幌国際大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年6月22日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

短期大学の在り方が時代と地域性という難しい局面の中で問われる今、教職員が一体となり、よい人材を育てるために大いに努力されている。

教育課程は教育理念、目標に沿ったものとなっており、教養教育、専門教育とも資格・検定を意識した科目構成となっていて、キャリア教育に重点を置いたものとなっている。それは多様な学生のニーズに応えたものといえる。

教員数は短期大学設置基準で定める専任教員数に達しており、教員組織は各学科の教育目標に基づいた教育課程に応じて適切に整備されている。また、教育環境は、講義系教室、パソコン室、LL教室、運動場、体育施設など、その授業内容や目的に応じて整備され、活用されている。さらに、併設大学との共用施設である図書館の教育環境も充実しており、図書館活動の更なる発展を目指して努力している。

おおむね良好な単位取得状況および高い就職率から、教育目標は達成され、教育効果も十分なものであると判断する。

入学、学習、学生生活、進路に関し、学生支援体制が整備され、きめ細かな指導、支援が実施されている。

教育の質を高める研究活動が外部研究費の導入や個人研究費の利用で充分に行われている。紀要などでその成果は公表されており、教員の研究への取組みは高いものといえる。

主に授業科目との関連で、ボランティア活動など社会的活動が積極的に推進され、地域貢献に大いに取り組んでいる。また社会人を対象としたオープンカレッジや公開講座を開講し、地域社会に向けて学習の機会を提供している。

学校法人としての管理運営体制、教授会、職員組織が全体としてよく整備されている。

財務状況は健全で、事業計画、予算などの作成プロセスも適切に行われている。

自己点検評価に関しては、その実施体制、システム構築、また、相互評価体制に多大な努力が払われている。特にファカルティ・ディベロップメント（FD）研修会などを開催し、カリキュラムの工夫、授業の満足度などが議論されている。

2. 優れていると判断される事項など

（1）優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の礎に則った教育目標が具体的に教養科目のカリキュラムにいかされている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 単位取得と検定受験による資格取得などのキャリア教育への積極的な取組みがなされている。
- 札幌市内の大学・短期大学で実施している「グリーンキャンパス制度」に加盟、学生のニーズの多様化に対応した取組みを行っている。
- 毎年、公開授業月間を設け、授業公開を実施し、終了後、検討会を開催するなど、継続的なFD活動がなされている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 教育の効果は、卒業生に対する卒業後学生評価の結果において企業や保育現場から得られた高い評価に表れている。

評価領域Ⅵ 研究

- 個人研究費とは別に、顕著な研究に対し、短期大学独自の財政支援を行っている。
- 科学研究費補助金などの申請は過去3年間毎年行われ、平成16年度は2件採択されているなど研究努力がなされている。
- 複数教員による共同研究活動への取組みがなされている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 教職員を対象とする資格取得のための費用援助制度があり、教職員の質的向上に努めている。

評価領域Ⅸ 財務

- 財務状況が良好であると判断できる。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 2005年版から2006年版のシラバスへの改善はみとめるが、まだシラバスには、毎時間の授業内容が具体的に理解できるように記載されていない科目があるので、さらなる記載方法の改善に努められたい。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 障害者に対応したキャンパス環境の整備が望まれる。
- 教員の年齢構成の偏りについては是正が望まれる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- カウンセリング体制の整備を図ることが望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 既存の海外や国内の姉妹校への研修制度の奨励や活用が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 平成9年に前身である静修短期大学の建学の精神を大幅に見直し、建学の礎を設定し、自立した自由な個人と地域に貢献する主体を育て、日本人としてのアイデンティティを大切にすると明記している。
- 建学の礎および教育の基本的考え方（教育の場とは自分で自分を育てる場）に従って各学科が教育目標を明確に設定している。点検は学科会議、教授会、各部会などで行っている。
- 教職員に対しては理事長の講話において、学生に対しては理事長、学長の講話および新入生オリエンテーションにおいて、教育の基本的考え方が再確認されている。
- 短期大学の在り方が時代と地域性という難しい局面の中で問われる今、教職員が一体となり、よい人材を育てるために大いに努力している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育課程は建学の精神に基づく教育目標を達成するための十分な内容とレベルを有し、主要な科目には適切に専任教員が配置されるなど体系的に編成されている。特に教養教育への取組みは全学的なものとなっていて、新入生への配慮が行き届いており、学ぶことの意義や社会との関わりについて授業が展開されていることが大きな特徴といえる。学科間の単位修得割合に若干のばらつきがあるが、単位認定と評価は、おおむね適切に行われている。さらに、教育課程の見直しに関しても、学科毎に毎年行っており、教育課程改善への努力がうかがわれる。

- 教育課程が資格・検定に収斂しているのが大きな特徴であり、そのことは短期大学設置基準第4章教育課程で掲げられている「…短期大学は、学科に係る専門の学芸を教授し、職業または実際生活に必要な能力を育成する…」を実践していることにほかならない。総合生活学科と英語コミュニケーション学科では、選択科目を多く用意し、科目選択の自由度を高め、免許、資格の取得や学生の多様なニーズに配慮した教育課程になっている。そして常に見直し作業を実行していることは評価できる。
- 毎年シラバスが作成され、学科、専攻科、図書館司書課程について、それぞれ科目一覧表、資格認定表（全国大学実務教育協会）を添え、学生の便宜に定めるものとなっている。
- 学生による授業評価が定期的に行われ、その結果は教員にフィードバックされ、授業改善に寄与している。FD活動や公開授業も継続的に実施され効果をあげている。教員間、学科間の意思疎通も充分に行われている。次年度へのビジョンもあげられており、その面でも授業内容への改善努力は十分なものと評価できる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員数は短期大学設置基準で定める専任教員数に達している。また教員は、教育目標に基づいた教育課程を展開する上で必要な資格と資質を有し、教員の年齢構成には多少の偏りがあるが、おおむねバランスが取れている。さらに、教員の採用・昇任については、「教員資格審査基準及び任用審査規程」に基づき適切に行われている。
- 校地および校舎の面積は短期大学設置基準値を上回っている。大学との共用施設である情報教育センターには、パソコン教室が6室、LL教室が2室、パソコン実習室が1室あり、パソコン室は日常的に学生に開放され、学生への利便が図られている。また1号館の全ての講義系教室には、液晶プロジェクターや実物投影機などの視聴覚機器が配備され、そのほかの教室にも授業内容や目的に応じた機器・備品が配備されている。さらに、運動場および体育施設は十分な広さを有し、体育系の授業やクラブの活動場所として利用されている。
- 図書館の広さ、閲覧室の座席数、蔵書数、司書および図書検索システムなどを含むサービス体制などの状況から、図書館利用環境は適切に整備されていると判断できる。また、購入図書選定および廃棄システムは、札幌国際大学図書館管理規程に基づき体系的に確立されている。さらに、図書館活動のさらなる発展を目指して努力している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 教育目標を達成すべくカリキュラムの改善、教育環境の充実など全学を挙げての様々な努力が組織的になされている。特に進路、就職という観点で評価すると、教育目標

の達成度は就職率の高さに表れており、社会からの評価も高いものとなっている。

- 学生の卒業後評価への取組みの努力は、卒業生に対する企業や、保育現場からの高い評価に結実しているといえよう。その結果を更に今後の発展、展開にいかそうとしていることは、評価に値するものである。
- おおむね良好な単位取得状況および高い就職率から、教育目標は達成され、教育効果も十分なものと判断する。

評価領域V 学生支援

- 入学に関する支援は入学生の立場に立った様々な方法できめ細かに行われている。
- 入学時および学期ごとのガイダンス、アドバイザー制度などにより組織的に学生支援が行われ、適切に機能している。
- 学生生活支援体制はおおむね整備されている。メンタルケアやカウンセリングに関する対応は今後の検討課題とされたい。
- 教職員が一体となって十分な進路支援活動が行われている。

評価領域VI 研究

- 研究活動に関しては、教員間で若干の差異があるが、おおむね良好に展開され、研究が教育の基盤となっている。研究成果は毎年『札幌国際大学紀要』上で公開されている。また、科学研究費補助金などの申請は過去3年間毎年行われ、平成16年度は2件採択されている。さらに、幼児教育保育学科では、附属幼稚園や地域の教育機関との共同研究を実施し、研究成果を教育内容などの改善に役立てている。
- 研究室は快適な空間が維持されるように配慮され、研究費および教育研究にかかる機器備品費が充分確保されている。また、特に顕著な研究に対して、短期大学独自の財政支援を行っている。グループ研究については、外部の研究費獲得を奨励し、教員側もそれに向けて努力している。『札幌国際大学紀要』が毎年発行され、発表の機会が確保されている

評価領域VII 社会的活動

- 実務教育の一環として、ボランティア活動を中心に様々な社会的活動が推進されている。また、社会人を対象とした各種資格取得のためのオープンカレッジや、他大学の公開講座を「夕学講座サテライト」と題してサテライト教室で開講し、地域社会に向けて学習の機会を提供している。
- 「地域の人々と交流するとともに、ボランティア活動に自発的かつ積極的に参加しよ

うとする意欲や態度を身に付ける」ことを目標に、主に授業科目との関連で、地域の清掃活動や各種行事への協力、オペレッタや人形劇などの授業成果の地域住民への公開など、社会的活動が盛んに促進され、地域社会に大いに貢献している。

- 国外の姉妹校は、韓国に3校、カナダ、オーストラリア、中国に1校ずつあり、その中の1つであるビクトリア大学（カナダ）に、授業の一環として学生を派遣し、英語研修および文化研修を実施している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 「改革」「スピード」を運営の柱として、理事長の強力なリーダーシップが確立されている。また、理事会、評議員会、監事の機関としての働きも私立学校法また寄附行為に基づき適正に行われている。
- 教授会は適正に運営されている。また、必要とされる部会、委員会は規程に基づき設置され、活発に活動が行われ、情報もしっかり共有されている。学長も各責任者とフェイスツーフェイスで行うルールに則り、意思統一の仕組みがよくできている。
- 事務組織は大学・短期大学の合同組織として、規程に沿って適切に行われている。事務職員の対応についてのアンケートをとるなど、改善の努力も活発に行われ、おおむねスタッフ・ディベロップメント（SD）活動全体が確立されている。
- 人事管理については就業規則に基づき適正に行われており、特に問題はないと思われる。

評価領域Ⅸ 財務

- 当年度の事業計画・予算のみならず中・長期計画についても策定プロセスが明確であり、また、管理もしっかりしている。
- 繰越消費収入超過額、消費収支比率、負債率などから見て、財政状況は極めて健全である。
- 管理規程が整い、備品・施設設備などが適切に管理されていると思われる。また、危機管理面でも、防犯対策、省エネ対策などの配慮がなされている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 平成14年から、副学長を委員長に改善委員会を設け、改善計画が実施されている。平成15年から自己点検・評価報告書を発行しており、自己点検・評価に前向きに取り組んでいる。
- 短期大学全体としての問題点を整理するために多くの教職員が第三者評価委員として

参加している。またFD研修会を開き、改善のための意見や情報交換がなされている。

- 平成5年から平成15年まで学外有識者からなる外部評価機関「教育懇話会」から評価を受けている。第三者評価が制度化されたため本年度解散となったが、新しい視点からの相互評価を受ける体制を検討している。

北海道文教大学短期大学部

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 鶴岡学園
理事長	鈴木 武夫
学 長	鈴木 武夫
A L O	鈴木 貢
開設年月日	昭和38年4月1日
所在地	北海道札幌市南区藤野400

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
幼児保育学科		140
	合計	140

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

北海道文教大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月22日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神、教育の理念は極めて明瞭で、四年制大学と短期大学で、時代に即応しながら学園経営がなされている。

教育目的・目標を実践的に教育課程に具体化し、地域に根付いた保育者養成に取り組んでおり、教育目標として掲げていることを意識的に学園生活に反映している。

短期大学設置基準を十分に充たす教育環境の中で、意欲的な教員による教育実施体制が整っていて、機能している。図書館や授業用の機器・備品も整備され、活発な短期大学の教育を展開できる実施体制と認められる。

学生支援については学習支援と進路・就職支援が一貫性をもって実施され、十分な内容と実績を上げている。

就職率および専門就職への就職率がいずれも良好であり、有能な学生を社会へ送り出し続けている。

効果的な教育指導には、その裏付けとなる教員の専門領域での研究活動が必須であり、それを支援する体制がおおむね確立されている。

当該短期大学の施設・設備、スタッフおよびノウハウを地域社会に向けて開放かつ活用して、地域社会の再生に貢献しようという努力が認められる。この中で、学生のボランティア活動を積極的に促進している。

理事長は大学および短期大学の学長を兼務しているが、理事会、教授会などを運営して全権を掌握し、適切なリーダーシップを発揮し、各種規程に基づき管理運営を行っている。

財務管理は法人本部で一元化されており、その方針は理事会の予算方針に基づいた適切なものである。貸借対照表比率に関しても、全国的な平均をすべての面で上回っており、学校法人運営が健全で、安定的に推移しているものと思われる。現状では、定員の充足も

良好で、それに応じた財務内容となっている。

平成18年度は、併設の北海道文教大学も認証評価を受けており、学園として大学、短期大学いずれの教育・研究も充実させ、かつ財政そのほかの学園の経営の安定にも努めている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育目的・目標を具体的に実施する科目としての「マナー演習」をはじめ、社会的経験を積む機会を重視し、学生が実践的に子どもと関わる機会を作ることができる教育内容となっている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 校地・校舎は十分な面積と設備が整えられており、図書館は入館しやすく、また利用しやすく配置されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 教育目的・目標を具体化し、幼児保育学科を創造しようという姿勢が明確であり、それは専門領域への高い就職率に表れている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学生自身の主体的な活動が非常に活発であり、かつ地域に開かれたイベントやサポートなどの各種企画は好感をもって受け入れられている。それらをサポートする教職員の連携もまた効果的に機能している。進路支援も万全である。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 子育て支援活動の展開や在宅心身障害児（者）へのボランティア活動、授業の一環としての学生の海外研修の実施は特記される取組みである。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事長の強いリーダーシップの下、教職員一同が緊密な連携をとり日々の業務を励行している。諸会議での情報は遅滞無く各教職員に伝達されている。

評価領域Ⅸ 財務

- 現段階では、財務運営、財務体質に関しては、非常に良好な比率を示し、問題なく健

全に推移しており、必要な施設設備に関しても過不足なく整備されている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 自己点検・評価の資料を『2004年度北海道文教大学年鑑』として編集して刊行し、広く公開している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスの作成にあたっては、履修に関わる十分な情報提供に努め、適切な表現の工夫が望まれる。
- 教養教育の開講科目の幅を広げるなど、一層の充実に努められたい。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学生のメンタルケアについては、相談室設置など組織的な対応が望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究の業績が充分でない教員については、さらなる研究に努めるよう研究・研修体制の整備、充実を検討されたい。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 国際交流・協力における双方向的交流と、教員の国際交流の機会についても検討されたい。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 個人情報保護法に関する規程を整備されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 創立者の掲げた学訓「清く正しく雄々しく進め」が学生便覧そのほかに明記され、教職員、学生に共有されている。
- 学訓をふまえ、豊かな人間性、健全な社会性、高度な専門性という教育目標が掲げられ、幼児保育学科としては「子どもの豊かな『心をはぐくむ』保育を行うことのできる保育者の養成」を目標としている。毎年度末に教育の状況を点検し、見直しを行っている。
- 単科の短期大学であるため、問題意識の共有が円滑になされ、保育士・幼稚園教諭養成の質を高める努力がなされている。
- 建学の精神、教育の理念は極めて明瞭で、四年制大学と短期大学で、時代に即応しながら学園経営がなされている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 平成17年度に、学科の教育内容の改革を行い、また幼稚園教諭二種免許と保育士資格を取得するための教育課程については常に見直し、充実を図っている。
- 幼児保育学科として目的意識のはっきりしている学生に対して、適切な教育課程が編成されている。社会的経験を積む機会を重視し、学生が実践的に子どもと関わる機会を作っている。
- 授業内容は、シラバスによって学生に明らかにされている。また、評価方法についても、明確に示されている。

- 教育目的・目標として「健全な社会性」を挙げ、「全日本マナー検定」を効果的に実施している。また「舞踏表現」や「舞台表現」の選択科目にみられるように、特徴をもった科目を設定している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 短期大学の教員にふさわしく、かつ業務に意欲を持った者が、短期大学設置基準などを充足する教員数が確保されており、教育の実施にあたる責任体制は整備されている。
- 校地・校舎の面積は十分に短期大学設置基準を充足し、かつ教育環境として有効に整備また活用され、恵まれたものとなっている。
- 図書館は十分な広さと図書館資料などを蔵した施設・設備である上に、入館しやすい配置と活発な利用を促すフロアとして工夫されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 教育目標として人間的資質の涵養、社会的常識の養成、専門的能力の育成の3点を明確に示し、「マナー演習」や専門家による「舞台表現」指導なども取り入れ、積極的に努力している。また、学生の学習意欲を育てる事だけでなく、アカデミックアドバイザー制によって学生の悩みや疑問にも対応できるよう工夫している。
- 過去5年間を見ると、95～99%の学生が就職していて、実績は明らかである。専門職への就職率も高く、常に90%以上を維持している。就職先での評価については具体的な調査は行っていないが、実習巡回時や大学行事、同窓会などの折に情報を収集している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 大学案内に建学の理念などが学長の言葉で簡明に述べられ、短期大学の求める学生像や教育像が明確である。入学者選抜なども多様な形態で実施され、入学手続き者に対しては学科の情報を『学科レター』を通して発信するなど工夫が感じられる。
- 独自のアカデミックアドバイザー制を導入するなど学習支援に努めている。学習の動機付けもこの制度を活用して効果的に行われている。
- 学生のメンタルケアについては、相談室設置など組織的な対応が望まれる。
- 学生支援の教員や職員組織は互いに連携しながら効果的な成果を上げている。学生自身の主体的活動も活発で、学園一体となった良好な雰囲気醸成している。
- 就職指導室が効果的に機能しており、進路支援の年間プログラムも整備されたものとなっており、高い専門職の就職率を達成している。

- 支援体制はあるものの、留学生などや社会人学生の受け入れ実績は無い。

評価領域VI 研究

- 研究や教育に対する実践活動やその成果については年毎に報告が義務付けられており、教員間での情報の交換も行われている。外部機関からの研究費調達の実績はないが、研究活動は論文の発表などで一定の成果をあげている。
- 研究経費については規程も整備され、経費の額も妥当な水準にある。研究発表の機会も学内紀要として確保されている。研究室や情報収集のためのネットワーク環境も整備されている。研究に関わる機器や備品についても充分整備されている。ただし、研究日に関しては規定が整備されていない。

評価領域VII 社会的活動

- 各種の社会的活動の計画と実績があるが、中でも3年目に入る「ぶんきょうワクワク広場」と称する子育て支援活動への積極的取組みが推進されており、地域社会の再生に貢献しようという努力が認められる。
- 子育て支援活動への学生のボランティア参加や在宅重症心身障害児（者）への訪問活動がみられ、またボランティア活動への表彰制度があり、積極的に取り組んでいる。
- 学生に関しては、3年目に入る「海外研修（幼児教育比較研究）」（1単位）を開設しての海外研修がなされるなど、取組みの努力が開始されている。

評価領域VIII 管理運営

- 理事長は大学および短期大学の学長を兼務しており、短期大学の運営にリーダーシップを発揮している。理事会は規定に基づき開催されている。
- 教授会は規定に基づき、学校運営上の議題を適切に審議しており、教授会決定事項以外・決定以前の内容は学科会議において活発に審議されている。
- 多種の管理運営諸規程を定め、経験豊富な職員を配置して多様なニーズに応え、適切に業務を行っている。ただし、休憩室の設置により、休養と業務の区別を明確にされたい。
- 教職員の就業に関する規定は適切に整備され、それらの規定に基づいた運営が行われている。学科会議などでの各種決定事項の確認などは、教職員が一体となって、緊密な連携を図って行っている。

評価領域IX 財務

- 理事会の予算方針に基づき適切に執行されている。中・長期財務計画に則って、大学・短期大学・高等学校・幼稚園の独立採算制のベースに対応しているが、部門間の調整に努めている。
- 資金収支計算書、消費収支計算書および貸借対照表において、過去3ヶ年にわたり健全な財務管理がなされており、教育研究経費などの配分も適切に行われている。
- 固定資産管理規程、物品管理規程、図書管理規程、消耗品および貯蔵品管理規程などが整備され、施設整備の維持管理に関しても定期的な点検が適切に行われている。
- 財務管理は法人本部で一元化されており、その方針は理事会の予算方針に基づいた適切なものであり、また、監事と会計士の連携も密接である。貸借対照表比率に関しても、全国的な平均をすべての面で上回っており学校法人運営が健全で、安定的に推移しているものと思われる。現状では、定員の充足も良好で、それに応じた財務内容となっている。

評価領域X 改革・改善

- 平成5年に規程を制定し、自己点検・評価委員会を中心として活動を行ってきた。平成9年度にその報告書を刊行し、以後今日まで4回報告書を作成し、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動に努めている。
- 大学評価委員会は学長自らが委員長を務め、全教職員が同一歩調で取組んでいる。新たに教育開発センターを発足させ、体系的な教育課程の編成や教育方法の改善などに取組み始めている。
- 平成12年に福島学院短期大学と相互評価を行い、その結果をふまえた改善に努め、教育研究の充実向上を図っている。

聖和学園短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 聖和学園
理事長	鈴木 繁雄
学 長	鎌田 文恵
A L O	荒 暁子
開設年月日	昭和26年4月20日
所在地	宮城県仙台市泉区南中山5-5-2

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
キャリア開発総合学科		170
保育科		80
	合計	250

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

聖和学園短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月15日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神・教育理念は仏教主義に基づく教育の実践である。特に、「慈悲」と「和」を中心理念とする教育を実践している。平成18年から学園長を新設し、学園全体の仏教主義に基づいた一貫教育の徹底を図っている。特に、全人的な人格形成と情操教育の実践を目指し、「聖和総合教育」において勤行を実施するなど建学の精神に基づいた特色ある教育活動を実践している。

保育科は、資格取得に対する明確な目的と高い学習意欲をもつ学生に応じた学習内容を用意し、保育者養成を行っている。キャリア開発総合学科においては、幅広い資格を用意し、ユニット制度を導入し学生の状況に合わせて学習内容を改善し、きめ細かい学生指導を行っている。

教員組織、教育環境とも短期大学設置基準を充足しており、保育科、キャリア開発総合学科ともに教育目的に沿った短期大学の教員を用意している。図書館サービス体制も、情報発信もおおむね充分である。教育実施に当たる体制においても、学科長、学長などの役割とその連携はおおむね取れている。

保育科、キャリア開発総合学科ともに単位取得状況はおおむね妥当であり、学習評価も適切である。学生の進学および就職を含む卒業後の状況について積極的な把握に努め、卒業時アンケートや卒業後の状況調査などに真摯に取り組んでいる。

募集要項などには入学者選抜の方針、多様な選抜方法がわかりやすく記載されている。また、学生便覧など、学習支援のための印刷物が発行され、理解しやすいものとなっている。また、生活支援のための教職員の組織が整備され、学生生活支援体制が整備されている。さらに、障害者の受け入れが可能な施設を整備するなど、障害者への支援体制もおおむね整っている。

教員個々の研究活動は、『聖和学園短期大学紀要』において公開され、そのなかで教育に関する共同研究が保育科とキャリア開発総合学科の前身である生活文化科において展開されている。全体としては教員の研究活動はおおむね展開されているといえる。研究成果発表の機会、研究室、研究日などの研究環境はおおむね整備されている。

地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体などと効果的な交流活動を行っており、社会的活動への取組みが推進されている。また、学生のボランティア活動などを奨励するなど、学生の社会的活動を積極的に評価している。

理事長が短期大学運営に対する基本方針を示し、リーダーシップを発揮している。また理事会の決定事項などは学長を通じて教授会で報告されている。学長は定期的に学長・部科長会を開き、リーダーシップを発揮している。事務組織も諸規程が整備され適切に運営されている。

年度予算は適正に執行されており、日常的な出納業務も円滑に実施されている。また、資産の管理運用も適切な会計処理が行われており、財務情報も同窓会会報別紙で公開されている。資金収支および消費収支は均衡しており、健全である。また、学校法人の資金は健全に維持されている。教育研究経費比率は適切な配分である。短期大学に必要な施設設備は適切に整備されている。また、それらを管理するための管理規程も整備され、適切な管理がなされている。

毎年自己点検・自己評価を行っており、平成14年、平成15年、平成16年に自己点検・自己評価報告書を刊行している。また、平成11年に桜の聖母短期大学との相互評価を実施している。今回の第三者評価実施後に、相互評価を行うことを検討している。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 「聖和総合教育」における勤行や各種仏教行事は、学生がリーダーとなって実施されており、仏教主義に基づいた全人的な人格形成と情操教育の実践を行っている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 障害者への対応として障害者用トイレ、スロープ、エレベーターが設置されているだけでなく、難聴者に対するノートテイクなどの支援も行われており、ハード、ソフト両面における障害者支援は優れている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- キャリア開発総合学科において1年生の後期末に行われる各ゼミ担当教員との三者面談は、家族も含めたキャリア教育として有効性が高いと評価される。

- 社会人学生や障害のある学生を受け入れる施設設備と支援体制がおおむね整っている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- ボランティア活動などを通じて、地域社会に貢献しており、地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体などと効果的な交流活動を行っている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- キャリア開発総合学科の教育目標に国際化が掲げられているが、教育課程上の対応が希薄な点が見受けられる。

評価領域Ⅵ 研究

- 個人研究費の支給とその支給規程の整備を含め、教員の研究・研修環境をより向上させる必要がある。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 授業評価の着手が遅かったことに現れるように、全学的に点検・評価に対する風土の醸成とシステム構築に一層取り組むことが望ましい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神・教育理念は仏教主義に基づく教育の実践である。特に、「慈悲」と「和」を中心理念とする教育を実践している。平成18年から学園長を新設し、学園全体の仏教主義に基づいた一貫教育の徹底を図っている。特に、全人的な人格形成と情操教育の実践を目指し、「聖和総合教育」において勤行を実施するなど建学の精神に基づいた特色ある教育活動を実践している。
- 保育科、キャリア開発総合学科ともに、それぞれの教育目的・教育目標は明確である。また、平成11年、平成17年と学科改組が実施されており、その都度、教育目的・教育目標の点検および変更などが行われている。
- 学生に対しては、学生便覧に教育目的・教育目標を明記し、周知させている。教職員に対しては、教授会、学科会を通して周知させている。また、仏教主義に基づく教育目標を共有するために各種仏教行事を全学的に実施するなど、努力がみられる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 保育科では、豊かな人間性と幅広い教養、専門的知識、基礎的技能を身につけるといふ教育目的のもとに教育課程が体系的に編成されている。キャリア開発総合学科では、有能なる学生の育成という教育目的に沿って幅広い資格取得と知識が体系的に整備されている。
- 保育科の教育課程は、取得免許・資格において自ずと限定性を帯びてくるが、学生の多様なニーズに応えながら「心」、「知識」、「技能」の修得を目指したカリキュラムを

編成している。キャリア開発総合学科では、多様な資格が用意され、ユニット制により学生の選択の自由と多様なニーズに応えている。

- 両学科ともに授業内容、教育方法、評価方法を十分に示したシラバスが作成され、学生に配布されている。その記載内容には若干の散らばりがあるが、学生に分かりやすい表現になっており、使用教科書、参考書についても記されている。
- 学生による授業評価については、平成17年からの実施と、着手が遅かったが、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動と連携している点において改善への努力がみられる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 保育科、キャリア開発総合学科ともに短期大学設置基準の教員数を充足し、教員は教育実績などにおいて当該学科の教育目的に沿った短期大学の教員に相応しい資質を有している。また、教員の採用、昇任の基準についても整備されている。教員の年齢構成については50歳代が多いが、おおむねバランスは取れている。
- 校地および校舎の面積は短期大学設置基準を充足し、教育環境として適切に整備されている。講義室、演習室、実験・実習室については、取得免許・資格に応じて用意され、活用度も高く、教育環境はおおむね整備され活用されている。
- 図書館の広さは充分であり、学科新設に伴い蔵書数も増加し、学生の利用できる参考図書や関連図書も備えられている。ただ、学術雑誌数などが若干少ないといえる。司書の数など図書館のサービス体制も整備され、購入図書選定システムなどもおおむね確立している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 学生全体に占める休学、留年などの状況については、全学としては妥当な範囲ではあるが、キャリア開発総合学科における退学者数が保育科に比較して多いことが懸念される。ゼミ担当教員、学生およびその家族による三者面談の実施など、このような状況への対応策が採られ、努力していることがうかがえる。
- 保育科の専門職への就職率は高く、それは当該短期大学の学生の卒業後評価への真摯な取組みの表れと理解することができる。キャリア開発総合学科の前身である生活文化科、人間コミュニケーション学科において就職率が低かったが、それだけにキャリア開発総合学科への改組とそこでのキャリア教育の成果が期待される。

評価領域V 学生支援

- 短期大学案内には、建学の精神・教育理念や教育目的・教育目標、望ましい学生像などが明示されている。また、募集要項には入学者選抜の方針、多様な選抜方法がわかりやすく記載されており、入学に関する支援が行われている。
- 学習の動機付けに焦点を合わせた学習や科目選択のためのガイダンスなどが適切に行われている。また、学生便覧など、学習支援のための印刷物が発行され、理解しやすいものとなっており、学習支援が組織的に行われている。
- 生活支援のための教職員の組織が整備されている。クラブ活動、学園行事、学友会など、学生が主体的に参画する活動が活発に行われ、支援体制も確立している。学生生活全般に対する支援体制が整備されている。
- 就職支援のための教職員の組織が整備され適切に活動している。就職支援室などが完備され、学生に必要な情報が提供できている。就職・進学に対する総合的な支援が行われている。
- 社会人学生の学習を支援する体制は整っている。障害者の受け入れが可能な施設を整備するなど、障害者への支援体制は、おおむね整っている。その他の点についても努力している。したがって、多様な学生に対する支援が行われている。

評価領域VI 研究

- 教員個々の研究活動は、『聖和学園短期大学紀要』において公開され、そのなかで教育に関する共同研究が保育科とキャリア開発総合学科の前身である生活文化科において展開されているが、3年間で研究活動の成果が現れていない教員が複数いることなど、懸念される点がある。
- 研究成果発表の機会は、『聖和学園短期大学紀要』において用意され、研究室、研究日は整備されているが、研究費の支給規定が定められていない点が懸念される。

評価領域VII 社会的活動

- 社会的活動についての位置づけが明確にされている。また、地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体などと効果的な交流活動も行っている。その他の点についても努力しており、社会的活動への取組みが推進されているといえる。
- ボランティア活動などを通じて地域社会に貢献している。また、学生の社会的活動に対して積極的に評価している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事長が短期大学運営に対する基本方針を示し、リーダーシップを発揮している。また理事会の決定事項などは学長を通じて教授会で報告されている。学長は定期的に学長・部科長会を開き、リーダーシップを発揮している。事務組織も諸規程が整備され適切に運営されている。
- 事務組織は総務課、教務課、学生課、保健管理センターの4つの部門に分掌され、合計8名の専任職員が担当している。その他に4名の派遣職員が業務に当たっている。
- 教職員の就業に関する諸規程が整備されており、適切に処理されている。また、それぞれの部会（教務部、学生部など）で教職員間のコミュニケーションがとられている。しかしながら、短期大学教職員（非常勤を含む）の健康診断の受診率が低いので、この点については改善が求められる。

評価領域Ⅸ 財務

- 資産の管理運用については適切な会計処理が行われており、財務情報も同窓会会報別紙で公開されている。
- 年度予算は適正に執行されており、日常的な出納業務も円滑に実施されている。資金収支および消費収支は均衡しており、健全である。また、学校法人の資金は健全に維持されている。教育研究経費比率は、適切な配分である。短期大学に必要な施設設備は適切に整備されている。また、それらを管理するための管理規程も整備され、適切な管理がなされている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 毎年自己点検・評価を行っている。また、平成11年に桜の聖母短期大学との相互評価を実施している。
- 自己点検・評価委員会は教員が各部長、学科主任、事務局からは事務長で構成されており、教員の半数以上が評価活動に関わっている。しかしながら、自己点検・評価の結果をどのように活用し、改善につなげていくか、そのシステム構築については不十分であり、今後の課題となっている。

桜の聖母短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 桜の聖母学院
理事長	今泉 ヒナ子
学 長	上野 壽枝
A L O	佐藤 文子
開設年月日	昭和30年4月1日
所在地	福島県福島市花園町3-6

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
英語学科		80
生活科学科	福祉こども	70
生活科学科	食物栄養	50
	合計	200

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

桜の聖母短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月7日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神、教育の目的・目標も明確であり、それらの学内への浸透、新しい時代に対応した点検評価も全学挙げて行っている。

教育の内容は体系的に編成されており、学生の多様なニーズにも対応している。教育方法、結果の評価方法も明らかにされており、教育内容や方法の改善も学生の授業評価により意欲的に行われている。

快適な教育環境の中、教員組織はよく整備され、教員は教育研究活動に意欲的であり、教育に重点を置いた活動が顕著で、設備・機器の活用も有効に行われている。図書館情報センターもよく整備され、学生も積極的に利用しているほか、地域や生涯学習センター受講者へも利用サービスを行い、学内外への図書館活動も活発に行われている。

単位認定方法は適切であり、単位取得状況には積極性がみられる。退学・休学・留年生への対応、資格取得への取組み、編入希望学生などへのケアが十分に学生顧問教員を中心に行われている。授業および卒業後の評価も、在学生、就職先、同窓会、編入先を対象に実施され、教員は授業の改善・向上に熱心に取組んでいる。食物栄養専攻の栄養士就職や、英語学科の英語をいかした就職率がまずまずの高率を上げ、就職先、編入先でも比較的高い評価を得ている。

学生支援は全般的に充実している。就職率も安定的な数字で推移している。「就職基礎能力証明書」の取得など積極的である。学生の学習・生活支援においても、「学生顧問制度」の体制を作り、教職員できめ細かく支援している。大学編入の状況、退学者の減少もその成果であると考えられる。

建学の精神「共に生きる教育」を重視し、独自の生涯学習センターを設置して、社会的活動を積極的に推進している。また全学的にボランティア活動を通じて地域社会に貢献し

ている。さらにアジア体験学習の旅や英語学科の短期留学制度を通じて国際交流にも取り組んでいる。

学長を中心とした教学組織は適切に運営され、機能を発揮している。法人運営も、理事長のもと適切に運営されている。

財務状況は良好といえる。

学則の規定に従い、自主的かつ定期的に自己点検・自己評価を実施している。また全教員が全部署の情報を共有でき、評価結果を年度途中からでも運営に反映させるよう工夫し、成果を活用できるよう配慮している。さらに相互評価の実施、生涯学習センターの外部評価の実施など、改革改善の努力が充分みられる。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- カトリックの精神が基盤となっている建学の精神、教育理念を学内挙げて常に点検評価し、それを教職員、学生に徹底的に周知させている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- ファカルティ・ディベロップメント（FD）、スタッフ・ディベロップメント（SD）や教員間の交流による授業改善が行われており、海外研修、TOEIC受験対策、福島市内の四年制大学・短期大学との単位互換や情報処理教育など積極的に学生のニーズに対応した教育をしている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 退学・休学・留年学生が少ないことに関しては、個々の学生の抱える問題の早期発見に努め、日常のきめ細やかな教育指導を行っている成果といえる。編入学先大学から卒業生の評価が高い点は、当該短期大学の教育効果であると評価できる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 教員は熱意を持ってきめ細かい教育活動を実施している。また、学生顧問制度を置き、専任教員が約20人の学生を受け持ち、学生の問題や悩みの相談に当たっている。
- 学生顧問制度に加え、「ビッグ&リトル制度」といわれる上級生による下級生支援システムが整備されており、きめ細かく学生の支援を行っている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 平成4年設置された生涯学習センターは、地域の生涯学習拠点として地域社会に貢献

している。本事業は平成15年度文部科学省の特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）（題名「生涯学習センター設置と公開講座の継続実施」）に採択された。

- 全学生1年次必修科目「ボランティアワーク」にも象徴されるように、建学の精神に基づいた全学的ボランティア活動により地域社会に貢献している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事長、学長自らによる、教職員に対する建学の精神を体現する運営体制ができている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 平成11年、生活科学科が、翌年英語学科が相互評価を実施し、社会のニーズや学生の意向を把握して、時代の流れに的確に対応できるように改組に着手するなど、具体的に自己点検・評価に基づいて改善改革を行っている。
- 卒業生の就職先からの評価情報を収集し、教育内容・方法の改善に努めている。

（2）向上・充実のための課題

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- シラバスの記述方法の統一など、一層の充実が望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 今後は学会などでのより活発な研究発表が望まれる。

（3）早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 設置母体であるカナダ国モンリオールにあるコングレガシオン・ド・ノートルダム修道会の創立者聖マルグリット・ブールジョワのカトリックの精神に根ざした建学の精神・教育理念であり、明確に確立されている。
- 教育の目的・目標は明確であり、新しい教育理念の下での教育目標を教授会、部科長会、学科会などで点検、検討して時代に即したものにしている。
- 理事長が先頭に立ち、教授会、部科長会、研修会など、挙げて教育目標、目的を理解させることに常時、多大の努力が払われている。学生に対しては建学の精神、教育目的などを掲載したハンドブックによりオリエンテーション、履修ガイダンス時に説明し教育目的・目標の浸透に努めている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 各学科の教育目的、目標は適切であり、キリスト教学が必修であることにより建学の精神、理念が反映されている。教養教育、専門教育とも十分な内容であり、教員の配置も適切である。単位認定と評価も適切であり、教育改善は学生の満足度や意見を参考に意欲的に行われている。
- 免許、資格の取得が充分配慮されており、講義、演習、実習のバランスもよく、必修、選択のバランスもいい。卒業要件は適切であり、学生も理解しやすい。学生が充分希望と意欲を持って学習できる。
- シラバスは毎年作成されており、授業の内容は充分理解できるものである。教育方法、

結果に対する評価方法も学生に明らかにされている。

- 学生による授業評価により授業改善が行われている。FDも委員会により活発に行われ、職員のSDも行われている。学生のやる気を起こさせる努力や教員間での授業内容の調整、意見交換なども行われている。
- 教育の内容は体系的に編成されており、学生の多様なニーズにも対応している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 短期大学の教員は、教育研究活動に意欲的であり、授業や学生指導がきめ細かく行われている。また、全体の教員年齢構成もバランスがとれ、社会的活動にも力を尽くしている教員が多い。
- 校地・校舎は快適な環境に整備され、講義室、実験・実習室、パソコン室、LL教室も充足し、有効に活用されている。
- 図書館情報センターが整備され、毎日多くの学生が有効利用し、図書館職員とコミュニケーションをよくとり、図書館の利用実績を上げている。また、県立図書館における資料展示や生涯学習センター受講者および地域住民への利用サービスにも努めている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 単位取得は卒業要件単位で満足せず、積極的に多くの単位を取得させ、資格取得にも意欲的で資格取得希望者の取得率は高い。授業評価アンケートも、教員共通項目に各教員が独自のアンケートを2項目以上加えて実施し、改善向上に努力している。
- 退学・休学、留年生の数も少なく、事前のケアが充分行われ、編入学希望者への対応もマンツーマンで実施され、実績をあげている。
- 就職先からの評価や、編入学後の追跡調査を実施し、教育改善の指針の一つとしている。また、同窓会との連携で、在学中の教育・資格が役立っているかの確認や、情報収集、就職先の確保につなげており、教育効果の向上に積極的に取り組んでいる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学者に対するオリエンテーションもきめ細かく適切である。
- 学科別ハンドブックが作成されており、学習の動機付けとして効果を上げている。学力不足に対しても、習熟度・個別指導が行われ、また教員間の連携が組織化されている。
- 専任教員による学生顧問制度で、学生の学習・生活面での支援がきめ細かく行われて

メンタルケア、カウンセリングの体制も整っている。

- 学生顧問制度に加え、「ビッグ&リトル制度」といわれる上級生による下級生支援システムが整備されており、きめ細かく学生の支援を行っている。
- 就職・大学編入など、進路に関して積極的な支援が行われている。留学などについても個人指導を行うなど積極的である。
- 障害者支援として車椅子には対応しており支援体制は整っている。社会人学生への対応も充分行われている。
- 学生支援は全般的に充実している。就職率も安定的な数字で推移している。「就職基礎能力証明書」の取得など積極的である。

評価領域Ⅵ 研究

- 教員は教育業務、学生支援、会議などで研究時間が充分取れない状況であり、学会発表など評価を得られる機会が少ない。今後は、研究日の確保も含め、研究・研修体制の改善に取り組まれない。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 建学の精神「共に生きる教育」を重視し、独自の生涯学習センターを設置して社会人の受け入れに意欲的である。公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放も実施している。県、市など地域社会の行政、教育機関などとも効果的な交流活動を積極的に行っている。
- 共通科目の「ボランティアワーク」にも象徴されるように、全学がボランティア活動を通じて地域社会に貢献している。また学生のそうした社会活動を積極的に評価している。
- 留学生派遣は同時多発テロ以来休止していたが、平成16年度に再開し、アジア体験学習の旅を実施した。また英語学科の短期留学制度を通じて国際交流に取り組んでいる。さらに米国、カナダの2大学と姉妹校の提携を結んでおり、海外教育機関との密接な双方向交流を継続している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事長はリーダーシップを発揮し、理事会は法令・規程に基づき適正に運営されている。
- 教授会など教員組織は、改革改善の意義や必要性をよく理解、協力し、学長のリーダーシップのもと、適切に運営されている。

- 事務組織は小規模ながら整備されており、法人の政策に沿って、学生サービス、教育活動の補助としてよく機能している。今後は、企画・運営の中核となるよう一層の能力開発が望まれる。
- 人事については適切に管理運営されているといえる。就業時間管理、人事考課制度の導入などについて検討が望まれる。

評価領域IX 財務

- 予算編成の段階から、予算配布、執行手続きまで適切である。監事、公認会計士とも、監査機能は有効である。資金運用についても、コンサルタントを導入して安全性に配慮し、理事長に随時報告している。
- 施設設備については、規模と比較して十分な水準で、適切に管理されている。
- 財務状況は良好といえる。

評価領域X 改革・改善

- 学則の総則第3条の規定に従い、平成5年の「過去10年間の動向」を初めとし、以来自動的に自己点検・自己評価を実施している。自己点検・評価報告書は、毎年教育推進・評価委員会が中心になって作成し、全教員に配布するほか、関係諸機関に送付するなど、情報公開に努めている。
- 平成17年度の点検・評価では全教員の関心と責任感を高めるために部科長会を通して各委員会に作業を依頼し、できるだけ多くの教職員が関わるように改善した。また各部署における年数回の自己評価および教授会での中間報告など、全教員が全部署の情報を共有でき、評価結果を年度途中からでも運営に反映できるよう工夫し、自己点検・評価の成果を活用するよう配慮している。
- 平成11年生活科学科が、同12年英語学科が相互評価を実施した。平成16年度には生涯学習センターが外部評価を受けた。相互評価は7年ごとに行われる認証評価の中間年に実施する予定である。また、外部評価は必要に応じて当該部署が外部の専門家を招いて実施している。このような積極的な努力がみられる。

千葉敬愛短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 千葉敬愛学園
理事長	長戸路 政行
学 長	長戸路 雄厚
A L O	長戸路 雄厚
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	千葉県佐倉市山王1-9

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
初等教育科		150
	合計	150

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

千葉敬愛短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月14日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

開学以来不変の建学精神と教育理念が確立、明示されており、教育目標については教授会で点検が実施されているほか、教職員、学生に対して周知が図られている。

全体的に、教育理念や教育目標を反映した教育課程が構築されており、学生の希望に応える工夫がなされている。ほぼ全員が共通の目的意識を有しており、学園の一体感が感じられる。短期大学全体としても、学生の免許・資格取得のための支援をしている。

短期大学設置基準の教員数を充足しており、教員は短期大学教員に相応しい資格、資質を有している。

総合的に見て、図書館などの施設は、短期大学としての機能を果たし、整備状況も良好である。教育目標達成への体制や努力は充分である。専門職への就職は十分な実績がある。実習中の巡回や実習先との連絡協議の場などを通じて卒業生の評価は良好である。

入学前後のサポート体制がある。学生支援や学生生活支援体制も整備されている。就職希望者に対して全学的な進路支援が行われている。

理事会など学校法人全体、ならびに短期大学の教授会をはじめ事務組織、人事管理などの管理運営体制は確立されており、適切に行われている。

予算の策定、執行、出納業務は円滑に行われており、財務情報の公開も適切で、計算書類などは適正に表示されている。教育研究経費比率は適切であり、施設・設備の整備、管理は適正に行われている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神である「敬天愛人」に関する論文を教職員・学生から募集し、建学の精神・教育理念の啓蒙を図っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学生の免許・資格取得のために、短期大学全体で取り組んでいる。
- 授業は少人数規模中心で行われ、学生の学習条件整備に積極的である。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学外オリエンテーションにおける「2年生チューター」制度を設け、学生による学生のための支援としての成果を上げており、「リーダーズ研修」としても機能している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 評議員会を理事会の単なる諮問機関として位置づけているのではなく、重要事項については評議員会の議決事項としており、理事会のチェック機能の強化を図っている。
- 法人内各校責任者協議会、部局長連絡会議、事務連絡会議が定期的で開催されており、意思疎通、情報の交換・共有に有益である。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神は崇高であるがやや難解であるので、学生を啓発する具体的な表現（現代的な意義）の検討、および教育目標について、学生との共有について一層の努力を期待する。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学生が自由に履修できる選択科目が少ない。特に教養部門の一層の充実を図られたい。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 利用者が減少している状況を勘案し、図書館の利用促進についての対策を検討されたい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 成績評価の基準と方法を点検し、より公正かつ厳格なあり方を検討されたい。

評価領域VI 研究

- 研究活動については、研究業績を定期的に点検評価するシステムの確立と、実習指導と研究・研修の両立について検討されたい。

評価領域X 改革・改善

- ファカルティ・ディベロップメント（FD）、スタッフ・ディベロップメント（SD）活動の組織的な体制の確立を検討されたい。

（3）早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 教員および保育士の養成課程を通して、西郷隆盛の思想「敬天愛人」の建学の精神を具体化したものが、カリキュラム、行事などに示されており、平成15年に見直しが行われているほか、教授会などで必要な点検がなされている。
- 教職員に対し、『目標と課題』を配布しているほか、広報誌を通して共有を図っており、また学生に対しては入学式などを通して教育目標などの周知を図っている。しかし、建学の精神は崇高であるがやや難解であるので、学生を啓発する具体的な表現（現代的な意義）の検討、および教育目標について、学生との共有について一層の努力を期待する。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 各学科とも建学の精神に裏付けられた教育課程となっているが、基礎科目の拡充が望まれる。専門教科については充分である。主要科目は専任教員が担当し、その内容およびレベルは短期大学にふさわしいものである。
- 各免許・資格取得に応じた教育課程となっており、授業形態のバランスは適切であり、各授業に学生が積極的に臨めるような配慮がなされている。
- シラバスは学生に配布されており、内容も適切であるがあまり活用されていない。シラバスの有効な活用について改善を図る必要がある。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 短期大学設置基準の教員数を充足しており、教員は短期大学教員に相応しい資格、資質を有している。教員の採用や昇任については規程に基づいている。教員の年齢構成は、近年バランスを図っているが、60歳代に偏りがみられる。教員は授業担当のほか、諸活動に意欲的に関わっている。学長のリーダーシップの下、教務部長および各委員会が機能しているが、学科長職は存在しておらず、学科長職を置くことが望ましい。
- 校地および校舎の面積は、いずれも短期大学設置基準を充たしている。
- メディアセンターには、蔵書、資料、座席数など設備が整っている。学内外への情報発信など多様なサービスが行われている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 学生の「アンケートプレビュー」(年2回)の結果は、おおむね良好である。
- 留年は過去3年間なし、退学は毎年2～3%程度であるが、大部分の科目で不合格者が皆無である。成績評価の厳格性・公平性について疑問の余地がある。成績基準と評価方法について再点検を求められたい。
- 保健室、学生相談室、担任制による学生へのケア体制は多面的であり、効果的である。
- 専門就職は良好である。
- 実習中の巡回や実習先との連絡協議の場などを通じて、卒業生の評価は良好である。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学式数日前にオリエンテーションを実施し、必要な情報などを伝達できている。1年生次、2年生次にそれぞれガイダンスを行い、学生便覧なども整備されている。
- 短期大学独自の奨学金制度が整備されている。
- 就職推進委員会などが設置され、情報提供の体制が整っている。資格取得・就職試験対策は充実しており、高い就職率を維持している。進学などの希望者への対応のため教員を配置するなど、進路支援に努力している。

評価領域Ⅵ 研究

- 教育に主眼を置きつつ、研究活動にも力を入れている。教員の研究活動は一定の成果を上げている。しかしながら、外部からの研究費補助などの業績はない。短期大学紀要が年1回発刊され関係者に配布されている。
- 研究費規程の整備、研究室の確保など、基本的には研究活動のための条件整備はなさ

れている。研究活動状況についての報告義務がないことについては改善の余地がある。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 教員、学生に対して、ともに社会的活動への積極的参加を推進している。地域とのかかわりのなかで、成人向け公開講座や子供向けの公開講座、関係機関・団体からの要請による交流活動が行われている。
- 学科の目的に沿った形での学生のボランティア活動が奨励されている。実践例としては、小学校教諭二種免許課程の学生による児童を対象とした「通学合宿」への参加などがある。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会、監事、評議員会は寄附行為の規定に基づいて、それぞれの任務・役割を果たし、重要事項については評議員会の議決事項としており、理事会が業務決定を行うにあたりチェック機能の強化を図っている。法人全体の管理運営体制は確立されており、適切に運営されている。
- 教授会、各委員会の運営体制は確立され適切に運営されており、短期大学の運営全般にわたって学長（理事）が理事会とのパイプ役を担い、リーダーシップが適切に発揮されている。

評価領域Ⅸ 財務

- 5年周期の中期経営計画が策定されており、所定の手続を経て当該年度の事業計画と予算が理事会にて承認、議決されている。予算の執行は所定の手続を経て行われ、出納業務も点検、査定を受け円滑に実施されている。公認会計士と監事による監査業務の打ち合わせも実施しており、計算書類・財産目録などは適正に表示されている。また資金などの運用は規程に基づき安全・確実性をモットーに行われている。月次試算表は理事長に報告されており、財務情報の公開も適切である。
- 予算の策定、執行、出納業務は円滑に行われており、財務情報の公開も適切で、計算書類などは適正に表示されている。教育研究経費比率は適切であり、施設・設備の整備、管理は適正に行われている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 規程、組織などは整備され、『現状と展望』と題する自己点検・評価報告書が刊行され

ている。

- 自己点検・評価活動にほとんど全ての教員が関わり、事務職員も参画しており、全学的な取組みとなっている。
- 授業評価はITシステムを活用しているほか、自己点検・評価委員会が設置されている。非常勤講師とは連絡ファイルを活用し、毎年度末には意見交換を行っている点は評価できる。メディア委員会によるIT能力のための講習会も実施されており、授業改善には前向きに取り組もうとしている。

帝京平成看護短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 帝京平成大学
理事長	冲永 莊一
学 長	冲永 莊一
A L O	田中 秀洋
開設年月日	平成2年4月1日
所在地	千葉県市原市ちはら台西6-19

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
看護学科		180
	合計	180

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
助産学専攻	20
	合計 20

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

帝京平成看護短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月1日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神は平成16年に帝京平成大学との整合性のため改編され、教育理念は平成17年に介護福祉学科の廃止に伴い看護学科のものに改編されたが、どちらも建学当時のものと大きく変わることなく、受け継がれている。また、教育目標の一つとして看護師国家試験合格のための教育が考えられ、この教育への努力が共通認識・理解となっている。

平成11年度、平成14年度、平成17年度にカリキュラム見直しを行っており、教育内容の改善の努力がみられる。

教員構成と教員数、整備された教育環境、さらに図書館の充実など、教育の実施体制にはなんら問題がない。

看護師の国家試験合格を目指しているので、学習の動機づけ、学習などのガイダンスは適切になされている。成績不良者に対する再試験・再々試験、2年次の終了時には基礎学力が低いものに補習、3年次には看護師の国家試験対策の特別講義、国家試験の模擬試験を行うなど、学習支援は全学的（学科的）に生まれ、教員の努力がなされている。また、担任制度を設け、学生の学習上や悩みに対して個別指導にあたっている。

研究経費についての規程は整備されている。

多くの教員は社会的活動に参加しており、特に数名の教員は社会的に重要な活動をしている。

学校法人の管理運営体制については、理事会などが確立し理事長のリーダーシップが発揮されている。短期大学の運営体制は確立しており、全体的なものは学長のリーダーシップの下、個々のものについては副学長（学長代理）がリーダーシップをとり、運営されている。学校法人の理事長・理事会と短期大学教職員の関係、短期大学の教員と事務職員との関係は適切なものであり、人事管理などに問題はみられない。事務組織は整備され、事

務処理なども滞りなく処理されている。

予算管理は、監事、公認会計士も特に問題なしとしている。財務体質は非常によく健全である。短期大学として必要な施設設備は整備され、管理は適切になされている。

平成17年度から新しく看護学科と専攻科だけの短期大学へと改組したが、これは改革・改善を行った実績である。また、第三者評価を受ける準備として平成17年に自己点検・評価報告書をまとめている。第三者評価を受けるための報告書作成（平成18年5月）には、学長を委員長とし、代行の副学長のリーダーシップの下に全学的に改革・改善に取り組んでいる。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 学外の図書館との連携（帝京平成大学図書館とオンライン接続、千葉大学図書館へ入館可能）や日本看護図書館協議会への加盟などにより、教員、学生の利用に便宜が図られていることは図書館として望ましいあり方と評価できる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- アドミッション・オフィス（AO）入試入学手続き者に対しては、入学までの準備などについてアンケート調査を行っており、評価できる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 帝京ロンドンカレッジという施設を使用できることは学生、教員の国際交流を推進する上で評価できる。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 講義では受講生が100人以上のクラスがないよう、授業内容に応じた適正なクラス編成が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 平成16年度、平成17年度と卒業率と看護師免許取得率が低下傾向を示しているの
で、卒業および国家試験合格のどちらにも防止対策が必要である。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 就職希望者の就職率を平成15年度のように高いレベルに戻ることが望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 比較的若手の講師、助手の研究活動の活性化対策が求められる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 平成16年に同一学校法人の帝京平成大学が建学の精神を見直したことを契機に、当該短期大学も建学の精神を明確にし、学生便覧表紙扉、入学案内パンフレット、職員カード裏面および当該短期大学ウェブサイトを示している。
- 平成17年に看護学科だけの単一学科になり、看護師国家試験合格が明確な教育目的・教育目標となり、理事会構成員、教職員による点検の努力がみられる。
- 教育目的・教育目標の共有化への取組みとして、新入生に対しては始業式での副学長の挨拶の中、2、3年生には年度初めのオリエンテーションで学年主任が意識付けるようにしている。また、実習前オリエンテーション、戴帽式などの学校行事でも説明の機会を設けている。さらに、教育目標の達成度を知るために、卒業直前の学生に目標の達成感についてのアンケート調査を行い、点検の努力がみられる。
- 建学の精神は平成16年に帝京平成大学との整合性のため改編され、教育理念は平成17年に介護福祉学科の廃止に伴い看護学科のものに改編されたが、どちらも建学当時のものと大きく変わることなく、受け継がれている。また、教育目標の一つとして看護師国家試験合格のための教育が考えられ、この教育への努力が共通認識・理解となっている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 看護学科および専攻科助産学専攻ともに建学の精神・教育理念を反映し、教育目的・教育目標に基づき教育課程が体系的に編成されている。

- 単一学科の短期大学であり、看護師国家試験受験資格の取得が最優先ではあるが、短期大学教育として学生に学ばせる教養（共通）科目に多少の幅広さが必要ではないかと思われる。専門教育は看護師養成の短期大学としては、その内容とレベルを充たしている。
- 講義要項（シラバス）が作成され、授業内容、教育方法および評価方法が学生に明らかにされている。また、教科書、参考書などが用意され、参考文献なども示されている。
- 講義では受講生100人以上のクラスが多い。多人数講義室にはカメラ、黒板モニターが設置され、後方の受講者にも講義内容が確認出来るよう対策が取られているが、できれば受講生が100人以上のクラスがないよう、授業内容に応じた適正なクラス編成が望まれる。
- 平成11年度、平成14年度、平成17年度にカリキュラム見直しを行っており、教育内容の改善の努力がみられる。教養教育（共通科目）では選択科目数と単位数に工夫をこらし、幅広い選択性をもたせる改善が望ましい。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 単一学科の短期大学であり、学科と教員組織は整備されている。
- 閑静な住宅地と公園に隣接し、校地、校舎は常に整備され快適な環境となっており、守衛によるゲートでの入出管理がなされている。また、授業および自習で使用するためのパソコン教室が整っている。専門教育で必要な各実習室には必要な医療機器・備品が用意されている。使用できる運動場や体育館は短期大学としては充分過ぎるものである。
- 図書館については、図書館長（教授兼任）と司書の資格を持つ館員2名の体制であり、図書館の広さ、年間の図書購入予算に問題はない。専門関係図書やビデオが利用できる設備があり、整備されている。また、帝京平成大学の図書館とのオンライン接続や、日本看護図書館協議会への加盟など、利用者の便宜が図られている。また千葉大学の図書館への入館も可能になっている。
- 教員構成と教員数、整備された教育環境、さらに図書館の充実など、教育の実施体制にはなんら問題がない。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 平成15年度、平成16年度、平成17年度入学者の卒業率および新卒業者の看護師免許取得率は高いといえないので学年制に柔軟性を持たせる対策（留年者防止対策など）や学生の看護師志望への意欲の向上などに、短期大学執行部や教育体制のさらな

る充実が望まれる。

- 授業評価アンケートは各科目の終了時になされており、集計結果は学科長より口頭にてコメントとともに教員に伝えられている。教員はこの結果を次年度の授業改善に役立てることになっている。専攻科の実習に対する学生の満足度が過去3年間続けて低い、原因が明らかにされているので、学生への説明と理解や抜本的な改善が望まれる。

評価領域V 学生支援

- 短期大学案内には建学の精神・教育理念や教育目的・教育目標などが明示されており、大学案内ならびにウェブサイトには多様な選抜方法については分かりやすく記載されている。入学手続者に対しては『短大便り』などの情報を提供している。また、AO入試入学手続者に対しては、入学までの準備などについてアンケート調査を行っている。入学者に対し学期初めに2日間のオリエンテーションを行い、カリキュラム、授業科目、履修方法、単位取得などの説明を行い、また、学生生活へのアドバイスも行っている。
- 学生便覧、講義要項など、学習支援のための印刷物が発行され、理解しやすいものとなっている。定期試験で、再々試験まで受けねばならない成績不良者には試験前に1、2回の補習授業を行っている。また、2年次の終了時に基礎学力が低いものに補習を行っている。さらに、3年次には看護師の国家試験対策として週1回の特別講義、年数回の国家試験模擬試験を行い、習熟度別の講義を夏季と冬季休暇中に受けさせている。
- 学生委員会（教員が構成員）が毎月1回開かれ、学友会の運営、健康診断、学生生活などについて協議している。また、健康管理、メンタルケアやカウンセリングの体制は整っている。さらに、独自の授業料半額免除の制度を設けている。
- 就職室が設置され、専任職員が学生の相談に対応している。就職はほぼ100%が病院志望である。就職率は過去3年間減少傾向を示しているので看護師資格取得のための更に適切な指導が望まれる。
- 看護師の国家試験合格を目指しているので、学習の動機づけ、学習などのガイダンスは適切になされている。成績不良者に対する再試験・再々試験、2年次の終了時には基礎学力が低いものに補習、3年次には看護師の国家試験対策の特別講義、国家試験の模擬試験を行うなど、学習支援は全学的（学科的）に生まれ、教員の努力がなされている。また、担任制度を設け、学生の学習上や悩みに対して個別指導にあたっている。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究活動は3年間の成果があがっているが、全体として教員間に差がある。活発な活動が望まれる。
- 研究室は確保されているが機器備品の整備が充分とはいえない。
- 医療系短期大学での教員には研究より学生教育にかける時間が多いことは理解できる。しかし、教員の資質を確保する意味ではある程度の研究活動も必要である。講師・助手クラスの研究活動の活性化対策が求められる。研究経費についての規程は整備されているが、将来のさらなる発展に備えるために研究費、研究旅費の支給額には改善の余地がある。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 数名の教員は学会役員・委員や各種の外部委員会などでの役目を担った社会活動や講演会などの講師として活動している。一般市民に対しては、平成7年より、看護、介護、薬、病気に関する公開講座を開催している。そのほか、地方自治体の専門委員、研修会講師、訪問介護養成講師などの社会活動も行っている。
- 地域社会や実習先でのボランティア活動は活発とはいえない。海外へは、共通科目の「国際文化」履修者が3週間帝京ロンドンカレッジで語学研修、医療事情の見学などを行っている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会は寄附行為の規定に基づいて開催され、学校法人の意思決定機関として適切に運営されている。同様に評議員会も寄附行為の規定に基づき、理事会の諮問機関として開催され適切に運営されている。また、監事の業務は適切に行われている。
- 教授会において、副学長を通して学長のリーダーシップは発揮されている。定期的なものも含め、教授会は十分な回数開催され、教育研究上の審議（諮問）機関として適切に運営されている。また、教授会の下に教務委員会など計14の委員会が設置され、適切に運営されている。
- 事務組織は適切に整備されている。事務処理も円滑に運営遂行されている。事務職員の任用は規程に従い適切に行われている。また、平成17年度には、内外の研修会に8回計16名が参加して、能力の向上を図っている。教員と事務職員の関係は密で連携がよい。
- 学長は理事長であり、副学長は理事として両者の間のパイプ役を果たしており、学校法人と教職員とは協力関係にある。就業に関する規程は整備され、周知されると

ともにその規程に基づいて適正に処理されている。教職員の健康管理と就業環境もよい。

- 学生に対しての事務職員の対応にもう一步改善がみられるとよい（学生による、平成17年度事務職員の対応に対しての満足度調査結果が57%）。

評価領域IX 財務

- 短期大学の年度事業計画と予算については、理事会で審議されている。決定された予算は、各部門長に連絡され執行が依頼されている。日常的な出納業務は円滑に実施され、所管担当責任者を経て理事長に報告されている。監事は月1回法人本部事務室で定期的に監査を行っている。監事の意見としては業務状況、財産状況、会計処理、理事の業務執行状況については問題がなく、学校運営はうまく行っているとのことである。
- 会計規程、固定資産管理規程、物品管理規程により、適切な管理がなされている。施設整備委員会、防火管理規程、入りロゲートに守衛、夜間は警備会社による警備、学生にはカギ付きロッカーが用意されている。パソコンウイルス対策、個人情報保護の措置が取られている。
- 財務体質は非常によく健全である。短期大学として必要な施設設備は整備され、管理は適切になされている。

評価領域X 改革・改善

- 自己点検・評価委員会、第三者評価実施委員会、相互評価・外部評価実施委員会（平成16年度に設置されたが未活動）があり、規程が整備されている。また、自己点検・評価報告書は、平成10年、平成13年、平成17年と今回の平成18年に刊行され、公表されている。自己点検・評価委員会には多くの教職員が自己点検・評価報告書作成に参加し、それぞれが役割分担し担当する部分について調べ執筆しており、実施体制は確立している。
- 平成16年度に介護福祉学科の廃止により、平成17年度から新しく看護学科と専攻科だけの短期大学へと改革・改善を行った実績があり、すでに改革・改善のためのシステム構築はでき上がっている。
- 第三者評価を受けるための報告書作成（平成18年5月）には、学長を委員長とし、代行の副学長のリーダーシップの下に全学的に改革・改善に取り組んでいる。

自由が丘産能短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 産業能率大学
理事長	上野 俊一
学 長	森脇 道子
A L O	奥村 憲
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	東京都世田谷区等々力6-39-15

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
能率科第Ⅰ部		380
能率科第Ⅱ部		120
	合計	500

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

学科	入学定員
能率科	1500
	合計 1500

機関別評価結果

自由が丘産能短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月27日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

大正14年日本産業能率研究所の設立以来、今日に至るまで創立者の思想と精神は、あらゆる手段と場面において明確に示されており、これの点検と共通理解に向けての努力が意欲的に実行されており、適切であると判断できる。

教養科目は、全体で62科目が置かれており、短期大学の平均的内容からするとかなり充実している。2年次には「課題実践科目」が配置され、教養科目群、専門科目群ともに統合的・系統的な教育課程が編成されている。

専任教員数は短期大学設置基準を充たしており、相互に協力しながら授業改善に努め、学生指導にもあたっている。校地面積は短期大学設置基準を大きく上回り、専門教育を円滑に行うためのネットワーク環境、障害者対応にも配慮した教育環境整備がなされている。図書館蔵書数、学術雑誌種数、座席数なども充実しており、図書館サービス体制や、学内外への情報発信なども活発に行われている。

教育職勤務マニュアルや兼任教員マニュアルが用意され、適切な単位認定の徹底が行われている。また独自のグレード・ポイント・アベレージ（GPA）制度を導入し、きめ細やかな教育が目指されている。また、学生による授業評価においても高い水準の満足度を確認することができるように、教育目標の達成に向けた一連の取組みが成果をあげているものといえる。授業評価や学生満足度調査などの調査結果は、積極的にファカルティ・ディベロップメント（FD）活動にも利用され、結果や問題意識の共有が図られている。

昼・夜間に学ぶ多様な学生に対して、大学の求める学生像、育てる学生像を明確に示したうえで、学習・学生生活、進路などについて、アカデミックアドバイザーを中心に支援システムとフォローの体制を教職員が一体となって作り上げている。また、学生スタッフによる学生自身の活動を人間的成長を実現する取組みと位置づけ、積極的に評価している。

卒業生や卒業生を受け入れている企業、団体からの意見聴取でも評価を得ている。

研究業績と教育業績は、教育に直結する授業開発などを積極的に推進するなど十分な活動が展開されていると判断できる。

授業の「課題実践科目」、学生ボランティア活動の「産能スチューデントスタッフ」が、学生による社会的活動を促しており、短期大学もまた地域支援や地域講座開設のシステムを設定して地域との連携に取組み、それぞれ成果を残している。訪問調査時には、平成18年度から平成19年度にかけて5名程度の専任教員を増加する予定があるとの表明があり、教育・研究に加えて地域貢献の点でも高等教育機関としての機能を拡充できるとの説明もあった。

管理運営については、組織、規程類、運営など全ての面において万全である。学内教職員専用のネットワーク網が完備され、情報伝達においても遺漏の無いよう整備され、情報管理、防災・防犯対策なども充分である。

短期大学としても第I部に関しては、安定的な学生確保がなされており、財務体質の健全さを保っている。

自己点検・評価活動に関しては学則に明確に定めるとともに、自己点検・評価および第三者評価委員会規程に基づき、常勤理事会の諮問機関として学長を委員長とした委員会が組織され、報告書が作成されることによって多くの教職員が点検・評価活動に参画する体制が整えられている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 「現代マネジメント」(必修科目)において建学の精神の理解と周知を図っている。また教職員に対しては各種マニュアルなどによって徹底を図っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 専門科目において、コミュニケーションやプレゼンテーション能力を養うことが重視されている。教養教育の充実、特に学習の基礎に力点が置かれている。カリキュラム内容全体が、学生ニーズに広く応えられる内容になっている。3年に1度の授業参観などFD・SD委員会は活発に活動している。さらに授業改善に対する積極的な取組みに優れた点を見いだせる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 学内全域に優れたネットワーク環境が完備されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 平成15年、平成16年の文部科学省の特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）に採択されているとおり、学生の主体的参加を強く感じる取組みが多くあり、満足度や目標の達成にも寄与しているものと思われる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 当該短期大学の取組みは、特色GPとして「タテよこ交流に始まる学内サービス学習支援」など2本が採択されており、その面でも外部からの高い評価と永年にわたる実績があると解される。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 学園に付属する総合研究所との提携および学生の社会的活動に対しては「GSP（ゴールデン・スプーン・プライズ）制度」に基づく活動成果の表彰を通じて奨励と定着をはかっている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- ワーキンググループ活動による教員と職員が協働しての課題解決の実践は、教職員のコミュニケーションをシステムとして確立している。
- プライバシーマーク取得に見られる進取の姿勢は、個人情報保護の観点だけではなく、あらゆる業務遂行において先進的に取組む姿勢と適度な緊張感を持たせていると感じられる。

評価領域Ⅸ 財務

- 財務情報をウェブサイト上に公開し、解説を付して理解しやすい内容としている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 平成5年度より、毎年自己点検・評価報告書を作成し公表している。

（2）向上・充実のための課題

なし

（3）早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 創立者上野陽一の「能率」の思想を建学の精神とし、その実践の理論体系に基づき、実社会に貢献する人材の育成を使命とすることを教育理念として確立している。
- 建学の精神、教育理念に基づく教育目的が学則第1条に明確に定められており、自己点検・評価活動により定期的に点検の努力が行われている。
- 学生に対しては、入学時のオリエンテーションにおいて説明をし、学生便覧に掲載し周知を図っている。教職員に対しては、SD・FD研修会において共通の理解を深めるための努力が行われている。
- 大正14年日本産業能率研究所の設立以来、今日に至るまで創立者の思想と精神は、あらゆる手段と場面において明確に示されており、これの点検と共通理解に向けての努力が意欲的に実行されており、適切であると判断できる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育課程には、教育目標の実現に対応した4領域に基づく科目が配置されている。教養科目は、4領域から構成され、専門科目はコースの特徴が明確であり、十分な選択科目が配置されている。実学に重点をおいた適切なレベルでの授業が展開されている。
- 司書取得のための配慮、ほかの資格支援の科目が自由科目として実施されている。講義、演習、実習科目がバランス良く構成されており、四つの卒業要件が、学生に理解しやすい表現で提示され、またアカデミックアドバイザーによる履修相談も適切に受けられるようになっている。

- シラバスは年度開始時に配布され、ガイダンスにおいても使い方の指導がなされその内容に関しても、担当教員、学習目標、授業の形態、授業の進め方、前提知識、単位認定条件、定期試験、テキスト、授業スケジュールが詳細に説明されている。
- 各期に、学生による授業評価が実施され、その結果は各教員にフィードバックされ、改善のために活用されている。また、授業改善のための目標設定、振り返りなどの仕組みが用意されている。同一科目を複数の教員で担当する場合、「科目主務者」を置き、科目間調整、ミーティング、授業結果報告書などによる振り返りが効果的に行われている。さらにFD活動には、予算化がなされ、スタッフ・ディベロップメント（SD）活動とともに密接に連携して実施されている。
- 教養科目は、全体で62科目が置かれており、充実している。2年次には課題実践科目が配置され、教養科目群、専門科目群ともに統合的・系統的な教育課程が編成されている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 「科目主務者」の設置、科目間調整など責任体制が整備されている。
- 情報機器が自由に使いこなせるように、全教室にネットワーク環境が整備されている。
- 専任教員は短期大学設置基準を充たしており、相互に協力しながら授業改善に努め、学生指導にもあたっている。校地面積は短期大学設置基準を大きく上回り、専門教育を円滑に行うためのネットワーク環境、障害者対応にも配慮した教育環境整備がなされている。図書館蔵書数、学術雑誌種数、座席数なども、短期大学図書館として充実している。図書館サービス体制および学内外への情報発信なども活発に行われている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 教育目標を達成するために、学生に対する指針の明示に加え、教育職員に対する作問・成績評価のガイドラインが設けられ実施体制が確保されている。また、積極的なFD活動が展開され、その報告書はウェブサイト上でも公開されている。
- 高い就職率を誇る点は、当該短期大学の教育における結実の1つとして確認することができる。また、卒業生、就職先、編入学先からの意見聴取も行われており、それらの結果についての検討も行われている。
- 教育職務マニュアルや兼任教員マニュアルが用意され、適切な単位認定の徹底が行われている。また独自のGPA制度を導入し、アカデミックアドバイザーの指導によるきめ細やかな教育が目指されている。また、学生による授業評価においても高い水準の満足度を確認することができるように、教育目標の達成に向けた一連の取組みが成果をあげているものといえる。授業評価や学生満足度調査などの調査結果は、積極

的にFD活動にも利用され、結果や問題意識の共有が図られている。

評価領域V 学生支援

- 短期大学の求める学生像を明確に示し、学生募集と選抜が行われている。入学予定者には入学事前教育、ガイダンスが実施され、「生徒」から「学生」への移行がスムーズに進行するよう配慮されている。
- アカデミックアドバイザー制度に加え学生の品質保証ともいえるべきGPA制度が平成17年度に導入され、学生に対する支援と評価の体制が確立している。基礎学力が不足する学生には学力の向上、情報処理能力を高めるためには必要な科目群が用意され、進度の速い学生には上位資格をめざすことを奨励するため、学生委員会キャリア支援専門委員会が対策講座や個別支援を行っている。組織的な取組みのうえに成果を残している。
- 学生総合サービスセンターが学生生活支援の窓口として一元化され、明瞭なシステムのもとで、学生のキャリアアップがはかられている。「産能スチューデントスタッフ」による「学生による学内サービス活動」が真に特徴的な取組みであり、参加する学生自身にとっても研修の機会となっている。メンタルヘルス、障害者への配慮について設備、人的配置の両面で整備されている。
- 職業サポートセンターが中心になり、アカデミックアドバイザーと提携しながら高い就職率を達成している。
- 社会人、通信制学生、留学生や障害をもつ学生を受け入れ、円滑な履修が実現するように配慮されている。
- 昼・夜間に学ぶ多様な学生に対して、大学の求める学生像、育てる学生像を明確に示したうえで、学習・学生生活、進路などについて、アカデミックアドバイザーを中心に支援システムとフォローの体制を教職員が一体となって作り上げている。また、学生スタッフによる学生自身の活動を、人間的成長を実現する取組みと位置づけ積極的に評価している。卒業生や卒業生を受け入れている企業、団体からの意見聴取でも評価を得ている。

評価領域VI 研究

- 専任教員過去3年間の研究は積極的に展開されている。また、同期間において、科学研究費補助金の採択はないものの、平成15、16年と文部科学省の特色GPに採択されているように、教育改革に向けた研究活動が展開されている。
- 個人研究費に加え共同研究にかかる研究助成制度が整備されている。また、個人研究室の確保と同時に、共同研究・交流活動を推進するためのコラボレーションエリアを

設置するなど、当該短期大学の教育・研究方針に合った体制が整備されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 短期大学が拠点を置く「自由が丘」の地域性を十分に意識し、学園に附属する総合研究所と提携し、学生も教職員も地域連携に参加している点に特徴がある。その結果、各種審議会や地域プロジェクトに参加実績があり、地域むけ講座を開設するなどの取組みがある。学内では地域支援グループおよび地域公開講座グループが組織され、社会的取組みを推進する中軸となっている。
- 「産能スチューデントスタッフ」活動を通じた学生のキャンパス内ボランティア活動に加えて、ゼミに相当する「課題実践科目」を通じて地域調査、地域計画の立案にも学生が参加する積極的な面がある。学生の社会的活動に対しては、G S Pによる活動成果の表彰制度を設定し、奨励と定着がはかられている。授業の「課題実践科目」、学生ボランティア活動の「産能スチューデントスタッフ」が、学生による社会的活動を促しており、短期大学もまた地域支援や地域講座開設のシステムを設定して地域との連携に取組み、それぞれ成果を残している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会は学校法人の意思決定機関として適切に運営されている。この学校法人の常務に関する事項は、常勤理事会を置いており、常勤理事会についての細目も規程に定めてある。今回、理事長ならびに常勤理事は終始出席していた。理事間のコミュニケーションも良好で、管理運営体制は確立しているといえる。
- 学長のリーダーシップの下、短期大学の運営組織が、確立されている。学長諮問委員会ならびに教授会専門委員会が組織され、それらの下に、多くのワーキンググループが組織され、教員、事務職員が協働して課題解決にあたる体制は、教職員間のコミュニケーションを一層高め、短期大学に活性化をもたらす要因になっていると思われる。
- 第Ⅰ部、第Ⅱ部と昼夜にわたる学生対応に関しても支援組織が確立されており、学生からの事務職員に対する評価が高い。職員の大学運営に係わるワーキンググループへの業務を超えた参画やSD研修の計画的実施は、職務の高度化に対応していると思われる。
- 「教育職勤務マニュアル」、「新入職員のしおり」に象徴されるとおり、産能職員としての行動規範が、適格に示されている。P l a n - D o - S e eサイクルが、全ての面において実施され、その成果に対する反映も適切に評価されている。
- 管理運営については、組織、規程類、運営など全ての面において万全である。情報伝達においても遺漏の無いよう学内教職員専用のネットワーク網が完備され、情報管理、

防災・防犯対策なども充分である。

評価領域IX 財務

- 平成17年より平成21年度までの中期経営計画が策定され、それに基づいた経営ビジョンを考慮した予算編成が、評議員会、理事会、監事の関与を経て決定され、執行されている。公認会計士の監査についても、月1回定期的に行われている。
- 予算の執行状況については、月次毎に把握され、経理部長が常勤理事会において報告し、執行状況について、半期毎には明細を添えた差異理由を経理部に報告するなどシステムが確立している。財務諸規程についても充分整備されている。教育研究比率は、帰属収入の20%を超え、過去3ヶ年は高い比率で推移している。
- 施設管理に関しては管理諸規程が整備され、その管理が適切に行われている。火災などの災害対策、防犯対策、コンピュータセキュリティ対策、環境保全対策に関しても十分な対策がとられている。
- 短期大学としては、安定的な学生確保がなされており、財務体質の健全さを保っている。

評価領域X 改革・改善

- 自己点検・評価については学則第3条に定められており、実施体制としては学長を委員長とした委員会が組織されている。
- 自己点検・評価および第三者評価規程など関係規程を整備し、3つの専門部会が置かれ、明らかになった課題は、次年度の事業計画に組込まれるシステムが構築されている。
- 評価の成果活用については意欲的な取組みと努力がみられる。

実践女子短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 実践女子学園
理事長	高橋 芳樹
学 長	飯塚 幸子
A L O	岡田 正
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	東京都日野市神明1-13-1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
日本語コミュニケーション学科		100
英語コミュニケーション学科		120
生活福祉学科		80
食物栄養学科		80
	合計	380

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

実践女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月14日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

下田歌子という文学史上に名を残す個性を、創立者としてもつということが、この学園のアドバンテージとなっている。その優れた個性と明確な理念を核として、人が集まり縦横に知的ネットワークをはりめぐらせる。学習現場として理想的な形である。

建学の精神がカリキュラム編成の動機となっている。結果、完成された教育課程は有機的な連動体となって、建学の精神を宿す身体となっている。講義概要は、体裁よく統一感のある仕上がりをみせていて、評価方法も明示されている。

図書館は、全般的に充実した整備で、学生の利用も活発であると判断され、教育効果の向上に大きく貢献している点は高く評価される。

教育目標の達成のための努力は、組織的になされている。その成果は、学生の満足度や成績の良さに現れている。

充実した学生支援の体制が整えられており、効果的に展開している。

教職員の研究のための条件は、個人研究費の面でも、図書費や研究室の広さの面でもよく整備されている。

生涯学習センターを設置し、大学と短期大学との連携の下に、地域における生涯学習の機会を増やすように努めている。また、地元の日野市役所や小学校との協力関係を強め、地域共同活動を推進しているのはすばらしい。

管理運営全般については、各々の体制が確立されており、また円滑な連携を踏まえながら、効率よく機能している。

短期大学分の財務体質は、おおむね順調に推移している。施設・設備の管理については、常に安全性の向上を目指して取り組んできている。

平成5年から自己点検・評価についての実施体制を確立して、その後改革・改善を重ね

て今回の第三者評価を受け、その結果を改革推進のために活用しようとしている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 下田歌子「小伝」が配布され、香雪記念館が設置されている。特に歌碑には、ボタンを押すと校歌が流れるなど工夫されている。校歌を唄うことができない学生が多い中、帰属意識とプライドの醸成のためのよい工夫となっている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 総合教育に「日本語表現法」を含む必修科目群を置き、また、選択の総合科目群はポリシーの感じられる設定になっている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 適切な教育環境を確保していると判断される。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 退学、休学、留年などの学生がきわめて少ない。

評価領域Ⅴ 学生支援

- キャリアセンターの取組みは効果的に機能していると考えられる。

評価領域Ⅵ 研究

- 各教員の研究発表のシステムが整備されている。
- 教育研究プロジェクトが全学規模で、学長、短期大学部長のリーダーシップの下に活発に活動している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 時代の要請に応じたテーマを選択し、20年以上公開講座を連続して実施している。
- 市役所や地元諸組織と強い協力関係を築いている。
- 学生のボランティア活動は活発で、教員も積極的に関わっている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 自己点検・評価を平成5年から継続して行っている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 講義概要において、参考書や参考文献紹介に力をいれることが望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 卒業後評価への取組みとして、卒業生が気楽に母校に立ち寄れる雰囲気醸成に努められたい。

評価領域Ⅵ 研究

- 過去3年間、著作と論文発表のない教員の研究業績発表が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 下田歌子という文学史上に名を残す個性を、創立者としてもつということが、この学園のアドバンテージとなっている。その優れた個性と明確な理念を核として、人が集まり縦横に知的ネットワークをはりめぐらせる。学習現場として理想的な形である。
- 教育目的・教育目標については、講義概要や履修ガイダンス、あるいは自己点検・自己評価報告書の作成時、さらには年度始めオリエンテーション、ゼミなどの機会を通じて点検することになっている。
- 講義概要、履修要項の配布、さらには自己点検・評価委員会の活動が教育目標の共通理解に資している。また、折に触れ行われる学長挨拶の内容も共通理解の確認あるいは呼び水となる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 各学科それぞれは、演習に力点が置かれている。教養教育は、共通の「総合教育」において充分に実施されている。特に、必修の基礎科目群を設定しているところや、選択の総合科目群の、時宜に即した、多彩な科目展開などが注目される。
- 食物栄養学科および教職課程・図書館学課程は免許・資格が目的化されている。他学科においても、多種多様な免許・資格への道を用意している。取得を義務付けたり、試験を自学で実施したりして、本格的な取組みをみせている。生活福祉学科が、生涯学習センターも活用して免許・資格取得への配慮をしていることも注目されよう。
- 授業内容および教育の方法については、履修要項、履修の手引き、講義概要が作成さ

れ、オリエンテーションなどで説明がなされ、学生はそれに基づき履修科目を選択している。

- ウェブサイトで公開された教員アンケートをみると、それぞれ担当科目の授業改善を図るべく努力している。Semester制のため、評価が半年サイクルであることから、改善の結果がすぐにみえるという点も、教員側の意欲をかきたてている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 短期大学設置基準に規定される教員組織が整備されており、かつ活発な教育活動が展開されている。
- 短期大学設置基準以上の校地・校舎面積を有し、その環境もよく整備されている。
- 各種機器の設置された講義室および演習室などが十分に用意されている。
- 図書などについては十分な購入予算が確保されており、図書館は図書館規程、図書館管理規程、図書委員会規程にしたがって、確立したシステムのもと運用されている。図書館利用指導もよくなされ、学習センターとしての機能を果たしている。
- 図書館は、全般的に充実した整備で、学生の利用も活発であると判断され、教育効果の向上に大きく貢献している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 最終授業終了後に実施している満足度調査によれば、すべての学科で満足度は高い。担当教員はこの結果についての対応が求められ、公開されるので、各教員とも真剣である。
- 食物栄養学科の専門就職率は良好である。
- 教育目標の達成のための努力は、組織的になされている。その成果は、学生の満足度や成績のよさに現れている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 短期大学事務の入試担当と短期大学・大学の入試センターとにより受験生に対する支援がなされている。
- また選抜についても多様な方式が展開されており、受験生の状況に配慮している。
- 入学予定者に対しては、課題の提示による学習指導や、履修ガイダンスなどの発行・送付による情報提供が行われ充実した入学前教育が施されている。
- 学習支援としては、学科ごとにその特徴に合わせた指導がなされている。
- 学習指導に関わる資料も全学的なもののほか、学科ごとの印刷物も発行されており充

実している。

- 学生相談センターの設置、クラス担任制、オフィス・アワーの実施のほか、セクシャル・ハラスメント相談の体制も整い、学生生活支援は組織的にも体制的にも確立されている。
- 優秀者に対しての奨学制度もよく整備されている。
- 事務の学生担当や顧問教職員の支援・指導の下、学友会活動・サークル活動ともに活発に展開されている。
- キャリアセンターが組織されキャリア支援が行われるとともに、「キャリアプランニング科目」群が展開され、キャリア教育が効果的になされている。
- キャリアセンター資料室から種々の情報提供が行われ、キャリアセンターを中心に、ガイダンスや就職対策講座などの支援業務が行われている。
- 充実した学生支援の体制が整えられており、効果的に展開している。

評価領域VI 研究

- 活発な研究活動が行われている。毎年3～4件の外部研究費の申請がなされており、その半数が採択されている。
- 「実践女子大学・短期大学研究費内規」が整備され、教員の研究が奨励されている。
- 教職員の研究のための条件は、個人研究費の面でも、図書費や研究室の広さの面でもよく整備されている。

評価領域VII 社会的活動

- 平成17年に、「地域共生型教育指針」と「プロジェクトJ」が策定され、地域に対する短期大学の位置づけが行われ、地域に役立ち、地域と共生する短期大学を目指した活動が行われている。
- 小学校、家庭支援センター、日野市国際交流協会、農業協同組合などにおけるボランティア活動に多数の学生が参加し、その活動状況を全学的に知らせる機会を作っている。
- 過去3年間に62名の学生をアメリカとイギリスに派遣しており、意欲的である。イギリスのシェフィールド大学、サセックス大学、カナダのフレーザーバレー大学、中国人民大学、中国伝媒大学と単位互換の制度を取り決めて、双方向の交流に努めている。
- 生涯学習センターを設置し、大学と短期大学との連携の下に、地域における生涯学習の機会を増やすように努めている。また、地元の日野市役所や小学校との協力関係を強め、地域共同活動を推進しているのはすばらしい。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事長を中心に法人組織の管理運営体制が確立しており、理事会、監事および評議員会は、寄附行為に基づき、それぞれの機能が適切に果たされている。
- また、監事は、理事会・評議員会への出席はもとより、業務の執行については常任理事会および企画推進協議会にも出席し、常に執行状況を掌握している。会計監査においては、公認会計士からも検査などの実施状況を聴取し、意見交換を踏まえるなど十分な連携を図っている。
- 教育・研究活動全般については、学長のリーダーシップの下、教授会を中心として、また、各種委員会での活発な活動も含めて、円滑な運営に努めている。
- 事務組織の活性化に取組む一方で、職員研修や意見交換などを通じて、常に職員の意識改革を推進する努力が重ねられている。
- 事務関係の規程は、よく整備されており、この規程に基づき事務処理がなされている。文書の保存は定めた年限により分類するとともに、重要書類の保管状況も良好である。
- また、防災などの安全管理については、防火、防災関係の諸規程を定めるとともに、防災訓練の実施など所要の対策を講じ、予防や安全の確保に努めている。さらに、学生の旅行中における事故などの対策マニュアルを策定して、迅速な対応ができる体制をとっている。
- 学生との関係では、信頼される事務職員を目指して、意識改革を始め、応対に工夫をこらすなど、学生の満足度の向上に努めている。
- 就業規則や人事および給与規程などは、よく整備されている。
- また、健康管理や就業環境の改善などの福利厚生面でも、前向きに取り組んでいる。

評価領域Ⅸ 財務

- 毎年度の事業計画と予算編成は、経営方針である「学園経営5ヵ年計画」を基に編成されており、財務運営の計画性・効率性が確保されている。
- 予算の執行状況を常時把握することで、予算の効率的な執行を図っている。
- 財務の公開についても、適切に行われている。
- 短期大学の財務体質はおおむね順調に推移しているが、短期大学の平成17年度決算で、消費支出比率が100%を若干超えている。これについては今後、設置を予定している短期大学改革委員会で検討がなされる。
- 安全・安心に向けての対策として、諸規程の整備、施設・設備の維持管理および訓練の実施など、積極的に取り組んできている。
- 地球環境への配慮から諸々の対策も行っている。

- 短期大学分の財務体質に若干の課題があるが、おおむね順調に推移している。施設・設備の管理については、常に安全性の向上を目指して取り組んできている。

評価領域X 改革・改善

- 平成5年に、教授会の下に自己評価委員会を設け、それ以後自己点検・評価について研究・調査を行いながら、実施体制を確立している。平成17年自己点検・評価全体を総括する自己点検・評価委員会および自己点検・評価運営委員会を新たに組織し、自己点検・評価の実施を総括して、その下に従来自己評価委員会を位置づけている。
- 自己点検・評価委員会、自己点検・評価運営委員会、自己評価委員会、FD（ファカルティ・ディベロップメント）推進委員会があり、規程として「実践女子短期大学自己点検・評価に関する規程」、「実践女子短期大学FD推進委員会規程」がある。このような組織と規程を作って自己点検・評価を行っている。
- 平成16年から昭和女子大学短期大学部との相互評価を行い、『実践女子短期大学・昭和女子大学短期大学部 相互評価報告』を平成17年に発行している。

淑徳短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 大乘淑徳学園
理事長	長谷川 匡俊
学 長	石上 善應
A L O	萩原 英敏
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	東京都板橋区前野町5-3-7

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
社会福祉学科	社会福祉	250
社会福祉学科	介護福祉	100
食物栄養学科		100
こども学科		50
	合計	500

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

淑徳短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月25日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

大乘仏教に基づく崇高な建学の精神の歴史と伝統を現在まで受け継ぎ、これによって社会に貢献できる人材を育成するという教育理念が、日常の教育活動にいかされ具現されている。

教育課程は教育目標に基づいて体系的に編成されている。多様で一般的なニーズに応える教育課程になっている。シラバスなどは十分な内容を有しており、学生が理解しやすい表現で体裁もよい。授業方法などの改善については、授業評価も行われ、教職員での組織的な取り組みがみられる。

教育の実施体制は、おおむね整備されている。

教育目標である「共生」、「実学」を達成するための取り組みとして、学生の学習支援を目的に、教員が週4時間のオフィス・アワーやクラスアドバイザー制度、ゼミ制度などを設けて学習指導や生活指導を実施し、またキャリアセンター（専任職員6名、派遣・臨時職員4名の総勢10名）を拠点に入学から卒業までの短期大学生生活支援に力を入れることで、十分な教育効果がみられる。

学生支援に関しては、広報・入試活動、入学前・入学後のオリエンテーション、教員のクラス・アワーやゼミ制度、オフィス・アワーなどを活用した学生指導・支援、職員の学生相談室・キャリアセンターにおける専門的対応など、組織的にすぐれた取り組みが行われている。また、留学生、社会人学生、障害学生、長期履修生など多様な学生に対する特別な支援も実情に応じて、実施されている。

大部分の教員は研究活動に活発で、教員あるいは教員グループの担当授業科目に関する研究や教育実践もスタートし、今後成果が期待できる。研究活動の条件も十分なものといえる。

建学の精神との関係で、社会的活動は活発である。特にボランティア活動はその代表的なもので、短期大学として積極的にバックアップしていることが分かる。

理事長のリーダーシップのもと理事会は機能を発揮している。教授会も適切に開催され大学としての意思決定が行われている。人事管理も中期経営計画により行われている。学校法人、短期大学の管理運営はともに諸規程に基づき適切に運営されている。

少子化で収入減が予測されるなか、収入の部では学生生徒等納付金以外での収入の増加をはかり、また、支出の部では教育研究経費の上限枠を設定した支出の管理を行うなど学園の財務運営は健全である。また財務情報も平成15年度からウェブサイトにて財産目録、貸借対照表などを掲載し情報公開をしてきた。

学内においては、平成5年に最初の『自己点検評価報告書』（未公表）が作成され、平成8年に学則を受けて「自己点検評価委員会規程」が制定され、3年ごとに自己点検評価が実施され、結果は『自己点検評価報告書』として公表されている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神と教育理念は、大乘仏教の精神に基づき、崇高・広大であり、歴史と伝統がある。この精神と理念は、創立以来一貫しており、学生に理解され、現代にいかされ、実際にいかすよう点検の努力がみられる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教職員が一体となって、「日本一の短期大学を目指す」取組みが教育改善などに反映されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 学生に対する学習支援として、教員が週4時間のオフィス・アワー、クラスアドバイザー制度、ゼミ制度などを設けて、学習指導、補習指導や生活指導を行い、効果をあげている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学生支援に教職員が一丸となって取り組んでおり、制度や組織としても、広報・入試活動、入学前・入学後のオリエンテーション、教員のゼミ制度、オフィス・アワー、職員の学生相談室・キャリアセンターにおける専門的対応など、すぐれた取組みが行われている。

評価領域Ⅵ 研究

- 個人研究費に加えて、研究助成や出版助成制度があり、教員の研究環境はほかの短期大学と比べても優れているものといえる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- ボランティア活動は建学の精神や学科構成の関係から非常に活発に行われボランティア活動の単位認定も行っている。その中心であるボランティア・センターは専従スタッフと学生が中心となり、ボランティア・コーディネート事業、講習・講演・講座開講、子育て支援相談室の設置、見学研修事業などを実施し、延べ1,229人（平成17年度）の学生が関わった。このような活発な活動の結果は、全国の大学、短期大学から視察されるほどである。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会、常務会、校長会などを通して理事会と短期大学との意思の疎通を図り適切な管理運営を行っている。
- 教授会には全教員と役職者の事務職員が参加することによって、大学、教員と事務職員間の情報の共有化が図られ、良好な関係が築かれていることは評価できる。

評価領域Ⅸ 財務

- 中期経営計画に基づき、健全な財務運営をはかっている。
- 平成15年度からウェブサイトでの財務情報を公開していることは評価できる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 早くから、自己点検評価に取組み、そのための学内組織を確立し、定期的を実施し、結果を公表している。

（２）向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 介護福祉士の資格取得は2年前から卒業要件からはずされているので、さらに幅広い内容を含んだ教育課程の再編が望ましい。
- 授業内容に応じた適正なクラス編成が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 卒業生から教育活動の効果を検証することを目的に、教職員と卒業生が交流する機会を設けることが望ましい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項
なし

領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 大乘仏教に基づく建学の精神および教育理念は、開学以来確立しており、大乘淑徳教本、パンフレット、ウェブサイトなどに広く公表している。
- 建学の精神と教育理念に基づいて、各学科に教育目的と教育目標が明確に定められ、現代社会の要請に適応するよう点検の努力がみられる。
- 教育目的・教育目標は入学式、卒業式などの諸行事や普段の授業において学生への周知を徹底させ、教職員に対しては、全員参加の研修会において共通の認識をはかっている。
- 大乘仏教に基づく崇高な建学の精神の歴史と伝統を現在まで受け継ぎ、これによって社会に貢献できる人材を育成するという教育理念が、日常の教育活動にいかされ具現されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育課程は教育目標に基づいて体系的に編成されている。
- 多様で一般的なニーズに応える教育課程になっている。ただし、資格取得を目的とする学科・専攻によっては、必修科目と選択科目のバランスがよくないので再編が望まれる。
- シラバスなどは十分な内容を有しており、学生が理解しやすい表現で体裁もよい。
- 授業方法などの改善については、授業評価も行われ、教職員での組織的な取り組みがみられる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員組織はおおむね整備されているが、年齢構成がアンバランスで若い教員の数が少ない。
- 教育環境として日常的に授業が行われているものについては、整備・活用されている。
- 図書館の学生が利用できるスペースや書籍などは十分に確保され、適切に整備されている。
- 教育の実施体制はおおむね整備されている。ただし、教員組織は教員の年齢構成がアンバランスである。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 教育目標である「共生」を達成するための努力として、学生のケアを目的に、教員が週4時間のオフィス・アワーやクラスアドバイザー制度、ゼミ制度などを設けて、学習指導、補習指導や生活指導を行っている。また、教育目標である「実学」を達成するための努力として、栄養士、介護福祉士、保育士などの資格取得を目的に学科のカリキュラムが構成されている。このように、通常の教育活動での取り組みと実績は充分である。
- 学生の卒業後評価は、一部の就職先から意見を聴取し良好との認識を持っているが、卒業生に対して学生時代についてのアンケートなど教育の実績や効果を確認するための取り組みが行われていない。今後は、短期大学としても「卒業生の追跡調査を組織的に行う必要を感じている」との記述にあるように、具体的な取り組みが期待される。
- 教育目標である「共生」、「実学」を達成するための取り組みとして、学生の学習支援を目的に、教員が週4時間のオフィス・アワーやクラスアドバイザー制度、ゼミ制度などを設けて学習指導や生活指導を実施し、またキャリアセンター（専任職員6名、派遣・臨時職員4名の総勢10名）を拠点に入学から卒業までの短期大学生生活支援に力を入れることで、十分な教育効果がみられる。その一方、卒業後評価については、一部の就職先から意見を聴取しているのみであり、今後は、教育活動の効果を検証することを目的に、「卒業生の追跡調査を組織的に行う必要を感じる」との記述にもあるように、具体的な取り組みが期待される。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学に関する主な支援には、広報・入試相談とオリエンテーションがある。広報・入試相談では、受験生からの問い合わせに対して、入学相談室（キャリアセンター）において、専門的な対応が行われている。オリエンテーションは入学前と入学後に実施している。入学前教育では、食物栄養学科、社会福祉学科、こども学科が基礎授業や

ピアノレッスン講座、ボランティア体験や福祉に関するレポートを実施し、学習の意欲付けや基礎学力の向上などで効果をあげている。入学後のオリエンテーションでは、学習の動機づけに焦点をあわせた学習や科目選択のためのガイダンスなどが行われている。さらに、保護者を対象としたガイダンスが入学式後にあり、周知をはかっている。

- 近年、基礎学力が不足する学生が増加しているが、これに対して、各教員が週4時間のオフィス・アワーを設け、補習授業などを実施するなど学習支援に関する取組みが日常的、組織的に行われている。さらに、試験や年4回の実技テスト不合格者には再度補講レッスンも行っている。教育理念である「共生」に基づく教職員一丸となった取組みがみられた。内容的にも充実した学習支援体制が実施されている。
- 教職員の連携のもとに、学生生活支援組織体制が整備されている。各学科の教員がクラス・アワーやゼミ制度を設け、またオフィス・アワーなどを活用して、担当学生の指導・支援にあたっている。そのほかの機関として、学生相談室があり、担当職員が対応をするとともに、精神的サポートとして、カウンセラーによる学生相談を利用できることで、学習上の悩みなどの相談にのり、適切な指導助言を行う体制をとっている。
- 教授会の下部組織として学生委員会を教職員で構成し、進路就職相談室と連携し就職・進路部会を設け、就職活動を支援している。就職支援室なども完備され、学生に必要な情報を提供するとともに、教員がゼミなどを通じて、就職支援を行っている。このような組織的な取組みにより、就職内定率（3/31現在）は各学科で十分な水準にある。また、大学などへの進学者も多く、淑徳大学への優先入学制度をはじめ、他大学への進学に関する情報も提供して、支援している。
- 過去3年間の留学生の受け入れ状況は平成15年度2人、平成17年度1人で、学園規程による授業料免除（30%）や短期大学の奨学金、国際教育協会奨学金により支援を行っている。社会人学生は20歳代～50歳代までの多様な年齢層で、非常に熱心で、学習態度もよく、ほとんど学習面での一般学生に受け込み、問題は無い。このため、特別に支援する体制はとっていない。聴覚障害を持つ学生に対しては、平成15年3月に「就学上、障害となり得る問題を抱える学生の教育配慮に関する教授会申し合わせ事項」の学内規程を整備し、プライバシーに配慮した事前調査や本人との連絡により医療機関との連携をはかるとともに、ボランティア・センターでは、ノートテイクおよび経済的支援を行っている。長期履修学生は、平成16年度2名、平成18年度1名と少数ながら就学している。学費2年間分を分割納入できるようにしている。
- 学生支援に関しては、広報・入試活動、入学前・入学後のオリエンテーション、教員のクラス・アワーやゼミ制度、オフィス・アワーなどを活用した学生指導・支援、職員の学生相談室・キャリアセンターにおける専門的対応など、組織的にすぐれた取組

みが行われている。また、留学生、社会人学生、障害学生、長期履修生など多様な学生に対する特別な支援も実情に応じて、実施されている。

評価領域VI 研究

- 着任したばかりの教員や、実技系の教員が過去3年間に研究業績がないが、助教授、講師を中心に成果をあげている。研究活動の公開は学外には公開されていないが学内には公開されている。科学研究費補助金の申請などはあまり活発に行われていない。教員あるいは教員グループの担当授業科目に関する研究や教育実践もスタートし、今後成果が期待できる。
- 研究費は十分に充たされ更に出版助成費も整備される。
- 大部分の教員は研究活動に活発で、教員あるいは教員グループの担当授業科目に関する研究や教育実践もスタートし、今後成果が期待できる。研究活動の条件も十分なものといえる。

評価領域VII 社会的活動

- 建学の精神との関連で社会的活動は活発に行われている。地域社会に向けた公開講座は併設の大学と共同で活発であるし地域との交流も学園祭などを通じて活発に行われている。
- ボランティア・センターを中心に教職員と学生が一体となった積極的活動がみられる。このセンターは専従スタッフと学生が中心となり、ボランティア・コーディネート事業、講習・講演・講座開催、子育て支援相談室の設置、見学研修事業などを実施し、延べ学生数1,229人（平成17年度）の参加者があり、年々増加している。全国の大学・短期大学から視察されるほど充実したものである。ボランティア活動の単位認定も行っている。
- 学生の海外派遣は毎年各学科に分かれて、それぞれの学科に見合った海外研修と語学研修を実施している。教員の海外での活動は、学長の講演活動をはじめ教員の国際会議などの出席が毎年みられる。ただ、教員の留学や海外派遣は授業の都合もあり活発ではない。
- 建学の精神との関係で、社会的活動は活発である。特にボランティア活動はその代表的なもので、短期大学として積極的にバックアップしていることが分かる。

評価領域VIII 管理運営

- 理事会、評議員会は適切に開催され理事会の意思決定が速やかに行われている。監事

の監査機能も十分に発揮されている。

- 教授会は全教員と役職以上の事務職員が参加し、大学運営の意思の疎通を図っている。
- 事務局は、総務課、学生支援センター、キャリアセンターおよび図書館事務室から成り、18名の職員が配置され諸規程に基づき業務を行っている。
- 中期経営計画のもとに職員採用をしている。採用にあたっては規程に基づき適切に行っている。関連法規の改正事項に応じて学内規程を修正するなど、人事管理は適切である。
- 改正私立学校法に基づき寄附行為の改正を速やかに行うとともに、理事長のリーダーシップのもと理事会は改正私立学校法の趣旨に基づき機能を発揮している。教授会も適切に開催され短期大学としての意思決定が行われている。人事管理も中期経営計画により行われている。学校法人、短期大学の管理運営は諸規程に基づき適切に運営されている。

評価領域IX 財務

- 中期経営計画に基づいた予算編成を行い、適切な執行がなされている。月次の試算も速やかに学長、理事長に報告され適切な予算執行を行っている。資産運用も収入の増収に努めている。財務情報はウェブサイトで広く公表されている。
- 消費収支は収入超過が続いており、短期大学、学園の財務体質はともに健全である。余裕資金は目的に合わせて引当資産化されている。また、教育研究に対する経費も十分に配慮されている。
- 短期大学に必要な施設設備は整備されている。また、管理も適切に行われている。体育施設が不十分と思われるが、ホールの体育館への改修計画がある。
- 少子化で収入減が予測されるなか、収入の部では学生生徒等納付金以外での収入の増加をはかり、また支出の部では教育研究経費の上限枠を設定した支出の管理を行うなど学園の財務運営は健全である。また財務情報も平成15年度からウェブサイトで財産目録、貸借対照表などを掲載し情報公開をしてきた。

評価領域X 改革・改善

- 自己点検・評価が学則に明記され、自己点検評価委員会および委員会規程が制定されている。
- 自己点検評価委員の下には、さらに小委員会を設け、多くの教職員が参加して、実施され、内容、問題点が共有されている。
- 平成10年度～平成12年度に兵庫大学短期大学部との相互評価を実施し、その結果をもとにさまざまな改革が行われた。

- 平成5年に最初の『自己点検評価報告書』（未公表）が作成され、平成8年に学則を受けて「自己点検評価委員会規程」が制定され、3年ごとに自己点検・評価が実施され、結果は『自己点検評価報告書』として公表されている。

帝京短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 冲永学園
理事長	冲永 佳史
学 長	冲永 寛子
A L O	上 憲治
開設年月日	昭和37年4月1日
所在地	東京都渋谷区本町6-31-1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活科学科	生活科学	120
生活科学科	食物栄養	100
	合計	220

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

帝京短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月8日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

昭和37年に短期大学が創設されて以来、建学の精神は脈々と受け継がれ、全体的には大きく発展した。発祥の地であるこの原点の地に立地する短期大学は、色々な模索の末、カリキュラム改革を行い男女共学の生活科学科一本の柱と2専攻5コースという明確な組織に絞り、全教職員が一致してさらなる充実・発展に向かって努力している。

資格取得のために単純、明確に示されたカリキュラムに、学生のニーズ、能力に応じ取得できる様々な資格が配置されている。各教科目においてそれぞれの学習上の工夫が凝らされている。資格取得の科目でない情報演習と英語を必修にしたことは現代の学生の備えるべき“must”であると判断して設置したものである。

教員の年齢構成は50歳以上の教授職が多い。また、職員も少数の精鋭で、ほかには契約職員が多い。

入学試験に際して短期大学は、受付業務と合格発表日の電話による自動応答サービスを帝京大学入試センターに委託し、その入試業務は全学挙げて行っている。その後、事前指導調査や課題を出すなど、入学前指導も一部実施している。入学後は各種オリエンテーションにより、学習指導を行っている。

ウェブサイトをはじめ、いきとどいてカラフルな入学案内など様々なメディアによる情報伝達、また、教職員による高校訪問も行っている。ワーキンググループ制（ワーク）における担任制、学生相談室、学長面談、教員のオフィス・アワー、キャリアサポートセンターのウェブ求人検索システム、携帯電話による学務情報等の伝達が行われている。

キャリアサポートセンターの支援により就職・編入学指導を行っている。

学生指導環境委員会がおかれ、学生の憩いの場としての学生ホールの整備が行われている。また、ワーキンググループ制（ワーク）によって練られた補講も行われている。

当該短期大学では教員の研修日がきちんと確保されている。紀要も隔年に1本発刊されている。

地域においてスクールアシスタントメンバーズ事業（SAMプラン）にもとづき地域の小学校でボランティア活動をしている。

理事会は定期的に行われている。定例教授会（全体会議）も開かれている。また、事務局長を中心に組織が確立している。

平成17年度に新たに生活科学科の中に2専攻5コースを設定し、建学の精神を高く掲げ、帝京グループの発祥の地である幡ヶ谷の当該短期大学において全学一体となり改革・改善の狼煙をあげたものと判断する。

2. 優れていると判断される事項など

（1）優れていると判断される事項

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 英語と情報演習を現代の短期大学生の修得すべき科目として必修にした上、その学習歴を配慮しつつ、非常な努力をして学習させている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 少数精鋭による組織の典型と思われ、かつ、それがワーキンググループ制（ワーク）によって幅広い活動となっている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 全学挙げてのきめ細かい学生指導が行われている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 必要と思われる学生支援はほとんど行われている。また、講義科目と関連する資格取得のための機会を多々設けている。

評価領域Ⅵ 研究

- 経験豊富な教授陣を擁している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 強いリーダーシップがあると判断される。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 教育の原点に対する全学挙げての誠実な努力により、全員がこの認証評価を契機とし

て活性化に向かって努力しているとみられる。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書、特に各種辞書、辞典および教養図書の充実が望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 若手研究員を育てるためには研究費の増額が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 東京の副都心であり都庁を望見する幡ヶ谷にある当該短期大学は、巨大な帝京グループの一角をなす沖永学園の中核となっていて、この地はこの学園の発祥の地でもある。全学一致団結し建学の精神を現在にいかしていると判断する。
- この短期大学の建学の精神は創始者のかかげる実学である。その徳目は礼儀・努力・誠実であり、それにかかわる教育目的・教育目標をはじめ、それらを具現化させるものとしてのカリキュラムがかかげられ、運営委員会や教授会（全体会議）でそれについての点検がなされている。
- 教育目的・教育目標は、教授会（全体会議）においてのみでなくワーキンググループ制（ワーク）において全教職員と共有され、それを通じて更に学生と共有されている。挨拶にはじまるコミュニケーションが重視されている。
- 昭和37年に短期大学が創設されて以来、建学の精神は脈々と受け継がれ、全体的には大きく発展した。発祥の地であるこの原点の地に立地する短期大学は、色々な模索の末、カリキュラム改革を行い男女共学の生活科学科一本の柱と2専攻5コースという明確な組織に絞り、全教職員が一致してさらなる充実・発展に向かって努力している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 情報基礎演習（Ⅰ）（Ⅱ）と英語を必修と定めたカリキュラムは評価できる。
- コース制を徹底し、かつ学生のニーズと能力に応じ、様々な資格が取得可能となって

いる。

- 授業の内容および評価方法などは、学生便覧およびシラバスによって明らかに示されている。
- 教員は相互にクラスを参観し互いに研究しあうことになっており、学生による授業評価も行われている。
- 資格取得のために単純・明確に示されたカリキュラムに、学生のニーズ・能力に応じ取得できる様々な資格が配置されている。各教科目においてそれぞれの学習上の工夫が凝らされているが、資格取得の科目でない情報演習と英語を必修にしたことは現代の学生の備えるべき“must”であると判断して設置したものであろう。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 定例教授会（全体会議）や各種委員会がおかれ、実働組織としてワーキンググループ制（ワーク）がある。また、専任教員と非常勤講師との連絡会も行われている。
- 道路一本隔てた場所に位置する併設の幼稚園が恰好の実習場所となっている。比較的手狭な敷地は緑を残しつつフルに活用されている。
- 図書館は蔵書検索、活用の便が図られ土曜も開館されている。ただし、図書、特に各種辞書、辞典および教養図書の充実が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 各教員はそれぞれの教科目（平均6コマ）で教育目的を果すべく、シラバスなどに記載して目標達成への努力を重ねていると判断される。また、ファカルティ・ディベロップメント（FD）、スタッフ・ディベロップメント（SD）の実施により、その向上に努め、また、担任制を敷いて学生の個人指導も行われている。
- 最近の編入進学した学生で、入学後脱落した例はない。就職者たちへの追跡調査では、企業先からの報告では、「意欲的な姿勢がうかがわれる」となっている。また、卒業時にアンケート調査を行い、学習の達成度と満足度を確認している。
- 入学試験に際して短期大学は、受付業務と合格発表日の電話による自動応答サービスは帝京大学入試センターに委託しているが、その入試業務は全学挙げて行っている。その後、事前指導調査や課題を課すなど、入学前指導も一部実施している。入学後は各種オリエンテーションにより、学習指導を行っている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- ウェブサイトをはじめ、いきとどいてカラフルな入学案内など様々なメディアによる

情報伝達、また、教職員による高校訪問も行っている。また、合格発表後には、必修科目である英語などで課題を与え、事前アンケート調査なども行われている。

- ワーキンググループ制（ワーク）における担任制、学生相談室、学長面談、教員のオフィス・アワー、キャリアサポートセンターのウェブ求人検索システム、携帯電話による情報伝達が行われている。
- キャリアサポートセンターの支援により就職・編入学指導を行っている。
- 学生指導環境委員会が置かれ、学生の憩いの場としての学生ホールの整備が行われている。また、ワーキンググループ制（ワーク）によって練られた補講も行われている。

評価領域VI 研究

- 教員が少人数であるにもかかわらず、当該短期大学では教員の研究・研修日がきちんと確保されている。紀要は隔年に発行されている。研究・研修日、研究費は教授、助教授、講師で相当の格差がみられるので、若い講師陣を育てるためにも一考されることが望ましい。

評価領域VII 社会的活動

- 地域においてSAMプランにもとづき地域の小学校でボランティア活動をしている。
- 帝京グループ内における短期留学のプログラムに毎年数名が参加している。

評価領域VIII 管理運営

- 理事会および定例教授会が定期的に行われている。事務局長を中心に組織が確立している。

評価領域IX 財務

- 公認会計士による監査、私立学校法の改正に基づく財務公開も行われている。
- 2専攻5コースに関わる施設設備はきちんと整備され、その管理も適切に行われている。

評価領域X 改革・改善

- 当該短期大学独特のワーキンググループ制（ワーク）によって確立されていて、自己点検・評価報告書は主要な教職員、役職職員が学長とALOの指揮の下で作成されて

いる。

- 学内において教員同士の授業参観と相互評価は行われている。
- 平成17年度に新たに生活科学科の中に2専攻5コースを設定し、建学の精神を高く掲げ、帝京グループの発祥の地である幡ヶ谷の当該短期大学において全学一体となり改革・改善の狼煙をあげたものと判断する。

東京女子体育短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 藤村学園
理事長	池田 浩一
学 長	塩野 克己
A L O	阿部 征次
開設年月日	昭和25年3月14日
所在地	東京都国立市富士見台4-30-1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
保健体育学科		100
児童教育学科		150
	合計	250

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

東京女子体育短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年6月27日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

女子学生を対象とした体育系短期大学であり、女性スポーツの普及および指導者養成を明示した建学の精神と教育理念のもとで、教育現場や地域社会におけるスポーツ活動の振興に努めると同時に、就学前教育と初等教育の指導者養成を行っている。教育目標は具体的であり、学生にも理解しやすく分かり易く表現されている。また、学生便覧などで示すだけでなく、新入生の入学時におけるオリエンテーションや「学園の歴史」の時間を設けたりするなどして、共通に理解されるように努力をしている。

建学の教育理念に基づいた教育課程の授業は、専任教員を中心とした意欲的な教育活動に支えられている。また、教育改革推進室の設置により授業改革・改善にも成果を上げている。教育課程については、現代的な内容の教養教育科目または授業科目の設定などについて、今後の教育課程編成委員会や教育改革推進室を中心とした活発な検討によって、より充実した教育内容となることが期待できる。

大学との併設校であることから、専任教員はもとより大学との兼任教員による教育活動が容易で、充実した教務体制が構築されており、より効果的で適切な教育活動が展開されている。また、教育環境も、建学の精神の音楽体操教育が教授できる施設設備となっており、今後もさらに、計画的な整備が予定されている。

教育目標の達成度と教育の効果は、良好であるといえる。休学、退学者も非常に少ない。卒業生の編入学については、ほとんどが併設の四年制大学であり、短期大学で培った専門性をより発展する者が定着し、その数が年々増加している。また、個人情報保護法を尊重しながら、卒業生動向調査を実施するための調査方法の情報収集を開始している。

学生支援体制はおおむね良好であり、施設設備も充実している。学生指導は、クラス担任制であり、オフィス・アワーを設けて担任教員やクラブ指導者による個別相談に応じる

体制を取っている。

研究活動の展開については、専任講師以上には、週2日間の研究日があり、個人研究費、共同研究費、個人図書購入費、学会出張費の支給があり、研究活動への条件整備が成されている。

地域交流センターを中心に展開している公開講座や地域交流事業の実情、学生ボランティア活動を支援する体制、および国内外における学生や教員の交流・協力の実態などは十分な内容であるといえる。例えば、学生ボランティア活動は、地域交流センターが有効に機能している。特に、高齢者福祉、児童福祉、障害者福祉、国際交流、学校教育活動支援、生涯学習活動支援、環境・災害支援などの分野で機能している。

監事は、平成18年から常勤監事を1名置き監査の充実に向けて改善課題をクリアしており、管理運営は適切に行われている。

単年度の収入状況を法人全体でみると、短期大学の消費支出超過額を大学の収入超過額で補っており、昭和61年度以降の19年間は収入超過額で推移しており、健全な財務体質を維持している。

自己点検・評価は、平成5年に規程と組織を作り、翌年から2年ごとに報告書を作成している。組織は、短期大学だけでなく大学を含めた全学的な組織であり、実施体制が確立しており、全教職員の関わりのもとで評価組織と各部署や各委員会との連携を保ちながら評価や改善ができる体制をとっている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神は、教育理念との関係が明確であり理解しやすい。また、創立以来一貫して、スポーツ振興と体育および児童教育にかかわる人材育成を理念と目標にして実践していることは高く評価できる。特に、新入生へのオリエンテーションや「学園の歴史」の時間を設けたりして、建学の精神と教育理念を周知および理解をさせていることも高く評価できる。また、教育目標の実現のために、具体的な教育内容を点検する組織があり、設定されている教育目標は、教育理念との関係が明確で理解しやすい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 優れていると判断されることは、教育課程編成委員会を設置し教育課程の見直しを組織的に取組んでいること、体験的・実践的な実務教育に力を注いでいること、シラバスと授業ガイドの二種類の履修案内を作成し配布して学生が履修について深く理解できる仕組みにしていること、音楽体操学校としての伝統を継承する「創作オペレッタ」を継続的に実施していること、受講生が一名でも授業を開講して学生のニーズに対応

していることなどである。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 優れていると判断できることは、教務補佐員を12名配置し、より充実した実技など（体操、新体操、器械体操、ダンス、球技、野外運動、陸上競技、幼児・児童体操、レクリエーション、コンピュータなど）の授業が展開されていること、短期大学設置基準定数を超える専任教員と助手も配置していること、音楽関係施設設備および体育関係施設が充実していること、学外の多くの図書館との相互利用が成り立っていることなどである。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 安易な休学、退学、留年、除籍などを防ぐために、また、学生の生活態度を適切に把握するための細やかな授業時の出席管理を行い、問題があればその都度学生指導をしていることは、不測の事態の発生防止に務めている取組みであるといえる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 優れていると判断できることは、施設・設備が充実していること、「基礎学力養成講座」などにより、単位習得が困難な学生に対する支援体制を整えていること、独自の奨学金制度を設けていること、就職支援センターを設置して総合的な就職支援を行っていること、児童教育学科の就職率が90%を超えていることなどである。

評価領域Ⅵ 研究

- スポーツ活動を中心に、教員の活動に対して短期大学側のバックアップがあり、国際的な活動への参加も可能な体制が整えられている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 学生の社会的活動への参加を積極的に評価し達成感を得させる方法として、ボランティア活動に単位を認定する制度を設けていることは有意義なことであり、学生の社会的活動に対する意識を継続的に高めることに繋がるとともに、今後の参加人数の増加へと発展する可能性があると判断でき、高く評価することができる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 定例学内理事会を毎月第一水曜日に開催し、重要案件については事前協議を行った後に理事会に付議している。

評価領域IX 財務

- 無駄な支出を省き、予算の効果的・効率的な執行に努め、全体に占める人件費の割合を適正比率に保ち、全体的にバランスに留意した予算編成と財務運営である。

評価領域X 改革・改善

- 単年度の点検・評価だけでなく、前回あるいは前々回を含めた一連の流れの中で継続的な点検・評価を実施している

(2) 向上・充実のための課題

評価領域I 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 教育目標は、学科ごとに特色をいかすように整理しなおす検討が望まれる。

評価領域III 教育の実施体制

- 課題としては、学生数に対してコンピュータの設置数がやや少ないこと、バリアフリー化の検討、プライバシー保護の観点からのオフィス・アワー時間の活用方法の検討が望まれる。

評価領域IV 教育目標の達成度と教育の効果

- 成績評価の「不可」が多い授業科目が見受けられるが、履修登録と履修取り消しの関係を明確にして、成績評価の時までに実質的な受講生の把握に努めるための検討が望まれる。

評価領域V 学生支援

- 今後の課題としては、障害者スポーツの普及や生涯学習の観点から、障害者や社会人に対する受け入れに関する検討と長期履修制度の導入の検討、スポーツ系クラブの充実に比べて文化系クラブが少ないことについての検討、卒業生の就職先定着率の状況把握とその結果の就職支援への活用などである。

評価領域VI 研究

- 研究室を原則的に二人で一室を使用していることは、研究活動には利便性があるが、学生との個人的な相談への対応や守秘義務という観点から対策を検討することが望まれる。

評価領域VII 社会的活動

- ボランティア活動の単位を修得する学生が徐々に増加してはいるが、さらに増加する

方策の検討と同時に、「理論」と「実習」の単位を学年指定していることが学生の単位修得の障害になっていることについて検討が望まれる。例えば、「理論」を前期に開講し、「実習」を後期に開講するなどの検討である。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項
なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神は、「心身共に健全で、質素で誠実、礼儀正しい女子体育指導者の養成」であり、女性のためのスポーツの普及と指導者の養成を目指している。また、教育理念は、「新たな『知』の創造と活用を通じて社会や人類の発展に貢献する人材の育成」であり、高い専門性を身につけた実践力のある人材と人間性豊かな人材の養成を目指している。これらのことは、大学要覧および学生便覧の冒頭に的確に明示されており、学生にも分かり易く理解しやすい表現となっている。
- 教育目標は、大学要覧と学生便覧の中で全学をまとめて8項目で示している。これを要約すると、保健体育学科は女子体育指導者の養成と社会体育の普及であり、児童教育学科は幼稚園教諭と小学校教諭の養成である。また、点検は、教務委員会が年度ごとに学生便覧を見直し、作業の中で点検していると同時に、周年事業に向けた取組みの中でも行われている。
- 学生便覧などへの明記のほかに、新入生への「フレッシュウィーク」や「フレッシュマンセミナー」などの開催のほかに、「学園の歴史」の時間を設けて教育し、説明を行うなどの努力をしている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育課程は、建学の精神と教育理念を反映した編成をしている。その内容は、保健体育学科と児童教育学科のそれぞれの教育目的・教育目標が具現化された編成である。また、短期大学設置基準で定められている専任教員数を2名上回った配置をし、必修

科目および選択必修科目はこれらの専任教員によっておおむね教授されている。さらに、授業形態と授業内容は、ともに短期大学として相応しいものとなっている。

- 学生は、各種の資格取得希望者が多いのが特徴であり、これらの学生に対応できる教育課程となっている。保健体育学科は、専門科目の必修科目が一つだけであり、ほとんどが選択必修科目または選択科目となっており、各種保健体育関係資格取得に対応できる教育課程にしている。また、児童教育学科は、専門科目のほとんどが必修科目であり、学科の特徴に合わせた資格取得をさせる教育課程にしている。
- シラバスと授業ガイドによる履修案内が、年度当初のガイダンス時と第一回目の授業時に提示され、的確な履修が行えるようにしている。きめ細かな履修案内は、学生の評判も良く成果を上げている。これらの成果は、『シラバスに基づく授業実施報告書』として、教職員および学生の共通理解の源として活用されている。
- 教育改革推進室を中心に、授業改革に対する関心は高く、その取組みは活発に行われている。『シラバスに基づく授業実施報告書』および『学生による授業アンケート』をまとめ、これらを基にした授業展開がなされていることから、授業改善意欲は高いと判断できる。
- 建学の教育理念に基づいた教育課程の授業は、専任教員を中心とした意欲的な教育活動に支えられている。また、教育改革推進室の設置により授業改革・改善にも成果を上げている。しかし、教育課程については、現代的な内容の教養教育科目または授業科目の設定などの改善すべき点もみられ、今後の教育課程編成委員会や教育改革推進室を中心とした活発な検討によって、より充実した教育内容となることが期待できる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 短期大学設置基準以上の専任教員を配置し、このほかに助手も配置されている。さらに、教員の指導補助を行う教務補佐員を配置している。教務補佐員は、実技など授業時にティーチング・アシスタントとして担当教員の下で教育活動を行っている。また、教員の採用や昇任については、選考基準が整備され適切に行われている。
- 大学との併設校であるので、共同面積（校地、校舎など）は短期大学設置基準を大きく上回る規模となっている。また、教育研究に使用する機器や備品についても、創立100周年記念事業などにより計画的に整備され充実している。
- 大学との併設であるが、図書館は、学生にとって適切な環境を備えている。また、学生へのサービス体制も整っていて、開館時間の延長や図書館独自のオリエンテーション、ガイダンス、ライブラリーツアーなどを開催し、図書館を身近なものとする取組みに努力をしている。
- 大学との併設校であることから、専任教員はもとより大学との兼任教員による教育活動が容易で、充実した教務体制が構築されており、より効果的で適切な教育活動が展

開されている。また、教育環境も、建学の精神の音楽体操教育が教授できる施設設備となっており、今後もさらに、計画的な整備が予定されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 保健体育学科は女子体育指導者の養成と普及であり、児童教育学科は幼稚園教諭と小学校教諭の養成が具体的な教育目標である。保健体育学科では、スポーツリーダー認定証、スポーツプログラマー、ジュニアスポーツ指導員などの資格取得率が96%～100%と高率であり、中学校教諭二種免許状と健康運動実践指導者の資格取得率が60～70%である。児童教育学科は、幼稚園教諭と小学校教諭の二種免許状取得率が99～100%と非常に高率である。両学科ともに、十分に満足できる努力の結果であるといえる。これらの結果は、学生に対する授業アンケートを実施し、学生の授業に対する満足度を調査しながら授業改善の努力をしていることによるものである。また、休学者や退学者が極めて少ないことも、これらの結果に結びついていると判断できる。
- 専門就職率は、全国的にみて平均的なものである。専門職に就いた卒業生に対する外部からの評価は、「行動力がある」「素直で誠実である」などのおおむね良好な評価が多く、各学科の教育効果が卒業後にも浸透していることが理解できる。これらの評価の情報収集は、全国各地の同窓会年次懇親会や関東地域の企業・幼稚園・体育施設の関係者との懇談会などで、幅広く卒業生の評価情報を収集しようとする努力がみられる。
- 教育目標の達成度と教育の効果は、良好であるといえる。卒業生の編入学については、ほとんどが自学の四年制大学であり、短期大学で培った専門性をより発展する者が定着し、その数が年々増加している。また、個人情報保護法を尊重しながら、卒業生動向調査を実施するための調査方法の情報収集を開始している。休学・退学者に関しては非常に少ないが、特に経済的理由による除籍などについては、3回の督促状送付の後に担任による学生への指導、さらに、保護者との意見交換の後に、再度督促状を送付しなければ除籍しないというシステムは、学生を大切にするという姿勢がうかがえる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- アドミッション・オフィス（AO）入試、推薦入試、一般入試と多様な選抜方法が用いられており、それぞれの選抜方法と受験の手続きについては、学生募集要項に明示され、受験生に対して分かり易く表現されている。
- 単位修得が困難な学生に対しては、再試験さらには「基礎学力養成講座」を開講し学

生を支援している。

- 学生委員会を組織し、さらにクラス担任およびクラブ指導者を中心に学生の個別状況に対応している。クラブ活動については、スポーツ系を中心に40のクラブがあり、学生の約半数が所属している。また、学生の健康管理やメンタルケアのために、健康管理センターと教育相談室を設置し専門的なケアに当たっている。そして、経済的な支援として、日本学生支援機構の奨学金のほかに「藤村学園育英奨学金制度」を設けている。さらに、学生からの直接の要望や意見を受け付ける「学生相談ボックス」を構内に3カ所設置している。
- 教員組織としての就職対策委員会と事務組織としての就職対策部就職課があり、就職指導や相談を行っている。また、就職支援センターを設置して、就職活動を支援する資料や情報の提供、「就職対策講座」、「就職対策基礎講座」の開催などの総合的な就職支援活動を行っている。
- 体育系短期大学という特徴から、障害者や社会人の受け入れの実績は少ない。過去に聴覚障害者を受け入れた際には、ノートテイクを用いるなど当該学生のニーズに応じた支援を行っている。バリアフリーについては、数年前から校舎を中心に行っており、施設設備の改築や新設にあわせて順次進める予定がある。留学生については、クラブ活動指導者と同じクラブ内の学生が個別に応じている。長期履修制度は、導入されていない。
- 学生支援体制はおおむね良好であり、施設・設備も充実している。学生指導は、クラス担任制であり、オフィス・アワーを設けて担任教員やクラブ指導者による個別相談に応じる体制を取っている。障害者や社会人などの受け入れについては、当該短期大学の特性上から少ないが、今後の課題としては前向きに取り組むことが望ましい。

評価領域VI 研究

- 教員は、著書、論文、学会発表、個人研究、その他の研究活動などを展開しており、毎年の『個人研究報告書』、2年に一度の『研究集録』（主として共同研究を対象）によって発表している。また、研究紀要を毎年発行しており、教員が投稿し、審査を経て掲載されている。
- 個人研究費の他に、共同研究費、個人図書購入費、学会出張費、海外出張費などの支給がある。また、研究日は、教授、助教授、専任講師には週に2日、助手に1日が当てられている。

評価領域VII 社会的活動

- 積極的な社会的活動の推進のために、「地域に開かれた大学として社会貢献の機能を果

たしていくことを目的」とした地域交流センターを設置している。このセンターは、公開講座や生涯学習講座などの開催や学生のボランティア活動の情報収集と紹介を行っている。公開講座では「ダンス教室」、「工芸教室」、「音楽教室」などスポーツ実技系を中心に21講座を実施し、地域交流事業では学校教育活動支援38件と生涯学習活動支援29件など計103件にのぼり、大学周辺の地域活動に学生を派遣して積極的に交流を進めている。

- 地域交流センターでは、学生登録制度を設けてボランティア活動に対する責任と継続、さらに保険への加入などの指導を行っている。登録率は10%前後と少ないが、学生の社会活動を積極的に評価する意味で、ボランティア活動を単位化している。これは、「社会奉仕体験理論」および「社会奉仕体験実習」の授業で単位を認定している。このように、地域交流センターを中心とした学生への啓発および単位認定による評価などで、学生の社会的活動の促進は充分に行われていると判断できる。
- アメリカ合衆国北コロラド大学と協定を結んでおり、短期学生派遣制度で学生を毎年派遣している。具体的には、「海外英語講座」や「幼児教育国際比較Ⅰ・Ⅱ」の授業科目として派遣し、14日間のホームステイの中で大学や教育機関の視察や講座受講および実習を行っている。また、教職員の海外派遣は、国際大会での役員として5名、国際会議などへは3名である。これらのことから、国際交流や国際協力に関する取り組みは充分に行われている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会は、学外理事4名、学内理事5名で構成され、常勤理事長の下で毎月第一水曜日に開催されており、管理運営体制は確立している。
- 学長は、大学と短期大学を兼務している。短期大学は規模が大きくないので、副学長はおいていない。また、学科長をおかず、学科主任をおいている。教授会は、毎月第一水曜日に開催されている。
- 事務職員は、大学と短期大学を兼務して業務処理にあたっている。大学事務との共通性と関連性をいかして、きめ細かく効率的な運営ができる組織となっている。
- 事務職員の人事異動、昇任は事務職員に自己申告書の提出を課し、所属長が業績評価表に基づいて適切に行われている。
- 監事は、非常勤2名であったが、平成18年9月1日から常勤監事を1名置き監査の充実に向けて改善課題をクリアーしており、管理運営は適切に行われている。

評価領域Ⅸ 財務

- 中期の財務計画を策定し、これに基づいて事業計画と予算編成を行っている。平成1

7年度には、平成18年度から平成24年度までの7年間の中期計画が作成され、財務運営が適切に行われている。

- 平成12年度、平成14年度、平成15年度は若干の消費支出超過であったが、平成16年度および平成17年度については、収入の伸びと支出の減少により消費収入超過に転じており、健全な財務状況となっている。
- 10年計画による創立百周年記念実行計画に基づいて図書館が新設され、3年後には4号館の改築を含む新館建設が計画されており、着実に施設設備が整備されている。
- 単年度の収入状況を法人全体でみると、短期大学の支出超過額を大学の収入超過額で補っており、昭和61年度以降の19年間は収入超過額で推移しており、健全な財務体質を維持している。

評価領域X 改革・改善

- 平成5年に自己点検・評価運営に関する規程を設け、自己点検・評価運営委員会を設置している。構成員は、理事、評議員、教職員で構成され、より円滑な運営と実施をするために、下部組織に自己点検・評価実施検討部会を設けて2年ごとに点検作業を実施しており、体制が確立している。
- 自己点検・評価の結果は、実施検討部会の委員によって各部署や各委員会の活動に反映させており、改善が必要な点は各部署や各委員会にその対策と方法を検討して改善に努力し、その結果を報告するように配慮している。
- 外部評価については、規程や組織は整備されておらず、また、相互評価を実施していない。自己点検・評価報告書では、今後の課題として挙げられている。
- 自己点検・評価は、平成5年に規程と組織を作り、翌年から2年ごとに報告書を作成している。組織は、短期大学だけでなく大学を含めた全学的な組織であり、実施体制が確立しており、全教職員の関わりのもとで評価組織と各部署や各委員会との連携を保ちながら評価や改善ができる体制をとっている。

東京文化短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 東京文化学園
理事長	森本 晴生
学 長	森本 晴生
A L O	岩切 信一郎
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	東京都中野区本町6-38-1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活学科	食物栄養	80
生活学科	生活福祉	40
生活学科	児童生活	30
臨床検査学科		64
	合計	214

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
児童生活専攻	30
合計	30

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

東京文化短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月12日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

教育目的もしくは教育目標は、設置する学科・専攻に示されている。その点検は、文部科学省や厚生労働省への申請の機会を通じて、近年、頻繁に行われている。

教育課程は、学生の多様なニーズに応えるものと判断される。シラバスの内容や表現は、適切、妥当なものであり、授業の概要を示すのに十分なものとなっていることから、授業内容、教育方法および評価方法は、学生に明らかにされているものと判断される。学生による授業評価が行われ、その評価結果が授業改善のために活用されている。学生の授業意欲を高めるための取組みも行われており、授業内容、教育方法に改善への努力がうかがわれる。

教員数については、短期大学設置基準を充たしている。校地・校舎に関する短期大学設置基準での基準面積に、適合している。講義室、演習室、実験・実習室も十分に用意されており、マルチメディアに対応する教育機器・備品も整備されている。教育環境は、整備・活用されていると判断される。

専門職就職をはじめとする就職への取組みは、積極的に行われている。

受験生一般、入学志願者、受験者、合格者、入学手続者および入学者に対し、適宜必要な情報が提供されている。入学者選抜は選考規程に基づき、適切に実施されている。学習の動機づけのためのガイダンスの実施、補習授業などの展開、クラス担任制度の採用による指導・助言の体制整備などから、学習支援が組織的に行われていると判断される。学生の学友会活動、クラブ活動は活性化が図られている。独自の奨学金「森本奨学金」のほか学生への経済的支援のための制度も検討されている。学生の健康管理やカウンセリングの体制も整っており、学生生活支援体制はおおむね整備されていると判断される。就職支援の組織・環境は整備されており、就職指導や情報提供など活動の成果（高い就職率）がう

かがえる。進学支援についても支援体制が整備され、学生に対しては、2年間の段階的指導が行われている。これから進路に関する支援は、充分行われていると判断される。

短期大学の目指す教育に密着した研究と、教育そのものの研究および研修の両面から実績が上がっているものと認められる。特に共同研究や教育研究では、学長以下全学的に積極的に取組む姿勢がうかがえる。研究と教育のバランス、教育への有効利用を中心とした理念の下に、研究環境を保証するよう努めている姿勢がうかがえる。

食物栄養、介護福祉、保育関係といったそれぞれの特色をいかした、社会的活動への取組みの意欲が感じられる。構想されたプログラムも少しずつ実現している。地域活動やボランティアに関する取組みを、実現しようという姿勢がみられる。

学園幹部会を実施することで、異種学校間の連絡調整が図られている。寄附行為に則り、理事、監事、評議員の選任が適切に行われており、理事の偏りもない。理事会、評議員会は適切に開催、運営されており、必要事項が審議・決議されている。監事の監査業務も適宜実施されており、これらのことから理事会など学校法人の管理運営体制は、確立していると判断される。

学校法人により中・長期計画ならびに毎年度の予算・事業計画が策定されており、予算執行も所定の役職者の決済を経て適切に行われている。決算終了後の計算書類、財産目録は適正に作成されており、公認会計士による監査（決算・中期）も頻繁に実施され、監事による監査も適宜実施されている。月次帳票も適正に作成・報告されており、これらのことから管理財務運営が適切に行われていると判断される。短期大学の消費収支の推移は特段の問題も無く、教育研究経費の支出状況も妥当な範囲と断定された。

自己点検・評価活動には多くの教職員が関与している。着実に自己点検・評価、相互評価、第三者評価へと、実績を積んでおり、その成果に大きな期待を寄せていることがわかる。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 創設者が目指した、社会に役立つ人材育成を一貫として求めている点、またどのような人材かを明確な3H 精神（「^{はたら}く頭」“H e a d”、「^{ひろ}き心」“H e a r t”、「^{いそ}む双手」“H a n d s”）で示している点が優れている。また、学生便覧に掲載されている校歌には丁寧な説明があり、学生が建学の精神を理解するのを助けている。通常授業の1つである1年生の基礎ゼミでも教育理念・教育目標を説明している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 副教材の作成、情報機器の使用のほか、授業を映像で記録し、学生の再聴講や欠席学

生への補講に活用する対応を進め、効果をあげている。

評価領域V 学生支援

- ピアノの補習を入学前から実施し、入学後は、授業時間外においても多くの時間を設定している。教員の並々ならぬ熱意を感じる。編入学についても、編入学指導委員会を設けて大学の説明から個別の受験指導まで系統的に支援している。そのため大学院まで進むなど、編入学先からの評価も高い。
- 留学を希望する学生に対し、その費用を短期大学独自の奨学金から支給している。

評価領域VI 研究

- 研究活動のチェック制度として、目標共有制度がある。また、教員の研修の場として教育研究会を開催し、授業研修を始め研究発表、ディスカッション、テーマを決めての意見交換などを活発に行っている。

評価領域VII 社会的活動

- 3Hボランティアセンターが、全学の組織として、地域との連携協力を果たすべく活動を開始している。地域住民にとって、短期大学の窓口が一本化されると活用しやすく、今後の多方面にわたる活躍が期待できる。教職員の支援の下、学生が地域の祭りに出展することが4年間継続されている。

評価領域VIII 管理運営

- 倫理委員会を通じて、ハラスメント防止、個人情報保護、著作権・肖像権、贈収賄などの規程・ガイドラインを作成し、全教職員に周知するほか、ウェブサイト上でも広報するなど、当該短期大学の姿勢を示している。

評価領域IX 財務

- 私立学校法の改正以前から、全教職員にバランスシートをはじめ財務諸表を配布し、データの共有化に努めている。
- 平成13年度定員充足率67%の危機的状況を、わずか3年余りで100%まで持っていき、財務体質の健全化に寄与した。

評価領域X 改革・改善

- 危機に際し、自己点検・自己評価を行ったことが、平成15年以降の経営健全化に向けて改善につながっている。また、既に平成13年に東京服飾造形短期大学（現：東京田中短期大学）との間で相互評価を実施し、報告書も作成している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 計画的なバリアフリーへの対応が望まれる。
- 昇任、昇格の規程がなく、新規採用の規程が準用されているが、今後、規程の制定が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 卒業生、同窓会などと連携した組織的な取組みにより、教育の効果などを把握することが望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究活動が少ない教員の研究活動の活性化が望まれる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会や評議員会の委任状は、審議事項ごとに賛否を問う方がより適正である。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 「活く頭（活力溢れる柔軟な頭脳を養う）」“H e a d”、「寛き心（他人を思いやるやさしい心）」“H e a r t”、「勤しむ双手（勤労を尊ぶ）」“H a n d s”の3H精神を建学の精神として示している。教育理念・教育目標をわかりやすい教育モットー（いのち、やさしさ、おもいやり）にして示すことは、学生に浸透させる点で効果的である。理念検証のために資料の収集および整理も行われている。
- ガイダンス、教授会、非常勤講師との懇談を通じて繰り返し、教育目的・教育目標を周知している姿がうかがえる。学生に対しては、4月のガイダンス、1年生必修科目の「基礎ゼミ」を活用し、教育目標・教育目的が周知されている。教員には月1回の教授会や専攻会の場を通じて教育目標・教育目的の周知、確認に努めている。また、職員には年度始めの学長訓辞や毎週月曜朝のミーティングを活用して教育目標・教育目的の周知、理解を進めている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育課程は、学生の多様なニーズにこたえるものと判断される。シラバスは毎年作成され、学生に配布されている。また、シラバスの内容・表現は、適切・妥当なものであり、授業の概要を示すのに十分なものとなっていることから、授業内容、教育方法および評価方法は、学生に明らかにされているものと判断される。学生による授業評価が行われ、その評価結果が授業改善のために活用されている。学生の授業意欲を高めるための取組みも行われており、授業内容、教育方法に改善への努力がうかがわれ

る。

- 各専攻の教育課程は、免許・資格などの取得への配慮がなされている。
- 学生の授業意欲を高め、授業の印象度や理解度向上のため、情報教育委員会が教育方法の改善（ビジュアル化の推進）を提案、研修活動を進めている。教員の教育研修として、平成元年から、定期的（年1回）に専任教員全員参加の教育研究会が開催されている。平成17年からは、年4回教授会後の約1時間を運営委員会主催の教育研究会に充てている。副教材の作成、情報機器の使用によるわかりやすい授業の実現、授業の映像記録化、学生の授業再聴講、欠席学生への補講といった対応から意欲が充分に感じられる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員数については、現在は短期大学設置基準を充たしている。校地・校舎に関する短期大学設置基準での基準面積に、適合している。講義室、演習室、実験・実習室も十分に用意されており、マルチメディアに対応する教育機器・備品も整備されている。教育環境は、整備・活用されていると判断される。短期大学専用ならば充分と思われるが、中学校・高等学校と共用されている場合が多く、将来使用上の制約を受けることが懸念される。
- 昇任基準については、昇任昇格規程がなく、新規採用のための規程を準用している。今後、規程の整備が望まれる。
- 蔵書冊数、AV資料、受け入れ雑誌数、閲覧座席数また学生1人当たりの資料費は、適当と思われる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 専門職就職をはじめとする就職への取組みは、積極的に行われているが、教育効果を把握するための卒業生・同窓会との接触は図られていない。また、就職先からの評価や編入先からの評価についても一部聞き取り調査は行われているが、必ずしも組織的・計画的な取組みとはいえない。
- 食物栄養専攻では、本試験での不合格の学生には補講、勉強会などを実施して再試験に臨ませている。生活福祉専攻では、高齢者・障害者の尊厳を大切にしながら援助する国家資格（介護福祉士）を目指す学生達に対して再試験やレポート、面接などを回数多く取り入れ、人間的なふれあいの中で、最終的な単位の認定ができるよう、各教員が努力している。

評価領域V 学生支援

- すべての組織が、教務部長の下に統括されているため柔軟に対応できる組織になっている。学友会室を設けて、常時学友会組織が機能するようになっている。クラブの参加率が9割前後に達している。
- 受験生一般、入学志願者、受験者、合格者、入学手続者および入学者に対し、適宜必要な情報が提供されている。入学者選抜は、選考規程に基づき入学者選考委員会を中心に、作問委員会、面接委員、教務課・入試広報課が担当して、実施されている。こうした点から、入学に関する支援は、充分行われていると判断される。学習の動機づけのためのガイダンスの実施、補習授業などの展開、クラス担任制度の採用による指導・助言の体制整備などから、学習支援が組織的に行われていると判断される。学生支援のための組織は、兼務者が多く改善が望まれる。
- 学生の学友会活動、クラブ活動は活性化が図られている。独自の奨学金「森本奨学金」のほか学生への経済的支援のための制度も検討されている。学生の健康管理やカウンセリングの体制も整っており、学生生活支援体制はおおむね整備されていると判断される。就職支援の組織・環境は整備されており、就職指導や情報提供など活動の成果（高い就職率）がうかがえる。進学支援についても支援体制が整備され、学生に対しては、2年間の段階的指導が行われている。これから進路に関する支援は、充分行われていると判断される。

評価領域VI 研究

- 研究活動のチェック体制としては、平成13年から「年間業績書（教員の研究活動および社会的活動）」の年度末提出が義務づけられている。また、平成17年度から目標共有制度を導入しチェック体制を整えている。過去3ヶ年に科学研究費補助金などの採択件数は2名2件である。科学研究費補助金以外の他省庁・機関などの研究募集にも応募する教員や、他大学との共同研究の形で外部資金の調達実績を上げている教員がいる。特別研究費は、年間おおむね2件～6件に配分しており、年度当初の希望者より選定している。
- 短期大学の目指す教育に密着した研究と、教育そのものの研究および研修の両面から実績が上がっているものと認められる。特に協同研究や教育研究では、学長以下全学的に積極的に取り組む姿勢がうかがえる。しかし、ほとんど研究業績のない教員がいる点は改善を要す。研究と教育のバランス、教育への有効利用を中心とした理念のもとに、研究環境を保障するよう努めている姿勢がうかがえる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 専攻の特色をもとにした3つのプログラムを設定している。また、全学的なボランティア活動の中核として3Hボランティアセンターを開設し、決して余力をまわすという考えではない様子がうかがえる。地域に向けた講座を実施しており、専攻ごとの特色をいかしたプログラムとなっている。地域社会に向けた公開講座は、継続的に毎年4～5講座が実施されている。
- 平成14年にクラブ活動の一つとしてボランティアサークル「カノン」が発足、地域社会と連携して定例の活動を行うとともに、区の社会福祉協議会と連携し、「スマイル福祉まつり」の企画運営に継続して携わっている。
- 学生の海外派遣に対しては、希望があれば、奨学金の支給をするなどのバックアップ体制が図られている。ニュージーランドのオークランド大学に語学研修として、学生を派遣している実績をもとに、今後の発展を期待したい。
- 栄養士、介護福祉士、保育士といったそれぞれの特色をいかした、社会的活動への取組みの意欲が感じられる。構想されたプログラムも少しずつ実現している。地域活動やボランティアに関する取組みを、実現しようという姿勢がみられる。教職員の海外派遣、国際会議出席などは各年度2名程度行われているが、予算削減などから積極的な展開が難しい状況である。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 学校法人の業務は、理事会により決定されている。重要事項は、常任理事（理事長を含む）および事務局長によって構成される常任理事会（毎週開催）で協議のうえ、毎月開催される理事会に提案して決定されるが重要事項は学園幹部会を実施することで、異種学校間の連絡調整が図られる。そのことで、限られた学園の資源の有効利用がなされることと考えられる。寄附行為に則り、理事、監事、評議員の選任が適切に行われており、理事の偏りもない。理事会・評議員会は適切に開催、運営されており、必要事項が審議され決議されている。監事の監査業務も適宜実施されており、これらのことから理事会など学校法人の管理運営体制は、確立していると判断される。
- 事務職員の任用は、法人事務局長が包括的に管理しており、各部門で任用の必要性が生じた場合は、当該部署の要請を受け常任理事会の議を経て、公募・採用の手続きを行っている。
- 理事と短期大学の兼務者は学長だけのため、混乱しやすいとの判断から、学務理事が教授会に陪席し、理事会と教授会の情報の共有を高めている。また常任理事が短期大学教職員から意見を聴取するなど、短期大学の活動に参加している。
- 情報セキュリティ対策、スタッフ・ディベロップメント（SD）活動について積極的

な取組みが期待される。

評価領域IX 財務

- 学校法人により中・長期計画ならびに毎年度の予算・事業計画が策定されており、予算執行も所定の役職者の決済を経て適切に行われている。決算終了後の計算書類、財産目録は適正に作成されており、公認会計士による監査（決算・中期）も頻繁に実施され、監事による監査も適宜実施されている。月次帳票も適正に作成、報告されており、これらのことから財務運営が適切に行われていると判断される。短期大学の消費収支の推移は特段の問題も無く、教育研究経費の支出状況も妥当な範囲と考えられる。

評価領域X 改革・改善

- 平成7年より、自己点検・評価委員会を設置し、全学挙げて実施するための組織となっている。また定期的（2年ごと）に自己点検・評価を実施することとしている。
- 自己点検・評価活動には多くの教職員が関与し、これまで着実に自己点検・評価、相互評価、第三者評価へと、実績を積んできた。その成果を基に改革・改善のためのシステム構築に向けての更なる努力がなされることが期待される。

桐朋学園芸術短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 桐朋学園
理事長	山下 明
学 長	蜷川 幸雄
A L O	篠崎 光正
開設年月日	昭和39年4月1日
所在地	東京都調布市若葉町1-4 1-1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
芸術科	演劇	65
芸術科	音楽	70
芸術科	ステージ・クリエイ	50
	合計	185

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
音楽専攻	20
演劇専攻	20
ステージ・クリエイト専攻	10
	合計 50

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

桐朋学園芸術短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月1日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神と教育理念、教育目的と教育目標は一体のものと位置づけている。平成16年度の改組転換を契機に、建学の精神と教育理念を見直し、新たな教育理念の確立に努めている。創設以来、長年にわたり培われてきた基本精神を継承し、時代の変化とともに、新たな方針を導入している。

3専攻とも、技術・技能の修得のみを教育目的・教育目標とはせず、一人の社会人として必要な常識や教養を備え、コミュニケーション力を備えた学生を養成しようとする姿勢うかがえる。多様な学生のニーズに応えるために、教養教育を重視している姿勢もうかがえる。

3専攻とも、専任教員は適切に配置されている。全体的に、卒業要件を大幅に上回る科目数と単位数を提供し、多様な学生のニーズに応えている。学生による授業評価は、非常勤講師も含めて、全教員の全科目で、各期に実施されている。学生も閲覧でき、担当教員の再検討をするなど、授業評価の結果がいかされている。ファカルティ・ディベロップメント(FD)、スタッフ・ディベロップメント(SD)に相当する活動が、毎年行なわれ、また、各種の研修会に参加した委員が教授会などで結果の報告をし、情報の共有化を図っている。学生による授業評価やFDに相当する活動を受けて、「学長対論」も実施し、教員の授業改善の意欲がうかがえる。教員間の調整は、専任教員の研究室を個室という形ではなく、合同研究室として助手を配置した上で、教員間の意思の疎通を図り、非常勤講師にも開放し、情報交換を行っている。学生の教育に対する教員の姿勢は意欲的である。特質上、個人指導の面が強くなるが、創作、演奏、公演など、学生とともに教育活動に熱心である。

成績評価においては、公正性・公平性が保たれている。学生による授業評価を改善の材

料とし、学生的心声を聴取し、学生の満足度を高める努力をしている。専門就職の比率は高い。

受験生に対して、大学案内や学園案内で、求める学生像を明確に示している。入学前ガイダンス、入学者に対してマナー講座、入学後に入念なガイダンスを実施している。学生生活支援のために、学生・安全対策委員会を設置して対応している。自治会、学生会は活発に活動している。3専攻とも、専攻科に進学する学生が多い。入学者の約30%の学生が進学・編入学・留学の道を選んでいる。

国際的活動、社会的活動も活発である。芸術系の短期大学として「演奏・演出」などの発表記録の他、年1回、紀要を発行している。研究費の支給は充分といえる。研究日は週2日確保されている。

芸術系の短期大学としての特色をいかして、教育・研究の成果を地域に還元している。音楽専攻の社会人の受け入れも意欲的である。調布市と協定を結び、公開講座、演奏会、発表会などを通じて、共同参画の意欲を示している。学生の社会的活動も盛んであり、地域社会へ大きく貢献している。また、ボランティア活動を活発に行っている。国際交流も活発に行われている。教職員の海外派遣・国際会議などへの出席は、可能な限り、支援している。

学校法人全体の運営を男子部門、女子部門、音楽部門に分け、各部門が自主性を尊重し、責任をもって運営している。3部門制をとることにより、教職員に、「自分たちの学園」、「自分たちの責任」という自覚と意識が扶植され、浸透し、協力体制ができています。理事の構成に偏りはなく、理事会の開催状況も妥当である。事務研修の一環として、毎月、1回、事務職員会議を開催し、学外で行なわれる研修会には参加し、結果の報告をしている。教員と事務職員との連携は円滑で緊密である。各研究室の助手も、橋渡しとしての役割を十分に果たしている。教職員の健康管理にも配慮し、「学内医療規程」を整備し、医療費の補助制度もある。教育環境だけではなく、就業環境についても配慮している。

財務運営に関しては、女子部門運営審議会、女子部門経営評議会、女子部門運営協議会、物件費予算委員会の審議を経て、理事会で決定し、予算化されている。結果の報告は、「理事・事務局長情報」を配布することにより、教職員の全員に周知させている。予算の執行および監査は、適切に行なわれている。財務諸表の公開は、小冊子「学園の財務」を発行し、保護者、短期大学学生、専任教職員および非常勤教職員にも配布され、透明度は極めて高い。災害対策・防犯対策・安全対策・環境対策などに、様々な取組みが講じられている。

平成7年度より、毎年、自己点検・評価を実施し、報告書として発行している。過去1度、相互評価を実施している。教授会構成員と事務職員の過半数が自己点検・評価に関与している。10年の経過を契機として、過去を見直し、学外の有識者を加えた新しい自己点検・評価の評価システムと評価方法を構築しようとしている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 教職員や学生も参加する「学長対論」により、様々なジャンルで活躍する人々と議論することにより、教育目的・教育目標に基づく教育の展開を公開し、確認している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 改組転換を契機に、総合ガイダンスセンターを設置し、「スタディ・スキル科目」、「キャリア・デザイン科目」、「芸術文化科目」を開講している。各期に目標設定をしている。個人レッスン、マンツーマンと少人数クラス制による、きめ細かな教育を提供している。「高校生のための演劇セミナー」を実施し、演劇を志す高校生の底辺拡大を支援している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員の担当コマ数は週6コマである。多くの非常勤講師をあてることにより、専任教員の負担を軽減している。教育優先の経営方針が垣間見える。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 桐朋教育研究所を設置し、教育に関わる様々な情報、教職員の研究を促す広報活動、公開講座の実施などを行い、年1回、機関誌『桐朋教育』を発行している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 志願者・入学者が北海道から九州に至るまで、全国各地に広がっている。短期大学としては稀有である。セクハラに対する対策ができています。学生便覧に「何がセクハラか」を説明し、セクハラの防止、セクハラへの対処、セクハラに対する短期大学側の対応を明記している。

評価領域Ⅵ 研究

- 芸術系の短期大学である特色をいかした国際的活動、社会的活動が活発である。
- 「演劇公演の映像による発表」、「音楽の音声による発表」をウェブサイトで公開している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 教員と学生の調布市、仙川地区への貢献度は高い。音楽専攻で、恒常的に20名を超える社会人を受け入れている。社会人の受け入れが、正規の学生の意欲を高めるという良い効果を生んでいる。社会的活動は、芸術系短期大学の特色をいかし、音楽専攻

が保育園・幼稚園・小学校などで「読み聞かせコンサート」、病院・施設で慰問演奏を実施している。キャンパス内でも、コンサートや演奏会を実施し、地域へ貢献している。地域の子供から高齢者に至るまで、地域の人々に対して、様々な貢献をしている。海外機関との双方向の国際交流が活発である。「日本音楽専修」があることで、双方向の交流が可能となっている。ゲスト・スピーカーの招聘が盛んに行なわれている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 3部門の独自性をいかすことにより、各部門が発展を遂げてきた。教育の展開、各部門の相互理解、教職員間の信頼、選挙による理事の選出など、教職員の民度が高い。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 過去17年間、毎年、「自己点検・評価」を実施し、「報告書」を発行している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標は、入学前から卒業後に至るまで、短期大学教育の基軸となるものであるから、全教職員の共通理解と共有化を図る努力を今後とも継続することが望ましい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 講義要項・シラバスの記載にばらつきが見られ、改善が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 就職先の企業、編入学先の大学などからアンケート調査を実施し、情報を収集・分析し、今後の取組みに反映させることが望ましい。桐朋教育研究所は、11の教育機関を擁す桐朋学園の教育の展開を俯瞰し、将来の教育を展望するシンクタンクとして機能できないか、検討することが望ましい。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学生の休息空間・自習室などの必要性について検討することが望ましい。

評価領域Ⅵ 研究

- グループ研究、共同研究の実施、科学研究費補助金やその他の機関から研究費を調達する工夫が望ましい。過去3ヶ年研究業績がない教員については、研究活動が行われない理由を明確にし、短期大学の教員の責務である教育と研究に励むように指導する

ことが望ましい。教員に個室の研究室を用意することが望ましい。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 欠席理事・評議員に委任状無の例が散見されるが、確実に委任状を提出するように改める必要がある。

評価領域Ⅸ 財務

- 支出超過の解消に向けた努力が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神と教育理念は一体と捉えている。建学の精神、教育理念ともに確立され明示されている。また、桐朋学園の教育には、専門的な高等教育としての芸術教育があり、桐朋学園芸術短期大学と桐朋学園音楽部門」の教育で展開されている。
- 教育目的と教育目標は一体と位置づけている。教育目的・教育目標ともに確立され明示されている。毎年、自己点検・評価委員会で全学的に点検している。特に、学生による授業評価を重視し、点検の材料としている。
- 教育目的・教育目標の共有と共通理解に努めている。学生・全教職員・教授会・理事会だけではなく、非常勤講師にも理解と共有の徹底を図るために、学生便覧、ウェブサイト、ガイダンス・プログラム、学内広報誌、学長対論、全教職員対象の説明会、オープンキャンパスの全学説明会などで公表し、教育目標の達成度を点検している。
- 平成16年度の改組転換を契機に、建学の精神・教育理念を見直し、新たな教育理念の確立に努めている。創設以来、長年にわたり培われてきた基本精神を継承し、時代の変化とともに、新たな方針を導入している。3専攻とも、技術・技能の修得のみを教育目的・教育目標とはせず、一人の社会人として必要な常識や教養を備え、コミュニケーション力を備えた人物を養成しようとする姿勢がうかがえる。活字を通してだけでなく、口頭による共有化の努力もうかがえる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標が反映された教育課程が体系的に編成さ

れている。芸術教育と広義の社会教育の意味も含めた、教養教育の取組みもなされている。教育課程は、短期大学の専門教育としての内容を充実している。専任教員は適切に配置され、卒業要件を大幅に上回る科目数と単位数を提供している。短期大学に相応しい内容とレベルである。単位の認定と評価は、恣意的な判断はせず、厳正に行っており、公正性と公平性を確保している。教育課程の改善は意欲的で、組織的に対応している。見直し・改善は、毎年、専攻会議で検討し、学生の意見を取り入れて、充実を図っている。

- 免許、資格の取得は、音楽専攻で、中学校教諭二種免許状（音楽）が取得できる。講義・演習・実習のバランスは、十分に配慮され、必要に応じて、適切に開講されている。音楽専攻は、必修科目の占める割合が少し高いが、必修科目と選択科目のバランスはとれている。学生が自由な判断で履修計画が立てられ、学生の選択の意志が十分に配慮されている。クラス・サイズは、個人レッスン、マンツーマン、少人数クラス制の授業が多く設定されている。卒業要件単位数は、音楽専攻が64単位、演劇専攻が72単位、ステージ・クリエイティブ専攻が62単位である。授業に対する学生の意欲は、積極的で、履修態度にも意欲が見受けられる。
- 講義要項・シラバスと学生便覧の合冊として、全学生に配布している。講義要項（シラバス）の記載項目は、履修条件、授業計画、授業の概要、教科書・参考書など、成績評価の6項目であるが、記載にばらつきがみられる。
- 学生による授業評価は、前期末、後期末に、専任・非常勤全教員の全科目で実施している。授業評価の結果を受けて、教員は授業改善に向けた自己点検を進めている。委員会などの組織としてのFDはないが、FDに相当する活動を実施している。授業改善に向けての取組みは、教務・入試委員会が担当している。教員の授業改善への意欲を高めるために、学外からゲストを招いて、「学長対論」を公開で実施している。多くの教職員と学生が出席し、短期大学の今後の教育・研究のあり方を考える機会となっている。外部から招聘の芸術家から、様々な教授法を学ぶ機会ともなっている。3専攻とも、教員が一室を研究室として共有し、日常的に会議を開催し、教員間の意思の疎通・協力・調整をしている。非常勤講師と専任教員および事務局との橋渡しとして、助手が大きな役割を果たしている。
- SDは委員会などの制度としては整備されていないが、毎年1～2回、SDに相当する活動を実施している。各種の研修会へ参加した委員から、教授会などの場で報告を受け、情報の共有化を図ってきている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員組織は短期大学設置基準を充足している。教員としての資格、経歴、業績、資質に問題はなく、採用・昇任は規程に基づいて行なわれている。授業に対する姿勢は意

欲的で、研究活動も活発である。オフィス・アワーを設定し、個別の指導にあたり、教育研究上の業務も全教員が参加している。事務助手として合計3名、補助職員として合計3名を配置している。各専攻は主任制度をとり、教育実施の責任は教務部長が担っている。

- 校地・校舎面積とも、短期大学設置基準を充足している。
- 図書館の広さについては、不便さはない。専任教員の「研究課題展示ショーケース」を設置し、図書館の利用を高めている。学内外へ、年1回、小冊子を発行している。桐朋学園大学音楽学部図書館との相互利用を通して、楽譜、図書などの借り出しを実施している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 単位認定の方法と評価に関して学生便覧に詳細に明記し、非常勤講師にも文書で通知している。年間取得目標単位数を指導し、学生一人ひとりに点検させている。学生の授業に対する満足度への配慮については、組織サイズの利点をいかして、日常的な学生との対話で学生の声をリサーチできている。迅速な対応が学生に満足を与えている。授業評価の結果などを踏まえて、授業の進行を工夫し、学生の満足度を高める努力をしている。退学者は経済的理由および進路変更が主である。退学者の中には、経済的理由によるほか、オーディションに合格して退学する者もいる。留年者には、教職員が履修登録の時期や学習状況に留意し、指導と助言を行っている。資格取得の取組みとして、「パソコンインストラクター養成講座」、「情報処理資格取得講座」を開講している。音楽専攻に、音楽療法士養成課程の設置を検討している。他の大学からの編入学制度はない。
- 3専攻とも、専門就職の比率は高い。就職先からの評価の聴取は行っていないが、不評・苦情が届いた例はない。卒業生との接触や同窓会との連携は深く、同窓会のサポート体制も強い。編入学先からのアンケート調査などは実施していない。
- 成績評価は、公正・公平に行われている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 短期大学が求める学生像は明示されている。入試の種別は推薦入試、一般入試で、アドミッション・オフィス（AO）入試は実施していない。音楽専攻は、社会人入試を別枠で実施している。入試事務の体制、受験生への対応、入試に関する広報・事務は教学課と総合ガイダンスセンターが担当している。推薦入試による入学予定者には入学前ガイダンス、入学者に対しては、入学後のオリエンテーションを行っている。
- 学習の動機づけとして、詳細なガイダンスを実施し、教員が個別に対応し、学生生活

全般について詳細な説明と相談を行っている。学生便覧は講義要項・シラバスと合冊で発行している。基礎学力が不足する学生に対する支援は、各教員が授業やオフィス・アワーを利用して、実施している。問題を抱える学生の指導と助言は、日常的に、専任教員間の連携で行っている。優秀な学生に対する支援は、個々の学生の学習内容や進度に合わせて行い、学生の意欲を高める結果に繋がっている。

- 学生指導のための組織として学生・安全対策委員会を設置している。サークル活動、学園行事などへの支援体制としては、桐朋祭、新入生歓迎行事、クリスマス会、卒業関連行事へ、補助金を支援している。学生のための休息空間は少ない。食堂および購買部は、整備されている。学生寮および通学バスはない。学園独自の奨学金制度として、桐朋演劇奨学会奨学金があり、授業料の半額程度を給付している。学生の健康管理、メンタルケア、カウンセリングなどのシステムは整備されている。健康相談は、月2～3回実施している。スクール・カウンセラー室を設置し、臨床心理士との面談日を設けている。学生生活に関する学生の意見・要望の聴取も行っている。
- 就職支援は、総合ガイダンスセンターが担当し、適切に行われている。
- 過去3ヶ年、留学生の受け入れの実績はない。音楽専攻で、社会人を受け入れている。過去、視覚障害のある学生を受け入れた例があるが、必要に応じて、特別の措置をとってきている。長期履修生の受け入れの制度はない。
- 自治会、学生会は活発に活動しており、自治の精神を継承し、自律と自立を育み、責任感や社会性を身につけることに繋がっている。

評価領域VI 研究

- 教員の研究活動は、学長を筆頭に、大きな成果をあげている
- 芸術系の短期大学であるため、「演奏・演出」の分野が抜群である。国際的活動、社会的活動も活発である。「演奏・演出」などの発表記録の他、年1回、紀要を発行している。教員の研究費・研究経費は、研究研修規程に則っている。研究費の支給は、一律ではないが、充分といえる。研究成果を発表する機会は、紀要、ウェブサイトが主体で、整っている。教員の研究室は個室として設置されていない。研究日は週2日確保されている。

評価領域VII 社会的活動

- 芸術系の短期大学としての特色をいかして、教育・研究の成果を十分に地域に還元している。音楽専攻の社会人の受け入れも意欲的である。調布市と「相互友好協力協定」を結び、公開講座、演奏会、発表会などを通じて、共同参画の意欲を示している。学生の社会的活動も盛んである。調布FMの番組制作、地域の夏祭りへの参加などを通

じて、地域社会へ大きく貢献している。地域の保育園・幼稚園・小学校をはじめ、病院・施設などで、貴重なボランティア活動を活発に行っている。音楽専攻では、アメリカ、イギリス、ハンガリーの教育機関と交流している。客員教授やゲスト・スピーカーの招聘も実施している。演劇専攻では、イギリス、ノルウェー、オーストラリア、カナダの教育機関と交流している。教職員の海外派遣、国際会議などへの出席は、可能な限り、支援している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 教授会は教授会規程に則り、定例および臨時の教授会を開催している。教授会は1か月1回の定例教授会とし、必要に応じて臨時教授会を開催している。学長はリーダーシップを発揮している。規程に基づいて、合計12の委員会などを置いている。
- 学校法人全体の運営を3部門に分け、各部門が自主性を尊重し、責任をもって運営している。理事会、監事、評議員会とも、寄附行為に則って運営されている。理事の構成に偏りはなく、理事会の開催状況も妥当である。欠席理事・評議員に対して、予算・決算などの重要議案の説明も行っている。事務組織は、「女子部門」の5教育機関で、効率の高い事務組織となっている。事務研修の一環として、毎月1回事務職員会議を開催し、学外で行なわれる研修会には参加し、結果の報告をしている。3部門制をとることにより、教職員に、「自分たちの学園」、「自分たちの責任」という自覚と意識が扶植され、浸透し、協力体制ができています。教員と事務職員との連携は円滑で緊密である。各研究室の助手も、橋渡しとしての役割を十分に果たしている。教職員の健康管理にも配慮し、年1回、健康診断を実施している。「学内医療規程」を整備し、医療費の補助制度もある。教育環境だけでなく、就業環境についても配慮している。
- 事務部門の規模と事務職員の任用は規程に基づいている。事務部門の諸規程は整備されている。事務室、情報機器、施設・設備は、おおむね整備されている。決裁処理、公印や重要書類の管理、防災、情報システムの安全対策などに関する諸規程が整備されている。使用頻度の高い学籍簿などの重要書類は特殊倉庫を設置し、管理強化を図っている。防災対策は、保安委員会を組織し、対応している。情報システムのセキュリティ対策がとられている。

評価領域Ⅸ 財務

- 事業計画は、女子部門運営審議会、女子部門経営評議会、女子部門運営協議会、物件費予算委員会の審議を経て、理事会で決定し、予算化される。結果の報告は関連各会議で行い、「理事・事務局長情報」で、全専任教職員に報告している。財務の公開は、理事会前に関連各会議に提示した後、理事会に提出し、結果の報告は関連各会議で行

なわれ、「理事・事務局長情報」で、全専任教職員に報告される。毎年3月、決算に関して解説をした小冊子「学園の財務」を発行している。学校法人としての公開は、改正私立学校法による財務などの公開に対応するため、規程を定め、平成17年度より、対外的な公開も行っている。

- 財務運営に関しては、女子部門運営審議会、女子部門経営評議会、女子部門運営協議会、物件費予算委員会の審議を経て、理事会で決定し、予算化されている。結果の報告は、「理事・事務局長情報」を配布することにより、教職員の全員に周知させている。予算の執行は、26の財務諸規程に則り、評議員会・理事会の議に付し、適切に行なわれている。法人監査会を開催し、公認会計士や監事の確認も問題なく行なわれている。監査の回数も頻繁で、過去3ヶ年の監査の結果、不適正な事項はなく、無限定適正となっている。資産および資金の管理と運用は、寄附行為に則り、安全に保管・運用されている。財務諸表の公開は、小冊子「学園の財務」を発行し、保護者、短期大学学生、専任教職員および非常勤教職員にも配布され、透明度は極めて高い。財務体質に関しては、消費収支計算においては、支出超過が目立つので留意が必要と思われる。

評価領域X 改革・改善

- 平成7年度に、「自己点検評価規程」、「自己点検評価委員会規程」を作成し、自己点検・評価報告書として公刊した。自己点検・評価報告書は、毎年、発行し、点検・評価の結果を確認し、桐朋学園内の関係部署、関係協会へ配布している。
- 平成16年度より、教授会構成員の過半数が自己点検・評価に関与し、全学体制で取り組んでいる。自己点検・評価の結果を踏まえた改善・改革の推進は、各機関の対応に委ねてきた面がある。自己点検・評価に関する理念や意義の検討、実施方法の改善へ向けての反省とともに、新たな評価システムと評価方法を検討している。
- 平成14年度に、鹿児島国際大学短期大学部と相互評価を実施した。学内に自己点検・評価の厳しい目が育っていなかったこともあり、評価結果の活用は期待していたほど進まなかったのが事実である。相互評価のための規程は作成していない。今後は、学外者の様々な意見を取り入れるシステムを構築し、諸施策にいかしてゆく何らかの方策の導入を検討している。

立教女学院短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 立教女学院
理事長	酒向 登志郎
学 長	酒向 登志郎
A L O	安部 一郎
開設年月日	昭和42年4月1日
所在地	東京都杉並区久我山4-2-9-23

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
英語科		150
幼児教育科		150
	合計	300

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
英語専攻	30
幼児教育専攻	80
	合計 110

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

立教女学院短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年6月27日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

ミッション・スクールとしての建学の精神や教育目標などが確立し共通理解されやすい点をいかし、明確な教育目標の下に教育がなされている。

建学の精神に基づいたバランスよい教育課程を編成しており、各学科の教育目標も明確である。その一方で多様な学生のニーズに応えるための幅広い科目群も用意され、アドバイザー制による少人数教育によって個々の学生への対応も行き届いている。また、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会の活動も活発で、教育課程ならびに教育方法の見直しへの努力も払われている。

教員数は短期大学設置基準を充たし、各教員は授業以外に研究、学生指導、そのほか教育研究上の業務に意欲的に取り組んでいる。教員組織の整備状況は良好である。教育環境についても校地面積、校舎面積ともに短期大学設置基準を充たし、各施設は効率的な授業や快適な学生生活のために適切に整備され、活用されている。図書館についても短期大学設置基準を充たし、施設の整備状況や利用者へのサービス体制も良好である。

創立130年の歴史と優れた教育実績を誇り、高い求人倍率、高い就職率を享受してきた。また、進学に関しても国内外に編入学提携大学の数や枠を増加させており、こうしたことが当該短期大学の自信と誇りへ繋がってきた。今後、卒業後評価への組織的、体系的取り組みを進め、さらなる教育改革・改善に努められることを期待している。

入学後のオリエンテーションにおいて学習および学生生活両面にわたる指導がきめ細かく行われると同時に、学習のバックアップ体制や英語教育センターなど学習環境の周知が図られている。また、少人数を対象とした専任教員のアドバイザーが個々の学生の学習および生活両面の相談に対応すると同時に、学生部委員会が問題の解決に当たっている。学生の心身両面にわたる健康管理についても毎年の健康診断を中心に充分配慮された体

制が確立されている。種々の就職活動支援講座が用意されると同時に、就職相談室を中心とした就職活動支援体制も整えられており、就職内定率は高水準を維持している。四年制大学への編入の窓口も広く確保されている。

全教員が各種の研究活動を何らかの形で展開している。紀要も毎年発行され、全体的に教員の研究活動状況は良好である。また研究活動の活性化のための各種の条件も適切に整備されている。

国際交流については、研修先がアメリカだけでなく平成16年度からはオーストラリア、フィリピンが加わり、派遣先や派遣人数の拡大が見て取れる。このことは短期大学が国際交流に積極的に取り組んでいる証左であると理解できる。

学校法人の管理運営については、理事長は理事会と教授会の信頼関係を損なうことなくリーダーシップを発揮し、理事会、評議員会および監事の職務は寄附行為の定めに基づき、それぞれの機能を適切に果している。また、短期大学の運営にあたっては、学長は適切なリーダーシップを発揮し、教授会、各委員会なども機能的に運営されている。事務部門では、各担当部課や教員との連絡を密にして学生に対応するとともに諸規程も整備され、各々の規程に基づき適切に運営されている。

財務に関しては、中・長期的な財務計画の策定が望まれるが、毎年度の事業計画、予算作成ならびに執行・管理は適切に行われており、決算報告、監事および公認会計士による監査、財務情報の公開も適正に行われている。短期大学の資金収支・消費収支についてはおおむね均衡を保ち、教育研究用の施設設備費や図書費なども適切に配分され、財務状況は健全に推移している。法人全体としての財務状態も、償還計画が確立されており財務体質は安定したものとなっている。また、施設設備の維持管理や危機管理対策および省エネ・省資源化についても、法人全体で取り組み、適切な対応がなされている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

○ ミッション・スクールとしての大学の方針が明確に示されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

○ 少人数教育による教育効果向上への努力がなされている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

○ 英語科では実践的な英語力の向上に資するため、多く外国人教員を配置している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 学生の要望や疑問に真摯に耳を傾けようとする姿勢やその体制が確立している。
- 個々の学生に目を向けたアドバイザー制度と事務局各課の連携体制も充分機能している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学後オリエンテーション期間における少人数を対象としたアドバイザー・アワーや、個人学習の中心となる図書館オリエンテーションがクラスごとに実施される点などは評価できる。
- 少人数を対象としたアドバイザー制によって個々の学生の把握に努めると同時に、英語教育センターの業務の一環として正課外の講座を設けるなど、学生の学習支援に努めている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 海外に複数の提携大学を擁している。

評価領域Ⅸ 財務

- 施設設備の維持管理や危機管理対策および省エネ・省資源化への対応がなされている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスの様式を統一することで学生への授業内容の周知が徹底されるものと考えられる。また授業評価結果の教員間あるいは教員と学生間の共有はともにさらなる改善をしていく上で肝要なことと考えられるので、今後検討されたい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 科目の内容やシラバスについて学生への周知徹底とその工夫が望まれる。
- 履修者数が極端に少ない科目の見直し、あるいは学生に対する適切な履修指導が望まれる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 事務部門の業務量増加に対する事務処理の合理化や各種委員会の開催見直しを行うなど、就業環境の改善が望まれる。

評価領域IX 財務

- 財務状況は健全に推移しているが、中・長期的な財務計画の策定が望まれる。

評価領域X 改革・改善

- 自己点検・評価の継続的な実施体制を確立することが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神は創立以来明確に樹立されていて、またその精神に則した全人的教育目標も確立している。2学科の間にやや教育理念に差異はあるものの、全体としてはそれがカリキュラムや各種教育活動の中にかかされている。具体的には、学校案内およびウェブサイト上においてキリスト教精神に基づく建学の精神が分かり易く示されている。また、各学科のアドミッションポリシーも明確に示されている。キリスト教関連の科目も多数開講されており、キリスト教精神を授業で学ぶ機会が多い。
- 教育目的・教育目標は具体的かつ詳細に示されていて特に問題点はない。「立教女学院ビジョン策定プロジェクト」で、建学の精神・教育理念の再解釈などの点検が行われている。点検の結果は、諮問グループ、評議委員会、教職員研修会などで検討された上で、教授会で周知徹底され、実施が計図られている。その結果、人文・社会・自然・言語・健康に関する科目がバランスよく配置されている。しかも領域ごとに細かく取得すべき単位数が決められており、偏った学習がなされることを防いでいる。
- アセンブリー・アワー、「マーガレットキャンプ」、学院全学礼拝、創立記念礼拝、クリスマス礼拝、「国際交流キャンプ」「ボランティア・キャンプ」などの講話や行事で教育目標などの共通理解が図られている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- キリスト教精神に基づく建学の精神・教育理念に一致した教育課程を編成しており、専門科目と教養科目のバランスならびに教養科目間のバランスも適切である。また、

アドバイザー制という少人数教育が導入されて教育効果を上げている。英語科ではFD委員会も頻繁に開催され、現状のチェックと将来への改善に取り組んでいる。幼児教育科では専攻科の定員増に伴った教育課程の見直しに努めている。

- 英語科ではTOEIC、TOEFLの受験を通じた英語力の向上、幼児教育科では幼稚園教諭2種免許と社会福祉主事（任用資格）の取得が具体的な目標として設定されている。しかし教育課程においては資格取得などのために必要な科目だけではなく、学生個々のニーズに対応できるよう幅広い科目群が開講されている。
- 配布されるシラバスを通して各科目の授業内容や教育方法・評価方法が学生に対して明示されている。若干科目間でシラバスの書式や内容にばらつきはみられるが、履修登録前に授業を1回受講することができるため、学生にとって必要な情報は充分提供できている。
- 頻繁に学生による授業評価を実施し、その結果を授業改善に結びつけようとする努力がみられる。また、英語科ではFD委員会の活発な活動、幼児教育科では専攻科の定員増に伴うカリキュラムの見直し、クラス規模の見直しなど、常に現状を再検討しようとする姿勢がみられる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 両科とも短期大学設置基準による教員数の規定（教授数を含む）を充たしており、教員の年齢構成もおおむねバランスが取れている。教員の採用、昇任に関する審査基準も適切に整備されており、教員は短期大学にふさわしい資格と資質を有している。
- 校地面積、校舎面積ともに短期大学設置基準を十分に充たし、各種の授業にふさわしい講義室、演習室など、またIT化に対応する各種教室を備え、広いラウンジをはじめ学生生活のための多様な施設も充実しており、教育環境の整備、活用は適切である。
- 図書館の蔵書数、設備などは適切に整備されており、年間の購入予算もこの規模の短期大学として充分であり、図書を選定、廃棄、検索などの各システムも適切に整備されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 学期ごとに授業評価アンケートを実施し、授業改善に努めている。評価に当たっては、共通テキストによる異なる担当者間での共通理解に心がけ、公平な評定に努め、評価に納得できない学生が教務課を通して質問をする機会を与えるなど組織的に取り組んでいる。退学や休学といった個々の学生の問題に対しては、教員が学生担当のアドバイザーとして学生・就職課や教務課と連携して相談に乗り、組織的に指導に当たっている。

- 英語科では進学者に関して国内進学委員会や国際交流センターで情報を得ている。就職者については今後学生・就職課と協力し、卒業生と就職先にアンケート調査を実施することを検討している。幼児教育科では就職先の幼稚園での卒業生の評価を聞き取り調査している。今後は、英語科と足並みをそろえた形で調査を検討していく考えがある。
- 創立130年の歴史と優れた教育実績を誇り、高い求人倍率、高い就職率を享受してきた。また、進学に関しても国内外に編入学提携大学の数や枠を増加させており、こうしたことが当該短期大学の自信と誇りへ繋がり、今までは、改めて卒業生へのアンケート調査を行う必要性を感じてこなかった。それは、同窓会活動は開学以来活発で、機関紙の発行や卒業生の集いなど教職員との接触、連携は連綿として密であり、同窓生の協力が得やすく、卒業生からの情報も得やすい状況にあったためである。今後卒業後評価への組織的、体系的取組みを進め、さらなる教育改革・改善に努められることを期待している。

評価領域V 学生支援

- 入学後4～5日をかけてオリエンテーションが実施され、学習および学生生活両面にわたって適切に指導が行われている。学習のバックアップ体制も周知されており、図書館オリエンテーションをクラスごとに行うなど、きめこまかく学習環境の周知が図られている。また、少人数制によるアドバイザーアワーは個々の学生に対応しようとするもので、新入生の新しい環境への適応を促進するものである。
- 英語科ではアドバイザー制（学生30名に1人の教員）による指導および相談体制をとると同時に、英会話、TOEIC、TOEFL対策、編入学英語、初級文法など正課外の授業を英語教育センターにおいて無料で実施し、学習を支援している。幼児教育科では、学生20名を、卒業するまで、一人の専任教員が担当するアドバイザー制によって個々の学生の支援を行っている。
- 学生の自治組織である学友会を中心に学生生活の充実および学生間の親睦が図られており、スポーツ大会、学内献血会、パフォーマンス大会など各種行事が企画運営されている。また学生の健康管理については、毎年4月の健康診断や、常駐する看護師やカウンセラーによる心身両面にわたる相談体制、月1～2回の内科医・産婦人科医による健康相談など十分に配慮されたものである。
- 幼児教育科では幼稚園教諭二種免許、社会福祉主事（任用資格）の取得を、英語科では企業に求められることの多いTOEICスコアの向上を学習の具体的な目標としている。就職活動支援体制が整えられ、就職内定率は高水準を維持している。また、四年制大学への編入についても、立教大学を中心に多くの大学から推薦枠を獲得して、3年次編入への門戸を広くしている。

- 現在のところ、障害者、長期履修生など特別な支援を必要とする学生が在学しておらず、そのための支援体制も整えられていない。しかし将来的には地域との連携を強める構想を持っており、それに伴う社会人学生の入学およびその支援体制についても検討中である。

評価領域VI 研究

- 全教員が各種の研究活動を展開している。年1回発行の紀要のほかにも、幼児教育科には『幼児教育研究所紀要』もあり、平成16年度、平成17年度ともに3件の科学研究費補助金の申請もなされており、教員の研究活動状況は良好である。
- 個人研究費、研究成果発表の機会（紀要）、個人研究室、研究時間のいずれも適切に確保・整備され、研究活動の活性化のための条件整備は適切である。
- 全教員が各種の研究活動を何らかの形で展開している。研究業績の種類と数に限れば、個々の教員によって大きな差があるが、この原因は各教員の専門分野の関係と推察できる。紀要も毎年発行され、過去2年間の科学研究費補助金の申請では採択されていないものの、それ以前には採択された研究もあり、全体的に教員の研究活動状況は良好である。また研究活動の活性化のための各種の条件も適切に整備されている。

評価領域VII 社会的活動

- 社会的活動を、短期大学または教職員に求められた社会的使命、人間的使命と捉えて積極的に推進している。公開講座、生涯学習授業で過去3ヶ年間の実績は各年12講座から16講座を開催している。また平成16年度より「杉並区と区内高等教育機関との連携協働推進協議会」に加盟し、教育・文化・まちづくりなどの分野で相互に連携し、地域社会の発展と人材育成を目的に活動している。
- 奉仕の精神を尊ぶキリスト教教育の短期大学であることから、ボランティア活動を活発に推進しており、またその歴史も長い。老人ホームや児童施設での人形劇上演をはじめ、身体障害者および老人福祉施設での「ボランティア・キャンプ」、フィリピン・ケソン市の幼児教育施設でのフィールド・ワークを中心とした「国際交流キャンプ」など様々なボランティア活動に取り組んでいる。
- 留学生の受け入れについては、その数は多くはないが派遣については、アメリカ、オーストラリア、フィリピンに提携大学を擁し、英語研修やボランティア体験研修などで多くの学生を派遣している。
- 国際交流がやや一方通行の交流になりがちである点は否めないが、研修先がアメリカだけでなく平成16年度からはオーストラリア、フィリピンが加わり、派遣先や派遣人数の拡大が見て取れる。このことは短期大学が国際交流に積極的に取り組んでいる証

左であると理解できる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 学校法人の管理運営について、理事長は理事会と教授会の信頼関係を損なうことなくリーダーシップを発揮している。理事会、評議員会、監事の職務は寄附行為ならびに法令の定めに基づき適切に運営されている。短期大学の運営については、学長は教育研究上の改革・改善事項について、各委員会・部会・協議会へ検討を指示し、その結果を教授会などへ諮り、審議の上、決定するシステムを通じてリーダーシップを発揮している。また、教授会ならびに各種委員会なども規程に基づき適切に運営されている。
- 短期大学の事務部門においては各担当部課や教員との連絡を密にすることにより、学生に対し状況に応じたきめ細やかな対応がなされている。また、諸規程の整備や業務全体も適切に行なわれていると同時に、職員の能力向上のための研修なども積極的に行われている。
- 人事管理関係の規程などはよく整備されている。しかし、就業環境の改善や、教学と事務部門との人的交流などが望まれる。
- 施設設備の維持管理については、各規程に基づき適正に行われており、防犯防災対策についても、避難訓練、キャンパス内の警備委託や防犯カメラの設置など適切な対応がなされている。また、コンピュータセキュリティの対応や省エネ・省資源化についても学院全体で改革、努力しており評価できる。

評価領域Ⅸ 財務

- 中・長期財務計画については財務担当理事を中心に現在策定中であるが、将来に備えて目的別の引当特定資産に対する計画が望まれる。毎年度の事業計画、予算の作成・執行・管理は適切に行なわれ、決算報告、監事、公認会計士による監査なども適正に処理されている。また、財務情報の公開についても適切に行なわれている。
- 短期大学の資金収支・消費収支ともに均衡を保ち、教育研究用の施設設備費や図書費なども適切に配分され、財務比率も全国短期大学、法人と比較して安定したものとなっている。また、法人全体の財務状況については、負債償還計画が確立され、学生数・生徒数とも安定したものとなっており、財務状況は健全に推移している。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 第三者評価委員会が設置され、定期的にはないが、自己点検・評価は行われている。法人として評価すれば、改革・改善のための努力は顕著であるが、短期大学単体とし

て評価すれば、やや弱い。相互評価などの外部評価は行われていない。

- 問題点として取上げるほどの難点ではないが、自己点検・評価の定着化が望まれる。

東海大学医療技術短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 東海大学
理事長	松前 達郎
学 長	母里 知之
A L O	熊谷 智子
開設年月日	昭和49年4月1日
所在地	神奈川県平塚市南金目143

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
看護学科		80
	合計	80

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

東海大学医療技術短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年6月24日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

創立者である松前重義の思想と人生観は「望星学塾」に表された四つの言葉として示されている。この思想と人生観をもって、当該短期大学の建学の精神ならびに教育の理念として明確に示し、現在まで確実に受け継がれていることが訪問時面接によつて的確に示された。さらに、この建学の精神と教育の理念に基づく学科の教育目的ならびに目標は具体的に6項目の多岐にわたり丁寧に示されている。一方、これら教育目的ならびに目標は教務委員会を中心に定期的な点検がなされている。

学生に建学の精神を理解させるための「現代文明論」の講義や英語教育に多様性を持たせているなど、教養教育への取組みがなされている。一方、専門教育は厚生労働省の「保健師助産師看護師学校養成所指定規則」（以下、指定規則）に準じて行われ、1科目の中で原理原則の講義後に学内演習を組み入れるという優れた学習形態をとっており、教育課程が体系的に編成されている。授業内容、教育方法および評価方法は毎年、作成し配布されているシラバスによって学生に明らかにされている。また、授業方法は科目の特徴を認識し、グループワーク、討論、ロールプレイ、演習など多彩な方法が取り入れられ、教育課程が学生の多様なニーズに応えるものとなっている。授業評価は、東海大学とともに全国の大学に先駆けて平成5年度と早期より実施されており、その結果は全教員に還元されて、授業改善の努力を重ねている。教育能力の向上に向けての組織的取組みとして、褒賞制度と教授法研究会を実施し、授業内容および教育方法に改善への努力がみられる。

教員の年齢構成は、ほぼ均等に分布し、全員教員にふさわしい資格と資質を有しており、教員組織は整備されている。また、校地面積および校舎面積は短期大学設置基準の規定を充足し、校地は教育環境として適切に整備され、校舎は授業や学生生活のために常に整備され快適な環境となっている。さらに、各授業を行うに適切な教室・実習室などが十分に

備えられ、授業で使用される機器・備品も十分に備わっており、教育環境が整備され活用されている。図書館の利用状況、資料の状況、予算、職員の状況は比較的良好である。また、学内外への情報発信、他の図書館との相互利用活動など、図書館活動は活発といえる。

教育目標の達成に向けて授業のアンケートの実施やその還元、満足度への配慮がされている。また教育上の様々なケアが実践されており、退学・休学・留年者の数も少ない。多くの学生が最終目標の看護師資格を取得しており、四年制看護大学編入に関するサポートも確立し、その実績も多くある。同窓会組織との連携や臨床看護教員制度により看護現場や卒業生からの情報も多く導入され、学生の卒業後評価に関する取組みに関する努力も平素よりみられる。

入学前、入学時の学生に対する支援策は、各種配布物、オープンキャンパスや進学相談会、またウェブサイトやオリエンテーションなどを通して適切に行われている。学園祭やクラブ活動も幅広くあり、学生の参加もおおむね良好である。アパートや宿舎の斡旋、奨学金の給付など、学生に対する生活支援策も適切に行われている。進路支援については情報伝達や支援組織がしっかりと確立している。そのために進路実績はすばらしいといえる。

全体として過去3年間の研究活動は活発化している。特に、グループ研究や学科・教育に関する研究に対する取組みは特筆できる。

各教員は学会などの役員を中心として社会的な活動の実績はおおむね良好である。国際的な交流に関してはデンマークの関連校との交流やハワイの語学研修など、具体的な取組みが評価できる。

学園運営方針の徹底のため、学校法人と連携した各種会議、連絡会、研修など数多く開催されている。また法人広報部は、各種媒体により、各教育機関の動向をはじめ、学園運営方針、会議の記録、人事、財務諸表などの情報を発信している。また、短期大学運営に直接関るものには、短期大学主催の会議・会合にも、法人関係者が出席するなど学校法人と現場の情報共有がなされている。組織・運営体制は整備され、おおむね適切に業務執行されている

教育の理念・目的に基づいた教育と研究の水準を維持・向上するため、自己点検・評価のための規程および組織を整備し、定期的に自己点検・評価を行い、実施体制は確立している。自己点検・評価の活動には平成3年以降の歴史があり、学内ではほとんどの教職員が関与し、その成果が活用できるように、システムが構築されており、努力は充分にうかがうことができる。一方、将来の相互評価（独自に行う外部評価を含む）の取組みへの意向は充分に示され努力がなされている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神と教育の理念は、当該短期大学の教育システムの基幹をなす科目「現代文明論」で全学生に講義されており、この科目の講義内容を点検することにより建学の精神・教育理念の解釈と理解がなされている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 看護の基礎理論と看護技術に関わる科目では、科目間の内容の重複や漏れを避けるため、科目担当教員の意見を調整して「看護教育に関する技術マトリクス」を作成し、次年度シラバス作成に活用している。
- 看護学教育には理論と実践が必須であるため、原理原則の講義後に学内演習を組み入れるという優れた学習形態をとり教育効果を高めている。
- 学生による授業評価は全国の大学に先駆け早期より毎年実施され、学生の意見をフィードバックし、教育方法の改善に努力している。
- 当該年度で最も高い評価を受けた授業（教員）を表彰（Teaching of the Year）し、表彰された教員は全教員に対する教授法のアドバイザーとして、授業の公開と教授法研究会を開催し、継続的に教育力の向上に努めている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員数が短期大学設置基準を十分に上回っている。学内情報環境の運営にあたり、東海大学総合情報センターとタイアップして、毎年、高度な授業および事務処理に対応すべく情報教育環境の見直しと整理を行っている。図書館の地域開放あるいは隣接している系列図書館の利用が行われている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 同窓会組織や系列病院との交流の機会が多く、連携や調整、サポートが積極的に行われている。また、臨床看護教員制度により臨床現場の情報や意見を教育現場に取り入れている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 優秀な学生に対して3種類の奨学金制度があり、内容が充実している。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究活動の活性化にむけた努力が成果となって現れており、この3年間における研究件数の急増やグループ研究、学科・教育に関する研究の充実は、当該短期大学の研究

に対する積極的姿勢の表れである。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- デンマークの関連校との交流事業が実施されている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 法人各機関や理事会が、短期大学と緊密な関係を持ち、学園運営方針の確認やシンクタンクとしての調査やアドバイスを行い、スケールメリットをいかした強力な支援を実施し、情報の共有を含めスムーズな管理運営に努めている。

評価領域Ⅸ 財務

- 年度の予算編成趣意説明書や資金収支計画書、消費収支計画書と、あわせて、向こう5ヶ年の経営方針・長期的計画・中期的計画の3項目からなる予算案が作成され、迅速に各経理単位に通知がなされている。ISO14001認証取得済みなど維持管理・保全に環境問題への配慮がみられる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 自己点検・評価の活動には早くから取り組み、充実した活動を継続的に展開してきた。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館の運用面は充分になされているものの、施設面での改善が期待される。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究業績が少ない教員の研究活動の活性化が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 創立者松前重義が掲げた教育に対する理念は、東海大学ならびに当該短期大学にあっては、人を愛し、社会と国を愛し、世界を愛し、人類社会への奉仕の信念をもって行動し得る人間を養成し、世界の平和と進歩に貢献することとして、これを教育の理念として受け継いでいる。したがって、現在に至るまで歴然と受け継がれている建学の精神・教育の理念は、何れも確立していると評価される。
- 当該短期大学の教育目標は、教育基本法および学校教育法に則し、そして人道に根ざした深い教養を持つ社会人ならびに医学医療の進歩に適応する高い専門知識と技術を持ち、生命尊重の人間観、人生観、社会観とその使命感を有する視野の広い看護師の育成である、と明確に示されている。また、教育目的・目標に対する点検については、看護師養成に伴うカリキュラム上での制約もあるが、学科内に設置する教務委員会が中心となって定期的に行い、その点検結果は教授会の審議を経て全学に周知されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教養教育への取組みとして、建学の精神に基づく「現代文明論」の講義は看護学生が、偏狭な専門意識にとらわれずに専門性を生かす基盤としての位置づけがされている。また、より高等教育機関に進学を希望する学生を支援するため、多彩な英語教育を選択する機会を持たせている。一方、専門教育は指定規則に準じて行われている。看護学教育には理論と実践が必須であるため、1科目の中で原理原則の講義実施、その

後学内演習を組み入れるという効果的な学習形態をとっている。成績評価の方法・基準は科目のシラバスに提示され、かつ適切に評価が行われている。教育改善の努力としては、教育内容を社会のニーズに即応したものとするため、毎年委員会によって全専任教員に対して授業・演習・実習の意見や課題を聴取し、問題点を明確化して、次年度への改善を図っている。

- 全学生の目標である看護師国家試験合格のため、国家試験対策委員会が組織され、強力な支援および指導が行われている。3年間の修学期間は看護師国家試験受験資格に必要な指定規則の単位が多く、時間的ゆとりが少ない状況であるが、その中でも基礎教育科目については、多くの選択授業が開講され学習の機会を持たせている。授業方法は、科目の特徴を認識し、グループワーク、討論、ロールプレイ、演習など多彩な方法を取り入れている。特に基礎看護技術では、教員を複数配置し、少人数教育が行われている。また、卒業要件は、文部科学省および厚生労働省指定規則に基づいており、冊子の配布やガイダンス時に説明がなされ周知されている。
- シラバスは毎年作成され、事前に配付して学生から有効活用されている。シラバスには科目名、単位/時間、対象/開講期、担当教員名、授業の概要、評価方法、教科書、参考文献および学生へのメッセージなどの項目が設けられている。シラバスに記載できない参考文献は講義進度に応じて印刷し配布されている。
- 授業評価は、東海大学とともに全国の短期大学に先駆けて平成5年度と早期から実施されている。アンケート結果は全教員へ個別に配布され、各教員はこの結果を受け、自己の授業改善への努力を行っている。教育能力の向上への組織的取組みとして、平成15年度より褒賞制度と教授法研究会を実施している。また、専任教員については、科目担当者が積極的に相互の演習に参加し、科目間における連携が行われている。一方、非常勤講師の連携および調整は、毎年3月に実施する非常勤講師連絡会で担当科目責任者と十分な打ち合わせがなされている。したがって、授業内容、教育方法に改善への努力がみられると評価される。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員数は、短期大学設置基準の規定を十分に上回っている。教員の年齢構成は、ほぼ均等に分布しており、全員短期大学教員にふさわしい資格と資質を有している。また、教員の採用および昇任については、選考基準などが整備され各規程に則って適切に行われている。
- 校地の面積は短期大学設置基準の規定を充足し、教育環境として適切に整備されている。また校舎の面積も短期大学設置基準の規定を充足しており、授業や学生生活のために常に整備され快適な環境となっている。さらに、各授業を行うに適切な講義室、演習室、実験・実習室は十分に備えられ、授業で使用される機器・備品は整備システ

ムが確立され、それぞれの授業を行うための十分な機器・備品が備わっている。また情報機器を設置するコンピュータ実習室およびコンピュータ自習室が整備されている。校地と校舎は学生や教職員への安全性に配慮されているが、建物の構造上エレベーターなどの設置が困難であるため、障害者への対応に多少制約が生じる可能性がある。なお、運動施設（運動場・体育館・トレーニングルーム）は、隣接する東海大学湘南キャンパスの施設を共用している。

- 図書館の利用状況、資料の状況、予算、職員の状況は比較的良好である。また、学内外への情報発信や、他の図書館との相互利用活動などの図書館活動は活発といえる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 大多数の科目において成績の評価を様々な方法で実施しており、単位認定の方法もおおむね良好である。単位取得状況は、看護師国家試験の受験に関係する単位数の93単位を含め卒業要件単位数の108単位を超えており充分であると考ええる。また授業に関するアンケートの結果も各教員にフィードバックされ、その結果に応じた授業の工夫や改善に関する取組みも実施されている。授業に関する学生の満足度に関してもある程度配慮されていると考える。退学・休学・留年は全体で1割未満であり、適切な範囲であると判断できる。看護資格の取得はできており、また系列大学健康科学部看護学科（四年制）への編入学希望者の進学実績も良好である。
- 卒業生の就職は、系列病院への就職を中心として十分な実績がある。それら卒業生との交流の機会も多く、就職先の病院からの卒業生の評判や短期大学の評価などの情報も多く得られている。また、臨床看護教員制度により臨床現場の情報が教育現場に多く伝わるような努力がされている。このようなことを通じた卒業生との情報の交流をはじめ、充実した同窓会組織により卒業生との連携は積極的に実施されている。卒業生の編入先からの情報は文書などでは交換されていないものの、編入先関係者からの意見聴取の機会を持ち、その結果を教育の内容に反映させている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学に関する情報提供は、要覧、「nursing」、入学試験要項および「Campus Navi」などを通して行われ、建学の精神や教育理念、教育目標を明確に伝えている。また、入試に関する説明は、これらの広報媒体のほかにはオープンキャンパス、高校訪問、進学相談会などを通してきめ細かに行われている。入学の際には入学手続要項、「入学者の皆さまへ」（小冊子）を送付し、また、オリエンテーションを通して学習や生活に関する詳細な情報を提供している。
- 入学者に対する学習支援は、オリエンテーションを通して実施している。また、2・

3年生に対する学習支援も同様で、新年度のオリエンテーションを一日かけて実施している。国家試験対策に向けた補習講義を行っている。また、学生個々の悩みや要望を聞き取るために指導教員制度（1クラス2名の担任）を利用したきめ細かな対応が行われている。

- 学生生活を支援する組織として、学生委員会、人権委員会、指導教員制度がある。これらの組織を通して、学生のマナーや人権に対する指導や助言、あるいはアルバイトや奨学金などに関する情報の提供や相談が行われている。平成18年度におけるクラブ活動の公認団体は3団体であり、やや盛り上がり欠ける。これとは対照的に、学園祭への参加率（90%）はきわめて高く、盛況な学園祭であることがわかる。学生宿舎への支援は、もっぱらアパートなどの斡旋が中心である。奨学金は、日本学生支援機構の奨学金にくわえて、大学独自に三種類の奨学金制度を用意している。さらに、学生の健康管理やメンタルヘルスケアに対する支援は、看護師養成校であるだけに充実した内容であり申し分ない。これらの支援策を通して短期大学が得た個人情報については、安全に管理され、また廃棄のシステムが確立している。
- 進路支援は、指導教員による個別面談を中心に行われている。さらに、3年生に対しては事務室就職担当者による説明会を用意している。大多数の学生が付属病院に就職するために、進路指導室のような特別なスペースはないが、学生談話室に設けた進路情報コーナーがその役割を担っている。卒業生の約8割が東海大学付属病院に就職し、また、東海大学を中心に四年制大学に編入する学生が毎年一割弱いる。
- 現在、当該短期大学には対象となる障害者、社会人、長期履修生は在籍していないが、入試を中心に社会人に対する特別な支援方法が検討されている。

評価領域VI 研究

- 教員の研究活動にはかなりの幅がある。たとえば、過去3ヶ年間の論文数を見ると、32本をまとめた教員がいる一方で、まったく論文のない教員もいる。しかし、研究業績の年度別合計件数を比較すると、この3年間で件数が著しく増加していることがわかる。その中でもグループ研究が大きく伸びている。教員の研究活動は毎年教育研究年報に掲載し、一般に公開している。ただ、過去3ヶ年において科学研究費補助金などの競争的資金を取得した実績がまったくない。今後は科学研究費補助金に対する申請や採択、あるいは他の外部資金を調達するための取組みが望まれる。
- これまで個人研究費は職階別に一律支給であったが、今年度から業績を加味した支給方法に変わった。研究成果を発表する場として研究紀要や論文集が用意されている。各教員には研究室があるが、一人一部屋と二人一部屋がある。研究室は研究活動ばかりでなく、学生指導や学生相談の場としても重要であり、なるべく一人一部屋を確保したい。しかし、研究室の傍に面談室があるなど、限られた研究室のスペースを補う

工夫がなされている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 学内に総合看護研究施設が設置され、ここを中心に年2回の公開講座が実施されている。また医療機関を対象とした調査研究の支援事業に関する実績もみられる。地域の看護養成機関への非常勤講師としての出講実績や学会などの役員などへの就任実績もある。行政や関係団体との具体的な産学官交流活動は見られないが、それら団体への講師派遣の実績がある。
- 「デンマーク看護研修」および海外派遣留学制度などを通して学生および教職員の国際交流が活発に行われている。
- 各教員は学会などの役員を中心として社会的な活動の実績はおおむね良好である。しかし、短期大学が所在する地域との具体的な交流や活動はほとんど見られない。学生のボランティア活動も一部のクラブや同好会的な内容にとどまっており、全学的なボランティアの取組みは全く見られない。一方、国際的な交流に関してはデンマーク看護学校との交流協定やハワイの語学研修など、具体的な取組みが評価できる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 学園運営方針の徹底のため、学校法人と連繋した各種会議、連絡会、研修など数多く開催されている。また法人広報部は、各種媒体により、各教育機関の動向をはじめ、学園運営方針、会議の記録、人事、財務諸表などの情報を発信している。また、短期大学運営に直接関るものには、短期大学主催の会議・会合にも、法人関係者が出席するなど学校法人と現場の情報共有がなされている。事務職員に物理的負担感もうかがわれる時もあるが、組織・運営体制は整備され、おおむね適切に業務執行されている。
- 理事会などの学校法人の管理体制は確立している。
- 業務の工夫とスケジュール管理を徹底し残業時間の削減を果たしている。
- 施設設備面では、大学ファシリティ部門・委託会社の指導・協力により法定点検などを実施している。施設設備の老朽化の改善、東海地震耐震補強施策を必要とするが、その認識も充分にあり、ISO14001認証取得済みなど維持管理・保全に配慮がみられる。

評価領域Ⅸ 財務

- 予算編成基本方針と、各経理単位の中・長期事業計画をもとに、学校法人の財務計画が編成され、資金収支および消費収支計画が策定される。また、各経理単位の事業計

画を取りまとめ、法人の事業計画として予算原案の審議と並行し、評議員会に諮られ、理事会において審議され決定される。年度の予算編成趣意説明書や資金収支計画書、消費収支計画書とあわせて、向こう5ヵ年の経営方針・長期的計画・中期的計画の3項目からなる予算案が作成され、迅速に各経理単位に通知がなされている。日常の資金管理も、月次の計算書類（予算・実績対比表）により執行状況を把握し管理上に特に問題はない。また、私立学校法の規定に基づく財務情報公開も、当該短期大学での閲覧請求は未だないが、その備えも事務室にできている。なお、本年度ウェブサイトでの公開は若干の遅れはあるが、事業報告書は公開されている。

- 当該短期大学として定員充足率の向上を必要とするという第2看護学科廃止に伴う収入源という課題はあるものの、全学を挙げての学園改革プロジェクトとして、問題点を認識されており、今後の成果に期待したい。

評価領域X 改革・改善

- 平成3年には教育改善のための組織として教育年報委員会が発足している。そこでは、Ⅰ総論、Ⅱ教育、Ⅲ学生の動向、Ⅳ研究、Ⅴ地域社会との交流、Ⅵ国際交流、Ⅶ広報、Ⅷ図書館、Ⅸ学校運営、Ⅹ学生、ⅩⅠ後援会、ⅩⅡ同窓会、ⅩⅢ施設の各項目を点検・評価することから、その活動を開始した。平成4年、自己点検・評価に関する規程「東海大学医療技術短期大学評価委員会規程」を制定し、学長直属の評価委員会を発足させて、その後は自己点検・評価が毎年実施されている。その成果は、「東海大学教育研究年報」として発刊されている。
- 学内の各委員会、図書館、総合看護研究施設、健康管理室および事務室は、それぞれ当該年度の教育研究、管理運営について点検・評価を行い、前年度の課題を当該年度初回会議でメンバー全員が確認し、年間活動計画を立案・実行し、当該年度の点検・評価結果を3月末日に提出している。教職員は必ず学内委員会に所属し、教員全員が自己点検・評価に関与することとなっている
- 外部評価については平成13年に東邦大学医療短期大学による初めての外部の評価を受け、授業改善・教育環境の整備および教育分野における自己点検・評価の客観性を高めるため、実施されている。今後は、看護系短期大学が減少する中で、短期大学教育の目的と当該短期大学の教育目的を遂行するため、東海大学短期大学部との連携による相互評価体制づくりを推進していくこと、また関東地区の組織である私立医科大学看護系事務長会、私立看護系大学協会などとの連携を図り、看護系短期大学の質向上のために短期大学間で相互評価、外部評価ができる体制づくりの必要性が検討課題となっている。
- 教育の理念・目的に基づいた教育と研究の水準を図るため、自己点検・評価のための規程および組織を整備し、定期的に自己点検・評価を行い、実施体制は確立している。

自己点検・評価の活動には平成3年以降の歴史があり、学内でほとんどの教職員が関与し、その成果が活用できるように、システムが構築されており、努力は充分にうかがうことができる。一方、現在まで継続した相互評価は実施されていないが、将来の相互評価（独自に行う外部評価を含む）の取組みへの意向は十分に示され努力がなされている。

新潟青陵大学短期大学部

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 新潟青陵学園
理事長	関 昭一
学 長	関 昭一
A L O	大谷 一男
開設年月日	昭和40年4月1日
所在地	新潟県新潟市水道町1-5939

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
人間総合学科		200
幼児教育学科		100
	合計	300

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

新潟青陵大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年6月23日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

地域の要請や実情に応じて実践的な知識や技術を教授し、よき家庭人、社会人を育てるという建学の精神は、時代の変化に対応して具体的な教育内容や学科全体を改変させながら発展的に継承されている。建学の理念と、平成16年に新たに作成された教育理念および教育方針・教育目標は充分確立して学内外に示されている。既存の幼児教育学科と新設の人間総合学科でも、より具体的な教育目的・目標が検討されている。人間総合学科は今日的なニーズに応えられるように、免許・資格取得を軸とした豊富な専門科目群を用意している。幼児教育学科は幼稚園教諭・保育士養成機関として十分な内容、レベルを擁している。

教員組織などは整備され、規程・基準に基づいた適切な人事がなされている。すべての教員が授業をはじめとする教育活動、委員会などの校務、またアドバイザー制度を含めたきめ細かな学生指導に取り組んでいる。校地は風致地区内に位置し、面積、施設・設備は確保され、管理も行き届いている。併設の四年制大学と共用の図書館は面積および設備、蔵書数ともに充分で、各学科の専門を反映した蔵書を備えている。図書館活動は活発で、地域開放も実施している。

単位認定、学習評価の方法はおおむね適切で、資格取得の取組みと実績も充分である。学生の指導体制はアドバイザー制を軸に整えられ、平成17年度入学者の退学、休学者は皆無である。また就職部と教員が連携して、教育内容や学生指導などの方向性を探るために、就職先や編入先からの意見聴取と分析に努めている。

学生支援については、アドバイザーが履修指導や学習上の問題や悩みに対して指導助言し、各部局・課と委員会で学生生活の支援に対応している。また経済的支援や健康管理、個人情報管理、就職・編入学、さらに留学生の受け入れなどの支援体制も整えられてい

る。

授業のための教材研究、授業展開の工夫などを重要な研究活動と位置づけている。研究報告は、その成果の発表の場として活用されている。また研究費は平成12年度以降増額され、研究意欲の喚起と活動を支援している。研究室とその備品はおおむね充実しているといえる。

教育・研究機能の公開の拠点としてのエクステンションセンターによる多様な公開講座およびセミナーを開いている。また図書館を知の拠点として地域開放している。

学校法人の管理運営全般は、理事長のリーダーシップの下で、理事会、評議員会および監事の業務が機能し、適切な運営が行われている。短期大学の運営全般は、教授会、運営会議、各種委員会などが設置され、学長のリーダーシップの下で運営されている。事務組織は、組織規程などにに基づき整備され、決裁規程などによって業務が執行されている。

事業計画および予算編成は、編成方針の下に学内手続きを経た上で、理事会で決定され、関係部門などに伝達されている。予算管理、資産管理および監査は適正に実施されている。短期大学の財務状況と定員充足率は良好に推移しており、施設設備および管理規程も整備され、適切に管理されている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 人間総合学科は、学生の多様なニーズに応えられるように、免許・資格取得を軸としたユニットを設定して体系的なカリキュラムが編成されている。幼児教育学科は、質の高い保育者の養成に向けた独自のカリキュラム構成がとられている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 退学、休学者数が極めて少ないが、それはアドバイザー制を軸とした指導体制が行き届いていることによるものと思われる。卒業生に対する評価を調査するなど、教育効果を見極めようとする積極的な姿勢がうかがわれる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 教員一人当たり15～20人程度の学生を対象に、学習・生活などの諸問題に対応するアドバイザー制という指導体制を確立して、きめ細かな学生指導を行っている点が特徴的である。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 実学重視の建学の理念を発展的に継承させて地域・時代の変化に対応し、新学科開設

をはじめ意欲的な改革を行っている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅷ 管理運営

- 今後、事務職員の一層の能力向上のためスタッフ・ディベロップメント（SD）活動の充実が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 地域の要請や実情に応じて実践的な知識や技術を教授し、よき家庭人、社会人を育てるといふ建学の精神は、時代の変化に対応して具体的な教育内容や学科全体を改変させながら発展的に継承されている。建学の理念と、平成16年に新たに作成された教育理念および教育方針・教育目標は充分確立して学内外に示されている。既存の幼児教育学科と新設の人間総合学科でも、より具体的な教育目的・目標が検討されている。いずれも教授会や理事会、学科会議などでの点検と、改革のための議論を行う組織的な努力が認められる。
- カリキュラム改革を含めた教育方針・教育内容の見直しと改善については、適宜運営会議や教授会および理事会で検討されている。各学科でもより具体的な教育目的・目標について学科会議などで検討されている。教育方針・教育内容は、印刷物をはじめウェブサイトなどで学内外に示され、新入生にはオリエンテーション時に詳説されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 建学の精神や教育理念、各学科の教育目的・目標にもとづき教育課程が編成され、意欲的な改善が重ねられている。人間総合学科は今日的なニーズに応えられるように、免許・資格取得を軸とした豊富な専門科目群を用意している。幼児教育学科は幼稚園教諭・保育士養成機関として十分な内容、レベルを擁している。さらに質の高い保育者養成のため正規のカリキュラム以外に「実習指導特別研修」を開設するなど工夫が

なされている。

- 各学科ともに詳細な講義概要（シラバス）と手引きが作成され、配布されている。形式も統一され、成績評価の方法、テキストも具体的に示されている。学生ポータルサイトを活用して、シラバスをはじめ各授業のレジュメやレポートの内容が確認できる。
- 平成12年度より全開講科目を対象に、学生による授業評価が実施され、平成17年度に実施された学生の満足度調査と併せて授業改善のための参考資料とされている。授業評価の結果は、教員や学生に開示され、教務部長による分析も行われている。平成17年度には、授業評価の実施体制や評価用紙の改善が行われるなど、努力がみられる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 短期大学設置基準の規定を大きく上回る教員数が確保され、内部の規程・基準に基づいた人事がなされている。すべての教員がアドバイザーとして学生指導に当たるなど、教育活動および学生指導に意欲的に取り組んでいる。
- 施設・設備は充分で、整備も適切に行われ、行き届いた教育環境が整えられて活用されている。
- 併設の四年制大学と共用の図書館であるが、設備や面積、蔵書数は申し分なく、図書館の規程なども整備されている。また、平成5年度より地域開放を実施するなど、図書館活動も活発である。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 単位認定、学習評価の方法はおおむね適切で、資格取得の取組みと実績も充分である。学生の指導体制はアドバイザー制を軸に整えられ、平成17年度入学者の退学、休学者は皆無である。特に人間総合学科は改組前と比べ、退学・休学者数の減少が著しい。また就職部と教員が連携して、教育内容や学生指導などの方向性を探るために、就職先や編入先からの意見聴取と分析に努めている。
- 単位認定、学習評価の方法はおおむね適切で、学生の満足度にも反映されている。免許・資格取得への取組みと実績は充分である。学生の指導はアドバイザー制度を軸に行われ、平成17年度入学者の退学、休学者は皆無であった。

評価領域Ⅴ 学生支援

- アドバイザー制（教員）という当該短期大学独自の学生指導体制により、学生生活はもとより学習上の悩みに対応している。また多様な資格取得のできる人間総合学科は、

「カリキュラムサポートデスク」を教務課に設けて、学習相談の窓口とするなど工夫を凝らしている。

- 業務組織の各部局、各種委員会、さらにアドバイザーなどによって多角的に学生生活の支援を行っている。また「短大生活についてのアンケート」を実施して、学生の声を聞いて、さらなる生活改善を進めている。ほかに奨学金、低利の育英ローン、健康管理センター内に学生相談室を設置するなど多方面からの学生生活支援を行っている。
- 教員による就職委員会と教職員による就職部就職課を中心に就職支援を行っている。しかも就職のための教科を設けたり、ガイダンスなどの就職支援事業を数多く設け、学生が適職に就けるよう指導をしている。また、編入希望学生のための教科も設けている。

評価領域VI 研究

- 授業のための教材研究、授業展開の工夫などを重要な研究活動と位置づけている。研究報告は、その成果の発表の場として活用されている。また研究費は平成12年度以降増額され、研究意欲の喚起と活動を支援している。研究室とその備品はおおむね充実しているといえる。
- 授業研究を教員の研究活動の中心として、教材研究、授業展開の工夫を推進し、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動の円滑化も図っている。

評価領域VII 社会的活動

- エクステンションセンターを設け、オープンカレッジなどの生涯学習ならびに地域交流を推進するプログラムを積極的に企画・実施している。
- 併設の四年制大学と共同して「地震・水害時等のボランティア活動に関する規程」を整備して、学生・教職員のボランティア活動を支援している。また幼児教育学科の学生を中心とした障害者交流クラブ「すくすく」の活動を通して、将来の保育や援助を担う力を養っている。
- 米国ワシントン州オーバー市のグリーンリバー・コミュニティ・カレッジと姉妹校提携をし、少人数ながら毎年短期留学生を派遣している。教員では夏期休業中に国際会議に参加している者もいる。

評価領域VIII 管理運営

- 理事長としてのリーダーシップは、十分に発揮されている。理事会および評議員会は定期的開催されて適切に運営され、監事も学校法人の管理運営が適正に行われている。

- るよう監査している。理事の構成についても、著しい偏りはみられない。
- 学長は理事長が兼務し、教学と経営の意思決定はもとより短期大学運営の最高責任者としてのリーダーシップを発揮している。教授会は定例的に開催され、審議機関として学則第6章に基づいて適正に運営されている。また運営会議を設けて、短期大学の基本方針ならびに計画立案、教授会付議事項の審議を行っている。さらに併設の四年制大学との合同の委員会を含めて各種委員会が設置され、校務を適宜分担している。
 - 事務組織は、事務局長を中心に整備され、また、関連諸規程も整備されている。

評価領域IX 財務

- 事業計画および予算編成は、編成方針の下に学内手続きを経た上で、理事会で決定され、関係部門などに伝達されている。予算管理、資産管理および監査は適正に実施されている。併設校の財務状況に若干の問題はあるが、短期大学の財務状況と定員充足率は良好に推移している。施設設備および管理規程も整備され、適切に管理されている。
- 併設の四年制大学と校地・校舎など共用する部分もあるが、短期大学としての施設・設備は充足し、整備されている。経理規程、固定資産管理規程などの財務および施設に関する諸規程も整備され、適切に管理している。「火災、その他災害発生時の教職員行動マニュアル」も作成して、防犯対策や避難訓練を実施している。コンピュータのセキュリティ対策や省エネおよび地球環境保全対策などにも努めている。

評価領域X 改革・改善

- 平成4年以来、学長直属の自己評価委員会を設置し、自己点検・評価を行ってきたが、平成13年度から全学的な自己点検・評価を実施して、平成14年3月に、『新潟青陵女子短期大学自己点検・評価報告書—現状と課題—』を公表した。
- 自己評価委員会の下に、評価項目ごとに担当委員を指定し、事務局の協力を得て現状と問題点を把握して改善・改革への努力がなされた。その間、教職員の意見も聴取して反映させている。今回の第三者評価終了後に自己点検・評価報告書の公表が予定されている。

新潟中央短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 加茂暁星学園
理事長	登坂 健児
学 長	寺川 悦男
A L O	寺川 悦男
開設年月日	昭和43年4月1日
所在地	新潟県加茂市学校町16-18

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
幼児教育科		50
	合計	50

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

新潟中央短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月29日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

教育課程はおおむね体系的に編成されている。設置学科の性格上、多くの制約があるなかで短期大学としての工夫がみられる。

学生による授業評価、教員間で授業評価を行うなどファカルティ・ディベロップメント（FD）活動に着手しており、授業内容、教育方法の改善に向けて努力する教員の姿勢がみられる。

教員組織はおおむね整備されており、教育・研究業績を蓄積し、教育、研究、学生指導などに意欲的に取り組んでいる。校地・校舎面積は、短期大学設置基準を大幅に上回るスペースが確保され、良好な学習環境にある。図書館については、短期大学設置基準を充足し、計画的に図書購入を行い、整備しており、司書の配置も計画している。

学生厚生委員会が組織され、学生生活全般に対して、支援体制が取られている。退学・休学・留年などの学生が少なく、少人数教育という特徴をいかした学生へのきめ細かい対応がなされている。また、就職指導室および学年担任を中心とした進路支援体制が確立され、情報提供・斡旋が行われており、免許・資格取得率や専門分野への就職率が高い。

入学に関する支援では、全学生に目を行き届かせ、きめ細やかな、手厚い学生支援が全学的な体制で行われている。

学生の社会的活動を設置学科の特徴や教育理念から価値あるものにとらえ、積極的に支援しており、年間を通してよく行われている。

研究に要する研究室、機器・備品などは整えられている。

学校法人の管理運営体制、短期大学の運営体制、事務組織ならびに人事管理は適切に運営されている。また、学外理事を受け入れ地域に根付く学園として認められている。

当該短期大学の状況を踏まえた改革に努めており、現状の定員50名から平成19年度

80名定員とする認可を受けるなど、改革の成果がみられる。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 免許・資格の取得率が高く、それをいかした就職率が高い。また、退学・休学・留年の学生が少ない。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）の採択など、当該短期大学の特徴をいかした細やかな学生指導が行われている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- いくつかの表現の建学の精神がみられるので、現状に合わせて一つにまとめることを検討されたい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 学生の成績評価基準の見直しが望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 教員の研究論文発表についてのさらなる活性化が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 教育目標は入学式、卒業式の折に学長より述べられている。
- 知識、技能、感性にわけて教育目標を定めている。
- 教育目標を現代的に解釈した方がよいと考えられる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 複数の免許、資格の取得が可能であり必須科目が多い中で、短期大学の独自性を出そうとする工夫がみられる。
- 学生便覧にシラバスが組込まれ、授業内容、教育方法および評価方法は明示されている。また学生便覧は事前に学生に配布されている。
- 学生による授業評価、教員間で授業評価を行うなどFD活動に着手しており、授業内容、教育方法の改善に向けて努力する教員の姿勢がみられる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- きめ細かい少人数教育を行い、併せて特色GPに採択されるなど、優れた教育を行っている。
- 教員は教育・研究業績を蓄積し、教育・研究・学生指導などに意欲的に取組み、年齢構成もバランスが取れている。
- 校地・校舎面積は、短期大学設置基準を大幅に上回るスペースが確保され、良好な学

習環境にあるが、校舎の経年化といった課題を抱える。

- 図書館は計画的に蔵書を整備中で、司書配置も近い状況である。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 設置学科と関連した分野への就職率が高い。また、卒業生へのアンケートを試みしており、前向きに取り組む姿勢がみられる。
- 免許・資格取得率や専門分野への就職率の高さや退学・休学・留年などが少ないことから、少人数教育という特徴をいかした学生へのきめ細かい対応がなされている。しかし、学習評価の判定基準の検討が望まれる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 大学案内、募集要項などにより適切な情報提供がなされ支援が行われている。
- 学習支援としては、詳細な内容のガイダンス実施から始まり、個別の指導助言、進度に応じた指導が行われている。
- 学生厚生委員会が組織され、学生生活全般に対して、支援体制が取られている。
- 就職指導室および学年担任を中心とした進路支援体制が確立され、情報提供・斡旋が行われている。
- 入学に関する支援では、全学生に目を行き届かせ、きめ細やかな、手厚い学生支援が全学的な体制で行われている。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究に要する研究室、機器・備品などは整えられている。
- 学外的な研究活動はわずかであり、学内紀要のみの研究成果を見るのみであり、充分であるといえない。一方では研究時間、研究費など制約下にあるが、優れた教育は優れた研究に裏打ちされているとの考えのもとに教員が研究しやすい環境要件などを整備されたい。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 学生の社会的活動については、地域のかかわりの中でよく取り組みがなされている。
- 学生の社会的活動を、設置学科の特徴や教育理念から価値あるものにとらえ、積極的に支援している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 学校法人の管理運営体制、短期大学の運営体制、事務組織ならびに人事管理は適切に運営されている。

評価領域Ⅸ 財務

- 定員は充足しており、平成19年度から30名の定員増も認可されており、中・長期計画では平成20年度から消費収支は均衡する予定である。また、必要な施設設備はおおむね整備されている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 自己点検・評価報告書は平成15年度、平成17年度、平成18年度と報告されている。
- 当該短期大学の状況を踏まえた改革に努めており、現状の定員50名から平成19年度80名定員とする認可を受けるなど、改革の成果がみられる。

金城大学短期大学部

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 金城学園
理事長	加藤 晃
学 長	本田 昂
A L O	東田 修一
開設年月日	昭和51年4月1日
所在地	石川県白山市笠間町1200

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
幼児教育学科		150
美術学科		65
ビジネス実務学科		135
	合計	350

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
福祉専攻	40
	合計 40

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

金城大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月7日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

「全人的教育」をかかげ、日常の具体的な事柄を通して、教育目的、教育目標を、毎朝の教職員のミーティングや学生と教員とのクラスミーティングにおいて伝達している。教育の理念が、抽象的、統括的なものであるため、あらゆる教育活動の中にかき入れ得るものと思われる。

幼児教育学科においては、「社会の要請に応え得る保育士・福祉実践者の育成」を、美術学科は「芸術文化創造の一翼を担い得る基礎能力の育成」を、ビジネス実務学科では、「現代のビジネス社会に対応できる人材の育成」を目指し、それぞれの学生のニーズに応え、少人数クラスによるきめ細かな指導がなされている。特に、ビジネス学科においては、5つのコースを設け、地域の産業や社会の要請を取込む教育課程の作成を行い、キャリア教育への積極的な取り組みがみられる。専攻科福祉専攻の介護職の養成や、留学生別科の設置も、地域および学生のニーズに対応した教育の実施体制と認められる。

クラス担任制による毎日の教員と学生のミーティング、学生の座席指定制、少人数教科の開講など、きめ細かな指導体制がとられ、教育の実施体制には熱意がうかがわれる。教育環境は、併設大学との関係も検討されつつあり、今後有効的活用が期待される。

追試験・再試験の実施により、単位不認定となる学生は少ないが、過去3年間の退学理由を、学生の学力および入学前からの問題の延長ととらえ、各学科ともクラス担任を核とし、保護者との連絡を密にしながら、「実務型の人間の短期育成」を達成するために、資格取得の啓発に努め、指導の徹底を図る努力がみられる。資格取得については、検定数、受験者数、合格者数とも、年々上昇し、指導の成果がみられる。

併設の四年制大学との協力体制で、学生生活全般について、快適に過ごせるよう取り組みがなされている。憩いの空間が設計の段階から配慮され、保健室、食堂、売店、駐車場な

ど、学生の必要に応じて施設が整備されている。

学内紀要が毎年発刊され、美術学科では、各種展覧会への出品や個展など、専門分野における研究活動が展開されている。また、若手教員の研修や研究機会の確保についても支援がなされている。ビジネス実務学科においては、7名の若手教員を中心に、キャリア教育支援事業、地域に対するキャリア教育を2本柱として研究実践を進めている。

平成16年度特色ある大学教育支援プログラム（特色GP）が採択され、「エデュケーション・キャリアカウンセラー養成講座」を開講するなど、専門分野をいかした社会的活動を展開している。

2. 優れていると判断される事項など

（1）優れていると判断される事項

評価領域Ⅱ 教育の内容

- ビジネス実務学科の『キャンパス内におけるキャリア教育～意識変容への挑戦～』など特色ある短期大学教育が展開されている。

（2）向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学生の授業評価の結果を分析、活用して改善につなげる一層の努力を期待する。
- 一般教育の選択の幅を広げ、教養教育充実への努力が望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 専任教員の教育と研究双方の充実のために、研究日の確保が望まれる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 教員と職員の職務内容の整理、役割分担を明確化し、規程に沿った事務処理に努められたい。

（3）早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 短期大学全体として一定の点検がなされている。
- 毎朝の教職員のミーティングや教員と学生とのクラスミーティングを行い、日常的な伝達を通して教育目的・教育目標の共通理解に積極的に取組まれている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育課程が体系的に編成されている。
- 多くの資格取得に挑戦可能なことや少人数クラスの指導など、ニーズに応えるものとなっている。
- 幼児教育学科においては、保育者など、福祉実践力を、美術学科は芸術文化創造の一翼を担い得る基礎能力の育成を、ビジネス実務学科では、現代のビジネス社会に対応できる人材の育成を目指し、それぞれの学生のニーズに応え、少人数クラスによるきめ細かな指導がなされている。特に、ビジネス学科においては、5つのコースを設け、地域の産業や社会の要請を取込む教育課程の作成を行い、キャリア教育への積極的な取組みがみられる。専攻科福祉専攻の介護職の養成や、留学生別科の設置も、地域および学生のニーズに対応した教育の実施体制と認められる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 演習室、実技、実習室など併設大学と同一キャンパスにあり、共用部分の活用もスム

ーズに行われている。

- 図書館は、学生が活用しやすいように配慮されている。
- クラス担任制による毎日の教員と学生のミーティング、学生の座席指定制、少人数教科の開講など、きめ細かな指導体制がとられ、教育の実施体制には熱意がうかがわれるが、教育課程の1科目を、クラス毎週4回、時間を変えて開講し、担当教員が同じ内容を4回行うなど、専任教員の加重負担が懸念される。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 学生の卒業作品が、学内に多数展示されているなど、短期大学の特色と教育の成果がうかがえる。
- 卒業後評価については、専門職就職者数をもとに検討し、就職先からの問題点の指摘を検討するなど、取組みの努力がみられる。
- 各学科ともクラス担任を核とし、保護者との連絡を密にしながら、「実務型の人間の短期育成」を達成するために、資格取得の啓発に努め、指導の徹底を図る努力がみられる。資格取得については、検定数、受験者数、合格者数とも、年々上昇し、指導の成果がみられる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学に関する支援については「手づくりの温かさを持った教育」を基本理念とし、積極的に行われている。
- 学生生活支援体制として、クラス担任制において毎朝ミーティングを実施するなど、きめ細やかな支援体制がとられている。
- 留学生に対する日本語教育の体制が整っている。

評価領域Ⅵ 研究

- 教育活動に重きを置いている中でも、教員の研究活動が全体的には展開されている。
- 美術学科では、各種展覧会への出品や個展など、専門分野における研究活動が展開されている。また、若手教員の研修や研究機会の確保についても支援がなされている。ビジネス実務学科においては、キャリア教育支援事業、地域に対するキャリア教育を2本柱として研究実践を進めている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 社会的活動においては、地域の関係機関、団体とともに研究し、問題提起や情報発信を重要な課題として位置づけている。地域とともに生きる短期大学として教育資源を地域に開放し、提供する努力が認められる。
- 学生のボランティア活動の具体的活動実態を訪問調査において確認し、学生の社会的活動を奨励、支援している。
- アメリカ3大学、台湾2大学、中国3大学との学術交流協定を結んでいる。また、教育の実効性を目指し、留学生別科を設置するなど、国際交流への積極的な努力がみられる。
- 平成16年度特色GP採択事業として、カウンセラー技術を磨くための「エデュケーショナル・キャリアカウンセラー養成講座」（受講者42名）を開講している。美術学科が開学当初より毎年卒業制作展を石川県立美術館で開催し、社会に成果を問うことも行っている。また、地方紙『北國新聞』の「学術の森」欄に多くの教員がシリーズで執筆するなど、地域の短期大学が持つ専門分野をいかした社会的活動を展開している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事長のリーダーシップが強力に発揮されている。法人組織の管理運営はおおむね適切である。
- 事務組織は大学との共通部門が多く、部長・課長職はほとんど兼務であるが、組織としては整っている。教務、学生、入試広報、就職指導の部長には教員が就き、各部に4名の教員が配置され、運営されている。したがって、事務局職員の業務は軽減されている。
- 人事管理においては規程の整備とその運用が鍵となるが、おおむね適切である。
- 重要事項の発案は、理事長、教員の双方からなされ、学科会議で検討されて、理事長が決定している。理事長の指導力により、短期大学の独自性も維持が可能になっている。

評価領域Ⅸ 財務

- 短期大学に必要な施設の整備と管理は適切に行われている。省エネおよび地球環境保全対策に対する取組みとして、ビジネス実務学科が平成17年11月「チーム・マイナス6%（民間団体の環境保全推進事業）」参加の承認を受け、環境意識の向上を図っている。
- 財務運営はおおむね適切であるが、検討されることが望まれる。

評価領域X 改革・改善

- 副理事長をはじめ、全部科長がそれぞれの主管部を担当し、あらゆる部門を全体で討議する形をとるなど、改革・改善に対する一定の努力がみられる。
- 「第三者評価を絶好のチャンスと受けとめ、目標設定、実施結果、考察を続けたい」とし、今、大学が動き始めたと言っている。その記述のとおり、全学的に前向きに取り組む姿勢が感じられる。
- 自己点検・自己評価の実施と報告書の作成に当たっては、学長をまじえた全学的なとりまとめがなされることを望みたい。

仁愛女子短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 仁愛学園
理事長	禿 了修
学 長	禿 正宣
A L O	大西 新吾
開設年月日	昭和40年4月1日
所在地	福井県福井市天池町4-3-1-1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活科学学科	生活環境	40
生活科学学科	生活情報	90
生活科学学科	食物栄養	50
生活科学学科	調理科学	35
幼児教育学科		150
音楽学科		30
	合計	395

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
食物栄養専攻	10
音楽専攻	10
	合計 20

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

仁愛女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月5日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

設立以降、建学の精神・教育理念が貫かれている。教育目的・目標も含め単なる標語にとどまることなく、教育に息づく実効あるものになるよう活字化し、広く配布しており、講義、毎年の点検・改善、ガイダンス、各種行事への盛込みなど、その啓発に実によく努力・工夫がなされている。

教養教育、専門教育ともに教育課程の量的な規模や質的な水準は充分であり、多様な資格取得への配慮もうかがえる。総じて、個々の学生のニーズに応じた工夫が充分にとられている。

専任教員数は、短期大学設置基準に対応した教員数を確保しており、教員を補助すべき助手などの人的整備もはかられている。クラスアドバイザー制を設けて、きめ細かい教育指導体制がとられている。校地面積・校舎面積も短期大学設置基準以上を確保しており、図書館、教室および施設設備なども教育機能を果たすだけの整備がなされている。

在学生への学習・生活上の支援と指導は、クラスアドバイザーを中心にきめ細かく実施され、その結果、退学・休学者も少ない。就職状況も良好であり、就職先からの評価を真摯に受け止め改善にいかしている。具体的な教育目標の達成に努め、かつ学生の質的向上のために短期大学全体で取り組んでいる。

適切な情報提供、公正な入学者選抜、学生生活や進学、就職の支援体制は整備され、またクラスアドバイザーが学習支援に当たりきめ細かい履修指導を行い、サークルの高い加入率にみるように学生のキャンパス内外での生活に対しても支援体制が整備され、実績があがっている。高い就職率は当該地域における人材養成機関としての役割を十分に果たしている。

教員の研究活動はおおむね展開されている。

社会的活動への取組み状況やその促進に関しては、建学の精神を実践すべく各学科に研究センターを設置し、積極的な活動を展開しており、成果をあげている。

各種法令、寄附行為そのほかの規程を遵守し、理事会、評議員会、教授会などの運営が整齊と行われている。また、理事会と教職員、教員と事務職員との連携も図られている。

広い敷地に十分な設備が用意され管理も行き届いている。予算の策定やその執行も手順通りに行われている。また、健全な財務体質が維持されている。

実効ある改革・改善に向けて、全教職員が総力結集できるように、全学体制の充実強化への工夫・努力がなされている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

○ 啓発、共有のための丁寧かつ積極的・継続的な組織的実践がなされている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

○ クラスアドバイザー制を設けて、一貫した教育指導を行っている。

評価領域Ⅴ 学生支援

○ 冊子「充実した学生生活を送るために―自己目標の設定と自己評価の手引き―」を10数年前より発行している。自己目標を設定し、その評価を学生指導の資料として活用している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

○ 各学科に研究センターを設置し、積極的に地域に働きかけ、かつ実践している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅵ 研究

○ 研究業績面で、教員間に差がみられる。特に、若手教員の活性化が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 設立以降、建学の精神・教育理念が貫かれている。教育目的・目標も含め単なる標語にとどまることなく、教育に息づく実効あるものになるよう活字化し、広く配布しており、講義、毎年の点検・改善、ガイダンス、各種行事への盛り込みなど、その啓発に実によく努力・工夫がなされ高く評価できる。
- 教育目的ならびにそれを達成するために、具体的な努力目標が設置3学科ごとに、教育計画に明記されている。また、毎年の教育計画は学科・専攻会議、教授会などで検討・審議され常に点検・改善に取り組んでいる。
- 教職員に対しては毎年度の教育計画策定の検討・審議の過程において理解・共有化がはかられている。その審議結果は理事会に確実に報告されている。また、学生に対しても学期ごとのガイダンス、月1回のアッセンブリーアワー、ミーティングアワーなどを活用し周知徹底を図っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 各学科の専門教育は、教育目標の達成に向けて編成されている。それぞれ独自の学科の専門性を具体化したカリキュラムとなっており、教育内容も短期大学教育として十分な内容を具備している。また、各学科とも教育課程の課題や問題点を的確に把握している。教養教育もその量と質において適切であり、建学の精神に基づく科目とともに、「教養基礎演習」など学生の実態や社会的ニーズに即した科目が開設されている。
- 全体として必修・選択のバランスも適切であり、授業形態に応じた受講者数の適正化

もはかられている。また、各学科の専門教育の特色と専門性に応じた資格の取得が可能である。卒業研究の成果の公表や発表、IT教育の充実、学生の社会的活動を導く科目など、時代の要請に対応した授業改善の工夫に鋭意努力している。

- 学生による授業評価は、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会が毎学期末に実施し、専任教員に評価結果をフィードバックし、研修会での授業研究活動など適切なFD活動に結びついている。非常勤講師とのコミュニケーションも緊密に行っている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 専任教員数は、短期大学設置基準に対応した教員数を確保しており、教員を補助すべき助手などの人的整備もはかられている。クラスアドバイザー制を設けて、きめ細かい教育指導体制がとられている。校地面積・校舎面積も短期大学設置基準以上を確保しており、図書館、教室および施設設備なども教育機能を果たすだけの整備がなされている。
- 校地面積は短期大学設置基準面積を大幅に超え、校舎面積も基準面積の2倍以上を有しており、その整備状況も充分といえる。IT環境の充実をはじめ、教室（実験・実習室を含む）も授業の展開に支障のない室数、設備を用意している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 在学生への学習・生活上の支援と指導は、クラスアドバイザーを中心にきめ細かく実施され、その結果、退学・休学者も少ない。就職状況も良好であり、就職先からの評価を真摯に受け止め改善にいかしている。具体的な教育目標の達成に努め、かつ学生の質的向上のために短期大学全体で取り組んでいる。
- 採用先の企業などにも卒業生調査を実施しており、地域社会から信頼される人材を輩出している。特に「素直さ」、「真面目さ」という面に建学の精神とのつながりが見受けられ、地域社会から高い評価を得ている。また、卒業生の具体的な課題などが明確であり、その評価を教育改善にいかそうと努力している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 適切な情報提供、公正な入学者選抜、学生生活や進学、就職の支援体制は整備され、またクラスアドバイザーが学習支援に当たりきめ細かい履修指導を行い、サークルの高い加入率にみるように学生のキャンパス内外での生活に対しても支援体制が整備され、おおむね実績があがっている。高い就職率は当該地域における人材養成機関とし

での役割を十分に果している。

- 入学志願者には、要覧などのほかに「大学案内—じぶん、自信。」、「仁愛女子短期大学で取得できる主な資格カタログ」で学生像などが充分明示され、また合格者に対しては「ウエルカムレター」や「入学生のみなさんへ」で入学までにしておくと役立つことや入学後の学生生活などを丁寧に紹介し、その支援は充分に行われている。
- 専門スタッフからなる就職指導課や、教員と事務職員からなる就職対策委員会、ライセンス支援委員会を設置して様々な資料などとともに活動を支援している。過去3ヶ年とも就職率は高く、当該地域における養成機関としての役割を十分に果している。

評価領域VI 研究

- 研究設備などの状況や研究紀要の発行など研究条件が整備されている。
- 当該短期大学全体としての研究活動が展開されている。

評価領域VII 社会的活動

- 各学科に研究センターを設け、学科の特性に応じた公開講座、講師派遣講座、各種研究会などを展開している。特に、幼児教育研究センターでは長年にわたって地域社会に向けた機関紙を発行している。
- 専攻学科に応じて、障害者施設、保育所、幼稚園などの行事へ参加している。また、全学的規模で短期大学周辺におけるごみ拾いを行うなど、社会的活動の促進に寄与している。

評価領域VIII 管理運営

- 理事会、評議員会とも適切に開催されている。必要な事項は付議・審議されており、関係法令、寄附行為に沿った運営がなされている。監事も新しい基準で機能している。
- 事務組織は合理的に組織化されており、組織規程や事務分掌規程も整備されている。
- 教員と職員の連携は良好に保たれており、人事管理は適切である。定例的に「学長と語る会」が職員との間でもたれ、教学方針が事務職員に徹底されている。

評価領域IX 財務

- 予算の策定およびその周知は、理事長の方針とその管理下で行われており、予算の執行も決められた手順どおり適正に行われている。
- 施設・設備は良く整備され、校地も快適な環境が保たれている。各学科に必要な特別

施設も十分に用意され、活用されている。

評価領域X 改革・改善

- 短期大学の使命、教育目的・目標の達成のため、実効ある改革・改善に向けて、一部の関係教職員にとどまることなく全教職員が総力結集できるように、全学体制の充実強化への工夫・努力がなされている。また、評価結果を実際に活用し反映させることに留意し、具体的に実践している。
- 自己点検・評価活動を短期大学運営において非常に重要なものと位置づけ、実施組織を編成している。また平成17年度より「仁愛女子短期大学教育計画」を策定し毎年度末に全教職員参加で点検評価をするなど、多くの教職員が関与するよう全学体制の充実に向けて努力している。

山梨学院短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 山梨学院
理事長	古屋 忠彦
学 長	三神 敬子
A L O	清水 智
開設年月日	昭和26年4月1日
所在地	山梨県甲府市酒折2-4-5

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
食物栄養科		150
保育科		130
経営学科		70
	合計	350

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
保育専攻	15
食物栄養専攻	15
	合計 30

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

山梨学院短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月6日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神が明確に示されており学生便覧や種々の行事を通じて学生に周知を図っている。教育目的・教育目標が共通に理解されるための努力がみられる。

短期大学設置基準で定められた専任教員数よりも多くの教員が配置され、学生の教育・指導が適切になされている。また、教育内容を、カリキュラム委員会が検討・見直しをするシステムを構築している。

教員の任用は学内規則に基づいて適切に行われ、短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有し、職務に意欲的に取り組んでいる。併設大学と共用の施設と短期大学固有の施設があり、授業用の機器・備品ともに充実し、活用されており、快適な教育環境を維持している。図書館においても設備、職員の配置などが充実しており、適切に管理運営されている。

卒業生、就職先などへのアンケートを実施し、さらに学生に入学時意識調査と卒業時満足度調査を実施し、2年間の教育効果と教育改善を試みるシステムを構築している。

学生支援体制、施設設備が十分に整備されている。教員は、基礎学力が不足している学生への補習授業を実施し、学習・生活上の問題などについても積極的に学生指導・支援を行っている。

研究活動は、全体として短期大学レベルに達している。

多彩な公開講座の開催など、地域社会との積極的な交流がなされている。また、学生による多様なボランティア活動がなされており、短期大学も進んでバックアップしている。学生・教員ともに海外交流が活発になされており、さらに教員に対しては在外研究員制度が設置されて有効に利用されている。

理事長および学長は、それぞれリーダーシップを発揮し、運営方針や中・長期計画を教職員に示し、将来計画や行動指針を明確にしている。理事会、評議員会および教授会は適

切に運営され、さらに、教職員の意思疎通に配慮した拡大教授会・合同会議を開催している。事務部門の組織は確立されており、教員と事務職員が互いの立場を尊重しつつ緊密に協力する体制が整備されている。

予算編成については、定められたプロセスを経て決定され、適正に執行されている。施設設備、物品などに関する諸規程がすべて完備されている。さらに、経済産業省から「第二種エネルギー管理事業所」に指定され、省エネ・環境保全に取り組んでいる。

平成8年度に学生による授業評価を実施し、平成11年度には教育活動についてまとめた自己点検・評価報告書『個性化への挑戦』を公表している。また、平成13年度に相互評価を実施している。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 文部科学省の平成15年度特色ある大学教育支援プログラム(特色GP)、平成17年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム(現代GP)に採択されるなど、学生の多様なニーズに応える特色ある教育に取り組んでいる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 児童養護施設入所者である学生を対象とした「自立援助奨学金」や「創立者古屋賞」、「スチューデント・オブ・ザイヤー賞」などの学生表彰制度を設けている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 教員による多彩な公開講座や、学生による学科の特性をいかした多様なボランティア活動がなされている。
- 海外研修の一環としての在外研究員制度が設置されて、活発に利用されている。

(2) 向上・充実のための課題

なし

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 創立者の建学の精神が明確に示されている。
- 建学の精神・教育理念をふまえ、全学的に3つの教育目標が明確に示されており、かつ、各学科別に具体的な目標を掲げている。また、毎年カリキュラム点検委員会が教育目標を提案し、拡大教授会で審議・決定されており、点検の努力がみられる。
- 建学の精神・教育目標と教育課程の対策により教職員の共通理解を深め、学生便覧、「教育目標と教育課程の関連」により学生への周知を図っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 短期大学設置基準で定められた専任教員数よりも多くの教員が配置され、学生の教育・指導が適切になされている。また、教育内容の見直しとして、カリキュラム委員会が各科の教員（科内会議）および教務事務職員から、必要な事項について報告を受け、検討・見直しが行なわれるシステムを構築していることは評価に値する。
- 3学科2専攻科別に教育目標が設定され、学科別の教育ができるよう大変よく工夫されている。卒業要件科目である「基礎演習」「卒業演習Ⅰ・Ⅱ」「社会体験講座Ⅰ・Ⅱ」を3学科共通の必修科目として、建学の精神・教育理念を具現化し、しかも10名程度の少人数で行われている。
- ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動、スタッフ・ディベロップメント（SD）活動とも活発に取り組んでいる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員の採用、昇任は学内規則に基づいて適切に行われおり、短期大学設置基準の教員数を充足している。また、教員は教育・研究業績、その他の経歴など、短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有している。教学上の責任体制が確保され、教員は職務に意欲的に取り組んでいる。
- 校地・校舎面積は規定を上回っており、快適な教育環境を維持している。併設の大学と共用の教育施設と短期大学固有の教育施設があるが、いずれの教育施設とも充実しており、活用されている。また、授業用の機器・備品については整備システムが確立しており、十分に設置され活用されている。
- 図書館は、大学との共用施設であるが、図書館の設備、職員配置などが充実しており、適切に管理運営されている。また、学生に対して図書館情報が適切に提供されており、図書館利用の指導も適時行われている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 3学科2専攻とも、おおむね単位認定方法、単位取得状況とも適切に行われている。また、D（不可）判定の学生に対しても担当科目教員が親切に対応し、学生の学習能力向上に努めている。
- 外部からの大学評価方法のひとつとして、就職先の卒業生からの短期大学についての意見聴取、および卒業生へのアンケート調査を実施し、教育、授業方法などの改善努力が行われている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 地域を考慮した入学者選抜方法がとられている。また、入試事務、入学手続者への情報提供、入学者に対するオリエンテーションも適切に行われている。
- 補習授業に学習方法を含めた基礎学力養成の時間を組込むなど、教員が学生の学習支援に熱心に、かつ組織的に取り組んでいる。
- 学生総合支援室、学生相談室、保健管理室などが整備されているとともに、日常の学生生活での諸問題には各学科の科内会議や演習担当教員が深く関与するなど、支援体制は十分に整備されている。
- 学科ごとの進路特性に配慮し、就職指導担当教員を配置するなど適切に進路支援が行われている。

評価領域VI 研究

- 教員の研究活動は、おおむね研究成果をあげていて、『山梨学院短期大学研究紀要』や『経営研究』により研究業績が公開されている。
- 研究に係る機器・備品、図書などは整備され、研究費も相応に支給されている。

評価領域VII 社会的活動

- 地域社会との積極的な交流がなされている。
- 学生による多彩なボランティア活動がなされており、また短期大学側も学内では得られない教育効果に期待して、社会的活動を重視している点が評価できる。
- 学生・教員ともに海外との双方向的交流が活発になされ、また教員に対する在外研究員制度が設置されて活発に活用されている。

評価領域VIII 管理運営

- 理事長のリーダーシップ、理事会および評議員会の開催運営、一部外部者を含む理事構成など、管理運営体制はおおむね適切に確立されている。
- 学長のリーダーシップのもと、教授会、拡大教授会、合同会議を通じて教職員の情報共有が充分になされ、学長の諮問機関である「短期大学教育推進委員会」にもそれがよく反映されている。各種委員会も機能していて、運営体制が適切に確立されている。
- 短期大学事務局と併設大学間との入試、学生指導、就職などの業務に係る連携、および教務に係る業務が中心となる短期大学事務組織は、適切に整備されている。
- 人事管理は、適切に行われている。

評価領域IX 財務

- 予算編成については、定められたプロセスを経て決定され、その決定された予算は各所属長の承認を得て執行されている。また、毎月、「月次収支状況等報告」が作成されて、財務的な跡付けが行われ、また理事長などの確認もなされている。消費支出比率、教育研究経費比率の値もそれぞれ基準値をクリアしている。施設関連支出は法人全体の当該年度の資金収支バランスおよび消費収支バランスなどを勘案してなされている。施設・設備、物品などに関する諸規程がすべて完備されている。さらに、平成17年7月に経済産業省から「第二種エネルギー管理事業所」に指定され、法人全体として省エネ・環境保全に取り組んでいる。

評価領域X 改革・改善

- 自己点検・評価に関する規程は整備されており、各部署の代表を主な構成員とする自己点検・評価委員会を設置している。各部署における点検・評価の取りまとめや報告書の作成はワーキンググループが行っており、平成14年度、平成15年度、平成16年度の実績と評価をまとめて平成16年度自己点検・評価報告書を発行している。
- 教育改革・改善については、自己点検・評価委員会を中心に全教職員が関与して推進している。また、教育課程の改善による教科目内容の見直し、教育内容の充実に必要とされる教科目の新設などの活動実績があり、改革・改善の努力がみられる。
- 平成13年度、平成14年度に名古屋芸術大学短期大学部との相互評価を実施している。今後は、より具体的・実質的な改善の方途を模索している。

飯田女子短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 高松学園
理事長	高松 信英
学 長	高松 信英
A L O	田中 仁
開設年月日	昭和42年4月1日
所在地	長野県飯田市松尾代田610

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
家政学科	家政	60
家政学科	生活福祉	40
家政学科	食物栄養	50
幼児教育学科		100
看護学科		60
	合計	310

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
助産学専攻	5
福祉専攻	20
地域看護学専攻	15
	合計 40

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

飯田女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月7日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

長野県南部地区に存在する唯一の短期大学であり、地域社会における高等教育機関の機能を十分に果たしている。

開学の思想は浄土真宗を基本とした宗教教育を行うことであり、それに基づき建学の精神・教育理念の構築をしている。

教育の内容については、多様な学生の要望や地域性に基づく教育課程がほぼ体系的に編成されている。

また、広大な敷地面積を有しており、教育環境として各学科ともに整備された優れた内容となっている。

学生支援体制はよく整備されている。学生募集活動は、広報委員会を中心として行われ、入学までに高校生活を充実したものとすべくフォローアップ資料を送付し、支援している。

生活指導体制としてはアドバイザー制を始めとして、学生委員会、健康管理室、学生寮などが綿密に指導に当たっている。健康管理室では、臨床心理士によるカウンセリングが行われ、メンタルケアの面で万全を期している。学友会活動も活発であり、学園生活は活気に満ちている。

地域社会との連携は活気に満ちており、生涯学習センターを設置し、また地域社会からの要請に対応できるよう専従職員を配置して社会からの要請に対応している。

理事長が学長を兼務し、強いリーダーシップを発揮しており、明確な運営体制となっている。

財務状況は、借入金や学校債などがない状況であり、消費収支も収入超過であり、現状では安定している。

相互評価を実施しており、また、自己点検・評価結果を活用した教育面での授業改善の努力がみられる。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域V 学生支援

- 学習の礎となる学習ガイダンスは、各学科ともに確実に行われ、各クラスにはアドバイザー（指導教員）が配置され、アッセンブリー・アワーなどで綿密な学生指導が行われている。

評価領域VII 社会的活動

- 地域社会向けの公開講座、生涯教育講座などを主催するとともに地域の行政、商工業、文化団体などとの交流活動を活発に行っている。

評価領域X 改革・改善

- 将来を託す事の出来る若手教員と理事長が、懇談する機会を保持しており、将来に対する問題点や改善点を討議している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域II 教育の内容

- クラス編成の中には、多数の学生を収容している授業クラスもあり、教育効果の面から適正規模の授業運営を検討することが望まれる。

評価領域VI 研究

- 研究日や研究費など、研究環境の充実が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 親鸞聖人の思想を現代的に解釈し、建学の精神として具現化した情操教育を担っており、成果を上げている。
- 教育目的は、学生便覧に明確に表現されており、教育白書（2年に1回）を発行する機会ごとに見直しをしている。
- 教育目的・教育目標については、理事会および教授会で審議検討し、具体的な教育内容に関しては学科会議で討議され、共通的理解を得られるよう努力している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学生のニーズに対応した多様性を有する教育課程であるが、開講科目数が多く、受講生が少数の授業科目も認められる。
- 授業内容は一冊の講義概要としてまとめられているが、この講義概要はシラバスとしてはやや不完全な状況であり、今後の改善が期待される。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教育の実施体制としては、優れているものと考えられ、特に、助手が多く細かな指導に配慮している。
- 図書館として備えるべき蔵書数、閲覧机、椅子などはよく整備されている。図書館司書も専任を2名配置し、図書検索システムもオンライン化されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 授業評価は一部の科目において実施されているだけであり、全授業科目にわたって、授業評価を行うことが望まれる。授業改善は、教員の自主的活動で行われているが、今後、組織的活動として展開されることが期待される。
- 就職支援活動は、進路委員会を中心として、活発かつ積極的な支援活動を展開し、高い就職率を示している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 綿密な学生指導が行われ、その結果として、退学者数は少なく、また、学力の低い学生には補講などの処置を行っている。
- 専任職員を始め進路委員会が就職情報・資料などを作成し、就職・進学情報検索用パソコンを配置し、学生が自由に活用できる状況となっている。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究成果発表手段として紀要が発行されているが、教員数に比して報告数は少ない。学科間あるいは学科内での共同研究には助成金を支給しているが、今後はさらに、教員に対する研究日の確保や個人研究費の充実策についても検討されることが望まれる。
- 分析機器室なども用意されているが、より一層の研究基盤の整備が望まれる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 飯田市教育委員会からの要請で「母と子の親子運動遊び教室」（全11回）を共同主催し、地域に根ざした短期大学として、大きな業績を上げている。
- 地域活動に意欲的な学生達がボランティアクラブを運営し、文化部、運動部を問わず多くの奉仕活動を行っている。地域からの活動要請も多く、高い評価を得ている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 教授会は、人事関連事項（任用・昇格など）を審議する専任教授会および各月に行われる拡大教授会（一般協議事項、運営連絡協議事項）とに分かれている。また、短期大学の事務組織が本部機能を果たしているが、全体として、管理運営の諸組織は緊密に連携しており、学内雰囲気は極めて良好といえる。
- 人事に関する就業規則、給与規則などが完備されており、適正に運用されている。

評価領域IX 財務

- 当該年度の予算執行では関係部・課管理者の意見を聴取し、決定時期および伝達は適正に行われている。日常の出納業務も円滑に行われている。
- 資産および資金に関しては、適正に管理されている。
- 短期大学に必要な施設設備は、整備されており、管理運用の規定化に従って、充分かつ適正に管理されている。

評価領域X 改革・改善

- 平成5年3月に自己点検・評価委員会規程を策定し、自己点検・評価活動の準備を行い、平成12年から報告書を2年毎に発行している。
- 学長を委員長とし、学長に任命された各学科からの若手教員（中核教員）7名および教務課長から構成される将来構想委員会を設置し、改革・改善に前向きに努力している。

愛知学泉短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 安城学園
理事長	寺部 暁
学 長	安藤 正人
A L O	山口 吉男
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	愛知県岡崎市舩越町上川成28

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
食物栄養学科		40
幼児教育学科		80
生活デザイン総合学科		160
	合計	280

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

愛知学泉短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月15日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

創立者の寺部だいの自伝『おもいでぐさ』が出版されており、入学者、非常勤講師全員に配布されるなど、建学の精神・教育理念を具体的に伝えるよう努力している。

教育内容と教育環境の改善に教職員が一体になって取り組んでいる姿勢がキャンパス全体にみられる。

一級河川沿いに位置するキャンパスは緑に恵まれ、清潔に管理されている。学生も明るくまじめで、落ち着いてキャンパス生活を送っており、サークル活動も活発に行われている。教職員との交流も自然体で、日常の教育の実施体制が円滑に行われている。

平成17年度には、卒業生による母校評価のアンケートで満足度を調べるなど、学生の卒業後の評価についても努力している。

全体的にきめ細かな学生への支援が行われている。職場の雰囲気は明るく、対人関係は良好である。

将来計画に基づいて必要な投資が行われていると同時に、改組転換、キャンパス統合を積極的に進めている。

今後さらに、定期的かつ組織的な自己点検・評価のシステムの構築を推進し、また相互評価あるいは外部評価を視野に入れた取り組みも期待される。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

○ 社会の変化や時代の要請に迅速に応え、学則の見直しや改組転換などを積極的に行っ

ている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 全ての教員が「事業計画書」を作成し、その結果を学内に公表している。
- 食物栄養学科において「医事管理士・医療管理秘書士」の資格取得科目を設置している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 授業への欠席が2回以上の学生に対しては、担当教員が適切な指導を行い、退学者を出さない工夫をしている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 岡崎中心市街地活性化事業「サテライトオフィス」へ運営協力をし、社会的活動を積極的にやっている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 幼児教育学科必修科目において多人数クラスの授業が見受けられるので、その改善が望まれる。
- これまでのシラバスの内容を改善し、その充実を図ることが望まれる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- カウンセラーなどの専門家による学生のメンタルケアやカウンセリングの体制を整備することが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神は、明治末期の官尊民卑・男尊女卑の風潮の中で、創立者が女性の潜在能力の無限性を信じ、真心・努力・奉仕・感謝の実践を行ったことを受け継ぐものである。また、教育理念は、庶民性・先見性であって、それらが寄附行為の目的に明記されているとともに、教学・経営両面でその確立に不断の努力を傾注している。
- 建学の精神・教育理念の今日的意義については、理事会で不断に検討され、教育目的・目標については、自己点検評価委員会で点検が行われているほか、教授会などの教学諸機関で全学的に議論が行われている。
- 毎年、予算編成時に教学担当者が教育計画案を作成し、理事会が審議決定しており、このプロセスで教育目的・目標の検証が行われている。また、これらを教職員・学生が共有する日常的な場として授業や諸行事が設定されており、それらの機会を通して理事長、学長が教育目的・目標について周知を図っている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 食物栄養学科、幼児教育学科の教育課程は、厚生労働省・文部科学省の諸規定・基準を充たし、体系的に編成されている。完成年度を迎える生活デザイン総合学科の教育課程についても、ベーシックからオープンまでの7フィールド145科目にわたっており、学生の多様なニーズに対応できるよう体系的に編成されている。
- 食物栄養学科にあっては、特に「医事管理士・医療管理秘書士」科目を設置し、病院栄養士としての職能育成を図っている。幼児教育学科にあっては、実践能力養成のた

めに独自の複合科目「幼児学ゼミナールⅠ・Ⅱ」を設定し、複数担当できめ細かい支援・指導を行っているほか、学修成果を総合的に発表する場として、地域に開かれた「こどもまつり」を展開している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員数は、短期大学設置基準を充たしている。専任教員の年齢構成、教授・助教授・講師の数比もおおむねバランスが取れている。
- 岡崎・桜井両キャンパスの校舎面積は、短期大学設置基準を十分に充たしており、講義室、演習室、実験・実習室などの設備も充実し、活用されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 単位認定の方法は適切であり、成績評価、単位の取得状況も妥当な範囲にあり、教育目標を達成しようとする努力がみられる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 前・後期のオリエンテーションでは、教務委員が科目選択や単位取得などについてのガイダンスを行うとともに、指導教授による履修指導が個別に行われている。
- 学生生活支援については、学生部長を中心とした教員を構成メンバーとする学生部委員会と、事務部門の学生課、教務課、総務課、就職課が連携して支援にあたっている。
- 就職相談室には、2名の専任職員、1名の非常勤職員が常駐し、担当教員と連携しながら支援を行っている。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究成果発表の場として、紀要や大学広報が定期的に刊行されているほか、全教員が年度内の諸活動を報告する「事業報告」の提出が求められている。ウェブサイトでの研究活動などを公開している教員もみられる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 全学を挙げて「まちづくり」をキーワードにして教育活動を展開している。地域社会の要望に応じて、公開講座、生涯学習授業、正規学習を公開している。近隣自治体への各種委員、審議会委員の派遣、市町村主催の研修会、講演会への講師派遣、また、

商工会議所と岡崎地区4大学による「岡崎大学懇話会」において地域活性化のための研究を行っている。

- 大学・短期大学合同のオーケストラの公演活動、学生会の矢作町伝統行事「花の塔」祭への参加、学生ボランティア活動などを積極的に奨励し、学科によりボランティア活動時間をポイント化して単位認定を行っている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 学校法人の意思決定機関としての理事会、常務の執行を統括する常任理事会、理事会の諮問機関としての評議員会は、ともに適切に設置され、運営されている。また、教授会、教学に関わる6つの各種委員会などの校務組織についても効率的に運営されている。
- 大学とキャンパスを共用している短期大学の事務組織は、大学と合同の職員配置で運営されており、教員との連携は円滑に行われ、学生からの信頼も厚い。職員の研修会が毎年行われているが、組織的なスタッフ・ディベロップメント（SD）活動は今後の課題である。

評価領域Ⅸ 財務

- 理事会が策定した中・長期計画に基づく事業と日常業務の予算措置や執行は、適切に行われている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 平成17年度に「学校法人安城学園自己点検・自己評価委員会規程」を定めるとともに、実施組織を整備・確立して本格的に取り組もうとしている。

愛知江南短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 愛知江南学園
理事長	岸 正倫
学 長	中田 實
A L O	松尾 昌之
開設年月日	昭和45年4月1日
所在地	愛知県江南市高屋町大松原172

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
教養学科		70
生活科学科	生活クエパ	75
生活科学科	食物栄養学	50
社会福祉学科		80
現代幼児学科第一部	幼児教育	50
現代幼児学科第一部	地域保育	30
現代幼児学科第三部		40
	合計	395

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

愛知江南短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年6月27日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神・教育理念は確立し、それに基づいた教育目標は全学的に明確に示されており、点検も組織的かつ定期的に行われている。また、学生や教職員、教授会や理事会において教育目標を共有する努力が行われている。

教育課程は教育目標に基づいて体系的に編成されている。各学科・専攻・コースで取得できる資格・免許が多様に用意され、学生のニーズに応えるものとなっている。入学定員や取得できる免許・資格・受験資格について、学科・専攻・コースの単位で細かく見直しが図られ、改革・改善への努力がなされている。学生による授業評価が定期的に行われており、教員の自己評価も行われている。学生の学力向上に対して、全学的に努力がされている。

教員組織などは整備されている。教育環境もよく整備され活用されている。図書館も整備され適正に運用されている。

退学、休学、留年ともに少なく、問題を抱えた学生に対するケアも担任、ゼミ担当教員、学生相談室が連携して対応している。また、良き職業人を育てるという教育目標の達成に向けて、学生を育てる努力がなされている。卒業生の就職先からの評価については、聞き取り調査を実施しており、教育の実績や効果を確認するために卒業生との接触にも努めている。

多様な入試方法、メンタルケアも含む学生の生活支援、さらには学力不足対策、就職への多様な支援など、学内挙げて組織的、かつきめ細かい学生支援がよく行われている。また、学外にも門戸が開かれており、留学生、障害者、社会人、長期留学生などに対する支援体制が機能するとともに充実しており、短期大学と社会人との垣根が取払われ、連携も進んでいる。

研究活動のための条件はよく整備され、教員は研究活動に意欲的に取り組み成果を上げている。

短期大学と地域との双方向連携活動の内容が優れ、人材の交流にいかされ、大学や地域の文化・教育・行政・生活など、多方面の向上に寄与している。また、ボランティア活動が積極的であることもよい。

管理運営体制はすべての面できちんと整備されている。理事長、学長のリーダーシップが高く、その統一の方針に沿って重要課題が決定しやすい体制となっている。

自己点検・評価、相互評価、認証評価の3つを三位一体のものとして認識し、それを計画的に実施することにより、短期大学の改革・改善を進めていこうとする姿勢が認められる。そのための組織もきちんと整備されており、すべての教員、事務職員の参加の下に改革・改善に取り組んでいく体制ができている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 建築・インテリアコースの、1級建築士受験資格（実務経験4年）をはじめとして全学で19の免許・資格・受験資格が取得できる教育課程が用意されており、学生や社会の多様なニーズに応えている。
- カナダのセルカーク・カレッジと姉妹校提携をし、カナダ語学研修、海外幼児教育研修、カナダ4ヶ月留学、海外研修旅行、留学生の受け入れなど、海外研修や国際理解に積極的に取り組んでいる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 各学科・専攻には短期大学設置基準で定める教員数を上回る専任教員を配置し、また助手・副手も置き、教育体制の充実を図っている。
- 外国人教員を採用しており、また、オープン・カレッジの公開授業で、一部の授業を地域の人々に公開している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 担任、ゼミ担当教員、学生相談室との連携のもとに学生をケアしながら、教育目標の達成に全学を挙げて取り組んでいる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 多様な学生支援システム、および外部に開かれたシステムが機能している。

評価領域VI 研究

- 科学研究費補助金などの外部資金の獲得に全学を挙げて積極的に取組み成果を上げている。
- 個人研究費のほかに特別研究費、学長特別奨励研究費が用意され、教員の研究活動を奨励・支援している。

評価領域VII 社会的活動

- 地域協働研究所を設置し、短期大学と地域との双方向連携活動を行っている。

評価領域VIII 管理運営

- 「事務機構と教育組織の相互点検評価アンケート」を実施し、教員と事務職員との連携の強化に取り組んでいる。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域II 教育の内容

- シラバスの充実に努力されているが、自由形式となっている記述内容の統一を図ることが望まれる。

評価領域VIII 管理運営

- 委員会の数が多いように見受けられるので、その目的・機能に応じて整理・統合し、効率的に運営されることが望まれる。

評価領域X 改革・改善

- 余裕のある専任教員や事務職員をいかし、将来にわたる具体的な方策を講ずることが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神・教育理念は確立し、教育目標は全学的に明確に示されており、点検も組織的かつ定期的に行われている。
- 学生や教職員、教授会や理事会において教育目標を不断に確認し、共有する努力がみられる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 各学科の教育課程は「人間性豊かな職業人を育てる」という教育理念を反映しており、それぞれの教育目標達成のために編成されている。教養教育は、豊かな人間性の育成を目指すという教育理念に基づき、各学科において10前後の科目で構成され、学科の持つ専門性の基礎を培うための科目が設定されている。教養科目、専門教育ともに充実しており、短期大学にふさわしい内容とレベルを有している。
- 各学科・専攻・コースで取得できる免許・資格・受験資格が19種用意されており、各学生が目標を定めて学生生活を過ごすことが出来る教育課程になっている。また、受講者の少ない授業も全て開講されており、学生の学びたいニーズに応える努力がなされている。
- 平成17年度から、講義概要とシラバスを分離し、シラバスは各授業の第1回目の授業で学生に配布し、授業計画や授業方法を確実に伝達している。評価は、筆記・論文・実技・実習・口述・報告書（レポート）・作品の7種の評価方法があり、単一的な評価ではなく、授業科目の性格に応じて総合的に評価が行われている。

- 学生による授業評価が定期的に行われている。教員の自己評価も行われている。学生の評価と自己評価に大きなずれが生じた場合には、両者の分析結果を学務部に提出するシステムができており、授業内容、教育方法について自己評価を踏まえ改善に向けた努力がなされている。また、外部から講師を招き授業改善のための研修会を開催するなどファカルティ・ディベロップメント（FD）活動への取組みも行われている。
- 学生の学力低下に対して学科を挙げて、また教員レベルで相当の努力が行われている。少人数制の授業徹底、副手を配置しての個別指導、能力別のクラス編成、ゼミを中心にした学習指導や生活指導の徹底、さらにクラブ活動を基礎技能修得の機会として取組ませるなど、学生指導に向けて多様な方策が講じられている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員の採用、昇任に関する規程はよく整備されており、適切に運用されている。教員の年齢構成はバランスが取れており、専任教員は各業務に意欲的に取り組んでいる。
- 校地面積、校舎面積ともに短期大学設置基準を充足している。各種実習室、パソコン教室、マルチメディア教室などは整備され、またそれぞれの授業を行うための機器・備品も十分に備えられている。学生や教職員の安全性や障害者対応についても配慮されている。
- 図書館の蔵書数などや座席数は在学生数に対して適当である。学生の利用を促す努力もなされている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 単位認定の方法および学習評価は適切である。担任、学生相談室、ゼミ担当者が適切に機能し、退学、休学、留年ともに少ない。また目標を達成することが難しい学生に対するケア（再試験該当者への補講、個別指導、再実習）が充分に行われている。
- 専門職への就職の割合は全般的に高く推移している。卒業生の就職先からの評価については、平成17年度から聞き取り調査を実施している。教育の実績や効果を確認するために、同窓会を通じて卒業生との接触にも努めている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 生活支援、学習支援、教育相談など、学生の心身のケアが行き届いており、学生生活支援がきめ細かく行われている。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究活動が奨励され、教員の研究は意欲も高く、成果も上がっている。
- 研究紀要に査読制度を導入し、第三者による査読を通して研究論文のレベルの向上を図っている。
- 研究活動を活性化するための条件（研究費、研究発表、機器・備品、図書、研究室、研究時間の確保）はよく整備されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 社会活動に対する理念が打ち立てられ、双方向システムにみられるように、社会との連携が機能している。
- 学生によるボランティア活動が意欲的に行われている。
- 学生の留学、他国との交流の受け入れなどが積極的である。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会、常任理事会、評議員会がそれぞれの役割を果たしつつ、学校法人の総括的な管理運営にあたっている。
- 教授会の下に21の委員会が設置され、個別の課題への対応にあたっている。
- 短期大学に必要な施設設備が整備され、適切な管理がなされている。

評価領域Ⅸ 財務

- 定年制の見直しなどで人件費比率の是正に努めている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 自己点検、相互評価、認証評価に対応する組織として、点検・評価委員会が設置され、学長のリーダーシップの下に管理運営、研究、学務の3部会が実務を担っている。また、その報告書は公表されている。
- 理事長、法人事務局長、学長などを中心にして「将来構想委員会」が設置され、改革・改善のための取組みが積極的に進められている。また、すべての教員、事務職員を対象にして「将来構想勉強会」が行われている。
- 平成12年度に相互評価を実施し、その成果を活用するために評価報告書を公表している。

岡崎女子短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 清光学園
理事長	中垣 洋一
学 長	永田 靖章
A L O	長柄 孝彦
開設年月日	昭和40年4月1日
所在地	愛知県岡崎市中町1-8-4

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
経営実務科		100
幼児教育学科第一部		200
幼児教育学科第三部		75
人間福祉学科		80
	合計	455

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
幼児教育学専攻	10
	合計 10

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

岡崎女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月4日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

各学科とも教育課程は体系的に編成されており、十分な免許・資格などの取得への配慮とその実績は高く評価できる。また、充実したシラバスのもとに、たえず授業内容や教育方法に改善の努力が行われている。

教員数は、短期大学設置基準の規定を充足している。バランスのとれた年齢構成のもとに教員の採用や昇任も適切に行われており、各教員はすべての業務に意欲をもって臨んでいる。また、教育実施にあたる責任体制も整備されている。校地面積をはじめ、講義室、演習室、実験・実習室も充分であり、教育環境は整備されている。

教育課程内における資格取得に関しては十分な実績を上げており、それが結果として高い専門職への就職率につながっている。

入学に関する支援、学習支援、学生生活支援、進路支援については適切に実施されている。

教員の研究活動は、活発に行われており、研究業績を上げている。

短期大学としての社会的活動および学生の社会的活動は、活発に推進されている。

理事会などの学校法人の管理運営体制は確立されており、教授会に関しても学則の規定に基づいて適切に運営されている。

財務運営については、おおむね適切に行われている。財務体質も健全に推移している。

平成6年に自己点検・評価のための規程および組織が確立され、以後自己点検・評価を継続して実施している。

2. 優れていると判断される事項等

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 専任教員が年1回授業公開を実施し、「教員相互の授業公開結果の報告書」を作成している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 生活習慣、食生活などに関する調査を実施し、両者をリンクさせ効果的な学生健康指導を目指している。
- 社会人学生の入学金の半額を免除している。
- ノートテイクシステムやリアルタイム音声文字変換表示システムを導入し、障害のある学生への補助を行っている。

評価領域Ⅵ 研究

- 科学研究費補助金をはじめとする外部からの研究に対する補助金の獲得が多く、研究が活発である。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 岡崎大学懇話会、「岡崎市民カレッジ」サテライト・オフィス講座、「21世紀交流サロン・葵丘」など、さまざまな地域社会との交流活動を活発に行っている。

評価領域Ⅸ 財務

- さまざまな学内の意見を取入れながら、中・長期計画を策定し、財務の安定性を目指している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 学科によって、「目標」、「理念」、「方針」など用語の不統一がみられるので、その整合性を図ることが望まれる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 授業担当者間での意思の疎通、とりわけ専任教員と非常勤講師との意思疎通や協力体制を確立することを望む。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 国立国会図書館や他大学の図書館などと相互利用できるシステムの導入が望まれる。
- 幼児教育学科第一部の入学定員超過の状況を改善し、適切な教育条件の保全に留意されたい。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 専門のカウンセラーを配置するなど、メンタルケア体制の充実が望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 教員が自由に印刷機などを利用できる研究施設などの整備が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神は、各種印刷物に示されている。しかし、建学の精神と教育理念をもう少しわかりやすい表現にすることが望まれる。
- 各学科とも教育目的・教育目標は明確であるが、履修要項において、学科により「目標」、「理念」、「方針」などの用語が不統一のまま使用されている。教育目的・教育目標についての点検は、定期的ではなくカリキュラム改正の際に限って行われている。ただし、その手続きは適正である。
- 学生や専任教職員に対する教育目的・教育目標の周知はなされているが、兼任・兼任（非常勤）教員に対しては不十分である。また、教育目的や教育目標を実現し共有するための具体的な施策についての議論する機会を持つことが望ましい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 各学科とも、教育課程に建学の精神が反映され、その内容も教育目的や目標に基づいており、教養教育への取組みもなされ、教育課程は体系的に編成されている。また、教育課程改善への意欲がみられる。
- 各学科の教育課程にはそれぞれの学科にふさわしい免許・資格などの取得への配慮がなされており、授業形態も適切であり、必修と選択のバランスもとれている。また、各学科の授業内容に応じたクラス規模はおおむね適切であり、卒業要件も妥当かつ学生にわかりやすい表現である。しかし、学生のより多様なニーズに応えるために、教育課程外の資格取得に対する指導に工夫が求められる。

- シラバスは、必要にして十分な項目が網羅されており、授業内容、教育方法および成績評価などが学生に明らかになっている。
- 学生による授業評価を毎年実施し、その集計結果が各教員にフィードバックされ、各自が自己点検・評価報告書を作成していること、年1回であるがファカルティ・ディベロップメント（FD）研修会や授業公開が開催されていることから、授業内容や教育方法に改善への努力が認められる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員組織は、いずれの学科も短期大学設置基準で規定する必要教員数を充足している。教員の採用や昇任も適切に行われており、各教員はすべての業務に意欲をもって臨んでいる。教員の年齢構成についてもバランスが取れている。教員の採用、昇任は、当該短期大学教員資格審査委員会規程、当該短期大学教員資格審査に関する内規、教員の採用に関する資格基準に基づいて実施されており適切である。また、教育実施にあたる責任体制は、運営組織図に示されている通り、各学科、教務部長、学長、理事会の流れで整備されている。
- 校地の面積は短期大学設置基準の規定を充足しており、かつ、適切に整備され、快適な環境を維持している。また、講義室、演習室、実験・実習室も充分であり、パソコン教室は、十分な台数の設置と整備がなされている。
- 図書館の蔵書数、面積などのハード面では水準を充たしている。しかし、購入図書選定システムや廃棄システムは確立しているとはいえない。サービス体制で改善のための努力の姿勢がみられるが、学外の図書館との相互利用活動など、今後の取組みが期待される。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 単位認定や学習評価は、各学科ともおおむね適切に行われている。教育課程内における資格取得は十分な実績を上げており、教育目標を達成するための努力がみられる。
- 専門職への就職の割合は高い水準を示している。しかし、就職先や編入先からの卒業生の評価の聴取に関しては特定の学科が部分的に行っている程度であり、制度的、組織的な取組みがなされていない。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学志願者には、『大学案内』および口頭で、建学の精神や教育目的・教育目標などが知らされ、『学生募集要項』においてすべての入試制度がわかりやすく説明されている。

また、広報もしくは入試事務の体制も整えられており、入学試験の流れは公正かつ正確に実施されている。入学手続者に対する授業や学生生活についての情報も適切に提供されており、入学後のオリエンテーションも充分になされている。

- 学習支援は、入学時のオリエンテーションが基本となっており、その後の個別的ケースについては、教職員が一丸となってあたっている。進度の早い学生や優秀学生に対する学習上の配慮や学習支援も適切になされている。
- 学生生活を支援する教職員の組織として、教員においては学生委員会、職員においては学生課職員が相互に協力して学生生活の支援をしている。また、学生が主体的に参画する活動に対する支援体制も確立され、キャンパス・アメニティ、通学のための便宜、経済的な支援、健康管理など、いずれも適切な配慮がなされている。
- 就職支援のための教職員の組織が整備され、各種の就職支援活動が展開されている。学生に専門就職をさせるため適切な資格取得に腐心し、各学科とも極めて高い割合で専門職への就職を果たしており、専門職への就職は万全といっても過言ではない。就職希望の学生だけではなく、進学や留学を希望する学生に関して組織的、制度的サポートが期待される。
- 多様な学生に対する特別な支援は、該当する学生数が少ないこともあり、おおむね現状は適切である。ただ、積極的に多様な学生を受け入れる体制を検討する余地は残されている。

評価領域VI 研究

- 教員個人の論文発表、学会発表など、研究活動が活発であり、その状況は適切に公開されている。科学研究費補助金などの申請と採択も着実に増えている。また、共同研究の成果も充分である。
- 研究活動の活性化のために、研究費は一般研究費および個人研究費が支給され、課題研究費が研究計画に基づいて支出されており充分である。また備品、図書類、研究室、研究日などの研究環境は、いずれも適切である。

評価領域VII 社会的活動

- 短期大学の果たすべき重要な使命の一つとして、社会的活動を地域社会への貢献と位置づけ、地域社会に寄与する教育・文化活動を行っている。具体的には、地域社会に向けた公開講座、生涯学習授業、正規授業の開放などを実施するのみならず、産・官・学の協調活動による新しい産業の創出、地場産業、地域文化の発展支援のための活動を展開しており、社会的活動への取組みが大いに推進されている。
- 学内の各種団体やグループが学科の特質をいかした社会的活動を高く評価し、一層の

参加を促す姿勢を示し、幅広く社会的貢献をしている。

- 短期留学は、夏期海外研修制度があり実績を上げている。長期留学生の派遣や留学生の受け入れに関しては、やや消極的である。海外教育機関との交流は、活発であり双方向的に継続しているが、教職員の留学、海外派遣、国際会議出席などは必ずしも活発とはいえない。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事長は学校法人を代表してリーダーシップを発揮し、規程に基づいて理事会および評議員会が開催されていることから、学校法人の管理運営体制は確立されている。
- 短期大学の運営体制は、理事長および学長のリーダーシップのもとに、講師以上の専任教員で構成される教授会が学則の規定に基づいて開催されており、適切である。また、教育上の委員会も学長や教授会のもとに組織され、それぞれ適切な委員会規程に基づいて運営されている。
- 事務組織はおおむね整備され、事務処理のための情報機器・備品なども整っている。決裁規程に従って決裁処理が適正に行われ、セキュリティ対策も問題はない。ただし、長年にわたり業務組織規程の見直しが行われておらず、業務組織規程の改定が行われないまま業務処理委員会による事務組織などの変更が行われ、実際の業務内容との間にずれが生じている。
- 就業規則、給与規程などが整備され教職員へ周知されている。教員と事務職員との連携や、学校法人と教職員との協力体制についてもおおむね良好である。ただ、現実には事務職員の業務負担増、一部の教員における負担の偏重があり、各部署の人事構成を検討する必要がある。

評価領域Ⅸ 財務

- 財務運営については、おおむね適切に行われている。予算執行に関する書式、承認基準、支払、理事会報告についても適正に執行されている。
- 学校法人の経営状況を示す消費収支のバランスは均衡している。貸借対照表も健全に推移しており、財務体質が安定している。また、資金の維持のされ方や教育研究経費の配分も妥当である。
- 施設設備は規程により整備され、防災・防犯対策も計画が整備され、職員ならびに学生に周知され適正である。防災避難訓練が実施されていないことは問題であり、また購入備品の管理も規程に基づいて行われることが必要である。

評価領域X 改革・改善

- 自己点検・評価の実施体制は確立している。自己点検・評価報告書は毎年刊行されており、全教職員、文部科学省を始めとする関係機関にも配布されている。
- 早い時期から自己点検・評価を実施し、その報告書を全教職員に配布していることから改革・改善に対する積極的な姿勢がうかがえる。
- 相互評価を実施したことはあるが、相互評価に関わる規程や組織の整備は不十分である。

光陵女子短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 栗本学園
理事長	栗本 宏
学 長	栗本 博行
A L O	高橋 順三郎
開設年月日	昭和57年4月1日
所在地	愛知県日進市米野木町三ヶ峯4-4

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
国際コミュニケーション学科		100
	合計	100

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

光陵女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月22日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神・教育理念に基づいた教育目的が明確であり、国際関係の深まりを背景として、様々な面で国際的に通じる女性の育成をめざす教育を目標としている。それぞれの専攻・コースにおいて、学生が身につけるべき具体的な目標を掲げ、志願者動向に応じて教育目標を変更している。改組・コース改編は3年間隔を目安に行うべく、議論されている。

国際を意識した教育課程を構築し、特にIT関連のものは充実している。資格取得への配慮がなされ、専攻・コースや多様な選択科目は学生のニーズに応じている。

パソコンの無償配布や学内無線LANの完備、多数の外国人教員の採用などによって、コンピュータ・リテラシーや英語教育に積極的に取り組んでいる。

単位認定方法は適切であり、各教員は学生の満足度に対応し、授業改善に励んでいる。また、退学、休学、留年などに係わる学生には教職員が十分にケアをしている。

入学試験の志願者へのサービス、新入生の履修指導、在学生の進路指導、および学生生活全般にわたり、同一法人設置の名古屋商科大学との連携のもとで、高度なウェブシステムも駆使して組織的に学生支援が実施されている。

理事長のリーダーシップのもと、同キャンパス内の名古屋商科大学とともに適切に財務管理が行われている。

自己点検・評価への取組みは、その体制が整いつつあり、今後の評価結果の活用や継続的な評価活動が期待される。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 学生に国際感覚を身につけさせようとする多様な取組みがなされている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 2年間にわたるセミナー教育は少人数によるクラス体制で、最終的に卒業論文に至るプロセスとなっており、学生が積極的に参加できる教育内容である。
- 授業評価の結果を教員別、講義別に学内掲示やインターネット上に公開し、講義の改善・向上に役立っている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 外国人の専任教員による専門教育が行われている。
- パソコン活用の授業体系が生まれ、IT教育の実施体制が整備されている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 高度なウェブシステムや名古屋商科大学との一体的連携のもとで、きめ細かな学生支援が行われている。
- 全国各地のアドミッション・オフィサーを活用した入試制度が実施されている。
- 豊富な奨学金を多数の学生に支給している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 国際ボランティア・プロジェクト参加者に渡航費を支給している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 「人格形成」を基盤にした「教養」を短期大学士課程に組み入れることが望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 専攻コースに対応する資格試験の実績を上げるために、教育方法の工夫、改善が望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 教員の研究条件向上に対する一層の配慮が求められる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域住民向けの公開講座、生涯学習授業の一層の充実が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 国際感覚を身につけた自立した日本人女性の育成を願う精神を貫いている。
- 教育目標の点検は学科、専攻コースの位置づけの見直しと考え、毎年の志願者動向を考慮に入れながらカリキュラムの見直し作業を行っている。
- 教育目標はパンフレット、入試要項、新入生オリエンテーション冊子、ウェブサイト、シラバスにおいて周知、徹底を図っている。また、教育目標をキャンパス内に“Mission Statement”として掲示している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 「国際教養」を「現実世界に生起する様々な問題に対して、政治的・経済的・歴史的・地理的・心理的等様々な角度から問題解決に向けたアプローチが出来る」こととして捉えているが、それが学科目はどう反映されているかは必ずしも明確になっていない。しかし、英語科目すべてに専任教員が配置されるなど、教員の配置はおおむね適切であり、授業の単位認定と評価も適切に行われている。
- 少人数クラスでの授業を積極的に取入れ、また選択科目も多く、多種多様な資格取得への配慮もなされている。
- 全講義について学期の終了前に授業内容、授業運営、教授法などの授業評価を行っている。結果は担当教員に返され、教員は講義の再点検と改善をしている。また、授業改善のための委員会組織が設置され、活発に活動をしている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 専任教員 9 名中 5 名が外国人であることをいかした特色のある授業を展開している。オフィス・アワーの実施など、学生指導にも力を入れている。また、教員の年齢構成もバランスが取れており、将来を見据えた教員人事が展開されている。
- 同一学校法人設置の名古屋商科大学と敷地を共用していることもあって、短期大学としては十分な教育環境を有している。また、AV機器が充実している上、学内無線LANを完備しており、ノートパソコンの無償配布とあいまって充実した授業環境である。
- 図書館は名古屋商科大学との共用施設でもあり、AV機器、講堂、演習室などの設備は充実している。図書館が教員から事前にレポート課題を入手し、レポート相談コーナーを設置するなど、活性化の試みがみられる。また、図書館員がシラバスをチェックし、必要な文献を購入するシステムも構築されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 授業の単位認定は適切に行われている。また、単位の取得状況は妥当な範囲であり、担当教員による成績評価は全体的にバランスが取れている。
- 退学、休学、留年などの学生に対するケアは、セミナー担当教員、事務長、教務係職員らが個別の面接を繰り返し、アドバイスを行っている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 事務局の入試係と入試委員会、さらに全国に配置しているアドミッション・オフィサーが中心となって、広報活動から入試の実施に至る業務を組織的に実施している。
- 学内情報はウェブサイトで日常的に提供されており、これが双方向であることから、有効に機能している。
- 教務学生委員会を設置して定期的を開催し、カリキュラム、学校行事、課外活動などについて、日常的に学生支援を行っている。休息空間、保健室、学生相談室、食堂、売店の設置など、学生のキャンパス・アメニティへの配慮もなされている。
- 教員 2 名、事務職員 2 名で就職委員会が構成され、各セミナー教員と連絡を密にして就職支援を組織的に実施している。四年制大学への進学希望者に対しても、就職支援と同様に 1 年生の秋学期から徹底した指導が行われている。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究紀要への発表や科学研究費補助金の採択実績などは充分であり、研究活動は活発

に行われている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 約5%の学生がボランティア活動やインターンシップに参加し、単位認定を行っている。国際ボランティア・プロジェクトにも学生が参加し、学生の社会的活動は促進されている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 同キャンパス内の名古屋商科大学と共同の運営であり、理事会、評議員会は適切に運営されている。また、学長のリーダーシップが発揮されている。

評価領域Ⅸ 財務

- 財務運営など各機能は有効に働いている。財務状況は健全であり、また施設設備は全学的に適切に管理されている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 自己点検・評価体制については、新しい体制が構築されつつあり、点検・評価の成果の活用は今後の課題である。

名古屋経営短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 菊武学園
理事長	高木 清秀
学 長	高木 清秀
A L O	西川 三恵子
開設年月日	昭和40年4月1日
所在地	愛知県尾張旭市新居町山の田3255-5

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
ビジネス実務学科		60
人間情報学科		75
	合計	135

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

名古屋経営短期大学は本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月25日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神、教育理念、教育目的は確立されており、それらを現代社会が求める職業教育にいかす取組みや学長をはじめとする教職員一丸となった学生指導は高く評価できるものである。また、コースの見直し、カリキュラムの点検を頻繁に実施し、現代社会のニーズに合わせる努力がなされている。

教育目標に基づく、実務教育、職能教育、検定資格講座が充実しており、開講科目が豊富である。また「ITリテラシー」と「ビジネスワーク」を総合教育科目（必修）と位置づけ、社会で必要不可欠となっている情報処理能力、ビジネスマナーを積極的に習得させ、即戦力となる人材教育を実践している。

教育環境は、短期大学としては十分な水準を維持していると判断される。特に、図書館や情報処理関係の教育施設の充実、校舎内外の環境整備状況は特筆に値する。

少人数教育が実施されており、授業に対する学生満足度も高い。資格取得のための講座は充実している。

「入学させたら全員卒業させる」をモットーに、学長をはじめ教職員が一丸となって、入学した学生に対し、少人数ゼミナールを中心に就学支援、学習支援、進路支援、留学生支援に力を入れている。また、外国人留学生や自宅外通学者への住宅費補助など経済的支援が充実している。

教員の研究活動については科学研究費補助金による研究活動が行われている。研究活動活性化のための条件整備は、研究費などの支給条件では短期大学の標準的水準であると思われる。研究室の研究環境は十分なスペースと備品が確保されており、各教員への教育研究に対する短期大学側の配慮が感じられる。

短期大学全体あるいは教員の社会的活動は、各種の取組みを通じ積極的に展開されてい

る。ISO14001 認証の取得を含めた「環境管理活動」の取組みは特筆すべき活動である。これらを学生のみならず、地域社会への環境教育、啓蒙、情報発信に繋げて戴きたい。

学校法人、教授会、事務組織は協力連携し、教育活動の円滑化、経営管理の効率化が図られており、理事長・学長は教職員の意見を尊重し教育現場のボトムアップに努めている。

財務運営は適切に履行されている。特に教育研究経費比率が大変高い水準であり、恵まれた教育研究環境が維持されている。

短期大学改革委員会、自己評価委員会が中心となり点検評価活動を行う実施体制、改革・改善のための仕組みが確立していると判断される。その仕組みにより教職員側のボトムアップと役職者側のトップダウンが上手く機能している。今回の第三者評価のための自己点検・評価報告書は、Plan-Do-See サイクルの一環としてのインプット型評価として、前回の自己点検・評価報告書において課題となった部分の改革・改善に努めた結果を表したものであり、自己点検・評価活動の道筋ができたと考えられる。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 学長自らが学生との面談を行い、学生の建学の精神・教育目的の認識理解に努め、教職員と学生との距離が身近なものとなるように取組む姿は高く評価できる。
- 建学の精神の原点として、学内に学園の歴史を示す「タイプライター資料館」を設置している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 実務教育、職能教育が充実しており、学生にわかりやすい授業内容に即した科目名称が設定されている。そのことにより学生一人ひとりの目的・目標に沿った学習が系統的に行えるものと判断される。また、コースの垣根を低くし、学生が学びたい学科目を学習できる点は評価できる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- コンピュータを始めとする情報教育環境は先端的かつ積極的に整備され、その数も学生数に見合ったものが用意されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 資格支援講座が豊富かつ多岐にわたっており、教育目標達成への努力がうかがえる。また、専門職就職が極めて良好であり、地域企業からの教育に対する評価は高いと判

断される。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 外国人留学生や自宅外通学者への住宅費補助をはじめとする経済的支援が充実している。

評価領域Ⅵ 研究

- 科学研究費補助金による研究活動が行われている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 公開講座が文部科学省エル・ネット「オープンカレッジ」に2年連続採択されている。
- 「環境管理活動」(ISO14001認証取得を含む諸活動)に取り組んでおり、環境管理推進委員会の委員に学生も参加し、エコ活動に熱心である。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神・教育理念を組織的に検討、討議し、周知する工夫が望まれる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 「科目内容」(シラバス)の表記方法を統一することが望ましい。
- 学生による授業アンケートの結果は教員間では共有されていると認められたが、ファカルティ・ディベロップメント(FD)委員会などによる組織的な対応、改善活動が必要であり、結果概要を学生に公開することが望まれる。
- 開講科目が豊富に用意されている一方で、科目の厳選を検討することも必要と思われる。また、短期大学士の学位を授与する機関として、学生に学んでほしい主要教科目を明確にすることが必要である。主要科目に専任教員を配置することが望ましい。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- より一層の学生支援と教員の授業充実、研究活動の活発化のために、今後の教員採用時には年齢構成に配慮していただきたい。
- ビジネス実務学科の入学定員超過の状況を改善し、適切な教育条件の保全に留意されたい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 資格支援講座が豊富な一方で、資格取得希望者や資格取得者が少ない。より一層の啓

蒙指導が望まれる。また、卒業生全体に対する就職率を高める余地があると見受けられた。今後は専門職への就職希望者だけではなく、全学生の就業意欲の高揚に努められたい。

- 退学者を減らす具体的方策を検討して戴きたい。特に、留学生に対する支援は種々取組まれているが、より一層の努力が必要である。

評価領域V 学生支援

- 保健室の体制の強化、例えば看護師、カウンセリングスタッフの充実など保健、心理ケア体制の強化が望まれる。
- 外国人受験生に対する就学上の情報提供や入学資格についての留学生への広報体制の充実が望まれる。
- 検定・資格合格率を高めるような組織的で集中的な学習支援体制やリメディアル教育の整備が望まれる。
- 職能教育、実務教育を教育目的と据えていることから、社会人入学制度、長期履修生制度の導入、リカレント教育の実施など多様な教育ニーズに応える工夫が必要と思われる。

評価領域VI 研究

- 共同研究活動を奨励するあるいは研究活動へのインセンティブを与える制度の検討および専任教員の一層の研究発表や研究紀要の充実が望まれる。

評価領域VII 社会的活動

- 実務教育の特色をいかし、専任教員が積極的に参画できる地域公開講座、生涯学習授業、学生のボランティア活動などを一層推進して戴きたい。

評価領域VIII 管理運営

- 的確な判断と速やかな決定を下すため、年5回程度の理事会開催が望ましい。また、理事会、評議員会への監事出席は、決して十分な状況ではない。
- 中・長期の将来計画を審議するための「将来計画委員会」などの常設委員会の設置が望まれる。

評価領域IX 財務

- リース機器の入れ替え、外国人留学生への学費減免措置、管理経費などの消費支出内容の精査と重点化を進め、消費支出のより健全化に努められたい。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 自己点検・評価報告書の中にも記載されているが、授業アンケートだけが自己評価活動ではないとの認識に立ち、多様な点検・評価活動を進めて戴きたい。なお、自己点検・評価報告書の定期的な作成と公表が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 「職業教育を通して社会で活躍できる人材の育成」を建学の精神に据えている。その建学の精神を反映した教育理念は、「学生が主人公」をキーワードに、現代社会が求める理想と現実とに即した職業教育、専門教育を教授し、自主性豊かな人格の形成に努めている。
- 学生への周知は、入学式式辞やオリエンテーション期間内に学長自らが学生との面談を通して、その大切さを伝えている。さらには、基礎ゼミナールの時間内でも学長自身が語る時間を設けている。教職員への周知は、年3回の教職員研修会で実施されている。地域社会の人々に対して教育理念を印刷したメッセージカードを配布し、その周知に努めている。
- 学科内コースに合わせ、実践力を持った職業人を育成するための教育目的を明確に掲げている。しかしながら、三十周年記念誌に示されているような、より具体的で学生が理解しやすい簡潔な教育目的を示すことが望ましいと思われる。また、定期的な点検を行う必要がある。
- 学長面談、ゼミ教員による学生への個別面談のなかで入学動機、目的などの聴取を行い、学生の個別指導にいかされていることは評価できる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 建学の精神・教育目標のもと社会に役立つ職業教育を目指し、学生が意欲を持って履修できる教育課程が組まれている。特に職能教育や検定講座が充実しており、開講科

目数も豊富である。また、学生にわかりやすい授業内容に即した科目名称が工夫されている。ただし、人間情報学科において、学科の主要科目に専任教員が配置されていない状況が見受けられた。

- 専門教育科目（選択科目）の履修は学科・コースを越えての履修が可能であり、学生の多様なニーズに応えるものである。その一方で、自由な選択が可能な分、所属学科の専門科目を系統立てて学修しない状況も報告されており、安易な科目選択に走らない履修指導が望まれる。必修科目は、両学科併せて6科目（うち、4科目は実用英語Ⅰ・Ⅱと基礎ゼミナール・ゼミナールである）と明らかに少ない。選択科目は、原則的に受講学生がいれば開講するとの基本姿勢を持っていることは評価できる。
- 「科目内容」（シラバスに相当）の記載が統一されておらず、学生にとって理解しがたい表記が散見された。授業回数、評価方法などの表記方法を統一することが望ましい。
- 自己評価委員会による、学生による授業評価アンケートが実施され、アンケート結果の速やかな教員へのフィードバックなどの授業改善活動が推進されている。その一方で、組織的なFD活動は十分なレベルに達していないものと判断された。FD委員会を立ち上げ組織的対応を図ることが望ましい。
- 教育目標に基づく、実務教育、職能教育、検定資格講座が充実しており、開講科目が豊富である。また「ITリテラシー」と「ビジネスワーク」を総合教育科目（必修）と位置づけ、社会で必要不可欠となっている情報処理能力、ビジネスマナーを積極的に習得させ、即戦力となる人材教育を実践している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 情報センターを設置し、情報処理関係の施設設備を中心に教育環境は充実し、その管理運営も機能的に行われていると判断される。また、施設全般は機能的に整備され、清潔かつ明るい環境が保たれている。隣接地は用途制限地域であるため、学生用駐車場、学生の憩いの場などの確保は難しい状況にあると思われる。可能であれば、代替地の確保を望みたい。市民開放施設も兼ねて設けられている文化センター多目的ホールの年間利用日数が約20日とのことであり、公開講座や講演会の開催などにより稼働率を高める工夫が望まれる。
- 図書館は併設大学との共用施設であるが、その広さ、蔵書数、閲覧座席数、司書数は短期大学の水準を充たしていると判断される。また、図書予算も水準を上回り、図書選定、購入、廃棄などの管理運営システムも確立している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 教育目標達成のための「学生による授業アンケート」の実施、施設設備の充実、実務

教育充実のための各種検定・資格受験講座の開設、ゼミなどにおける学生個別指導、専門家によるカウンセリングの実施、目安箱の設置など、多様な学生ニーズに対応するべく努力していると判断される。しかしながら、自己点検・評価報告書を見る限り、退学者数は憂慮される状況である。特に退学者に占める外国人留学生の割合が高く、留学生に対する入学選抜方法とより一層のケアが今後の課題である。資格取得のための受験講座は充実しており教育目標達成への努力は評価できるが、資格取得者が少ない。資格取得のための工夫をし、教育目標を具現化するためにも即戦力となる人材の輩出に努力して戴きたい。

- 平成17年度卒業生に対して卒業後1年経過後にアンケートを実施する予定であり、今後の取組みに期待するものである。専門職就職の割合は100%と極めて良好であり、短期大学創立以来1万1千名の卒業生の地元企業における評価は高いものと思慮される。同窓会は設けられているが、短期大学の移転、名称変更、女子短期大学から共学化へ移行した過去の経緯より、その連携は充分でないことが訪問調査時に確認された。より一層の教育充実、卒業生支援、地域貢献のためにも連携を深める必要がある。
- 少人数教育が実施されており、授業に対する学生満足度も高い。その反面、経済的理由、進路変更による退学者の割合が多いことは憂慮される。なお、資格取得のための講座は充実しているので、取得に向けたより一層の学生指導、支援を期待する。卒業生、同窓会との連携も今後の課題である。

評価領域V 学生支援

- 入学者選抜、入試広報、入学予定者に対する情報提供、入学者に対する学習や学生生活支援のためのオリエンテーションは、公正かつ適切に実施されていると判断される。しかし、自己点検・評価報告書において外国人留学生選抜に関する方針および選抜方法が不明であり、留学生が少なからず在籍していることから、外国人受験生へのアドミッションポリシーなどの情報提供、入試広報、募集要項については、一層の充実を望む。
- 少人数教育体制によるゼミナールが毎週実施されている。また、有資格者によるカウンセリングも可能な体制がとられ、学生への個別指導、相談体制は整っていると判断される。
- 短期大学独自の学生に対する住宅費補助（通学時間2時間以上の自宅外学生）、奨学金制度が整備され、留学生には学費減免制度を用意しており、多様な経済的支援のための制度が整っている。キャンパス・アメニティへの短期大学側の十分な配慮は、訪問調査時に確認した。学生ホール、ラウンジ、テラス、売店が設けられ、学生食堂は業者委託で運営されている。

- 就職委員会、就職資料室、資格取得のための検定講座、就職ガイダンスが組織され、教育目的に沿った教職員一丸の就職支援体制が構築されていると判断される。進学者に対する支援体制は、入学時と二年次6月に編入学説明会が実施され、ゼミ担当教員と連携を取りながら個別指導がなされている。
- 外国人留学生については、国際交流委員会が組織され留学生談話室を設け、各種相談・支援に応じている。相談員は在日中国人の非常勤職員が担当している。そのほか、留学生への支援としては、英語補習、住宅費補助、学費減免（既述）が行われている。
- 「入学させたら全員卒業させる」をモットーに、学長をはじめ教職員が一丸となって入学した学生に対し、少人数ゼミナールを中心に学習支援、進路支援、留学生支援を個別的ないし全体的に行っている。また、外国人留学生や自宅外通学者への住宅費補助など経済的支援が充実している。

評価領域VI 研究

- 学科内容が実務教育、IT教育中心であり、専任教員には企業や実業界出身者が多い。そのため、研究実績が少ない教員が若干認められた。グループ研究、併設大学などとの共同研究を奨励するなどの条件整備を行い、制度的に教員が研究に取組みやすい環境づくりが求められる。科学研究費補助金の採択実績が認められた。
- 教員研究費、研究旅費は短期大学の水準を確保しており、その支給規程も整備されている。研究室は十分な面積を確保しており、パソコン、什器、図書などの備品が整い、物的研究条件は充実している。勤務日は週4日、研修日は週1日、担当コマ基準は7コマと、研究時間も確保されている。研究紀要（名古屋経営短期大学紀要）が年1回発行され、研究成果を発表する機会は確保されている。
- 教員の研究活動は活発とはいいがたいが、そのような現状で科学研究費補助金による研究活動が行われている。研究活動の今後の充実を期待したい。研究活動活性化の条件整備は、研究費などの支給条件では短期大学の標準的水準であると思われる。研究室の研究環境は十分なスペースと備品が確保されおり、各教員への教育研究に対する短期大学側の配慮が感じられた。ぜひ、教員には研究環境に甘んじることなく、教育研究活動に励んで戴きたい。

評価領域VII 社会的活動

- 併設大学と共同で地域貢献活動の一環として、各種公開講座の開講、地元自治体との連携講座、市民講座、長寿学園への参画を通じ、地域の短期大学をアピールしている。また、併設大学とともに「環境管理活動」（ISO14001認証取得を含む諸活動）に取組み、学生と教職員を挙げたエコ活動は優れた社会的取組みである。文部科学省

エル・ネット「オープンカレッジ」に公開講座が2年連続採択されている。

- 総合教育科目「ボランティア論」、「手話入門」（いずれも選択）を開講し、科目担当者が切手回収ボランティアなどを学生に呼びかけている。そのほか、ボランティアセンター訪問を通じ、介護体験、一般ボランティアとの懇談を実施している。
- 短期大学全体あるいは教員の社会的活動は、各種の取組みを通じ積極的に展開されている。しかし、公開講座などに係わる専任教員数が逡減傾向にあることから、教員の積極的参加が望まれる。一方、学生の社会的活動、国際交流については、取組みはなされているが、単発的であることは否めない。特に外国人留学生在籍者の15%を越える状況を考えると、継続的、相互交流的な国際交流を一層推進することが望まれる。ISO14001認証の取得を含めた「環境管理活動」の取組みは特筆すべき活動である。学生のみならず、地域社会への環境教育、啓蒙、情報発信に繋げて戴きたい。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会は寄附行為の規定に基づき法人の意思決定機関として機能しているが、その開催回数が年3回となっている。短期高等教育を取り巻く現状を踏まえた時、あるいは、学校法人の現状、将来計画を考慮すると、的確な判断と速やかな決定が求められる。できうるならば、年5回程度の理事会開催を望みたい。
- すべての専任教員が教授会構成員であり、教授会は教授会規程に基づき適正に機能していると判断される。また、今後の課題としては、教授会委員会として「FDに関する委員会」、「短期大学将来計画委員会」が常設されることが望ましいと考える。
- 入試広報、法人本部を除き、事務職員はすべて併設大学との兼務である。そのなかで、教授会、委員会との意思疎通が図られ、教育活動がスムーズに運ぶように配慮されていると判断できる。事務連絡会を毎週設け、事務組織全体の情報共有と効率化に努めている。また、管理運営業務の多様な変化に対応するため、オンザジョブトレーニング(OJT)を継続的に実施し職員の能力向上に努めている。
- 就業規則などの教職員の就業に関する規程は整備され、それらに基づき適正に処理されていると判断される。また、併設大学と合同で「衛生委員会」が組織され、有資格者(産業医)を中心に教職員の健康管理、就業環境の保全が図られている。

評価領域Ⅸ 財務

- 中・長期財務計画は策定されていないが、財務運営はおおむね妥当と判断される。改正私立学校法の規定に基づき財務三表は「学園ニュース」に掲載公開されている。また、利害関係人から請求があった場合には、法人事務局において財務関係諸表ならび

に監査報告書を閲覧に供している。ちなみに、過去閲覧請求があり開示を行ったとのことである。決算終了後の計算書類などは、私立学校法および学校法人会計基準に基づき、適正に作成され、公認会計士、監事の監査も適切に行われている。なお、公認会計士による指摘事項はない。

- 施設設備に関わる諸規程は整備され、適切な管理が行われている。維持管理についても、防災に関わる点検報告、来訪者のチェック、夜間警備の実施、ISO14001活動、教室管理パソコンの盗難防止対策などが適切に行われている。
- 財務運営は適切に履行されているが、財務体質の改善は急務であると判断される。特に消費収入と消費支出のバランスには留意して戴きたい。

評価領域X 改革・改善

- 平成11年度に学内改革委員会を立ち上げ、その後自己評価委員会が組織されている。平成14年3月には、自己評価委員会が中心となり平成13年度自己点検・評価報告書が刊行公表されている。その後、自己点検・評価活動の結果は公表されておらず、今回が二回目の報告書作成とのことである。定期的な自己評価活動としては、 Semester毎に学生による授業評価アンケートを実施し、その結果を冊子に纏めている。FD活動に関しては、現在まで組織的な取組みは行われておらず、向上・充実のための重要な課題として指摘した。
- 今回の第三者評価で、自己点検・評価活動の道筋ができたと考えられる。今後はアウトプット型評価や外部評価に積極的に取組まれることを期待したい。

南山短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 南山学園
理事長	ミカエル・カルマノ
学 長	谷川 義美
A L O	市瀬 英昭
開設年月日	昭和43年4月1日
所在地	愛知県名古屋市長和区隼人町19

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
英語科		250
	合計	250

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

南山短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月25日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

教育目的や教育目標を実現するために、具体的な施策が定期的に検討されている。特に、新入学生の不安を取り除き、目的を明確にさせるための行事である対面式や合宿研修は有効に機能している。また、学科の教育目標に従い、「表現演習系列」、「文化理解系列」、「国際協力系列」の3系列による専門教育のカリキュラムが導入されており、体系的学習によりその目標や目的の達成に配慮されている。この3系列の取組みは評価できる。

授業内容に応じたクラスの規模も適当であり、設置された学科の卒業要件は学生に理解しやすい表現となっている。全体として、よくまとまった教育課程が編成されている。また、授業内容、教育方法改善に対して十分に配慮されている。

機器・備品の整備システムは確立し、授業用の機器・備品も備わっている。短期大学設置基準を超える広い面積を有し、学生に対して適切な環境が整備されている。

就職者数も多く、また卒業後、ほかの四年制大学へ編入する学生の質の高さから当該短期大学の教育目標が充分達成されていると考える。

学生受け入れ、学習支援も、組織として体系的に行われている。また、学生生活支援として、健康面や課外活動、奨学金などの配慮が適切に行われている。進路支援は、就職や進学の両面にわたる支援が充分に行われており、例年、高い就職率の確保がみられる。社会人や障害者の受け入れなど、特別な支援も積極的に行われている。

教員の研究活動は成果を上げており、大学の紀要とウェブサイト上での研究活動の公開も行われている。科学研究費補助金の取得もあり、ファカルティ・ディベロップメント(FD)研修会も奨励されている。また、研究経費の規程の整備、研究成果発表の機会の確保、研究に係る機器、備品、図書を用意、個人研究室や共同研究室の整備、研修日の設定により、研究活動活性化のための条件整備が行われている。

コミュニティ・カレッジ、外国語研究センターの「定例講義」、高校や県教育委員会との連携による「高校生英語オーラル・インタープリテーション・コンテスト」などの開催により、社会的活動への取組みが推進されている。また、建学の理念に基づき、学生のボランティア活動、地域活動が行われるなど、学生の社会的活動が促進されている。さらに、ボランティア活動や交換留学提携により、国際交流・協力への取組みの努力がみられる。理事会、教授会組織が有効に機能し管理運営されている。

学園内で統一的に施行されている経理関係諸規程、基準などにより、予算編成から予算執行まで適正に行われている。また、平成17年度より、学園、監事、公認会計士の三者による意見交換会を定期的に行き、学園の会計および業務の適正な執行について協議している。

財政の安定化を図るため、平成17年度50名の定員増を行った結果、定員充足率もほぼ適正なものとなった。また、現在の学科科目3系列を見直し四番目の系列が検討されている。さらに、中期計画として5年以内に新学科設置の可能性についても検討している。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- フィリピンのストリートチルドレンに対する募金、チャリティコンサート、ベタニア合宿、ホームレスへの炊き出し支援など、キリスト教精神に基づく組織的な実践活動は優れている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教養教育における「音声表現」、「身体表現」、「造形表現」など芸術系の科目の設置、「情報機器の操作」という時代のニーズに合致した科目を設置し、創意と工夫による学生の自己表現能力の伸長などに役立っている。こうした独自のカリキュラム編成は高く評価できる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 利便性のある閑静な場所に学園があり、教育環境に恵まれている。英語科専科という点から配慮して、オーラルイングリッシュの指導のため多くのネイティブ教員が配置されている。国際性という教育目標とも合致し、指導グループの充実は評価すべきである。なお、交換留学についても努力がなされている。
- 教員による教材作成が熱心に行われている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 広報委員会が高校生向けに作成している「南短のほんとうのほんとう」における学生の満足度の集約とその結果の公開は適切である。これは後輩受験生へのメッセージとともに、学生の本音もかかれ、短期大学の評価のひとつである。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学予定者への授業見学会、成績不振者へのチュートリアルの時間の設定、学生生活支援としての「コミュニティアワー」プログラム、学生有志のボランティアによる障害者支援など、特色ある支援活動を実施している。

評価領域Ⅵ 研究

- 通常の研究費に加えて教員の研究を奨励する基金として、「フラッテン研究奨励金」があり、毎年度3名～5名が助成されており、成果もみられる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 県教育委員会後援の「高校生英語オーラル・インタープリテーション・コンテスト」、建学の精神に基づいた学生の諸分野におけるボランティア活動を行っている。

評価領域Ⅸ 財務

- 財務は健全であり、財務情報はウェブサイトと広報誌に掲載し広く公開されている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 相互評価や自己点検・評価などの結果を受け、改革・改善に取り入れている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神、教育目的・教育目標などを達成させるためには、「表現演習系列」、「文化理解系列」、「国際協力系列」という3つの系列の内1つの系列のみによるのではなく、全人的教育観に立って、ほかの系列からも学ばせることを検討されたい。なお、建学の精神・教育理念を具現化するためにも学生の自主的な参加かつ積極的な企画が行われることが望ましい。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 新入生を対象とした図書館ミニツアーは評価できるが、参加者の増が望まれる。また、南山大学図書館とのデリバリーサービスの促進も望まれる。

- 教員の年齢構成に配慮されたい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 評価の観点か、目標到達度に対する評価か、到達経過の評価か、獲得知識の評価か、表現・伝達技能などの評価か、という全学的な評価基準の在り方に対する検討とその集約による教員間の評価基準の在り方について検討されたい。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 監事の業務監査には、教学の運営も含めることを今後検討されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 「キリスト教世界観に基づき学校教育を行う」という建学の理念を基軸として教育理念を周知、理解させるため「キリスト教学」を必修科目とし、総合的に全人的な教育が行われているところに特色がみられ明確に示されている。
- 教育目的・教育目標については「ガイドブック」、「学生便覧」「南山キリスト教教育センター通信」などで周知している。また学生にも入学式、対面式などで周知されており、定期的な点検が「自己点検・評価委員会」の場で随時行われている。
- ミッションスクールならではの行事や施策が多くあり、これらが教育目標など実現し共有するために活用されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 設置された学科・専攻の教育課程に、建学の精神や教育理念が適切に反映され、教育課程改善への意欲も充分であり、組織的な対応もなされている。
- 設置された学科の教育課程には免許・資格などの取得への配慮が適切に行われており、教育課程の授業形態もバランスがとれている。授業内容に応じたクラスの規模も適当であり、設置された学科の卒業要件は学生に理解しやすい表現となっている。全体として、よくまとまった教育課程が編成されている。「表現演習系列」、「文化理解系列」、「国際協力系列」の3系列の取組みは評価できる。また、授業内容、教育方法改善に対して十分に配慮されている。
- 教員間の統一が望まれるが、シラバスの代わりに講義概要などが作成され、授業の概

要を示す十分な内容を有している。それぞれの授業には教科書、参考書などが用意され、また参考文献などが十分に示されている。

- 授業評価は定期的に行われ、教職員全員参加のFDが年2回実施されている。また外国人教師による定期的なFDも実施されている。それぞれの授業の担当教員は授業改善への意欲が高く、その努力が図られている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員の高齢化（平均年齢53才）はみられるが、反面、このことが指導面においてはベテランで指導技術に熟達しているため、プラスになっている所もある。
- 校地および校舎面積とも短期大学設置基準の規定を充足し、校舎の整備も良好で、快適な環境を学生に提供している。また、障害者の受け入れも行われ安全性にも配慮している。
- 図書館の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数および座席数などは、在籍学生数に比し適切であり、年間の図書購入予算も充分である。
- アメリカのカトリック5大学との交換留学提携など国際交流にも熱心である。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- それぞれの授業の単位認定の方法は適切に行われているが、学生の成績評価のシステムやその評価方法と基準、結果の講義へのフィードバックなどが教員個々人の主体性に任せられているので、統一的なものにすることが望まれる。また知識、情報、結果などの共有による授業の内容とレベル、評価システムなどについて相互に検討と見直しを行うことが望ましい。
- 学生の就職の割合は充分である。また四年制大学へ編入する学生は、短期大学2年間で鍛えられ高いレベルに達している。このことは評価に値する。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学に関する支援として組織的な取組みが行われている。（例、オープンキャンパス、入試相談会、私立大学展など）
- 組織として体制的な学習支援が行われている。（例、ガイダンス、補習授業、悩み相談、進度別相談など）
- 学生生活支援について適切に行われている。（学生委員会、指導教員による援助、学生相談室、保健室による相談）
- 就職、進学の両面にわたる支援が、充分に行われている。

- 社会人や障害者の受け入れなど、特別な支援を積極的に行っている。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究活動は、充分に行われている。研究業績、国際的活動、社会的活動などに多くの教員が参加し、成果をあげている。また、その活動状況も公開されている。
- 研究活動のための環境整備は行われている。研究図書費、教育研究補助費、研究出張旅費のほか、各教員の申請に基づいて助成されるフラッテン研究奨励金などがある。
- 科学研究費補助金の取得もあり、FD研修会も奨励されている。また、研究経費の規程の整備、研究成果発表の機会の確保、研究に係る機器、備品、図書などの用意、個人研究室や共同研究室の整備、研修日の設定により、研究活動活性化のための条件整備は行われている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域社会との連携と交流が適切に図られている。(例、卒業生のための定例講義、高校生のためのオーラル・インタープリテーション・コンテスト、一般社会人のためのコミュニティ・カレッジなど)
- ボランティア活動、地域活動、地域貢献が積極的に行われている。
- 外国人への日本語指導を含むボランティア活動、交換留学提携などにより、取組みの努力がみられる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 寄附行為の規定に基づいて理事会（年6回）、常務理事会（週1回）、学内理事会（月2回）が開催され、学校法人の意思決定機関として管理運営体制が確立している。
- 教授会はおおむね月1回開催（平成17年度は年間14回開催）され、学校運営の重要事項を審議、決定している。また、学長を委員長とする「運営委員会」で学校の方針、運営に関する事項について協議、企画立案、問題提起を行い、教授会に提案するなど運営体制は確立している。
- 学園には、法人事務局と各設置校にそれぞれ事務組織があり、スタッフ・ディベロップメント（SD）活動などは法人全体で行われている。短期大学事務室には、専任職員、専任嘱託職員、特別嘱託職員がそれぞれの就業規則、臨時職員は臨時職員規程により適宜雇用されている。
- 教育職員の年間担当時間数は週6コマを基準に調整されている。事務職員は就業規則による勤務時間を基準としているが、超過勤務時間は縮小傾向であるが存在する。健

健康管理は、年1回定期健康診断、毎月1回学校医・産業医による健康相談日を設けるなど適切に行われている。

評価領域IX 財務

- 中・長期計画に基づく事業計画、予算編成方法などが確立されており、予算執行も適切に行われている。なお、資金の管理と運用は法人本部が行っている。
- 主要項目の財務比率は全国平均と比較しよい比率を示しており、財務体質は健全である。
- 施設設備は耐震工事、アスベスト対策、バリアフリー対応などが実施され、環境整備は十分に管理され適切に行われている。

評価領域X 改革・改善

- 教育活動、教育組織、学術研究、管理運営などについて、適切な自己点検が実施されている。
- 29の委員会が設置され、各委員会は担当分野の改善・改革について検討している。平成15年度から学園に内部監査制度が導入され、監査対象校はその監査結果に基づき適切な改善を行っている。
- 平成12年度、13年度に上智短期大学と相互評価を実施し、その評価結果を受け、教育や運営に改善の取組みがみられる。
- 単一学科のため、財政の安定化に向けて平成17年度50名の定員増を行い、定員を充足する入学者数を確保している。また、現在の学科科目3系列を見直し四番目の系列が検討されている。さらに、中期計画として5年以内の新学科設置の可能性についても検討するなど改革・改善に努力している。

華頂短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 浄土宗教育資団
理事長	水谷 幸正
学 長	中野 正明
A L O	田中 嗣人
開設年月日	昭和28年4月1日
所在地	京都府京都市東山区林下町3-4-5-6

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
社会福祉学科		280
生活学科		150
幼児教育学科		150
	合計	580

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

華頂短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月23日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

伝統ある浄土宗の宗門系学校として、建学の精神・教育理念や教育目標はしっかりと伝承しつつも、時代や社会の変化にも対応し、各学科の目標は点検されてカリキュラムを変更するなど適切に具現化している。各学科はそれぞれ特色を発揮して教育効果を上げるなどの努力をしていることが十分に看取される。新生生に対しては、「フレッシュマンの集い」、「マイデビューブック」など建学の精神を理解させる工夫がなされている。

教育課程は、学則を遵守し体系的に編成され、学生に明示されている。また、授業内容、教育方法の改善については努力がなされており、授業評価を毎年度実施するなど、今後とも組織的、継続的な活動を一層展開されることを望む。

教育環境の完成度は高いレベルにあるとすることができる。教員と事務職員との連携がとられ、学生にとっては、非常に快適な学び空間が構築されている。車椅子を使用する学生のための施設もほぼ完備されている。今後計画されている新しい校舎の建築によって、さらに素晴らしい学習環境が実現されると想像できる。教育環境は極めてよい短期大学であると評価できる。

教育目標を立て、その目標の実現に向かって、教職員が常に努力する姿勢がうかがえる。その努力によって、専門職への就職率も高くなっている。さらに資格取得に関しても、各学科の特徴をいかした多様性と柔軟性を兼ね備えた取組みがなされている。

入学に関する支援、入学後の学習支援、学生生活面での支援、そして進路指導と、入学前の情報提供から卒業・就職までに至る支援が充分になされているといえる。

教員の3年間の研究業績からみて研究活動は、おおむね着実に展開されている。研究活動状況は紀要や特定分野の研究報告出版物で公開されている。授業科目や教育実践に関する研究を重視しており、定期刊行物出版助成金制度を設けて研究成果の報告を奨励し

ている。個人研究費、実験室、研究室なども整備されており、研究活動活性化の条件は十分に整備されている。

京都市教育委員会との「学生ボランティア学校サポート事業における学生の派遣」の協定が締結され「みやこ子ども土曜塾」に協力している。宗門学校の特色や信頼関係も相伴って行政各機関、地元諸団体との連携も強く地元貢献や社会的活動は積極的である。

創設以来95年の歴史伝統をいかしながら、平成14年に学校法人浄土宗教育資団と合併し、古い管理体制から脱却し、現代的な学校管理運営へと進んでいる。

学校法人浄土宗教育資団による浄土宗という伝統ある宗教を背景として昭和28年4月より宗門立学校として設立されている当該短期大学は、常に短期大学の発展や改革・改善を追求し、施設などのハード面、カリキュラムや教員の資質向上と熱意ある教育内容のソフト面でともに前進している。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神・教育理念や教育目標をしっかりと伝承しつつも、時代や社会の変化にも対応し、各学科の目標は点検されてカリキュラムを変更し、適切に具現化している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 京都市の「京都市学生ボランティア学校サポート事業」への参加学生に単位認定制度を設けている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 校地の広さおよび立地環境は素晴らしく、短期大学の基準を大きく超えた極めて良好な教育環境を有し、バリアフリー化もほぼ実現している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 同窓会組織が確立している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 特色ある入学前教育プログラムを実施し、また学生サポート事業の一環として「よろずサポート室」などの特別支援が行われている。

評価領域Ⅵ 研究

- 定期刊行物助成金制度を設けて研究成果の発表を奨励している。特に種々の分野の研

究の定期出版物は、学内のみならず広く卒業生や当該短期大学関係者などに配布しており、研究成果を発表する場となると同時に研究活動を活発化させている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 知恩院の設立による宗門学校の伝統と信頼にこたえ、地元および諸公的団体との連携による社会的活動に積極的である。
- 京都大学大学院などの留学生を含む、20カ国の人々と英語でそれぞれの母国の文化について語り合い、交流している。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 短期大学の各委員会や教授会などの改善の要望に対し、理事会はすみやかに反応し、学長と協同しつつ、予算的に担保されれば建物、各施設が早い時期に改善されている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 一部の教員に成績評価の偏りがみられるので、教員間の意思統一を行うことが望まれる。
- 教育目標の達成を判断するための授業評価アンケートの実施回数を増やすことが求められる。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究業績が少ない教員がみられるので、さらなる努力を望みたい。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 学生交換など、海外との交流の促進が望ましい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学精神は「浄土宗宗祖、法然上人の立教開宗の仏教精神に基づいて教育を行うこと」と明確であり、これを反映した教育理念も学則第1条にしっかりと明示されている。
- 教育目標は「仏教精神に基づき、生命の尊さを深く理解し素直に感謝できる社会人を育成すること」と明確にしている。これを受けて3学科がそれぞれの教育目標を定めており、カリキュラムの変更時などには十分に点検してより充実した教育が行われるように努力がなされている。
- 授業計画の作成に当たっては、学科会議などで繰り返し教育目標の確認が行われており、学生に対しても期毎のガイダンスで繰り返し説明して教育目標を浸透させている。
- 伝統ある浄土宗の宗門立学校として、建学の精神・教育理念や教育目標はしっかりと伝承しつつも、時代や社会の変化にも対応し、各学科の目標は点検されてカリキュラムを変更するなど適切に具現化している。各学科はそれぞれ特色を発揮して教育効果を上げるなどの努力をしていることが十分に看取される。新入生に対しては、「フレッシュマンの集い」「マイデビューブック」など建学の精神を理解させる工夫がなされている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教養教育の取組みや総合科目・基本科目の開設など、学則23条に基づいて、各学科ともに体系的に編成されている。
- 各学科ともに多様な免許・資格の取得が可能であり、学生のニーズに応えている。

- 各学科ともに学則に基づいて履修要項、シラバスを作成し学生に明らかにしている。
- 自己点検・評価委員会規程によりファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を展開し、改善への努力がなされているとみられる。また学生による授業評価について5段階評価、4段階評価などの方法を試し、その成果を検証される姿勢は大変評価できる。授業評価は隔年でなく毎年度実施し成果を期待したい。なお、単位認定に関して教員の意思の統一を図る費必要があると考える。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員組織は、運営協議会、学科長等会などで厳格に計画され、短期大学設置基準の教員数の規定を充足している。また、教員は、短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有していることが、聞き取り調査から明らかになった。教員の採用、昇任などにおいても選考基準が整備され、教員の年齢構成も適切である。これらのことを総合的に判断すると、教員組織などは整備されていると判断できる。
- 校地の広さおよび立地環境は素晴らしく、教育環境として申し分ない。また、講義室、各種演習室も、順次計画的に新しくされ、充実した教育環境が整備されつつある。機器・備品などは教学事務部が、点検、整備し、更新、補充を進めている。また、校舎内のバリアフリー化も、一部を除きほぼ実現している。教育環境は、十分に整備され、多くの学生が快適に活用している。
- 図書館は充分なる蔵書数、座席数、広さが確保されている。また、将来の蔵書数の増加に対応した空間、学生が多目的に利用可能な空間を準備し、利用者である学生の視点に立った図書館システムを構築している。施設、書物の管理も極めて細かく計画され実施されている。
- 教育環境の完成度は高いレベルにあるということが出来る。教員と事務職員との連携がとられ、学生にとっては、非常に快適な学び空間が構築されている。車椅子を使用する学生のための施設もほぼ完備されている。今後計画されている、新しい校舎の建築によって、さらに素晴らしい学習環境が実現されると想像できる。教育環境は極めてよい短期大学であると評価できる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- ゼミ担当教員、教学事務部、学生支援センターが連携することによって、教育目標の達成への努力がなされ、常に状況を改善するように努めている。教職員の努力によって、退学、休学、留年などの学生数も年々減少する傾向がみられる。単位認定に関しては、一部の教科目で評価分布に偏りがみられるが、教育目標の達成への努力を多方面から実施している。

- 学生の卒業後評価への取組みの一つとして、採用内定のお礼などで、毎年就職先を訪問し卒業生の就業状態や評価について、直接聞き取りを行っている。同窓会組織も確立し、全国8支部、会員数2万9千人に達し、同窓会のつどいや同窓会報などによって教育の実績や効果を確認している。また、京滋私立短期大学協会などの組織の中心的役割を果たし、この組織の中で卒業生によるアンケート調査を行い集計している。これらの努力によって、幼稚園、保育所、福祉施設などへの専門就職で高い数値を出している。

評価領域V 学生支援

- 入学に関しては、事業管理部入学広報課が組織的な体制の中できめ細かい情報を提供している。また、入学手続き者へは「入学の手引」の数回の発行、入学前教育プログラムの実施など入学後の準備としての支援をしている。
- ガイダンス、フレッシュマンの集い、ゼミ担当者、2年生のアドバイザーなどの説明、そして学習上の支援は、学生支援センターが中心的機能を果たし、様々な問題に対応するなど支援がなされている。特に「よろずサポート室」は特色として挙げることができ、組織的な支援がなされている。
- 学生支援センター、学生相談室、心と身体のセンターの設置、学内施設の20時までの開校、学生休息施設、食堂なども規模は決して大きくないが、ほかの生活環境を加えて十分な整備がなされている。
- 進路支援課、就職指導委員会などが組織的に編成され、ガイダンスや対策講座の開放などの支援がなされている。
- 留学生への授業料の減免、日本語学習の支援、障害者への手話通訳、要約筆記の採用、またノートテイクを実施するなど、多様な学生に対する特別な支援がなされている。

評価領域VI 研究

- 教員の3年間の研究業績からみて研究活動は、おおむね着実に展開されているといえる。研究活動状況は紀要や特定分野の研究報告出版物で公開されている。授業科目や教育実践に関する研究を重視しており、定期刊行物出版助成金制度を設けて研究成果の報告を奨励している。個人研究費、実験室、研究室なども整備されており、研究活動活性化の条件は十分に整備されている。

評価領域VII 社会的活動

- 知恩院の設立した宗門学校のため、地元商店街、町内会の門前町との交流やボランテ

ィア活動も盛んである。学園祭「華頂祭」では地元との一体感がみられる。

- 学校行事での学生の積極的参加は勿論、地域や地域の行政や諸団体とも密接に連携しつつ学生の社会活動を積極的にバックアップしている。
- 京都大学大学院などの留学生が、当該短期大学生と英語を使いながら母国の文化や風土を話す「20ヶ国の人達と話そうプログラム」に参加している。当該短期大学から短期アメリカ・カリフォルニアへの留学体験も実施している。
- 京都市教育委員会と「学生ボランティア学校サポート事業における学生の派遣」協定が締結され、「みやこ子ども土曜塾」に協力している。宗門学校としての特色やそれへの信頼関係も相伴って、行政各機関、地元諸団体との連携も強く、積極的に活動している。クラブ活動やボランティアも活発である。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事15名の中から選任された理事長を頂点とし、毎年3〜4回理事会が開催されている。学校経営について、確固たる組織で管理運営がなされている。重要事項の審議には常務理事会が月1回開催され運営の円滑化を図っている。
- 月例の教授会と臨時の教授会が年間16〜17回開催されている。学科長等会、人事教授会、教学委員会など諸会議で教職員の意見が十分に吸収でき、短期大学の運営、教育学問についてともに討議が実施されている。
- 事務組織規程、事務分掌規程が整備され、さらにこれを組織図で明示している。ただし、兼務の教職員も数多く、教職員の勤務時間にはかなり負担が大きいのではないかとと思われる。
- 教員採用には、専任はもとより非常勤教員に至るまで厳格な資格審査が行われている。就業日および時間は1ヶ月の変形労働時間制を採用している。また教員には毎週1日の学外研究日を認めている。

評価領域Ⅸ 財務

- 中・長期計画に基づく授業計画と概算予算が策定される中で、毎年中期計画を柱として見直しを実施、修正している。予算は各单位から提出され、財務室および予算管理部を通じ予算原案を作成、3月の評議員会、理事会で審議決定となる。
- 毎年の収支の状況は均衡がとれているが、基本金に組み入れる設備機器、備品、図書などの購入が多いため支出超過の年度が続いている。
- 平成20年度完成の増築工事の計画が進められているが、施設備品管理のため諸規程が定められ、基準以上の設備・備品、図書、物品類がよく整備管理されている。
- ここ数年入学する学生数は減少がみられるので、教職員一丸となつての経営全般にわ

たる努力を期待したい。

評価領域X 改革・改善

- 自己点検・評価委員会規程を整備して自己点検・評価委員会を設置し、各セクションで点検活動が進められている。
- 各種担当委員会、教員側、事務側も学生の教育環境指導のために誠実に具体策を構築しており、学長の強力な指導力により実行していくシステムが学内に作動していることが看取される。
- 『華頂短期大学自己点検・評価報告書』が平成13年2月と平成18年6月に刊行され、ともに短期大学評価基準の評価項目全部について詳述している。
- 当該短期大学は、短期大学の発展や改革・改善を追求し、施設などのハード面、カリキュラムや教員の資質向上と熱意ある教育内容などのソフト面でともに前進している。

京都医療技術短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 島津学園
理事長	矢嶋 英敏
学 長	高橋 隆
A L O	笠井 俊文
開設年月日	平成元年4月1日
所在地	京都府南丹市園部町小山東町今北1-3

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
診療放射線技術学科		80
	合計	80

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

京都医療技術短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月25日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標について、単一学科の短期大学であるため、それぞれ一体的に位置づけられており、大学案内、学生便覧などに的確に示され、学生の理解のため、入学時のオリエンテーションなどの機会に明確な説明がなされ、また、教職員についても教員会議などにおいて互いに再確認をしていることについて、自己点検・評価報告書でも訪問調査でも説明を得ることができた。さらにそれらの定期的な点検などについては学長を委員長とする自己点検・評価委員会で組織的な点検が可能な体制となっている。

教育目的・教育目標はその達成に向かって、おおむね教育課程表に反映されており、また教育内容・方法の改善の姿勢もみられる。

教員組織は、短期大学設置基準を充たしており、また、教育施設・設備は良好に整備されており、教育環境はおおむね良好である。

当該短期大学の教育は、診療放射線技師養成教育であり、その目的達成のため、全学をあげて努力している。その結果、多くの放射線技師が社会に出て指導的立場で活躍していることは、大いに評価ができる。卒業生との接触、同窓会との連携については、就職懇談会や全国18地区にある同窓会に教員が毎年、出席し、卒業生・同窓会と接触していることは高く評価することができる。

入学に関する支援、学習支援、生活支援など学生支援の取組みや体制は、基本的な要件は充たされていると思われる。とくに放射線取扱主任者試験の勉強会は専任教員のボランティア的指導の下、約10ヶ月間、実施されていることは高く評価できる。

研究については、科学研究費補助金を毎年2件以上も採択されるなど外部からの研究資金を得ていることや学外での国際会議や学術会議での研究活動は充分に行われている。

国際交流・国際的活動への取組みは、海外教育機関などとの交流を増やすべく、かなり積極的に行われている。

管理運営については、理事会、常務理事会の開催などその運営の改善が進んでおり、教授会の運営も、教授会の開催に先立ち、専任教員全員が出席する専任教員会議を開催するなどし、学長のリーダーシップのもと教授会も運営され、おおむね良好である。

財務については、財務運営がおおむね適切に行われ、入学定員も充足しており財務体質も良好であると判断される。

改革・改善については、今回第三者評価を受けたことも含め、相互評価や短期大学評価の重要性を認識し、その結果を改革改善に向けて取組む姿勢が感じられる。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 我が国の最も古い伝統をもった診療放射線技師養成校であり、建学の精神と技術開発に重きを置いた島津創業記念資料館の見学と、2月10日に行われるレントゲン博士の命日のレントゲン祭に学生を参加させている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 卒業生は全国に広がり、学友会、支部活動も活発に行われている。日本放射線技術学会や日本放射線技師会での会長や理事、監事として就任し、社会的評価が高い。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 診療放射線技師国家試験の合格のため特別な授業を行うと同時に、放射線取扱主任者試験のための勉強会を開催していることは、特記すべきである。

評価領域Ⅵ 研究

- 短期大学から研究費を支給することなく、外部からの資金導入を行っており、かつ、科学研究費補助金を毎年2件以上もらっていることは高く評価できる。
- 研究室、実験室なども整備されている。

評価領域Ⅸ 財務

- 財務は健全で安定しており、借入金もほとんどない。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- ほぼ全員の教職員が参加して相互評価や第三者評価を受けており、改革・改善の成果

が上がっていると判断される。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教養教育についてはすでに工夫をされているが、さらなる充実を期待したい。学生の授業評価アンケートについては、授業内容、方法の改善に資するようその活用が望まれる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 助手がおかれていないので、実験実習の多い学科の性質上、助手・補助職員の採用が望ましい。
- 専任の司書を配することや図書廃棄システムを整備することなど、図書館サービスについて充実が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 卒業生に対するアンケートが現在中断されているが、就職先での卒業生に対する評価を聴取するなど学科教育へ反映させることが望ましい。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域社会との交流の施策の検討が望まれる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会開催に際し、半数が委任状出席のケースがみられるので、委任状出席者の減少に努力されたい。
- 職員の研修には平成18年度から予算措置がされたが、スタッフ・ディベロップメント（SD）活動のさらなる充実を図ることが望まれる。
- 非常勤者の就業に関する規定の整備を望みたい。
- 消防訓練を行うことや避難訓練の質的向上が望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神・教育理念は単一学科の短期大学であるため一体的に位置づけられており、資料などに的確に示されている。
- 教育目的・教育目標は両者ともほぼ重複する内容であるが、明確に示されており組織的な点検が可能な体制となっている。
- 教育目的・教育目標を学生や教職員が共有するために具体的な施策がなされており、理事会と教授会との関係も連動している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育課程は厚生労働省の指定規則に準拠しており、おおむね体系的に編成されている。
- 診療放射線技師資格取得という学生のニーズに応えている。
- 授業内容や評価方法は学生便覧に掲載された授業要旨により学生向けに示されている。
- 国家試験対策に向けた授業内容、教育方法の改善の努力がうかがわれる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員数は短期大学設置基準に合致している。
- 校地・校舎は短期大学設置基準を充足している。諸々の施設・設備は良好に整備されている。
- 図書館の蔵書数はおおむね確保されているが、図書施設はさらなる充実が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 資格取得を目的とした教育内容・教育体制であり、その目的達成のために全学をあげて努力している。
- 卒業生の中には放射線技師として社会的に指導的な立場の人々が多数みられる。
- 就職・編入学の説明会・懇談会などで、卒業生・同窓会との接触が毎年行われていることは評価すべきである。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 大学案内、募集要項が整備され、公正な入学者選抜が行われている。
- 学習支援のためのガイダンスや印刷物の発行は行われている。
- 学生委員会と事務課が連携して学生指導および厚生補導が行われているが、なお、キャンパス・アメニティやメンタルケアに配慮されたい。
- 就職支援、編入希望者への支援は充分に行われている。

評価領域Ⅵ 研究

- 学外での国際会議および学術会議での研究活動は活発に展開されている。
- 教員の研究旅費はあるが、短期大学独自の研究費の支給や研究紀要などの条件整備が望まれる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域に向けた公開講座や学生による社会的活動は若干行われているが、積極的に促進することが望ましい。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会の開催回数は少ないながら年度を追って増えてきており改善が進んでいることが認められる。
- 専任教員会議があり、その上に教授会が設置されており短期大学運営体制が適切に確立されている。
- 事務職員数、事務処理のための機器および諸規程ともに充分整備されている。
- 就業規則が整備されており、それに基づいて人事管理は適切に行われている。

評価領域IX 財務

- 財務運営はおおむね適切に行われていると判断される。
- 必要な施設設備が整備され、その管理は適切に行われている。
- 定員も充足しており財務体質も良好であると判断される。

評価領域X 改革・改善

- 自己点検・評価委員会が組織され、報告書も公表されている。
- 自己点検・評価委員会を中心としてそのほかの各種委員会がそれに連動しており、ほぼ全員の教職員が参画している。
- 川崎医療短期大学と平成14年に相互評価が実施されている。
- 今回第三者評価を受けたことも含め、相互評価や学部評価の重要性を認識し、その結果を改革・改善に向けて取組む姿勢が感じられる。

京都嵯峨芸術大学短期大学部

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 大覚寺学園
理事長	坂口 博翁
学 長	三好 郁朗
A L O	佐野 仁志
開設年月日	昭和46年4月1日
所在地	京都府京都市右京区嵯峨五島町1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
美術学科		250
	合計	250

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員	
デザイン専攻	20	
美術専攻	30	
	合計	50

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

京都嵯峨芸術大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月6日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

「建学の理念」、「学園の使命」などを明記した「教育憲章」や、短期大学部および専攻科についての教育目標も明確である。また、それらの点検・検証のプロセスも確立されており、学生、教職員への周知のための工夫や努力が認められる。

教育課程は体系的に構成されており、多様な学生のニーズへの対応もなされ、授業改善への意欲が認められる。

校舎は短期大学開設以来から、大学の拡大に従って増設されており、建替えも予定されている。教員組織、教育環境はおおむね整備されている。

授業評価や授業の満足度調査を実施して教育成果を検証していることは評価できる。卒業生に対する満足度調査は期間を定めて継続的に実施することが望ましい。専攻科の教育目標はおおむね達成されていると思われる。退学者、休学者および留年者は、履修方法の変更や個別指導の導入より減少傾向にある。

進路支援については編入や専攻科への進学数が多く、その体制は整っている。短期大学独自の奨学制度を設けていることは評価できる。

研究発表、作品展の開催など研究活動は活発に展開されている。大学の支援体制も充分である。講義系教員には個室、実習系教員は大部屋であるが、作品制作に必要なスタジオ、暗室、木工室、金工室、ロクロ成型室、陶芸炉室などが整備されている。

社会的活動については大覚寺学園教育憲章「学園の使命」の中に明確に謳われており、芸術系であることの特殊性や京都という立地を大いに活用して社会的活動は極めて活発である。学園母体の大覚寺の諸行事にも教職員、学生は積極的に参加して地域貢献に努めている。海外美術研修も既に定例化しており、専攻科においては短期留学の単位化が実施されている。公開講座活動は「京都嵯峨野文化サロン」の毎年10月の開催、生涯学習講

座を20回程度開催、さらに連続講座「京の美意識」の開催と極めて活発である。また、小・中学校や高等学校への作品指導などに取組んでいる。学内博物館・ギャラリーで開催される展覧会の一般開放も行っている。

理事会は寄附行為に従って管理運営を適切に行っている。学長のリーダーシップはしっかりしており、教職員の短期大学運営への意欲が感じられる。

財務管理は適切に行われている。今後の厳しい環境への対処のために中・長期の財政計画、事業計画の策定を予定していることは評価できる。

自己点検・評価委員会に加えて、学長諮問機関である「大学評価会議」において自己点検・評価の結果を検討するシステムが機能しており、改革・改善、将来計画にも対応している。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 博物館、美術館などの団体鑑賞により美意識の向上を図っている。
- 一般向け連続公開講座「京の美意識」に学生の参加を促している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館にて地域子供向けイベント「あらし山びこ」を定期的開催している。

評価領域Ⅵ 研究

- 学内に附属ギャラリー、博物館が整備され、教員や学生の作品発表の場が保障されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域の特性をいかした様々な形態の公開講座を開催している。
- 地域社会（商店街）の活性化など学生の参加が活発である。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 「大学評価会議」を学長諮問機関として設置しており、その機関が改革・改善、将来計画に対して機能するとともに、学長のリーダーシップを担保している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 当該短期大学の教育目標に合わせた選択系各科目群の精選が早急に求められる。語学科目の記号表記について改善が求められる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 教育目標・目的の達成を目指したカリキュラムの精選とスリム化について検討されたい。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 就職率は向上しつつあるが、就職希望者に対しては、さらなる就職支援を行うことが望ましい。

評価領域Ⅸ 財務

- 人命尊重の観点から避難訓練を早期に実施されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 宗教法人大覚寺を母体として昭和46年に短期大学が設置され、平成13年度に大学を設置して既存の短期大学を大学短期大学部の名称に変更した。建学の精神・教育理念は、平成15年度に制定した大覚寺学園「教育憲章」の中で明確にされている。また、それらの点検・検証のプロセスも確立されており、学生、教職員への周知のための工夫や努力が認められる。
- 大覚寺学園教育憲章に明確に謳われているとおり、短期大学部の教育目標・目的は美術学科、専攻科それぞれ明確である。これらの見直しについては、学長の発議による教授会での協議というプロセスが確立している。
- 学生に向けては入学時における理事長法話、学長スピーチ、「大覚寺見学会」などで、教職員に対しては「月例法要」への参加などで建学の理念の理解を深めている。教育目標・目的については、学生必携やシラバスなどに記載することにより周知に努めるとともに、必修科目「教養ゼミ」においてその浸透に努めている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育課程は体系的に構成されており、多様な学生のニーズへの対応もなされている。ただし、選択系各科目群に配置する科目数が必要以上に多いので、教育理念、教育目標・目的に沿って精選する必要がある。一方で、社会貢献に関わる科目の単位化なども検討事項として俎上に上っており、授業改善への意欲が認められる。
- 各科目群に十分な科目が配置されており、学生の多様なニーズに対応したメニューに

なっている。

- シラバスで授業概要、授業計画、評価方法および参考図書などが明示されている。
- 学生による授業評価、授業の満足度調査などにより、授業内容および教育方法が点検され、改善に努力している。また、語学や情報処理などで習熟度別の導入が検討されており、単位互換制度は大学学部および大学コンソーシアム京都との間で確立されている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 講義室、情報処理習室、美術、デザイン系実習室はおおむね整備され、充分活用されている。さらに図書館は教養、専門分野ともその蔵書数は充分確保されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 授業評価や授業の満足度調査を実施して教育成果を検証していることは評価できる。ただし、専門分野の演習実習はおおむね単位取得されているが、教養系や専門分野での講義系の不可認定率と履修辞退率については、カリキュラムの点検が求められる。卒業生に対する満足度調査は期間を定めて継続的に実施することが望ましい。専攻科の教育目標はおおむね達成されていると思われる。退学者、休学者および留年者については、履修方法の変更や個別指導の導入より減少傾向にある。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 建学の精神、教育目標、育成しようとする人材など大学案内、募集要項、ウェブサイトに適切に明示されている。入学時にシラバスや保健室たよりなどを配布し、オリエンテーションも適切に行われている。
- 入学時のオリエンテーションのほか、各学期に履修ガイドを実施している。チューター制の導入や教養ゼミによって、文章表現や一般常識など基礎的学力の向上に努めている。
- 学生生活支援は、教員組織としては学生部委員会、事務組織では学生課が対応し、必要に応じて教授会で協議するなど体制は確立しており、学友会やアンケートにより学生の意見を聴取している。
- 就職はキャリア支援センターならびに学生部委員会が対応している。企業訪問を実施している。編入対策としてガイダンスおよび個別指導を実施している。
- 留学生対応として個別対応、下宿の斡旋などを行っている。
- 社会人対応として、社会人学生のクラブ「活き粋倶楽部」の作品展示などを支援して

いる。

- 進路支援については編入や専攻科への進学数が多く、その支援体制は整っている。就職希望の学生に対しては、一層の努力が求められる。留学生、社会人の入学数は少ないがその支援には心をくわいて対応している。短期大学独自の奨学制度（授業料の1/2相当額）を設けていることは評価できる。

評価領域VI 研究

- 研究発表、作品展の開催など研究活動は活発に展開されている。研究活動や作品発表に対する大学の支援体制も条件も整備は充分といえる。講義系教員には個室、実習系教員は大部屋であるが、作品制作に必要なスタジオ、暗室、木工室、金工室、ロクロ成型室、陶芸炉室など整備されている。週4日の登校制となっており、研修日は確保されている。外部資金の獲得に向けての取組みが期待される。
- 研究活動の活性化のために、学内組織「芸術文化研究所」による研究課題の募集と、採択課題への研究費の給付制度がある。紀要の発行、作品展のウェブサイト、ダイレクトメール、ポスターによる広報も活発である。

評価領域VII 社会的活動

- 社会的活動については大覚寺学園教育憲章「学園の使命」の中に明確に謳われており、芸術系であることの特殊性や京都という立地を大いに活用して社会的活動は極めて活発である。学園母体の大覚寺の諸行事にも教職員、学生は積極的に参加して地域貢献に努めている。海外交流も既に定例化しており、専攻科においては短期留学の単位化が実施されている。公開講座活動は「京都嵯峨野文化サロン」の毎年10月の開催、生涯学習講座を20講座程度開催、さらに連続講座「京の美意識」の開催と極めて活発である。また、小・中学校や高校への作品指導などに取組んでいる。学内博物館・ギャラリーで開催される展覧会の一般開放も行っている。
- 社会的活動は京都市商工会、地域商店街などと連携しながら活発に推進されており、また、図書館において子どもを対象とした「読み語り」行事を定期的に行っているなど社会貢献への取組みは充分である。
- 学生は地域商店街の活性化事業や観光行事に積極的に参加しており、また、ストリートアート展を開催するなど芸術系であることの特殊性を十分に発揮している。
- イギリス、インドの提携大学へ学生を毎年派遣しており、教員も海外に作品を発表しており、国際交流への取組みはなされている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会の管理運営体制は確立している。
- 事務組織は、組織構成、人員とも適切である。
- 人事管理については、就業規則に従って適切に行われている。
- 学長のリーダーシップはしっかりしており、教職員の短期大学運営への意欲が感じられる。

評価領域Ⅸ 財務

- 美術・デザイン系に関わる施設・設備は十分に充足しており、施設設備の管理はおおむね適切である。
- 財務管理は適切に行われている。今後の厳しい環境への対処のために中・長期の財政計画、事業計画の策定を予定していることは評価できる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 自己点検・評価委員会に加えて、学長諮問機関である「大学評価会議」において自己点検・評価の結果を検討するシステムが機能し、改革・改善、将来計画にも対応しており、学長のリーダーシップが発揮されている。

京都短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 成美学苑
理事長	四方 正義
学 長	藤田 佳宏
A L O	村岡 洋子
開設年月日	昭和25年4月1日
所在地	京都府福知山市西小谷ヶ丘3370

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活福祉科	食物栄養	50
生活福祉科	介護福祉	60
	合計	110

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

京都短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月13日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現及び教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神、教育理念については、一般的理念である「真・善・美」を創立以来の教育理念とし、実学主義を尊重しつつ、生活の自立的創造に資する教育と人材養成を行うとともに、京都北部唯一の短期大学として地域に根ざした教育機関であるという自覚と使命に即したものとなるよう位置づけている。また、その解釈や表現について点検を行っている。

学生への周知については、新入生、保護者に対して、入学時に教育目標、教育目標とともに簡潔に文章化した資料を配布し、また、学長が式辞のなかで説明している。さらに学生便覧中にも記述され、周知されている。

教育課程は、厚生労働省の指定規則に基づき、資格取得を中心としたカリキュラムを編成しているが、特に介護福祉専攻にあつては、指定規則に準拠しつつ、独自の項目・内容を盛り込むことにより、学生が専攻の姿勢と理念を理解するように努めている。

教員組織、校地・校舎面積は短期大学設置基準の規定を充たしている。図書館は、併設の四年制大学との共用施設で教育環境は整っており、専任司書が利用者へのサービスに努めている。

教育目標の達成度については、個々の教員が自主的な授業に対する満足度調査を実施するなどの努力している。

学習支援、学生生活支援、進路支援は、教職員の積極的な努力がなされている。特に単位取得が困難な学生に対しては、補習授業を実施し、再試験を行うなど、学生を支援している。

学生のボランティア活動は、1市3町の婦人団体主催「はばたきフェスティバル」（毎年2月開催）への参加をはじめ、活発であり、平成15年にはボランティア部が京都府知事から表彰を受けている。

財務運営はおおむね適切に行われているが、法人全体の収入支出の改善が望まれる。また、施設設備の管理は、規程などに即し行われている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 成り立ちについての歴史的背景を踏まえた上で、一般的理念である「真・善・美」を、地域に根ざした教育機関としての自覚および使命に即した形で位置づけている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 介護福祉専攻の専門職への就職率は過去3年間100%であり、評価できる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学習支援を積極的に行っており、各教科において合格レベルに達していない学生に対して、科目担当者が補習などを行っている。
- 多様な学生の受入れとして、留学生および社会人学生を積極的に受け入れている。特に留学生については、過去3年間、毎年10名以上を受け入れていることは評価できる。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神・教育理念に対して、法人理事会側と短期大学教職員との共有化に配慮されたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 短期大学は、短期大学士の学位授与機関であることから、専門教育のみならず教養教育の充実を検討されたい。
- 卒業要件と資格要件とを分けて考える必要があるのではないか。また、教育課程が一覧できるような、学生にも分かりやすい科目履修表を提示されたい。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員の年齢構成に大きな偏りがみられることから、バランスのとれた教員構成となるよう留意されたい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 食物栄養専攻も卒業生の追跡調査の実施を検討されたい。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学生支援については、個々の教員の努力ばかりでなく、学科をあげて組織的な取り組みを行うよう配慮されたい。

評価領域Ⅵ 研究

- 教員の研究意欲を向上させるための施策を行うことに努められたい。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 食物栄養専攻については社会的活動への積極的な取り組みが期待される。

評価領域Ⅸ 財務

- 法人全体の財務の向上・充実が望まれる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 専攻単位ではなく、学科としての一体感を持って改革・改善（教育活動を含む）に取り組まれたい。また両専攻間の相互活用を検討されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神・教育理念については、「真理の追及」「善の実践」「美の実現」を基本理念とし、実学主義を尊重しつつ生活の自立的創造に資する教育と人材養成を行うとともに、地域に根ざした教育機関としての自覚および使命に即したものとなるように位置づけ、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標は確立し、教育目的・教育目標は明確に示されている。
- 学生への周知については、新入生、保護者に対して、入学時に教育目標、教育目標とともに簡潔に文章化した資料を配布し、また、学長が式辞のなかで説明している。さらに学生便覧中にも記述され、周知されている。
- 教育目的・教育目標の解釈や表現については、専攻内で点検、見直しが行われているが、短期大学全体として点検活動に際しての手続き・手だてなどのシステムが組織的に充分、確立されていない。今後は、学校法人、短期大学全体として建学の精神、教育理念などの共有化を検討されたい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育課程は、厚生労働省の指定規則に基づき、資格取得を中心としたカリキュラムを編成しているが、特に介護福祉専攻にあっては、指定規則に準拠しつつ、独自の項目・内容を盛り込むことにより、学生が専攻の姿勢と理念を理解するように努めている。
- 短期大学は、短期大学士の学位授与機関であることから、専門教育のみならず教養教育の充実を検討されたい。

- 卒業要件と資格要件とを分けて考える必要があるのではないか。また、教育課程が一覧できるような、学生にも分かりやすい科目履修表を提示されたい。
- 授業内容、教育方法などの学生への周知については、シラバスに明示されている。また、教育方法などの改善については、教員が個々に努力しているが、組織的な取り組みとはいえない。シラバスにすべての学習情報を明示することは限界があるが、評価方法についてはきわめてあいまいである。学生にとってきめ細かな情報提供が望ましい。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員組織、校地・校舎面積は短期大学設置基準の基準を充たしている。
ただし、教員の年齢構成に大きな偏りがみられることから、バランスのとれた教員構成となるよう留意されたい。
- 図書館（メディアセンター）・学習支援センターは、併設の四年制大学と共用の形で設置され、当該短期大学および併設大学の学生、教職員の学習、教育・研究に必要な学術資料を収集・保管してその利用に供するとともに学習、教育・研究ならびに事務の情報化に関する支援を行っている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 介護福祉専攻の専門職への就職率は過去3年間100%であり、評価できる。
- 個々の教員は教育目標の達成に向けて努力しているが、学科全体さらには全学規模で組織的に取り組むよう努力されたい。
- 学生への卒業後評価に対する取り組みについては、介護福祉専攻についてはおおむね取り組みへの努力が認められるが、食物栄養専攻においても卒業生への追跡調査の実施を検討されたい。
- 介護福祉専攻では、卒業研究の科目を設定し、読む・書く・まとめるなどを通じて、自己表現の手段として研鑽させるとともに、介護の理念を正確に把握し、高齢者の生涯とくらしを尊重する姿勢を身につけるなどの効果を上げている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学習支援、学生生活支援および進路支援については、教職員の積極的な支援がなされている。特に、合格レベルに達していない学生に対して、科目担当者が学習支援を積極的に行っている。しかし、学習への動機づけなど、教育面での支援体制は、組織的に行われるよう努められたい。
- 多様な学生の受入れとして、留学生および社会人学生を積極的に受け入れている。特

に留学生については、過去3年間、毎年10名以上を受け入れていることは評価できる。また、留学生については、国際センターを設置し、申請業務などの生活支援を行っている。

- 入学定員の多くを指定校推薦にあてているが、今後予想される少子化を考慮し、入学学選抜方法について検討されたい。

評価領域VI 研究

- 研究活動は個々の教員に委ねられているため、あまり活発ではない。「個人研究費取り扱い要綱」が定められているので、活性化させるよう配慮されたい。

評価領域VII 社会的活動

- 介護福祉専攻については、公開講座の開設など社会的活動に対して積極的であり、教育活動の一環としてシステム化されている。しかし、食物栄養専攻は個々の活動に委ねられており、単発的な活動に終始している。
- 学生のボランティア活動は1市3町の婦人団体主催「はばたきフェスティバル」(毎年2月)への参加をはじめ、活発であり、平成15年にはボランティア部が京都府知事から表彰を受けている。

評価領域VIII 管理運営

- 評議員会の開催数がやや少ないものの、理事会および評議員会は定期的に行われている。

評価領域IX 財務

- 財務運営についてはおおむね適切といえるが、中・長期計画が作成されていない。
- 教育研究経費比率は附属収入の20%を超え、過去3年間は健全に推移している。
- 支払資金は相応に持ち合わせているが、過去3年間の収支構造の推移からみて財務体質の向上・充実に努められたい。
- 規程などに沿った施設設備の管理は、相応に行われている。

評価領域X 改革・改善

- 自己点検・評価活動については、規程は定められているものの、全学的な実施体制が

確立されていない。実施状況については、平成14年度に「自己点検評価・報告書」を作成している。

- 相互評価などの外部評価については、これまで実施していない。

京都文教短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 京都文教学園
理事長	富田 謙三
学 長	伊藤 唯真
A L O	安本 義正
開設年月日	昭和35年4月1日
所在地	京都府宇治市槇島町千足80

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
家政学科	食物栄養	100
家政学科	人間生活	70
児童教育学科	初等教育	50
児童教育学科	幼児教育	200
	合計	420

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
児童教育学専攻	30
家政学専攻	30
	合計 60

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

京都文教短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月8日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

仏教の教えに基づいた人間育成を建学の精神として掲げ、その教育理念を全教職員の共通理解として確立させた上で、学生への周知を図っており、その実践に努めている。各学科・コースにおける教育目的・教育目標については明確に定められており、議論が重ねられ、点検の努力が十分に認められる。また教育理念の中の難解な宗教用語を分かり易く説明するなどの細かい工夫にも努めている。

各学科の専攻ごとに教育目標を定めた教育課程が体系的に編成されている。仏教教育に基づく総合教養科目が必須科目として設定されている。各学科、各専攻で多様な免許・資格取得に向けたカリキュラムが構成されていて、就職などへの対応など、学生ニーズにも考慮したものとなっている。授業評価アンケート、ファカルティ・ディベロップメント(FD)研修会、授業参観などが全学的に実施されており、改善への努力は十分に認められる。

学科ごとに専任教員が適切に配置され、また助手や補助職員の教育的役割も有効に機能している。講義室、実習室など教育環境は充分整備され活用されている。なお校舎は安全性が保たれ、バリアフリー対応となっている。図書館は適切に整備され、国立情報学研究所、全国の大学、研究機関、公立図書館などのほか、大学コンソーシアム京都に加入し、文献複写、図書の貸し出しなどを積極的に行い学生の利用に対するサービス向上に努めている。

授業評価アンケートなどによる学生の意見をいかし、教育内容の前向きな改善、授業の満足度向上を図るべく、受講者の人数や体験型授業の導入など、カリキュラム改革に反映させる努力が認められる。卒業生対象のアンケートを行い、その結果を学生の卒業後評価として母校の運営に資す努力が認められる。

インターネットの機能を充分にいかし、ウェブサイト上でのQ&Aや問い合わせに対す

るメールなどによる即座の回答、個別対応、入学前の事前指導、入学後のオリエンテーションなど、受験生によく対応した適切な支援がなされている。各専攻のアドバイザーによる学習支援、毎学期の専攻別のガイダンス、基礎学力不足に対するリメディアル教育と個別指導、全教員のオフィス・アワーなどによって学生の学習、生活、進路などに対応していることが認められる。学生部を中心に学生生活の支援体制が整備され、キャンパス・アメニティの整備、学生相談、健康管理、経済的支援、クラブ活動支援など、問題なく行われている。

研究成果は紀要、教員研究教育要覧などを発行し一定の成果をあげている。

建学の理念に立脚したエクステンションセンターの知的財産を広く市民に開放し、研究成果の還元、学生の社会的活動への参画などを意識した社会的活動への積極的な取組みが認められる。また、行政、商工業、教育機関、文化団体、福祉施設など、地域社会との連携、公開講座、交流活動などにも意欲的に取り組んでいる。学内と地域との連携窓口としてのボランティアセンターを設立し、学生の社会的活動を促進、支援する体制が整備されている。ネパールの姉妹校との協定内容の見直し、学生および教員のトリブバン大学との双方向の交流留学など、今後の発展に向けての努力が認められる。

理事会は適切に運営されており、その構成にも偏りはない。また理事長の下にある学園協議会による協議など、教学・管理運営についての体制が確立している。監事の選任および職務、評議員会の選任および職務などについても、寄附行為に基づき適切に運営されている。教授会は規定どおりに開催され、教育研究上の審議（諮問）機関としての適切な運営がなされている。さらに各種委員会なども規程に基づいて運営されている。各事務部門の諸規則は整備されており、業務は事務諸規程などに基づき適切に執行されている。

事業計画と予算は、教職員へ伝達、周知され、公認会計士の監査意見への対応も適切に行われている。なお情報公開については、学内掲示のほか、ウェブサイトなどを利用し、広く一般にも公開している。

学長を中心に、ALO、学科長、専攻主任、教務部長、学生部長、事務局長、図書館長などの役職者を中心とした実施体制で全学的な評価活動に対応する姿勢が確立している。平成14年の岐阜聖徳学園大学との相互評価では、率直な意見交換による有益な相互評価を実施しており、指摘された事項については積極的な改善努力がなされ、第三者評価への取組みに発展していることが認められる。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- オリエンテーションでの京都文教仏教学セミナー、卒業感謝参拝、学生授戒会など、学生と教職員が一丸となって参加する全学的な行事教育への取組みに力点を置いてい

る。また針供養、動物慰霊祭などの具体的行事を通して、生命や教材への感謝の気持ちを育成することに努力している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 講堂、レッスン室、講義室、演習室や実習室など、いずれも学生の学習意欲の向上が期待できる充実した教育環境の整備がなされている。
- 身障者用トイレ、点字ブロック、スロープ、教室内の車椅子のスペースの確保など、バリアフリー対策が積極的になされている。

評価領域Ⅵ 研究

- 教員の研究を支援する体制は整備されており、科学研究費補助金の申請および採択、企業からの委託研究など、一定の研究実績を積み重ねている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- エクステンションセンターの設立や、地域社会（宇治市）と緊密に連携した社会活動は、地域の研究・教育活動の拠点としての責任感と「仏教に基づく人間教育」を掲げる建学の精神とに支えられており、今後の発展が期待される。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 他大学（岐阜聖徳学園大学）との相互評価結果を真摯に受け止め、その後の教育改革に有効にいかすべく、指摘された項目についての積極的な改善に取り組んでいる。

（２）向上・充実のための課題

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 児童教育学科における教員の年齢構成はバランスを考慮することが望ましいと思われる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 家政学科人間生活専攻のカリキュラムにおいて、モチベーションの向上とともに、実際の就職に結びつく資格取得のあり方について一層の工夫を期待したい。

（３）早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 仏教の教えに基づいた人間育成を建学の精神として掲げ、その教育理念を全教職員の共通理解として確立させた上で、オリエンテーション、行事教育、仏教教育、あるいは学内各所の掲示板、印刷物などを通じた学生への周知を図っており、その実践に努めている。
- 建学の精神を基にした教育理念が確立しており、各学科・コースにおける教育目的・教育目標を明確に定めている。さらにそれらは専攻別オリエンテーション、宗教委員会、諸行事の企画、反省などを通して点検され、議論が重ねられており、点検の努力は十分に認められる。
- 学長自らが講話や授業を担当することによって、教職員や学生に対する仏教思想や建学の理念の周知徹底に努力している。教職員はそれぞれ学校行事や講義などを通じ、教育目的・教育目標についての学生の理解を図る努力が認められる。また学生が教育理念を身近に感じるように教育理念の中の難解な宗教用語を分かり易く説明するなどの細かい工夫にも努めている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 各学科の専攻ごとに教育目標を掲げた教育課程が体系的に編成されている。なお仏教教育に基づく総合教養科目が必須科目として設定され、建学の精神や教育理念が反映されている。
- 各学科、各専攻で多様な免許・資格取得に向けたカリキュラム構成がされていて、就

職などへの対応などの学生ニーズにも考慮したものとなっている。

- オリエンテーションにおける説明会、シラバス、カレッジライフなどにおける記載説明によって明示されている。
- 授業評価アンケート、FD研修会、授業参観など、全学的に実施されており、改善への努力は十分に認められる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 学科ごとに専任教員が適切に配置され、それぞれ委員会活動、学生指導にあたっており、研究業績も充分認められる。また助手や補助職員の教育的役割も有効に機能している。なお、教員の採用、昇進などは教員選考規程などに沿って適切に行われている。
- 校地面積は短期大学設置基準を充足しており、講義室、実習室、講堂、パソコン教室、レッスン室、体育館など教育環境は充分整備され活用されている。なお校舎は安全性が保たれ、バリアフリー対応となっている。
- 図書館は適切に整備され、外部の図書館の検索システムの利用など、学生のリクエストに応える工夫がみられる。国立情報学研究所、全国の大学、研究機関、公立図書館などのほか、大学コンソーシアム京都に加入し、文献複写、図書の貸借などを積極的に行い学生の利用に対するサービス向上に努めている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 授業評価アンケートなどの学生の意見をいかし、教育内容の前向きな改善、授業の満足度向上を図るべく、受講者の人数や体験型授業の導入など、カリキュラム改革に反映させる努力が認められる。また設備施設、図書館などに対する学生の意見が各担当部署に届く工夫がなされている。なお退学者などについては、退学などに至るまでのケアがいき届いているため、退学者の割合が比較的少ない点も評価できる。
- 児童教育学科では保育所、幼稚園などからのアンケートを得るなど、短期大学事務局と同窓会が卒業生対象のアンケートを行い、その結果を学生の卒業後評価として母校の運営に資す努力が認められる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- インターネットの機能を充分にいかし、ウェブサイト上でのQ&Aや問い合わせに対するメールなどによる即座の回答、個別対応、入学前の事前指導、入学後のオリエンテーションなど、受験生によく対応した適切な支援がなされている。ただし、学生募集要項、学校案内の中の建学の精神・教育目的などの説明については、受験生の理解

に対応できる表記上の工夫が求められる。

- 各専攻のアドバイザーが学生の学習支援を行っている。毎学期の専攻別のガイダンス、基礎学力不足に対するリメディアル教育と個別指導、全教員のオフィス・アワーなどによって学生の学習、生活、進路などに対応していることが認められる。
- 学生部学生課、学生委員会、サポート委員会、食堂委員会、健康管理センターなど、教職員による学生生活の支援体制が整備され、キャンパス・アメニティの整備、学生相談、健康管理、経済的支援、クラブ活動支援など、問題なく行われている。なお現在、さらに学生生活を支援するための新しい学生厚生施設の建設（平成18年完成予定）が進行中である。
- 障害者の在籍は過去3年実績がないが、バリアフリー対策は整備されている。

評価領域VI 研究

- 研究日など、研究の時間は確保されており、研究成果は紀要、教員研究教育要覧などを発行し一定の成果をあげている。科学研究費補助金などの申請、採択、研究費の外部からの調達などの件数は少ないが、毎年採択されている。今後の積極的な取組みが期待される。なお、短期大学、学科単位での研究への取組みの必要性の認識があるので、今後の研究成果が期待される。
- 研究費、研究旅費の基本研究費のほか、特別研究費、図書費や設備備品、出版助成制度など、研究条件は充実している。各教員の研究や学会活動などが保証され、研究しやすい体制が整っている。なお施設設備的には、現在、新しい教育研究棟の建設（平成20年完成予定）が計画されている。

評価領域VII 社会的活動

- 建学の理念に立脚したエクステンションセンターを設立し、知的財産を広く市民に開放し市民生活と文化の向上に資するものとして明確に位置づけており、研究成果の還元、学生の社会的活動へ参画などを意識した社会的活動への積極的な取組みが認められる。また、地域社会の行政、商工業、教育機関、文化団体、福祉施設などとの連携、公開講座、交流活動などにも意欲的に取り組んでいる。
- クラブ活動としてのボランティア活動に加え、学内と地域との連携窓口としてのボランティアセンターを設立し、学生の社会的活動を促進、支援する体制が整備されている。
- ネパールの姉妹校との協定内容の見直し、学生および教員の短期留学を実施しているトリブバン大学との双方向の交流留学など、今後の発展に向かう取組みの努力が認められる。教職員の国際会議出席、学会発表、研究調査、講演などにおいては、一定の

実績を残している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会は適切に運営されており、その構成にも偏りはない。また理事長の下にある学園協議会による協議など、教学・管理運営についての体制が確立している。監事の選任および職務、評議員会の選任および職務などについても、寄附行為に基づき適切に運営されている。
- 教授会は規程どおりに開催され、教育研究上の審議（諮問）機関としての適切な運営がなされている。さらに各種委員会なども規程に基づいて運営されている。
- 各事務部門の諸規則は整備されており、業務は事務諸規程などに基づき適切に執行されている。決裁処理なども規程どおり適正に行われている。情報資産の把握、管理など、情報システムのセキュリティ対策は、全学レベルで行われている。業務の見直し、改善、能力開発、内部研修などが実施されており、学生からの信頼が得られていることがうかがえる。
- 人事管理は、規程・規則によって処理されており、就業環境、就業時間（残業時間を含む）なども適切に管理されている。

評価領域Ⅸ 財務

- 事業計画と予算は、教学協議会、運営会議において確認され、パソコン配付などにより全教職員への伝達、周知の迅速さも考慮されている。学校会計基準に準拠し、各計算書類、財産目録は適正に表示されており、公認会計士の監査意見への対応も適切に行われている。また、「資産運用基準」が整備され、安全かつ適切に運用、管理されている。なお情報公開については、学内掲示のほか、ウェブサイトなどを利用し、広く一般にも公開している。
- 各種財務比率により財務状況は健全である。
- 施設設備は過不足なく整備され、管理は適切に行われている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 平成5年に自己点検・評価委員会規程を整備し、平成5年、平成8年、平成13年に実施された報告書が公表されている。学長を中心に、ALO、学科長、専攻主任、教務部長、学生部長、事務局長、図書館長などの役職者を中心とした実施体制で全学的な評価活動に対応する姿勢が確立している。
- 現時点では、自己点検・評価委員会規程により役職者が中心となっているが、短期大学の全教職員が点検・評価に深く関わる体制を構築し、教育改革、環境改善への意識を高めようとする意図と努力がうかがわれる。なお、各学科や専攻においては、時代

のニーズに適応したカリキュラム編成や教育目標の見直しなどに向けた改善を模索している。

- 平成14年の岐阜聖徳学園大学との相互評価では、率直な意見交換による有益な相互評価を実施しており、指摘された事項についての積極的な改善努力がなされ、第三者評価への取組みに継続させ、発展していることが認められる。

神戸常盤短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 玉田学園
理事長	旭 次郎
学 長	上田 國寛
A L O	大野 仁
開設年月日	昭和42年4月1日
所在地	兵庫県神戸市長田区大谷町2-6-2

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
幼児教育科		80
衛生技術科		80
看護学科		70
健康文化学科		140
	合計	370

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
幼児教育専攻	20
衛生技術専攻	20
	合計 40

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

学科	入学定員
看護学科	350
	合計 350

機関別評価結果

神戸常盤短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月8日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神は明確に示され、学科ごとに教育理念、教育目標は確立している。学科ごとに積極的に共有のための努力がなされている。

国家資格を取得する学科での教育課程に関する自由度が少ない中での工夫は認められる。

専任教員は複数の役割を担っており、業務に積極的である。

それぞれの学科の目標に合わせて、適切な評価方法が取られており、単位の取得状況も妥当な範囲である。退学、留年などに対する学科の方針も統一がとれており、学生に対するケアも行われている。各学科ともに専門就職の割合が高く、就職先からの評価については、アンケート形式や巡回などにより意見を聴取し、結果の分析が行われている。

入学に関する支援体制、学習支援の組織的取組み、学生生活支援体制、進路支援体制、そして多様な学生に対する支援と対応が学科ごとにとられている。アドミッションポリシーは大学案内およびウェブサイトにも明示されており、多様な選抜方法に始まり、事前教育と導入教育をもって学生生活が開始されている。入学後のオリエンテーションは日数をかけて丁寧に行われ、学生の学習意欲向上に努めている。さらに、クラス担任制を導入し、学生個人単位で指導に当たっている。多様な学生に対する支援については、留学生の受け入れについて担当教員を配置するなどは評価に値する。

社会的活動の推進を図るために、エクステンションセンターを設置し、地域社会との交流に取り組んでいる。

学校法人の運営全般に理事長のリーダーシップが発揮されている。学長は講師以上の専任教員と個別面談を実施し、教育にいかす努力をしている。

財務運営は適切で、財務体質はここ3年間の推移を見る限り健全化に向かっていると認

められる。また、施設・設備の整備、管理もおおむね適切である。

短期大学としては、早期に自己点検・評価の導入がみられ、この点は高く評価される。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 建学の精神に合致した教育方法の具体化として、学生の授業評価に加え、授業公開の試み、カリキュラムの改善調査などは評価できる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 卒業後評価への取組みの一つとして同窓会との連携がよくとれている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 幼児教育科では入学前にピアノレッスンを行うなど、入学前教育の準備にも努力がみられる。

評価領域Ⅵ 研究

- 特別研究費が用意されており、その研究成果の発表を義務付けている点は評価できる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 看護学科では、兵庫県看護協会「まちの保健室」の活動拠点として活動していることは評価できる。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 積極的に時代の求める高等教育機関の実現に向け、積極的に努力されていることが随所にみられる。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育内容の向上・充実のため、学期開始前に非常勤講師との打ち合わせの機会を持つことが望まれる。
- 学生による授業評価は全ての授業で制度的に一層の充実を図ることが望まれる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員の担当コマ数の平均化を図ることと、学生数に対するパソコンの台数に配慮することが望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 建学の精神に「学問と実践、研究と技術を直結する」とあるので、研究活動を活性化することが望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 避難訓練などを行うことが望ましい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 明治41年の玉田貞也氏による「実学の精神」をもとに昭和42年に短期大学設置の時に作られた建学の精神は、「学問と実践、研究と技術を直結することによって、すぐれた職業人、生活にすぐれた能力を持つ有為の人材を育成し、社会的、地域的要請に応えんとするものであること」とされ、現在の短期大学に反映されている。建学の精神と教育理念は、学科ごとに大学案内、学生便覧に明確に示されている。
- 教育目的、目標は、学科ごとに明確に示されており、各学科の学科会議やカリキュラム検討委員会、学内の各委員会で検討されている。改正される場合は、教授会で審議、了承している。
- 教育目的・教育目標の共通理解については、学科会議、カリキュラム検討委員会、第三者評価のためのチェックなどで共有している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 講義室、演習室、実験・実習室、コンピュータールーム、LL教室などが整備されている。また、適切な広さの体育館、総合グラウンドを有している。授業を行うための機器、備品についても整備されている。
- 学内外から蔵書の検索ができる図書検索システムを導入し、ウェブサイトによる蔵書公開を行っている。また、大学図書館間の情報交換や相互利用も行っている。しかし図書の貸出し冊数が少ないこと、閉館時間が17時（水、木、金）になっていることから、図書館利用を促進するためのさらなる努力が必要である。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 各学科ともに、それぞれの学科の教育目標に向かってよく指導されている。国家試験対策のための補習授業も行われている。休学者、退学者が5%以下であり、担任などによる指導が行き届いている。
- 各学科「卒業生に関する調査」や、公開講座に卒業生を招いたり、在校生のガイダンスに卒業生の参加を依頼したりして、その都度在学時の指導体制などについて意見を求め、教育改善に役立てている。
- それぞれの学科の目標に合わせて、適切な評価方法が取られている。単位の取得状況も妥当な範囲である。退学、留年などに対する学科の方針も統一がとれており、学生に対するケアも行われている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学に関する支援体制、学習支援の組織的取組み、学生生活支援体制、進路支援体制、そして多様な学生に対する支援のいずれにおいても、しかるべき対応が学科ごとにとられている。アドミッションポリシーは大学案内およびウェブサイトにも明示されており、多様な選抜方法に始まり、事前教育と導入教育をもって学生生活が開始されている。入学後のオリエンテーションは日数をかけて丁寧に行われ、学生の学習意欲向上に努めている。さらに、クラス担任制を導入し、学生個人単位で指導に当たっている。多様な学生に対する支援については、今年度から留学生の受け入れについて担当教員を配置するなど評価に値する。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究活動の活性化のための条件整備はおおむね良好であるので、一層の研究活動が展開されることが望ましい。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 学生は、レクリエーションインストラクター資格を取得するために、地域主催、地域行政主催行事にボランティアスタッフとして、さまざまな体験学習を行っている。
- ネパールの国立大学と提携し、交流している。
- 社会的活動の推進を図るために、エクステンションセンターを設置し、地域社会との交流に取り組んでいる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事長は運営委員会の委員長で、教授会、各種委員会に出席して、現場の意見をよく聞いている。
- 人事管理については就業規則などが整備され、教職員に周知されている。理事長・学長により、学校経営の方向が明示されるので、その方向に向かって法人と教職員が協力する体制がある。
- 学校法人の運営全般に理事長のリーダーシップが発揮されている。学生のアンケートを取ることによって、教職員相互を知る努力を行っている。学長は講師以上の専任教員と個別面談を実施し、教育にいかす努力をしている。

評価領域Ⅸ 財務

- 事業計画、予算、伝達、管理の流れは、良好で資金および資産の管理についても健全な運用および規程の整備などは行われている。今後の課題として、監事と公認会計士がより一層連携をされるよう望みたい。
- 備品等管理規程が整備されており、防災、防犯、セキュリティーなどの対策も行われており、適切に整備、管理されている。ただし、学生、教職員の避難訓練などは年1回以上の実施を望みたい。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 平成4年度に、既に自己点検・評価委員会を設置し、毎年4月に当年度の点検項目を選定し、点検・評価を行っている。また、平成6年度から自己点検・評価報告書を作成し、平成12年度から外部に対する情報公開も行われている。
- 各部署における点検・評価・改善策を経て、運営委員会や教授会でその改善策を決定することもなされ、その後の実施状況調査も行われ、システム構築への努力は確実になされているとみられる。
- 内部の点検・評価の体制は充分に確立できており、いつでも実施可能と判断される。

湊川短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 湊川相野学園
理事長	古林 美代子
学 長	大前 衛
A L O	大森 雅人
開設年月日	昭和27年4月1日
所在地	兵庫県三田市四ツ辻1430

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
人間生活学科	生活福祉	40
人間生活学科	人間健康	40
幼児教育保育学科		120
	合計	200

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
幼児教育専攻科	20
	合計 20

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

湊川短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月1日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神、教育目的・教育目標は、全学および各学科・専攻に明確に示され、さまざまな機会を通じて周知され、必要に応じた点検も行われている。また、理事会、教授会、学生における共通理解への努力も認められる。

教育課程は体系的に編成され、多様な学生のニーズに応えるものとなっている。授業内容、教育方法および評価方法が学生に分かりやすいシラバスによって示されている。

教員組織、教育環境、図書館など教育の実施体制は確立している。

教育目標の達成への努力は、授業満足度、退学、進学、休学、留年者対策それぞれにおいて努力がみられる。特に主要資格取得に関しては目標達成への努力が顕著である。

入試に関する支援、学習や科目選択のガイダンス、学習支援のためシラバスなど、基礎学力が不足する学生に対する取組み、学習の悩みなどの相談には組織的に取組むとともに、成績優秀学生には奨学金を出して、学業意欲を高め、学生支援および進路支援体制は十分に整備されている。

研究活動については、教員の研究にかかる経費の支出や研究成果の発表の機会も確保されており、また科学研究費補助金も得ている。すべての専任教員に個人研究室も整備されており、就職、進学、生活指導のほか全学生への卒業研究の指導も行われている。

学生の社会的活動に対する評価が積極的で、長年にわたるボランティアの実績を培っている。国際交流・協力への取組みでは、留学生の受け入れを継続的に実施している。

学校法人の管理運営体制は確立し、機能している。事務組織については、業務の執行はおおむね適切に行われている。教職員の就業に関する規則も適切に整備され、経営サイドと教職員との関係も良好であり、全体として管理運営は適切に行われている。

財務運営の状況、財務体質の健全性、施設・設備の整備およびその管理はおおむね適切

である。

自己点検・評価の実施体制は確立しており、改革・改善のためのシステム構築への努力、相互評価への取組みの努力は、これまでの実績から見て大いに期待できる。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神、教育目的・教育目標は、全学および各学科・専攻に明確に示され、さまざまな機会を通じて周知、必要に応じた点検も行われている。また、理事会、教授会、学生に共通に理解される努力を認める。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 完成度の高い「履修ガイド」が十分に活用されている。共通の教養科目「湊川のあゆみ」は注目できる。高等学校との連携、留学生対象の日本語教育が評価できる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 平成15年よりグレード・ポイント・アベレージ（GPA）による学業評価システムを採用し、この結果を学外実習受講基準および表彰基準に活用している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 進度の早い学生の上位5%に成績優秀者奨学金制度を設け学習意欲向上を図り、基礎学力の不足する学生には学力向上のための授業科目を複数設定している。結果として生活福祉専攻の100%をはじめ、人間健康専攻、幼児教育保育学科も90%を超える就職率を達成している。
- カウンセラー、精神科医、臨床心理士も含めて、学生のメンタルケアやカウンセリングの体制が充実している。

評価領域Ⅵ 研究

- 科学研究費補助金の応募と採択がある。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 学生の社会活動に対する支援、評価が積極的で、長年にわたるボランティアの実績がある。

評価領域IX 財務

- 中期経営計画（「湊川相野学園活性化3カ年計画」（平成14年度～16年度））の策定とその実行による財務体質の改善に取り組んでいる。

評価領域X 改革・改善

- 理事長・学長が自己点検・評価および第三者評価を改革・改善へつなげていく契機として積極的にとらえ、教職員も一致して全学的な体制で取り組んで行く強い意欲を感じた。

（2）向上・充実のための課題

評価領域III 教育の実施体制

- 蔵書検索システム、開館時間の延長サービスは利便性を向上させ、図書館の活用をさらに活発にさせると予想される。
- OA教室などはおおむね整備されているがOA教室の空き時間は限られており、引き続きコンピュータ台数の確保と学生がいつでも使える環境確保に努力されたい。
- 学生による授業評価は全ての教科について実施することが望まれる。

評価領域IV 教育目標の達成度と教育の効果

- 卒業生の就職先への調査、進学先、卒業生から在校生へアドバイスの出来る機会、また、同窓会との連携を緊密にすることをさらに配慮されたい。

評価領域V 学生支援

- 長期履修制度については、前向きに検討されたい。

評価領域VIII 管理運営

- 事務部門の主要なところは教員が兼務していることから、事務職員のスタッフ・ディベロップメント（SD）活動の取組みが望まれる。

（3）早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神・教育理念とも確立しており、明確に示されている。入学式、卒業式、新入生オリエンテーションなどを通じて、周知徹底の努力がなされている。さらに、学生便覧や学園誌なども有効に活用されている。
- 教育目的・教育目標は全学および各学科・専攻に明確に示され、点検についても平成10年より2度実施されている。
- 学生に対しては、入学時のオリエンテーションおよび総合教育科目教養科目「湊川のあゆみ」を通じて教育目的・教育目標の周知と理解を図り、教員については月1回の学科会などにおいて教育目標の確認をしている。理事会での審議、決定過程においても、教授会、学科会での審議内容が十分に伝達され、理事会、教授会、学生における共通理解への努力が認められる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 明確に示された教育目的、教育目標に基づいて編成されており、各学科、専攻に建学の精神、教育理念が反映できている。学科との関連、内容、教員などは整った教育課程となっており、さらに改善への対応が着実に進められ、短期大学としての水準をおおむね充たしたものとなっている。
- それぞれの学科において、取得可能な免許、資格などについて要件が明確に示され、教育課程の授業形態、必修・選択のバランスも適切である。学生の多様なニーズに応える選択科目の設置と自由選択の保障を含めて、幅広い学生のニーズに対応可能な教

育課程となっている。しかし一部の授業において大規模授業にともなう問題点がうかがえる。設置する学科などの卒業要件は適切であり、履修ガイド、学生便覧を通して平易に説明がなされている。シラバスにおいて授業の概要、方法が示され、意欲的な履修をうながす工夫がなされている。教員は教材作成、プレゼンテーションや添削などによる工夫をしており、アンケートでは特に、実験実習、実技科目にその反映結果をみることができる。

- 事前に学生に配布されるシラバスは、授業内容、教育方法、評価の方法およびテキスト・参考書などがわかりやすく明示されており、意欲を持って学生が履修できる。
- ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動や学生による授業評価を行い、教員は授業改善に意欲を持って取り組んでいる。また教員間および兼任教員との意思疎通の努力も認められる。教員の能力開発の研修が実施されているが、授業改善を支援するSD活動は今後の課題である。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員は授業や学生指導のみならず、改革・改善にかかわる各種委員会にも意欲的で、研究活動にも積極的に取り組んでおり、学位、研究業績など、短期大学の教員にふさわしい資質を有した教員組織が整備されている。
- 教育環境は整備、活用されている。学内LANも整っておりIT教育も可能であるが、学生がいつでも使えるコンピュータの台数と場所の確保は学習の意欲をさらに引き出すであろうと考えられる。
- 参考図書コーナーを設けて学生の便宜を計るなど、学生の図書館利用を活発にするための努力や、図書選定システムも整備されている。また生涯学習活動の支援などとして、図書館を地域社会に開放するなど意欲的である。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 授業の単位認定、単位修得状況は妥当であり、担当教員による学習評価は適切に行われている。「授業評価アンケート」、「学生アンケート」、「学生生活実態調査」から、学生の実態を総合的に読み取ろうとする努力が認められる。退学、休学、留年の状況はGPAの影響もあり少ないとはいえないが、チューターによる個別面接、カウンセラー紹介などの対策が講じられている。GPAによる厳しい制限にもかかわらず、主要資格取得者数は増加の傾向がみられ、努力の様子がうかがえる。
- 専門就職の割合は高いが、卒業生の就職先からの評価についての体系的な調査は行われていない。また、同窓会とのさらなる連携も望まれる。

評価領域V 学生支援

- 入試要項に入学者選抜の方法は適切に記載され、学科・専攻ごとに各種案内冊子により入学手続き、学生生活のためのオリエンテーションなど適切に行われている。
- 学科・専攻独自のガイダンス資料を作成し、基礎学力向上のための授業科目を設定し、チューターや卒業研究指導教員、健康相談室の指導の下、保護者との連携も図られている。
- 生活支援のための教職員の組織が整備され、通学支援、住居支援もなされている。クラブ・サークル活動は、学友会とともに教員による顧問体制と学生の自主的な運営により活発な活動を展開している。日本学生支援機構奨学金、独自奨学金（複数制度）が用意されている。
- 教職員からなる進路指導委員会が組織され、専門職としての就職率向上に向けて努力している。
- 韓国一志学園飛鳳総合高等学校との姉妹校提携に基づき留学生を受け入れ、経済・住居支援、日本語学習支援を行っている。

評価領域VI 研究

- 専任教員は3年間に最低1本の論文を発表する、という申し合わせが平成15年になされ、専任教員32名中、30名は過去3年間に研究業績がある。研究活動は研究開発支援総合ディレクトリ、紀要、学園機関紙に公開している。基盤C、若手Bの科学研究費補助金の採択が毎年ある。幼児教育保育学科においては、3つのテーマで平成16年4月から共同研究がなされ、日本保育学会などで発表されている。
- 研究費は確保されており、平成17年度末に専任教員すべてに個人研究室も整備され、研究に必要な専門の雑誌や図書の購入も充分されている。

評価領域VII 社会的活動

- 三田市との共催で「三田市民大学」、出前講座への講師派遣、平成13年から訪問介護員養成研修、平成17年より介護技術講習会を実施している。地域の子どものメンタルケア、学校カウンセラーの派遣、地域子育てセンターへの協力などで地域と交流活動を行っている。また科目等履修生、聴講生の受け入れ、図書館の一般開放を行っている。
- 学友会、一般学生が中心となり、7つの社会的活動が行われている。生活福祉専攻では授業外の取組みとして福祉施設でのボランティア活動をすすめ、課外活動の日を設定し、奨励している。
- 留学生の受け入れを継続的に実施している。これまで教員が海外で調査や国際試合の

監督として活躍している。平成18年4月に韓国学校法人との姉妹校提携、学校法人一志教育財団および東信教育財団と教育研究交流協定を結び、教職員の交流が深まるよう努力している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会、監事、評議員会とも、寄附行為に基づいて適切に管理運営がなされている。理事の構成についても、問題はなく、管理運営体制は適切に運営されている。
- 学長は、教授会と理事会との協調関係に配慮しながら、適切なリーダーシップのもと、学則などの規定に基づいて、教授会、大学運営協議会、各種委員会など適切に運営しており、短期大学の運営体制は確立し機能している。
- 事務室などの整備はなされており、事務の決済処理の流れや書類の管理は適切である。
- 就業規則、給与規程などは整備されている。教職員の協力体制も整っており、関係も良好である。規程などの整備状況、互いの立場を尊重しつつ協力する体制ともによりよい状態にあり、人事管理は適切に行われている。

評価領域Ⅸ 財務

- 事業計画および予算は適切に執行されている。財務・経理・出納の各業務が、必要な承認手続きとともに適切、かつ円滑に行われている。資金の管理と運用については、資金運用体制と「資金運用規程」が整備され、運用に当たっては事業法人と運用アドバイザー契約がなされている。
- 消費支出比率、人件費比率、教育研究費比率などの財務比率は特に問題がない。当該短期大学および学校法人全体の収支状況、資金の維持管理状況など財務体質はおおむね健全である。
- 短期大学の教育上の物的資源は適切に管理されている。また、施設設備などの管理についての危機管理対策（火災、防犯、避難訓練など）や省資源対策も適切になされている。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 自己点検・評価は平成10年から行われていたが、平成16年自己点検・評価委員会として組織的に確立した。自己点検・評価委員会は、改革・改善を推進する中心的な委員会として位置づけられ、毎年細かな見直しを行いつつ、3年に1回を目途に自己点検・評価報告書を発行する計画である。平成17年度には平成14年～平成16年までの3ヶ年の自己点検・評価を「湊川短期大学の課題と現状2004年版」にまと

め各短期大学、関係機関などに送付している。なお、自己点検・評価活動には多くの教職員が関与するよう配慮されている。

- 自己点検・評価の結果を中・長期的課題として、学内システムの見直しや学科改組などの改革・改善につなげてきた努力および実績から、今後も自己点検・評価を改革・改善のためのシステム構築とその実現へ結び付けていくことが期待できる。
- 今回の第三者評価から次回の第三者評価の間に相互評価を実施する計画であり、取り組みへの努力が期待できる。

川崎医療短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 川崎学園
理事長	川崎 明德
学 長	守田 哲朗
A L O	山口 恒夫
開設年月日	昭和48年4月1日
所在地	岡山県倉敷市松島316

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
第一看護科		120
放射線技術科		50
臨床検査科		50
臨床工学科		50
介護福祉科		80
医療保育科		70
	合計	420

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

川崎医療短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月7日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神・教育理念が確立し、それに基づいて各学科の教育目的・教育目標が明確に設定されている。学生や教職員への周知は、大学案内、学生便覧、ウェブサイト、学報などを活用して行われており、さらに公式学内行事の際、学長の挨拶の中で言及されている。教育目的・教育目標については、点検評価委員会を中心に定期的に点検を加え、自己点検・評価報告書を作成し、これを理事・評議員・教職員に配布し、周知に努めている。

教育課程は教育目的・教育目標に基づき、免許・資格の取得に対応した専門教育が体系的に編成されている。基礎・専門分野科目は充実している。授業形態や必修と選択のバランスは適切であり、クラス分けを工夫し、シラバス、卒業要件も学生に周知されている。シラバスを通して授業の目標・内容・方法・評価方法などが学生に明らかにされており、授業内容・方法についての改善への努力もみられる。

教員組織は整備され、教員数も短期大学設置基準を充足している。教員の採用・昇任も教員の選考規程や基準に従って適切に実施されている。校地・校舎の面積、講義室など、また、機器・備品の充足、運動場、体育館の保有など、教育環境はおおむねよく整備されている。さらに図書館の整備もよい。

単位認定の方法、取得状況、担当教員による学習評価は適切であり、授業終了後の学生の満足度も高い。退学、休学、留年などの学生は各学科とも数名いるが、そうした学生へのケアが行われている。資格取得の取組みと実績、専門就職の割合など、いずれも充分である。就職先や編入学先からの評価を教育に反映させようと努めている。就職先からの評価は全体的に高い。

入学志願者に対する建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標は短期大学案内、学生募集要項、ウェブサイトなどで広く公開されている。入学者選抜の方法は募集要項やウェ

ウェブサイトにも明記し、入試説明会などで説明するなど志願者に周知させている。学習や科目選択のためのガイダンスは入学前オリエンテーションで実施されている。学習支援として学力不足の学生に対して補習授業を実施する一方、進度の早い優秀学生に対しては資格試験の奨励などを行っている。学生生活支援のために学生生活委員会が設置され、毎月定例会を開催し学生の意見・要望に対応する体制が整っている。学生の健康管理、メンタルケア、カウンセリングに専門職員が終日対応する体制が確立されている。経済的支援として奨学金制度が整っている。就職支援のための組織としては、就職委員会、就職専門委員会が設置され、学科就職担当教員が就職相談に当たっており、きわめて高い就職率を維持している。上海市衛生学校の卒業生を正規生として受け入れ、学習支援や生活支援を行っている。

教員の研究活動は活発に行われ、その成果は論文、報告書として公表されている。また、文部科学省、厚生労働省の科学研究費補助金などの外部研究費の採択実績が高い。教員の研究に係る機器、備品、図書などがおおむね整備され研究環境は、おおむね良好である。

社会的活動としては、学科の特質をいかした公開講座を開催し、高大連携での出前講座の実施、また、学園祭の開催、図書館や体育館の開放を通じて地域社会との交流・連携を図っている。上海の提携校の卒業生を看護科の正規生として受け入れ、学習・生活支援に努めている。また、教員の留学、海外派遣などが行われている。

理事会、評議員会は、寄附行為の規定に基づいて適切に運営され、監事業務も適切に執行されている。理事長は、法人全般にわたってリーダーシップを発揮している。教授会は、学則に基づいて適切に運営されている。運営円滑化のために、19の各種委員会が設置され、学長のリーダーシップのもと適切に運営されている。事務部門の規模は適当で、事務諸規程は整備され、業務が適切に行われている。事務処理のための事務室、情報機器、施設・備品などは整備されている。また、ファカルティ・ディベロップメント（FD）・スタッフ・ディベロップメント（SD）委員会を組織し、SD活動も実施されている。教職員の健康管理、就業環境の改善など、人事管理も適切に行われている。

毎年度の事業計画と予算は、中・長期計画に基づいて関係部門の意向を集約し決定され、適正に執行されている。日常的な出納業務は円滑に実施され、所管担当責任者を経て理事長に報告されている。監事や公認会計士も有効に機能している。資産および資金の管理と運用は、適切に会計処理され、財務情報は教職員に公開されている。資金収支、消費収支とも充分安定を保っており、財務状況は健全に推移している。教育研究経費比率はおおむね妥当であり、教育研究用施設・設備の整備費および図書費の配分についても適切である。財務諸規程は、一部を除き整備され、施設・設備は適切に管理されている。防災対策、安全対策なども適切に行われている。

平成5年度に自己点検・評価のための規程を整備し、以来、定期的に自己点検・評価を実施して報告書を公表するとともに教育研究活動の改革・改善に取り組んでいる。自己点検・評価報告書の作成は、ほぼ全教職員が関わっており、この作業過程を通じて、教育研

究の現状ならびに改革・改善点が全教職員に正しく把握されており、改革・改善の取組みが行われている。相互評価は、放射線技術科のみが実施しており、その成果を積極的に活用する努力を重ねている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 自己点検・評価の結果を踏まえて、建学の精神や教育理念の解釈の見直しが、全学をあげて定期的に行われている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学生による授業評価に対する教員のアンケート調査ならびにFDを実施し、さらに、授業担当者ならびに非常勤講師間で意思疎通、協力・調整について改善が図られるなど、授業の改善に積極的に取り組んでいる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館の利用サービス、マルチメディア学習室、学生自習室などが充実しており、学習支援体制が行き届いている。

評価領域Ⅳ 教育の目標と達成度と教育の効果

- 教育の高いサポート体制が充実しており、国家試験の合格率が極めて高い。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学力不足の学生には補習授業、進路の速い学生には資格試験を推奨し、効果をあげている。

評価領域Ⅵ 研究

- 科学研究費補助金などの外部資金を導入しながら多くの研究成果を発表している。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 比較的早い時期（平成5年度）より自己点検・評価を実施し、その結果を全教職員が共有し、向上・充実に努めている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育の高いサポート体制にあわせて、全学的に統一されたシラバスの作成が望まれる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教育研究業務の負担の均等化が必ずしも充分とはいえないので、今後の改善に期待したい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 就職先や編入学先からの評価についての意見聴取を一部の学科のみならず全学科で実施する一方、卒業生との接触、同窓会との連携を強化することを期待したい。

評価領域Ⅵ 研究

- 一部教員の研究業績は充分とはいえないので改善を期待したい。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 学科間の教育に関する情報の交換・共有を積極的に推進して、連携・協働の強化が望まれる。
- 評議員会の出席者のうち、約半数が委任状出席というケースもみられるので、改善に努められたい。

評価領域Ⅸ 財務

- 固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品および貯蔵品管理規程の整備が求められる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学のコンセプトは「チーム医療の場で活躍できる有能な医療技術者の養成」であり、「人をつくる」、「体をつくる」、「深い専門的知識と技能を身につける」を建学の理念としている。これを大学案内、学生便覧、ウェブサイトなどに掲載し、さらに入学式、卒業式など公式学内行事の際の学長挨拶の中でも言及し、周知に努めている。
- 教育目的・教育目標は、シラバス、ウェブサイト、大学案内などに明示され、学生や教職員に対応して周知が図られている。また、教育目的・教育目標については、点検評価委員会を中心に定期的に点検が行われている。
- 教育目的・教育目標を共有する取組みとして、自己点検・評価報告書を作成して理事、評議員、全教職員に配布するとともに、学生には図書館で供覧させ周知を図っている。また、その点検・評価については理事会、教授会、教職員会議、各種委員会で議論されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 各学科の教育課程は教育目的・教育目標に基づいており、医療人として必要な教養教育と資格取得に対応した専門教育が体系的に編成されている。主要科目に専任教員が適切に配置され、教育課程は短期大学にふさわしい内容とレベルを有している。適切な単位認定と評価がなされ、教育課程改善への意欲があり、また、教育課程改善への組織的対応がなされているので、教育課程が体系的に編成されているといえる。
- 教育課程は、各学科とも免許・資格などに対応して構成され、かつ、現代医療に対応

できる内容を備え、基礎および専門分野科目は充実している。授業形態（講義、演習、実験・実習など）のバランス、必修と選択のバランスについては、指定規則に沿っている。クラス規模はほぼ適当である。卒業要件は適切であり、学生便覧、シラバスに明記され、オリエンテーションにて周知されている。学生の履修への意欲に関してはおおむね工夫している。

- シラバスはウェブサイトなどに掲載され学生および一般に公開されており、各科目の授業の目標、内容、方法、評価などが示されている。
- 学生による授業評価を前・後期2回実施し、評価結果に基づき授業の内容・方法の改善が図られている。また、学生による評価に対する教員のアンケート調査ならびにFDの実施など教育効果向上への積極的な姿勢がうかがえる。授業担当者ならびに非常勤講師間の意思疎通、協力・調整について改善が図られている。
- シラバスを統一的形式で作成することと、学生による授業評価に今後、努力、工夫が望まれる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 短期大学設置基準の教員数を充足しており、短期大学の教員としてふさわしい資格と資質を有している。教員選考委員会を設置し、教員選考規程に従って適切に実施されている。教員の年齢構成はおおむね整っている。助手、研究補助員などの確保はおおむね良い。また教員は授業、研究、学生指導を行っている。さらに、オフィス・アワーを設けて相談に応じている。
- 校地および校舎の面積は基準を充足しており、講義室、演習室、実験・実習室、パソコン教室、マルチメディア教室、学生自習室など、また機器・備品の充足、運動場、体育館の保有など、教育環境はよく整備されている。
- 図書館の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数、在庫数は整えられている。図書館の広さ、環境は適切に整備されている。蔵書数の増加の対処はできている。図書整備の予算は適切で、購入と廃棄図書選定システムは確立している。学生が利用できる図書は整っている。司書数、司書的能力、図書検索システム、図書館利用サービスなども良い。学内外への情報発信、ほかの図書館との相互利用活動も行っている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 単位認定は筆記試験、レポート提出、実技試験などの成績評価と出席日数、受講態度を勘案して公平適正に行われている。また、授業終了後の学生の満足度への配慮は充分なされている。退学、休学、留年などの学生は各学科数名いるが、ケアは考えられる範囲内で行われている。資格取得の取組みは、積極的に行われ、国家試験合格率は

きわめて高い。また、就職先からの評価は全体的に高い。編入学希望についても支援が行われている。

- 資格に基づく専門への就職の割合は充分である。卒業生の就職先からの評価についてアンケート調査を実施しており、評価項目のうち、「国際的な可能性」は低い、意欲、責任感、知識などはそれなりの評価である。教育の実績や効率を確認するために、各学科の同窓会支部との連携が行われている。編入学先からの評価について意見も聴取しており、その評価は全体的に高い。

評価領域V 学生支援

- 短期大学案内、学生募集要項、ウェブサイト、オープンキャンパスなどで、建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標、望ましい学生像を明示している。募集要項には入学者選抜の方針、多様な選抜方法を記載している。入試委員会を中心とする入試事務の体制が整備され、受験生の問い合わせなどに適切に対応している。多様な選抜は公正かつ正確である。入学までに授業料や学生生活についての情報を提供し、合格者に入学前教育を行っている。入学者に対し学習、学生生活のためのオリエンテーションを実施している。
- 学習や科目選択のためのガイダンスなどは適切に行われており、学生便覧など、学生支援のための印刷物が発行されていて、その内容は学生に理解しやすい。基礎学力不足の学生に対して補習授業が実施されており、学習上の問題、悩みなどの相談、指導助言を行う体制は整備されている。また、進度の速い学生や優秀学生に対しては、資格試験の奨励（放射線技術科）、表彰などを行って学習意欲を高めている。
- 生活支援のため、学生生活委員会が設置されている。クラブ活動、学園行事、学友会などについては、カリキュラムが密なため学友会は活発ではないが、空き時間で部活動や同好会活動に参加している。学生生活支援体制はおおむね確立している。学生ホール、医務室、学生相談室、食堂、売店の設置、学生寮併設、経済的支援、健康管理、メンタルケアやカウンセリングなどの体制は整っている。また、身上調書、住所録など個人情報も適切に保管されている。
- 就職支援のための組織としては、就職委員会、就職専門委員会が設置され、学科就職担当教員が就職相談に当たっている。全学科の学生が国家資格を取得して就職するので特別に就職支援室を設置しなくても支障はない。各学科で就職ガイダンスを実施している。就職内定率は高い。また、増加する四年制大学への編入学への対応も行っている。
- 該当する一般留学生はないが、上海市衛生学校から毎年2～3名を受け入れ、学習支援や生活支援を行っている。社会人の特別入試体制は、特に設けられていない。障害者の受け入れ体制は整備されておらず今後の課題である。

評価領域Ⅵ 研究

- 教員の研究活動は成果を挙げており、その状況は公開されている。外部資金導入は文部科学省、厚生労働省の科学研究費補助金など多数である。学内のグループ研究、複数学科間の共同研究、他の機関との研究は盛んである。教育に関しては、学科特有のテーマ、横断的テーマの研究がある。
- 教員の研究に係る経費は、確保されている。研究成果を発表する機会として川崎医療短期大学紀要がある（年1回発行）。研究のための機器、備品、図書などはおおむね整備されている。研究室、実験室は十分に整備されているとはいえない。研究日（研修日）については、学内業務に支障をきたさない限り研究時間が取れるよう配慮されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 医療・福祉を学ぶとともに、学習、研究成果を地域社会に還元するために、公開講座、学園祭を開催している。また、高大連携、図書館や体育館の開放などを行い、地域社会との連携・交流を図っている。
- 上海市衛生学校の卒業生を看護科の正規生として積極的に受け入れている。上海市衛生学校との間で、教員や学生の交流が継続して実施されている。また、教職員の留学、海外派遣、国際会議出席などが行われている。
- ボランティア活動は、時間的制約の中で土曜日、日曜日に実施できるが、比較的低調である。このように社会的活動の機会が少ないことから、学生の社会的活動が少ないことはやむを得ない。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事長は法人全般にわたってリーダーシップを発揮している。寄附行為に基づいて、意思決定機関としての理事会が適切に運営されている一方、監事は適切に業務を行っている。また、評議員会は、理事会の諮問機関として適切に運営されている。理事の構成に著しい偏りが無い。
- 短期大学の運営全般に学長のリーダーシップが適切に発揮されている。教授会は学則などの規定に基づいて適切に運営されている。運営円滑化のために運営委員会、教職員会議など19の各種委員会が設置され、学長のリーダーシップのもと適切に運営されている。
- 短期大学の事務部門の規模は適当であり、事務職員の任用は法人本部で適切に行われている。事務諸規程は整備され、それらの規程に基づいて適切に業務を行っている。

事務処理のための事務室、情報機器、施設、備品は整備されている。決裁処理が適正に行われており、公印や重要書類・データの管理、防災対策、情報システムのセキュリティ対策は適切である。事務職員およびその組織は親密度が高い。FD・SD委員会を組織し、事務職員の能力開発、事務能力のため、内部研修、外部への研修が行われている。

- 就業規則、給与規程など就業に関する規程が整備され、それらの規程に基づいて適正に処理されている。学校法人と教職員、あるいは教員と事務職員が相互に尊重し、連携・協力する体制が整っている。職員の健康管理、就業環境の改善など、適切な人事管理が行われている。

評価領域IX 財務

- 中・長期計画に基づいた毎年度の事業計画と予算を、関係部門の意向を集約し、適切な時期に決定している。年度予算は適正に執行され、日常的な出納業務は円滑に実施され、所管担当責任者を経て理事長に報告されている。決算終了後の計算書類、財産目録などは適正に表示されている。また、監事や公認会計士の機能は有効に働いている。資産および資金の管理と運用については、適切に会計処理されている。寄付金の募集および学校債の発行は行っていない。月次試算表が作成され、理事長に報告されている。財務情報を教職員に公開している。
- 過去3ヶ年の収支は均衡しており、学校法人の財政状態は健全に推移している。短期大学の経営状況は学校法人の財政に大きな影響を与えていない。学校法人の資金は、健全に維持され、余裕資金については、将来計画を見込んで目的別に引当資産化している。短期大学の教育研究経費は、過去3ヶ年の平均を見ても妥当な水準を維持している。
- 財務諸規程のうち、固定資産管理規程、図書管理規程、消耗品および貯蔵品管理規程は未整備であるが、早急に整備する予定である。施設、設備、物品などは適切に管理されている。火災対策、防犯対策、避難対策は講じられている。コンピュータシステムのセキュリティ対策として、管理内規を整備して万全を期している。施設設備の維持管理において、省エネ・省資源対策を実施し、廃棄物について、感染性医療廃棄物、事業廃棄物、一般廃棄物の分別処理の周知徹底を図っている。

評価領域X 改革・改善

- 点検評価委員会規程が整備され、規定に基づいて「自己点検・評価等専門委員会」と「第三者評価専門委員会」が常設され、定期的に自己点検・評価を行っている。定期的に自己点検・評価報告書を公表している。

- 自己点検・評価活動には、できるだけ多くの教職員が関与するよう配慮している。かつ、その成果をできるだけ活用するよう努力を重ねている。
- 京都医療技術短期大学の診療放射線技術学科と相互評価を平成12年度に実施している。「相互評価実施要領」という規程を整備している。相互評価の成果を改善にいかしている。

作陽短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 作陽学園
理事長	松田 英毅
学 長	松田 英毅
A L O	竹内 京子
開設年月日	昭和26年4月1日
所在地	岡山県倉敷市玉島長尾3524

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
音楽科		80
	合計	80

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
音楽専攻	10
	合計 10

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

作陽短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月15日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神に基づく教育目的・教育目標が明確で、点検と再確認が定期的に、また全学的に実施されており、その努力は充分評価される。

教育課程は、各専修の特色を重視しながら体系的に編成されている。授業やレッスンに関するさまざまな改善の取組みが、組織的に実施されている。

いずれの専修の学生に対しても最善の教育環境を整えようとする姿勢がみられる。最新の電子楽器や機材の導入、日本伝統芸能演習室やダンスレッスン室など、特色ある専修に対応した設備も充実している。

教育目標の達成に向けて多岐にわたる努力がなされている。また、卒業後の学生の多様な評価を集め、さらなる教育の改善に努めている。

入学に対する支援、組織的な学習支援、学生生活の支援体制、進路支援、多様な学生に対する支援のすべての項目にわたり、大きな問題点はなく、十分な支援体制が整備されている。

研究活動に問題はない。予算や研究環境も充たされている。これを多角的な教育方法の改善にも効果的に活用するのは、音楽系短期大学にとって一つの方向である。

社会に対する貢献を全学のグラウンド・ミッションと位置づけ、学生のボランティア活動としての演奏活動を奨励、支援している。併設大学と共同であるが、全学を挙げての社会的活動は非常に充実している。国際交流は併設大学が中心となって行っているが、短期大学にも毎年海外で研修を行う専修があるほか、海外への演奏旅行に参加した学生もいる。

学校法人については、理事長および監事の業務執行ならびに理事会、評議員会とも寄附行為に基づき適正に運営されている。短期大学は理事長・学長のリーダーシップの下、教授会ならびにこれに付置する各種委員会など規程に基づき適正に運営されており、学園一

本化の事務組織や、短期大学と大学との連携など効率的な組織運営が推進されている。また、法人、教員、事務職員の関係も良好で教職員に対するファカルティ・ディベロップメント（FD）、スタッフ・ディベロップメント（SD）活動の取組みなど就業環境にも配慮がなされており、円滑に運営されている。

平成15年度策定の中・長期計画に基づき、毎年度の事業計画および予算編成は適切に決定され、予算は経理諸規程に基づき適正に執行されている。また、財産目録および各種計算書類の作成、監事の監査、公認会計士による監査および私立学校法に基づく情報公開などについてもおおむね適切に実施されている。なお、施設・設備などの整備および管理状況も、同一キャンパスの大学部門との共用などで幅広い教育環境が提供されており、「諸施設管理運用規程」などの規程に基づき情報関係を含む有形・無形資産の管理も適切になされている。このほか、防災・防犯に対する危機管理体制も確立している。

自己点検・評価の規程が整備され、活動の実施体制は確立している。全学を挙げて改革・改善に取組み、現実にその成果をあげている。

2. 優れていると判断される事項など

（1）優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 仏教文化研究センターを設立して、建学の精神に対する、教職員の理解・実践を促進し、地域社会へ情報発信することなどに取組み始めている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 全体に少人数のクラス編成になるよう配慮されている。「ソルフェージュⅠ・Ⅱ」の授業において習熟度別授業が行われ、単位取得率を高めるなど教育効果を上げている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 810席を有する本格的音楽ホールは、学内施設として特記すべきである。ほかにパイプオルガンを備えた460席の多目的ホールと野外音楽堂がある。図書館は県内外の各図書館とも利用協定を結んでいる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 優れた成績を修めた者のために「卒業演奏会」を、また、さらに優秀な者には「中四国新人演奏会」や「岡山新人演奏会」に出演させるなど、外部に向けた演奏活動の機会を積極的に準備している。

評価領域V 学生支援

- 優秀な学生には奨学金制度、特待生制度、コンクール褒賞制度があり、演奏会出演の機会も与えられるなど、学生の意欲を高める配慮や支援が充分になされている。
- 個々の学生の学習面、生活面の状態に関する情報を学内で共有するシステムがあり、活用されている。学生の出身地の多い地域で保護者懇談会を開催し、この情報を活用している。
- 就職内定率について優れた実績をあげている。併設大学への編入学や専攻科入学者数も安定している。

評価領域VI 研究

- 紀要や「教育と研究」の発刊に加え、公開授業の実施による教育方法改善策の検討が行われ、研究環境が整備されている。

評価領域VII 社会的活動

- 地域に根ざした積極的な社会的活動が、演奏会、公開講座、市民参加のミュージカルなど多方面において全学的に展開され、優れた実績をあげている。

評価領域VIII 管理運営

- 定期的に職員研修が行われているなど、SD活動を推進している。
- 情報公開についても学園報の発行ならびにウェブサイトへの掲載により対応している。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域V 学生支援

- 改善意見箱の有効活用など、学生生活に関して学生の意見や要望を聴取するための努力が期待される。
- 課外活動において短期大学の学生が中心となって企画、運営するものが期待される。

評価領域IX 財務

- 消費支出超過額を計画的に解消することが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 大乘仏教に基づく宗教的情操教育を建学の精神とし、人格形成を通して、人や社会のために力を尽くす「菩薩道を歩むプロの養成」理念が確立している。
- 知的で道徳的な精神に立脚した能力の開発を推進し、音楽の専門家の養成を目的とする教育目標が明確で、年度毎に重点目標を掲げて、定期的に見直しや点検を進めている。
- 目的達成のための教育目標をグランド・ミッションとして定め、新入生オリエンテーションでの説明や、レポートによる教職員間での相互確認、全教職員会議での再確認などを通して、全学的取組みが展開されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 建学の精神と教育理念を反映させた教育課程が編成されている。教養に関する科目では「宗教Ⅰ・Ⅱ」と「教養基礎」がすべての専修に必修である。専門に関する科目では音楽という特殊性が反映され、個人指導による実技レッスンを含め、多くが実技科目と演習科目である。いずれの専修においても必修の割合が高く設定されており、主要な科目には専任教員が配置されていて、短期大学の教育課程として充実している。授業形態のバランス、必修・選択のバランス、選択科目の開設数、中学校教諭二種免許（音楽）など、学生の多用なニーズに応える教育課程となっている。
- 教育課程は、各専修の特色を重視しながら体系的に編成されている。授業やレッスンに関するさまざまな改善の取組みが、組織的に実施されている。

- 『講義概要』が毎年作成されており、各科目の授業内容、授業計画、使用テキスト、評価方法などが示されている。これは、新2年次生には3月末に配布されている。『学生便覧』にも専修別に卒業要件、履修条件などについて記載されているほか、履修指導も行われている。
- FD活動は組織的に実施されている。各教員は毎年「重点目標記述および判定用紙」を提出し、冊子『教育と研究』には「教育に関する自己評価」の項目が設けられている。授業評価アンケートが全学的に実施され、授業とレッスンの公開も実現されている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員数は短期大学設置基準に規定された数を充足し、いずれも短期大学の教員としてふさわしい資格と資質を有していると判断される。教員の採用、昇任についての規程も整備されている。
- 校地は、くらしき作陽大学と共用であるが、倉敷市の高等教育機関誘致用地であり、十分な広さと恵まれた自然環境をいかして整備されている。校舎面積も充分で、いずれの専修の学生に対しても最善の教育環境を整えようとする姿勢がみられる。最新の電子楽器や機材の導入、日本伝統芸能演習室やダンスレッスン室など、特色ある専修に対応した設備も充実している。パソコン室や図書館では、インターネット利用が可能である。校地と校舎にはバリアフリーや点字ブロックなど障害者に対する配慮がある。
- 十分な広さと所蔵量を有する図書館が整備されている。閲覧室には十分な座席数が確保され、個人閲覧室のほかグループ視聴室も用意されている。学外検索システムを整えているほか、学生の利用を活発にしようとする取組みが継続して行われている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 定期試験やそのほかの試験、出席状況、学習態度などにより総合的に成績評価をしており、適正に単位を認定している。専門科目においては個別指導や少人数教育により教育効果を上げると同時に評価も実施している。単位の認定状況は高く、学生の満足度も高い。退学者が約一割程度いるが妥当な範囲と思われる。退学の前に個別相談を実施するなど、きめ細やかに対応し、休退学低減にも組織的に取り組んでいる。また、資格取得や編入にも積極的に取り組んでいる。教員は学生アンケート結果を授業改善に反映させ、その内容を『教育と研究』に公表している。以上から総合的に見て、教育目標の達成への努力は充分にみられる。
- 教員、音楽講師、演奏家、音楽教室経営者、楽器店勤務といった専門職に就く者の合

計数の、卒業生数に占める割合は減少しているが、留学、進学の内訳数の割合が大幅に上昇しており、総合的に見て専門職に就こうとする意欲は高い。「企業モニターアンケート」により卒業生の就職先からの意見を聴取したり、同窓会や卒業生と接触を持つ機会を設けるなど、総合的に判断して取組みの努力が充分にみとめられる。

評価領域V 学生支援

- 短期大学案内には建学の精神などが明示されている。入試、広報が重視され、受験生ほかの問い合わせに充分応じられる体制をとっている。三種類の推薦入試と二種類の科目型入試を実施、採点や合否判定の方法に配慮し、多様な選抜が公正に行われるよう努めている。入学手続者に対し授業や学生生活についての情報が十分に提供できしており、入学者に対しても学習、学生生活のためのオリエンテーションが適切に行われている。
- 特に学習の動機づけに焦点をあてた学習や科目選択のための各種ガイダンスが適切に行われている。わかりやすい内容の学生便覧が配布されている。音楽の基礎学力不足の学生を指名し「音楽基礎理論」を履修させている。適切な指導助言を行う体制として担任制度を活用、さらに学生相談室、保健室、教育支援室の部署が相談を受け、指導に必要な情報を学科会議で共有し、組織的な支援を行っている。個人レッスン中心であるため、学生の進度に合わせた指導が可能である。優秀な学生には奨学金制度や特待生制度があり、演奏会出演の機会も与えられる。コンクール褒賞制度があり、学生の意欲を高めるための配慮や支援が充分になされている。
- 生活支援のための教職員の組織（学生委員会、教育支援室）が整備されているほか、欠席がちな学生を把握する「レッスン・授業・生活状況調査票」、学内と地方での計7回の保護者懇談会の実施があり、幅広く学生の生活支援に努めている。改善意見箱の有効活用など、学生生活に関して学生の意見や要望を聴取するための努力が期待される。「レッスン・授業・生活状況調査票」の情報を保護者会でも活用するなど、連携にも努めている。キャンパス・アメニティへの配慮、宿舎、駐車駐輪場の設備は充分である。三種類の独自の奨学金制度がある。
- 就職支援のための教職員の組織および進路支援室が整備され、就職対策の支援は適切になされている。過去3年間の就職希望者の内定率は非常に高く、すぐれた実績をあげている。当該短期大学斡旋の率も高い。併設大学や専攻科への進学についても十分な支援がなされ、安定した実績がある。
- 社会人対象の科目など履修生・聴講生制度があり、聴講生の受け入れ実績がある。主要建物はバリアフリーであり、身障者用トイレ、視覚障害者用ガイドなど障害者を受け入れるための設備が整っている。

評価領域Ⅵ 研究

- 研究活動はおおむね充たされている。研究業績の公開や学外の基金、財団からの研究助成の受け入れなどにも対応している。なお、ほかの教員の公開授業を参観し、その成果を自分の教授技術の開発に役立てるといふ、教育のための研究にも取り組んでいることは高く評価に値する。
- 研究費および研究経費については妥当な水準にある。また『紀要』の発行や、演奏発表会などについての施設も整備され、各分野における研究室や機器、備品、図書などに関する研究環境は良好である。研修日を設けたり、授業がない時間を研究時間にあてるなど、研究時間の確保に努めている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域に根ざした社会的活動が積極的に展開されている。大学と共同での活動として、教員と学生の演奏会、公開講座、市民参加によるミュージカルなどが積極的に行われている。
- 社会に対する貢献をグランド・ミッションと位置づけ、学生のボランティア活動としての依頼演奏活動を奨励、企画広報室が外部からの依頼に対応するなど、サポート体制も充実している。
- 一部の専修は毎年ニューヨークで研修を行っている。音楽学部がアメリカ、ロシアの大学と提携しており、平成17年度には3名の短期大学生が選ばれてアメリカへの演奏旅行に加わった。海外からの客員教授の公開レッスンを受ける可能性もある。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会および評議員会は寄附行為に基づき適切に開催され、監事の監査も適正に執行されている。理事長は、諮問機関として設置された「運営会議」の議長を務めるなど、適切なリーダーシップのもと、短期大学をはじめとし学園全体が運営されている。
- 理事長・学長のリーダーシップのもと、短期大学ならびに併設大学との連携により効率的な運営がなされている。また、教授会ならびに付随する各委員会なども学則に基づき適切に開催されており、教員と事務職員相互の理解を重視した体制で、円滑に運営されている。
- 事務組織は、「事務組織規程」に基づき法人全体を掌る組織として構成され、これにかかる施設設備など事務環境も適切に整備されており、事務諸規程などに基づき適正に運営されている。また、SD活動など事務職員の育成に対しても積極的に取り組み、適正な事務運営に配慮がなされている。
- 就業規則などは適正に整備されており、教職員に対する周知も適切になされている。

理事会、評議員会、各種委員会などにも教職員が適切に選出されており、法人、教員、事務職員はそれぞれお互いの立場を尊重しあい関係も良好で、適切な人事管理が実施されている。

評価領域IX 財務

- 毎年度の事業計画および予算は、規程ならびに平成15年度策定の中・長期計画に基づき適切な方法で決定されている。予算執行については、各種経理関係規程に基づき適正に執行されており、財産目録および各種計算書は適正に表示されている。監事と公認会計士の監査も適切に執行されており、情報公開についても学園報の発行ならびにウェブサイトへの掲載により対応している。
- 消費収入超過体質を維持してきたが、一時的に支出超過となったものの、多少の時間は要するが健全な収支に転換は可能であると判断する。また、教育研究経費比率は妥当な水準を維持している。
- 各種関係規程に基づき適切に施設設備の維持管理がなされており、一部自動化した防災・防犯対策、コンピュータシステムのセキュリティー強化など情報に対する管理など、大学部門を含むキャンパス全体で、有形・無形資産の管理、教育環境の維持・保全に取り組んでいる。

評価領域X 改革・改善

- 寄附行為細則に基づき定期的に自己点検・評価を実施してきている。平成17年度からは「くらしき作陽大学・作陽短期大学自己点検・評価など実施要綱」を整備し実施している。過去3年間に実施された点検・評価の内容は、関係省庁、ほか大学、県下の高校、および教職員に配布するという方法で公開されている。
- 専任教員の全てがワーキンググループのメンバーになるなどの配慮をし、改革・改善内容を全員で共有する努力をしている。点検により明確になった問題点は、「改革会議」や「推進委員会」を通じて改善の方策が練られる。併設大学の音楽学部との比較、検討から、短期大学の存在意義を確認し、短期大学の活性化に成果を上げている。「音楽デザイン専修」や「日本伝統芸能専修」の設置にその成果が現れている。
- 平成12年度に呉大学短期大学部と相互評価を実施した。近年、相互評価は実施していないが、他大学の講師を招聘し意見を求めたり、外部のコーディネータを登用するなどの方法により、外部の意見聴取に取り組んでいる。平成17年度に定めた「くらしき作陽大学・作陽短期大学自己点検・評価など実施要綱」に、外部評価、相互評価についても規定されている。

広島国際学院大学自動車短期大学部

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 広島国際学院
理事長	鶴 素直
学 長	今村 詮
A L O	益永 茂治
開設年月日	昭和39年4月1日
所在地	広島県広島市安芸区上瀬野町5-17-1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
自動車工業科		130
	合計	130

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
整備工学専攻	10
	合計 10

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

広島国際学院大学自動車短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年6月23日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

確立した建学の精神・教育の理念、明確で具体的な教育目的と目標が共通に理解されて、教育が実践されている。

教育目的は明確であり、その目的を達成するために、教育課程は体系的に編成されている。また、学生の多様なニーズに応えるため、基礎教養科目で9科目、専門科目で22科目の選択科目を開講している。そして、毎年授業内容、教育方法の改善を行っている。

専任教員数は16名であり、全員が短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有している。図書館、講義室、演習室、実習室など教育環境が整備され、十分に活用されている。

教育目標の達成への全学的で精力的な取組みが推進され、着実な成果を上げている。その教育成果の高い評価として、自動車整備士の高い資格取得率と自動車整備業界からの高い水準の求人および専門職への就職率が維持されている。

入学支援として、入学志願者に対して多様な情報提供を行っており、相談体制も整っている。学習支援についても組織的かつ精力的に行われている。また、学生生活支援および進路支援体制も整備され、実績も上がっている。

研究環境についても各教員に定額の個人研究費が支給され、また、研究日が週に1日、年間30日上限の指定休日が認められている。

短期大学としての社会的活動への取組みは、広島市との官学共同活動や地域との連携として復元バス事業に関わるなど、地域の活性化に貢献する姿勢がみられ、また、高等学校への出張授業など交流活動も盛んであることから、積極的な取組みが推進されていると考えられる。学生の社会的活動は、学友会中心のボランティア活動があり、学事課をはじめ短期大学の指導体制が深く関与しているものと思われる。

理事長を頂点とする管理運営体制が確立しており、理事会、評議員会にはそれぞれ短期

大学の教職員がメンバーとして入っており、円滑な大学運営が行われている。また、短期大学としても、学部運営会議を月2回開催して意思の疎通を図るとともに、重要事項は規則に則り、教授会で審議するなど適切な運営が行われている。事務職についても、少ない人員で大学と連携し、適切に業務を遂行している。

予算編成および執行は各規程に基づき適正に業務が遂行されている。財務内容は学校法人、短期大学ともにおおむね健全性を維持しており、財務情報の公開についても、私立学校法の改正の趣旨に則り、インターネットのウェブサイトに公開している。施設整備については短期大学に必要な施設設備が整備され、各種管理規程に基づき適正に管理されている。また、危機管理対策などもおおむね適切に講じられている。

自己点検・評価活動の実施体制（規程、組織など）は確立しており、平成11年度以降4巻の自己点検・評価報告書を作成し、短期大学部内外に公表している。また、相互評価についても、平成14年度に愛知工科大学短期大学部との間で実施しており、今後も規程など整備して他短期大学との相互評価を希望しており、積極的である。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 法人寄附行為の規定に、建学の精神に則り人間愛に基づく教育を行うことが法人の目的であると明記されており、建学の精神に基づいた教育への強い想いが認められる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育ツールおよび授業法の共有活動、習熟度別授業の実施、資格取得支援のための個人指導、再履修科目の設定など教育効果向上の努力が組織的に行われている。
- 授業アンケートによる学生の満足度に配慮し、授業改善の認識と質的改善を目指し、分かり易い授業への不断の努力をしている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 教育目標に設定されている資格取得（自動車整備士国家試験）支援に対して全学で力を入れており、合格率は二級ガソリン自動車整備士、二級ジーゼル自動車整備士、一級自動車整備士とも毎年ほぼ全員合格の実績をあげている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 多様な委員会や組織による全学的で精力的な学生支援が行われている。特に、個々の学生を受け持つチューター制度により、学生に対する入学支援、学習支援、進路支援が懇切丁寧かつ精力的に推進され、大きな実績を上げている。

評価領域VII 社会的活動

- 広島市との官学共同活動や地域との連携として復元バス事業に関わるなど、地域の活性化に貢献する姿勢がみられる。

評価領域VIII 管理運営

- 事務職に人事評価制度を導入し、組織の活性化を図っている。

評価領域IX 財務

- 私立学校法の改正に伴い、財務情報をインターネットのウェブサイトに公開している。

評価領域X 改革・改善

- 第三者評価制度が施行される以前の平成14年度に、既に愛知工科大学短期大学部との間で相互評価を実施し改善に努めている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域IV 教育目標の達成度と教育の効果

- すでに実施している卒業生アンケートを一層拡大することにより、現在の取組みをさらに発展させ向上・充実されることが望まれる。

評価領域V 学生支援

- 多様な学生（社会人学生、留学生など）に対する特別な支援について、一層の努力が望まれる。

評価領域VI 研究

- 専任教員の論文など外部に向けた一層の研究業績への取組みの活性化が望まれる。

評価領域VIII 管理運営

- 各種委員会は活動しているが、規程（則）のないものがあるので、規程（則）を整備するとともに実績記録（議事録）なども作成して活用するのが望ましい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神「教育は愛なり」および教育の理念「信和、協同、実践」が確立している。
- 教育目的「国家資格を有する自動車整備士の育成」および7項目からなる具体的教育目標「二級自動車整備士支援、一級自動車整備士支援、進路決定支援、教育内容の改善、学生の満足度向上、留年・退学者の低減、各種資格試験の合格率」が明確に示され、定期的に点検されている。
- 教育の目的・目標は定期的に学生および教職員に提示されている。また教育目標は理事会で法人の事業として承認され、共通に理解される努力がみられる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育目的は明確（二級自動車整備士資格と幅広い教養に基づいてあらゆる場面に対応できる人間性と応用力を有し、社会で評価される自動車整備士の養成）であり、その目的を達成するために教育課程は体系的に編成されている。
- 教育課程は国土交通省認定科目（すべて必修科目）のほかに、基礎教養科目で9科目、専門科目（学科）で16科目、専門科目（実習・演習）で6科目が選択科目であり、学生の多様なニーズに応えるものとなっている。
- 授業内容、教育方法および評価方法はオリエンテーション時に配布される履修要項に明らかにされている。
- 教育課程の見直しは、毎年度末に授業担当者の意見、学生や企業からの要望を集約し、教授会で審議決定している。平成14年度に1科目開講、平成15年度には3科目開

講、8科目閉講、平成16年度には2科目開講している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 専任教員数は16名（短期大学設置基準では12名）であり、全員が短期大学の教員にふさわしい資格と資質を有している。特に、資格取得（自動車整備士国家試験）支援に対して全学で力を入れており、合格率は二級ガソリン自動車整備士、二級ジーゼル自動車整備士、一級自動車整備士とも毎年ほぼ全員が合格である。
- 短期大学の保有する校地の面積は短期大学設置基準の規定を充分満たしており、校地は教育環境として適切に整備されている。また、それぞれの授業を行うにふさわしい講義室、演習室、実習室は十分に用意されている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 単位認定の方法、学習評価も適切であり、学生による授業評価をフィードバックして、教育目標の達成への努力が認められる。資格取得の支援への熱心な取り組みが行われ、自動車整備士関連では、ほぼ全員が合格、十分な実績を上げている。
- 資格に基づく専門への就職は優れた実績をあげている。教員が就職先の採用人事担当と面談し評価などの意見を聴取している。来校した卒業生に対してアンケートを平成17年度から試行的に実施している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標、望ましい学生像、入学者選抜の方針、多様な選抜方法について様々な印刷物に明示し入学志願者に配布している。
- 学年別全体のガイダンスのほかにチューターによるガイダンスが懇切丁寧に行われている。また、基礎数学、自動車工学演習で少人数クラス制の習熟度別授業による学習支援が推進され、さらに、再履修科目、二級整備士講習会の個人指導も行われている。そのほか多くの学習支援が広範かつ組織的に行われている。
- 教員による各種委員会と学事課、庶務課、就職課で組織的な生活支援が行われている。例えば、学生のキャンパス・アメニティに対する十分な配慮が行われており、通学のための便宜も図られている。さらに、メンタルケアや健康管理の体制、大学独自の経済的支援制度などによる学生生活の支援が行われている。
- 就職委員会、就職課を中心に就職支援の組織が整備され、適切に活動している。また、就職のための資格取得、就職試験対策などの支援も充分に行われている。
- 受け入れ留学生が数名であるため個別的な対応がとられている。

評価領域Ⅵ 研究

- 専任教員の学会発表、論文掲載など外部への研究活動はあまり活発とはいえないが、学内に向けては、ファカルティ・ディベロップメント（FD）委員会への報告を通じ、授業の工夫にいかされている。
- 研究室が整備され、研究費についてもほぼ十分な予算がとられている。機器備品など研究費の支出状況はおおむね順調に支出されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 専門分野である自動車工学や自動車整備に関する領域での社会貢献が目指され、具体的な取組みにつながっている。
- ボランティア活動など、学生の社会的活動に関しては、学友会を中心とした献血やクリーンキャンペーンに具体例がみられ、これには学事課を主とした短期大学の関わりがあるものと考えられる。
- 短期大学としての社会的活動への取組みは、広島市との官学共同活動や地域との連携として復元バス事業に関わるなど、地域の活性化に貢献する姿勢がみられ、また、高等学校への出張授業など交流活動も盛んであることから、積極的な取組みが推進されていると考えられる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会、評議員会は、寄附行為の規定に基づき開催され、理事会が学校法人の意思決定機関として適切に運営されている。監事は理事会、評議員会に出席して意見を述べるとともに決算の監査など業務を適切に実施している。理事長は重要事項に関する各種審議に参加して関与するなどリーダーシップを発揮している。
- 教授会は学則に規定されており、重要事項は予め学部運営会議で議論した後、教授会で審議するなど短期大学の運営体制は確立されている。ただし、教授会の下に各種委員会があるが、規程（則）がないのは改善されたい。
- 大学と連携し、各機能を発揮できる事務組織となっており、業務も適切に遂行されている。
- 教職員の就業などに関する諸規程は整備され、これに基づき人事管理は適正に行われている。また、理事の数も妥当であり、学校法人と教職員が協力する体制が整っている。

評価領域IX 財務

- 事業計画ならびに予算は、短期大学および大学の関係者、監事、評議員会および理事会がそれぞれ予算決定の段階で適切に関与して決定され、執行も適正に行われている。また、財務・経理・出納の各業務も必要な承認手続きのもと適正に実施されており、財務の運営は円滑、適切に行われている。
- 短期大学は、過去3年間とも消費支出比率および教育研究費も妥当な水準を維持しており、財務体質は健全である。学校法人は過去3ケ年、消費支出超過の状態ではあるが、人件費・管理経費の節約などにより平成17年度は大きく改善されている。また、総負債率は減少している。
- 固定資産台帳、備品台帳などは整備され、それぞれの管理規程も整備され、施設設備の管理は適切に行われている。また、危機管理対策特に火災の避難訓練、コンピュータシステムのセキュリティ対策もおおむね講じられている。

評価領域X 改革・改善

- 現在の目標管理活動を主体とした自己点検・評価活動は、短期大学運営全般の改革・改善には不十分と認識し、目標管理活動主体の改革・改善の上に自己点検・評価活動を位置づける形態とする体制整備と実行を推進している。

岩国短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 高水学園
理事長	宮川 明
学 長	黒田 耕誠
A L O	新庄 方子
開設年月日	昭和46年4月1日
所在地	山口県岩国市尾津町2-2 4-1 8

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
幼児教育科		150
キャリアデザイン学科		50
	合計	200

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

岩国短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年6月23日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神・教育理念の今日的解釈については、明確になっている。実学、労作教育を柱にした各学科の教育目的・教育目標が示され、年度末に常に点検されている。

両学科とも一般教養科目の改善を行い、学生実態についての教員調査も実施しており、目的に沿った人材の育成に合致した教育内容であると認められる。

教育施設、特にLL演習室、ML演習室が充分活用されている。教職員は授業、生活両面で学生を育てる業務に意欲的である。また「楽学」のもとでの師弟同行の様子が構内参観時にも見受けられ充実した教育体制がとられている。

教員の授業に対する学生評価を活用し、授業改善の足跡がみられる。資格取得率と就職率は教職員の努力によって十分に目的を達成している。

複数回実施されているオリエンテーションや、チューター制の採用にみられるように、個別指導を中心にして全職員が取り組み、適切に運用されている。

演奏活動、ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動、公演活動などが活発に行われ、市民に広く触れ合う機会が提供されている。公開講座を大規模に実施し、子育て支援サークルや地域機関、各種団体との交流を積極的に実施している。ボランティアサークルが中心となり行事イベントへ参加している。施設、幼稚園、保育園との交流活動も盛んである。地域社会のボランティアは「地域に生きて働く人材の育成」であり、建学の精神の根本理念としての取り組みである。活動には教職員、学生ともに参加している。また、高等学校への出前授業や作品展の企画なども行われている。地域総合科学科としてのキャリアデザイン学科を市民参加型とする取り組みに期待したい。

管理運営はおおむね良好と評価できる状態である。理事会は適正に運営されており、また、学長をリーダーとして教授会も適正に運営されている。

改革・改善に向けて、自己点検・評価活動を継続して実施し、その結果も公表している。教職員が改革・改善に係わる工夫がなされている。また、相互評価を実施している。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 実学、労作教育を柱にした各学科の教育目的・教育目標が示され、年度末に常に点検されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 一般教養科目の改善を行い、学生実態への教員調査を実施している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教育施設、特にLL演習室、ML演習室が十分に活用されている。
- 建学の精神である「実学」を実践すべく、密接な師弟関係を形成していることは特筆される。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 就職先から人材養成のための意見聴取を行っている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 『学生生活ハンドブック』を作成している。また、他大学との連帯によるリサイクル運動を行っている。

評価領域Ⅵ 研究

- 地域に短期大学の知的財産を公開するために、文化教育研究所を設置し、講演や幼児体育、絵画指導を実施している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 演奏活動、公演活動、公開講座などを通して市民との幅広い交流が展開されている。
- 障害者施設、老人施設へのボランティアを行っている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 教育目的・教育目標については、学生の実態と社会の要請を理事長に報告し、理事会と短期大学の両者によって点検と教育活動の改善をさらに図ることが望まれる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- シラバスには、必修・選択などを明記して学生の履修計画に資するよう努められたい。
- 資格取得と大学教育の観点からみて教養科目の増設などカリキュラムのさらなる改善工夫を期待する。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員採用、昇任選考の手順などを整備されたい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 外部アンケートを教育にフィードバックする方途を組織的に検討されたい。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 事務効果を高めるための学内外の研修が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 中・長期の財務安定化を図るために計画を明らかにし教職員への周知を図ることが望ましい。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 評価のフィードバックを改善に反映させる組織体制を確立されることが望まれる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神および教育理念の今日的解釈の説明がなされている。
- 実学、労作教育を柱にした各学科の教育目的・教育目標が示されており、各年度末に通常形式で点検している。
- 教育目的・教育目標を共有するための取組みについて、管理職の努力は認められる。全教員への浸透については更なる取組みが必要である。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 資格取得のための必修単位が多い中で、基礎科目（必修）、教養科目（選択必修）の上に専門科目を履修するよう構成されている。
- 専門教育科目については、学生自身の専攻学科の受講に支障ない範囲で受講可とし、6単位を限度に卒業単位に取り込んでいる。ただし極少人数講座は検討の余地がある。
- シラバスは冊子として編集され配布されている。
- 授業内容および教育方法の改善への取組みとして、平成15年度に一般教養の改善を行い、平成17年度には学生実態についての教員調査を行い資格取得必修単位も視野に入れ、平成18年度に方向性を定めるよう審議している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 短期大学設置基準を上まわる教員数を有し、資格、資質ともに充分である。

- 各学科の教育施設は整備され活用されている。LL演習室、ML演習室が顕著である。
- 図書館は学生の実習教材作成に資するよう整備されているが、幼稚園教育、保育そのものに係る文献の充実が望まれる。
- 「楽学」のもとでの師弟同行の様子が構内参観時にも見受けられ充実した教育体制がとられている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 学生の単位取得、資格取得、就職率、休学・退学者数の状況を総合的にみるとおおむね教育目的を達成していると判断できる。また、教員の授業に対する学生評価も取り入れ授業改善の足跡もみられる。
- 幼稚園、保育園への意見聴取により、卒業生の勤務状況を知るとともに職場に必要な人材養成のための意見を集めるなどの取組みがみられる。また編入大学および卒業生評価も行っている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 入学に関する支援については、学科の中身がもう少し詳細に表現できることが望まれる。
- 4回のオリエンテーション、チューター制による少人数での助言活動が行われている。
- 各教員が支援センターの役割を果たし、学生部と連帯した指導がなされている。
- 隣接の広島市内には多くの同系大学がある中で80%以上の就職率を確保していることは素晴らしい。短期大学、卒業生の努力がうかがえる。
- 社会人入学、長期履修生の受け入れを行っている。障害者に優しい環境づくりが必要である。

評価領域Ⅵ 研究

- FD活動は効果的に行われている。個々の研究は紀要と「幼児教育研究報告」に発表されている。研究活動の活性化について、標準的な整備は行われている。
- 演奏活動、講演活動などが活発に行われ紀要や研究報告書も作成されているが、地域貢献、学生教授のために多くの教員の研究活動を期待する。
- 地域に短期大学の知的財産を公開するために、文化教育研究所を設置し、講演や幼児体育、絵画指導を実施している。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 社会人入学のほかに長期履修生の受け入れを行っている。また、公開講座6～7講座（1講座10コマ）を前、後期に開設している。子育て支援サークル、地域機関、団体との交流も多い。
- ボランティアサークルが中心となり行事イベントへ参加している。施設、幼稚園、保育園との交流活動も盛んである。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会は適正に運用されているが、短期大学については学長の裁量に任せる部分が多い。理事長には現状把握の上、大局的な指示、リーダーシップが望まれる。
- 学長をリーダーとして教授会が運営され、各種委員会とその規程が定められる、という短期大学の運営体制をとっている。
- 事務組織が整備され各部下の職務内容が明記されている。必要規程、帳簿も揃っている。
- 就業関係は特に課題はない。教員の勤務は電話で確認するなど厳しい。女子職員には卒業生を多数当てていることから運営上利点は多いが課題もある。

評価領域Ⅸ 財務

- 財務運営は適切に執行されていると判断したが中・長期の財務計画が見えて来ない。今後の大学像ともかかわって早急な検討が望まれる。
- 研究活動の推進以外に人件費などの点検を行い、財務体質の改善としても取組みたい。また定員充足率の改善計画を立てられたい。
- 施設設備に関して必要な台帳は整備されていると判断した。

評価領域Ⅹ 改革・改善

- 自己点検・評価の要項などは整備され、組織運営も努力の足跡がみられた。またFD活動、授業評価の活用も図り、点検結果も公表されている。
- 学長直轄の15専門委員会を構成し、学科会なども加わって全員が改革・改善に関わるようにしている。
- 大阪千代田短期大学との相互訪問による相互評価を実施し、報告書もまとめられている。

山口芸術短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 宇部学園
理事長	二木 秀夫
学 長	加屋野 洋
A L O	河北 邦子
開設年月日	昭和43年4月1日
所在地	山口県吉敷郡小郡町大字上郷

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
保育学科		150
デザインアート学科		50
音楽学科		50
	合計	250

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員	
音楽専攻	15	
芸術文化専攻	10	
幼児教育専攻	10	
	合計	35

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

山口芸術短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年6月23日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

教育の内容、方法が異なる3つの学科をもつ短期大学として、学科ごとの教育目標を明確にするとともに、これを建学の理念に結びつける努力がなされてきた。平成18年度の学生便覧には、その経緯が、学生のみならず、保護者、教職員にも向けて、詳細に説明されている。

教育課程の全般にわたり、充分体系化されている。とくに専門課程は充実している。常時、学科単位でカリキュラムの点検、再評価が行われており、授業改善、教育充実への強い意欲を感じさせる。とくに保育学科におけるカリキュラムが充実しており、さらにそれを補足する個人指導体制も整備されている。

教員組織、教育環境とも、充分短期大学設置基準を充たしている。教員の任用、昇任などの人事については、内規に則り、人事教授会（教授のみで構成）で公平適切な資格審査が行われている。教員と学生による学内清掃活動が恒例化されているなど、環境美化の取組みが行われ、学内環境が大変清潔に保たれており、快適な教育環境が実現されている。

教育目標達成のための努力は、3つの学科それぞれの方法で行われているが、数値的には、単位取得率の高さ、退学、休学者の少なさなどに、その成果がうかがえる。卒業後の評価については、一般に県下での就職者が多く、「堅実で定着率が高い」との評価を受けている。

近年、入学時の学生の学力格差が顕著になりつつある。そのためにも、入学前のオリエンテーションや、チューター制度による学生個々の指導に力を入れている。進度の遅い学生には時間外の指導を行い、進度の早い学生には新たな課題を与えたり、コンクールへの出品を奨めるなど、さらなる進歩の後押しを考えている。短期大学の発展にとっては、卒業生の進路確保が生命線であると思われるが、当該短期大学では、地元企業などを中心に、

かなり良好な就職率を維持しており、地域社会での評価の定着をうかがわせる。

教員各自の個人研究、創作発表などの状況は、短期大学としては妥当な水準にある。加えて各学科で毎年共同研究が多数採択され、授業改善の方法から新たな教育方法の開拓まで、さまざまに興味深いテーマに取り組んできている。

「地域の文化・芸術活動や人的交流の拠点として評価される短期大学」、それが学是のひとつとなっている。生涯学習センターを核とした、社会人・職業人のリカレント教育、教員と学生による各方面での社会連携活動などに、そのことがよくうかがえる。

事業計画および予算については、適切なプロセスで機関決定されており、関係部署への伝達、執行についても、その運用に問題点はない。学校法人の経営・財政状態については、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録などで適正に表示されている。監査機能も有効に働いている。資金収支および消費収支は学校法人、短期大学ともに安定しており、短期大学における消費支出比率はこの3ヶ年で漸減している。なお、短期大学の帰属収入における教育研究経費の比率は、この3ヶ年、妥当な水準を維持しており、教育研究用の施設、図書などに対する配分も適切である。

短期大学の運営がますます困難になる状況に鑑み、前回の自己点検活動以後、とくにこの3年間は、全学をあげて改善・改革の方向を探ってきた。その結果が、学科名称の変更、カリキュラムの改善、「ステージフィールド制」（基礎・展開・資格という3段階のステージで、学生のニーズに応じた自由な科目選択を可能にするとともに、それを補助するための個人指導を充実させたシステム）の導入などであり、学生にとってより魅力ある教育システムの実現を目指して、改革が重ねられてきている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 地元が誇る先人吉田松陰の言葉「至誠」を学是としていることは、圧倒的に地元出身者の多い学生、保護者、および周辺の地域社会にとって、親しみやすく、理解も得られやすく、学園の発展に資するところが大きい。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 3学科とも、導入科目から展開科目、さらには資格取得関連科目にいたるまで、十分な数の専門科目を提供し、免許・資格の取得が重要な教育目標の一つであることを、明確に打ち出している。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 校地、校舎は充実しており、芸術系短期大学に相応しい教育環境を整備し、加えて丁

寧な保守点検が効果をあげている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 成績評価のばらつきを減らし、教育目標の実現を促進するため、各学科で、学期ごとに、非常勤講師をも交えた懇談会などを催している。
- 芸術系短期大学の特色をいかし、学科ごとに各種の資格に対応したカリキュラムを整備している。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 当該短期大学におけるチューター制は、単なる担任制にとどまらず、毎週金曜日に全学でチューターの時間（HR的なもの）を設けるなど、学生指導の基本システムとして定着し、学生の満足度を高める点でも大きな効果を発揮している。
- 恒例化した学生アンケートのほか、「声のポスト」（投書箱）を設置するなど、学生の希望や不満を直接くみ上げる努力もしている。

評価領域Ⅵ 研究

- 学科の教員が毎年、共同のテーマで研究や議論を進めるというのは、教員間の意思疎通という観点からも、大変優れた企画である。成果は授業改善などに充分いかされている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 地域に根ざし、地域とともに発展する短期大学という運営理念が、実際の活動成果を通じて十分に読み取れる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会直轄の運営委員会を設け、教授会、理事会で審議される議案の事前調整機能をもたせている。これによってスピーディーで円滑な学園業務の遂行が可能になっている。

（２）向上・充実のための課題

評価領域Ⅴ 学生支援

- 多様な入試制度が用意されているが、求める学生像を明らかにするためにも、入試要項などにアドミッション・ポリシーの掲載が望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- 教員の研究活動、創作活動などを、ウェブサイトで広報する計画については、可能な限り実現されたい。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 併設高等学校があることから、高大連携をより一層活発な展開を期待したい。
- 地域活動の成果を国際交流の分野にも拡充する可能性を探られることを望みたい。

評価領域Ⅸ 財務

- 中・長期計画については、来年度の大学開設を始め、さまざまに検討されているようだが、明確に文書化されたものはない。今後の短期大学運営について全学の意志を統一するためにも、文書化し、学内に周知することが望ましい。
- 財務情報の公開を、広範な関係者に向けて、可能な限り積極的に行うために、その形式、方法の検討を進められたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 「吉田松陰の<至誠>の心を心とする教育」という理念が、学園の教育活動全般の基盤として明確に示されている。さらに「芸術を愛し（中略）永遠の真・善・美を追求する感性豊かな人材を育成する」といった教育の理念も、学科ごとの教育目的と併せ確立している。
- 短期大学としての教育の理念、学科ごとの教育目的については、建学以来、機会あるごとに再点検を続けてきているが、とくに平成8年度には、自己点検・評価作業の柱として、建学の精神、教育の理念、各学科の教育目標などについて全学的な再検討が行われ、その結果が報告書に詳しく紹介されている。
- 建学の理念については、大学案内やウェブサイト、さらには入学式での理事長、学長の挨拶などで説明され、新入学生の理解を求めている。また、平成18年度の学生便覧からは、とくにページを設け、建学の理念ならびに教育の理念について詳細に記述するようになった。学科ごとの教育目標は、入学時のオリエンテーション、宿泊研修、チューターによる指導などを通じて、学生の理解を促している。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育内容、方法の異なる3つの学科がそれぞれに工夫し、充分体系的なカリキュラムが編成されている。とくに専門課程は質、量ともに標準を超える科目が準備されているが、共通科目（一般教育）については、やや科目数が少なく、当該短期大学における教養教育の特徴、その目指すところが見えにくい印象もある。

- いずれの学科においても、各種の免許・資格などの取得が大きな教育目的になっており、カリキュラムにもそのための配慮が充分なされている。「学生のニーズ」というとき、社会人や資格取得のための再入学生など、多様な背景をもった学生の受け入れ体制をも意味すると思うが、現段階では、一般学生の科目選択に多様性をもたせることを主眼とし、必修科目を減らして選択科目を増やすとともに、多様なく目的別履修モデル>を用意するなど、学生の個別履修指導を徹底することになっている（ステージフィールド制）。
- 授業内容、評価方法などについては、シラバスによって明示されているほか、入学時のオリエンテーション、学科中心で行われる学年ごとのガイダンスなどで、学生にも充分明らかにされている。
- 授業内容、教育方法の改善については、学科を中心に常時点検、検討が行われているほか、5年ごとの「自己点検評価報告書」作成時には、全学的に徹底した点検を行い、改善・改革に結びつけてきた。近年は「学生アンケート」が授業改善への有効なデータを提供している。学生の指摘について各教員の受けとめ方を聴く「教員アンケート」も行っているが、教員側にも反省、改善への意欲が充分うかがえる。回を追うにつれて「学生アンケート」の結果が好転しているのも、その成果であろう。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員組織は整備され、教員数も短期大学設置基準を充足している。限られた人数の教員が、各種の委員会活動だけでなく、学生部を中心にした事務組織にも深く関与している（部課長に就いている）など、短期大学運営への強い熱意を感じる。
- 音楽学科など、実習系の短期大学に不可欠な実習室、個人レッスン室を完備し、附属の機器類も、短期大学としては十分なレベルに整備されている。清潔で快適な教育環境作りへの努力がうかがえる。なお、体育館、運動場なども整備され、安全面も充分配慮されているが、校舎がすべて独立しており、エレベーターもないなど、移動のための障害のある学生の受け入れは、今後の課題である。
- 図書館は充分整備されている。蔵書数、閲覧室の座席数などがやや少ないようにも思われるが、現在のところ、学生、教職員の必要には充分応えている。
- 教員組織は整備されており、教員の任用、昇任などの人事については、内規に則り公平適切な資格審査が行われている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 教育目標の達成に不可欠な教員間の連携、たとえば成績評価の方法や基準についての打ち合わせなどが、非常勤教員も含めて、かなりの回数行われている。授業改善につ

いては、学科での討議のほか、教員アンケートなどでも各人の考えを聴いている。多くの教員が学生の満足度を重視し、授業改善への意欲を示している。全学的制度としてチューター制度を充実させ、学習面でも生活面でも、学生一人ひとりの事情を重視した指導を心がけている。こうした努力の成果として、学生の単位取得率は高く、退学者、休学者の数も大変少ない。学生アンケートの結果でも、回を追うにつれて、満足度を示す数値が向上しているのは注目に値する。

- 近年、学生の就職先開拓に関連して卒業生の追跡調査、アフターケアの重要性を痛感し、その試み（就職先での聴き取り、卒業生アンケートの試行など）を始めている。保育学科では専門就職率が高く、その多くが県下の幼稚園などであるため、就職先での評価も把握が容易であり、その評価は十分に高いものである。

評価領域V 学生支援

- 入学内定者に対し、入学前のオリエンテーションを丁寧に行っている。短期大学生生活への不安を取り除き、心身の準備を促すのに役立つとともに、内定者の入学率向上に役立っている。入学後は、全学ならびに学科でのオリエンテーションのほか、チューターによる指導を通じて、大学生活への順応を支援している。
- 学科ごとにチューター制度を充実させ、学習面、生活面での個人指導に力を入れている。近年、学生間の学力格差が目立つようになり、その意味でも個人別指導の必要性が増大している。
- 学生部、学生生活就職支援委員会などが、事務部と協力して必要な支援体制を整えている。支援策の一つとして、校地内に女子学生寮（80室）を設置しているのは、特記すべきである。保健室を整備し、専門員による相談日を設けている。また、学生ごとの個人票を作成し、各種の指導に不可欠の資料としているが、その管理は「学生の個人情報保護に関する内規」によって、学生部が責任をもっている。
- 就職、進学などについて、教職員一体となって、学生の指導、支援にあたっている。就職率も高率で安定している。主としてチューターが学生個々の問題の把握に努め、授業担当者、生活支援担当者などとの連携を図って、解決に努めている。社会人入試による入学生、科目等履修生、長期履修生など、学生にも多様化が進みつつあり、その受け入れ制度も整備が進んでいる。

評価領域VI 研究

- 実習系の教員が多く、論文などになって公表される研究活動は限られているが、展覧会や演奏会といった制作活動、各種の社会事業、文化事業の企画、指導などが活発に行われており、当該短期大学が地域文化の進展、活性化に指導的な役割を果たしてい

ることがうかがえる。

- 研究活動、発表活動促進のため、必要な研究費が配分され、主として学科単位で運営されている。個人研究室の面積、必要機器類なども、標準以上に整備されている。
- 教員各自の個人研究、創作発表などの状況は、短期大学としては妥当な水準にある。加えて各学科で毎年共同研究（5年間で17件）が採択され、授業改善の方法から新たな教育方法の開拓まで、さまざまに興味深いテーマに取り組んできている。その成果は授業改善などに充分にいかされているが、今後より広い公表方法の検討が望まれる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 開学以来、長く地域の文化センター的役割を果たしており、教員各自の社会的活動は活発である。教員の多くが地域の文化振興にかかわる各種の委員会の委員などを務めているほか、保育・福祉関係の講演会などへの出演も数多く、その地域貢献度は高い。加えて、平成14年に生涯学習センターを開設、ここの主催する「サマースクール」が多く地域住民を聴講生として集めるなど、組織的な取り組みも開始されている。
- ボランティア活動に関する講義が開かれているほか、地域の文化的催し、各種の体育大会などにも、学生の積極的参加を促している。その一部は、講義あるいは実習の一環としても取組まれている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 幼稚園、中学校、高等学校を含む学園全体の管理運営体制が、理事会を中心に確立している。短期大学については、専務理事が常駐し、理事長指名のメンバーによる運営委員会を置いて円滑な管理運営を図っている。
- 教務事項、学生指導に関しては、教授会の主体性が確立している。教授会のもとに、学生生活支援委員会をはじめとする7つの委員会組織が整備され、学内の運営にあたっている。理事会、教授会の全面的支持があるなど、学長のリーダーシップが十分に発揮される環境が整っている。
- 経理、庶務関係は職員組織として運営され、学生、教務関連は教職員協力組織として運営されている。各種規程も完備され、組織としては問題なく機能しているようだが、教員の負担がかなり大きいように思われる。
- 教職員の就業に関する規程は完備され、人事管理は適正に行われている。教職員の健康管理も十分に配慮されている。職員の就業時間は、柔軟な取り扱いを可能とする1年単位の変形労働時間制を採用している。

評価領域IX 財務

- 事業計画および予算は、事務課長、各学科、部門の予算責任者から聴取した要望をもとに原案が作成され、専務理事、学長、事務長による協議の後、理事長が評議員会の意見を聞いたうえ、3月下旬に理事会で決定している。決定した事業計画や予算は、各学科、部門の予算責任者に通知され、執行される。予算執行については、学科主任、事務部課長、学長、専務理事を経て、最終的に理事長のもとで決済されている。学校法人の経営・財政状態は、資金収支計算書、消費収支計算書、貸借対照表、財産目録などによって適正に表示されている。監査機能についても有効に働いており、学校法人と監事、公認会計士との連携は円滑に行われている。
- 資金収支および消費収支は学校法人、短期大学ともに安定しており、消費収入超過額については平成16年度、平成17年度の2ヶ年で改善されている。その要因の一つは、短期大学における人件費抑制を柱とした消費支出の改善にあり、消費支出比率が平成15年度からの3ヶ年、漸減の状況にある。
- 実技系の短期大学として必要な施設、機器類は十分に整備されている。校舎には、開学当初のものなど、相当の年月を経たものも少なくないが、しっかりとした補修がなされ、学内環境を良好かつ清潔に保つための努力が感じ取れた。火災などの災害対策、コンピュータシステムのセキュリティ対策についても、適切に措置されている。

評価領域X 改革・改善

- 「自己点検評価報告書」は、これまで2度、5年間隔で作成、公表されている。いずれも充実した内容で、全学をあげて自己点検に取り組んできた様子がよくわかる。さらに、点検が点検にとどまらず、カリキュラムや授業方法、学内組織のあり方、施設の改善などに、着実に結びついてきたというのは、理事会、教授会、事務局の連携・協力の成果であり、高く評価できる。
- 教員を中心に事務職員も加わった「自己点検評価実施委員会」を組織し、全学的体制で自己点検・評価活動を実施している。さらに、当該委員会の提言に基づき、施設面、教学面など、ハード、ソフト両面において間断なく改善を続けてきた。
- 外部評価については、これまでのところ実績はないが、今後の課題として検討する予定である。教員数、職員数とも小規模な学園で、自己点検以外に相互点検、独自の外部点検に取り組むのは大変であろうが、その必要性は充分認識されている。

四国大学短期大学部

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 四国大学
理事長	佐藤 一郎
学 長	福岡 登
A L O	上田 喜博
開設年月日	昭和36年4月1日
所在地	徳島県徳島市応神町古川字戎子野123-1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
ビジネス・コミュニケーション科		70
生活科学科	生活デザイン	25
生活科学科	食物栄養	40
生活科学科	生活福祉	50
幼児教育保育科		110
音楽科		25
	合計	320

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

四国大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月6日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

さまざまな行事、式典、印刷物、ウェブサイトなどを通して教育理念を広報し、短期大学の姿勢を示している。

短期大学としてふさわしい教育内容を有し、教育課程の編成もおおむね体系的に適切なものとなっている。また、改善への努力もみられる。

教員と職員が一体となって、学生指導にあたっていることは高く評価される。特に学生の指導のために多数の事務職員（学事事務職員）を配置していることは特筆すべきである。また、設備や図書館なども併設の四国大学との併用であるが、充実しており、地域文化への貢献を果たしている。

教育目標の達成度と教育の効果については、全人的自立の理念を達成すべく、組織的で地道な教育努力が続けられている。

学生への支援体制は、併設の四年制大学と連携しつつ、全学的、組織的に行われている。教職員全員が一丸となって、学生を支援すべくよく努力をしており、その支援内容は充実している。特に資格取得を目的とする学科（資格取得系）では、入学からインターンシップ、就職、その後までの一連の仕組みが地元で根ざした形で作り上げられている。

短期大学全体が、研究活動に理解があり、それに対する諸条件の整備も行き届いている。また、徳島地域との連携を重視し、さまざまな点でかかわりを有している。

併設の四国大学とともに、地域に開かれた短期大学を自負し、活発に社会的活動を行っている。また、学生の活動への支援体制も整えられ、徳島名物の阿波踊りへの大学の“連”としての参加実績には定評がある。国際交流も継続して実施されている。

理事会、評議員会は寄附行為の規定に基づいて、定例的に開催され、理事長も長年培われた識見と豊富な経験をもとに、学校法人運営全般にわたりリーダーシップを発揮してい

る。監事もその機能を適切に遂行している。教授会も学則の規定に基づき定例的に開催され、また各種委員会も目的に応じて適宜開催されている。教職員の意思疎通も十分に図られており、各々の役割に応じた責務を果たしている。

学園全体の収支状況は、良好に推移、また財政状況も、健全に推移している。短期大学の収支もほぼ均衡している。予算の編成の手続、予算執行、資金資産の管理も適正に行われている。必要な施設・設備も整備され、それぞれの管理責任者、使用責任者が適切に管理を行っている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 現代社会において必要とされる教養教育のために「自己表現論」という科目を設け、全学生を少人数グループに分け、徹底した教育指導を行っていることは、優れている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 事務組織における学事事務職員の配置は、学生指導に大きな役割を果たしている。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 資格取得系の学科専攻については、学生の入学時より目標は明確であり、卒業後の進路就職に直結した教育が組織的、制度的に行われ成果を上げている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 教員だけでなく教務、学生、就職などの学事事務部門が、学生とのコミュニケーション、指導・支援などの面から非常に効果的に機能していることは特筆される。建学の精神（全人的自立）の具現化のために、短期大学全体として組織的、制度的、継続的に取組んできた点は評価できる。

評価領域Ⅵ 研究

- 生活デザイン専攻で、徳島の企業などと連携して、研究活動を進行している点は、高く評価できる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- オープンカレッジは、内容、開催回数ともに充実しており、地域社会に対する貢献度は高い。
- 図書館における「凌霄文庫」の存在は、地域文化に貢献している。

評価領域IX 財務

- 将来の施設設備などの拡充に備えて、第2号基本金を目標ごとに定め、諸引当特定資産を計画的に積立てている。

評価領域X 改革・改善

- 理事長自身が短期大学の現状をよく把握しており、改革・改善に非常に前向きな姿勢が認められる。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域IV 教育目標の達成度と教育の効果

- 履修人数が著しく少ない科目のあり方について検討されたい。

評価領域V 学生支援

- 支援体制およびインフラは併設四年制大学と連携しており充実している。そのメリットは学生には大きいものの、一方で短期大学独自の取組みも期待される。

評価領域VI 研究

- 展覧会、演奏会、教育に資する研究活動などを含め、研究活動全般に係る評価方法、基準などの検討が望まれる。

評価領域VIII 管理運営

- 理事、評議員について、幅広い人材登用を図り、より外部性を高めることも検討されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神・教育理念は確立している。建学の精神は「全人的自立」であり、それに基づき教育理念が確立している。
- 「全人的自立」をわかり易く説明しようとする努力がみられる。また、学内でも全人的自立をサポートする体制がみられる。
- さまざまな行事、式典、印刷物、ウェブサイトなどで理念を広報し、短期大学の姿勢を示している。ただし、各学科、専攻でそれらの専門性と関連させた広報にも取組まれない。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育課程は4学科3専攻別に体系的に編成されている。主要科目に対する専任教員の配置もおおむね適切である。
- 各学科・専攻の特色をいかした教育課程であり、免許・資格などの取得のための配慮もなされている。
- シラバスは十分な内容を有し、冊子として学生に配布されている。ウェブサイト上での閲覧も可能である。
- 学科・専攻により差はあるが、授業の改善・充実への努力する姿勢は認められる。ファカルティ・ディベロップメント（FD）、スタッフ・ディベロップメント（SD）活動は全学的行事として運営されている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- キャリアのある教授を中心に教員組織は整備されている。年齢構成のバランスはやや高い。
- 併設の四国大学との共用で、教育環境はきちんと整備され活用されている。
- 「凌霄文庫」など、特に地域の資料収集が充実し、学生へのサービスも充実している。
- 教員と職員が一体となって、学生指導にあたっていることは高く評価される。事務組織における学事事務職員の存在は特筆すべきである。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 単位認定および評価に関しては、現状では全体的には適切であるが、学科、教員間でばらつきがみられる。学生の授業評価は継続的に実施されているが、データの活用は原則として各教員に任せられている。また、活用方法などは学科間で必ずしも統一されていないが、学科によっては積極的、組織的に活用され教育の改善に役立っている。
- 資格などの取得に関しては、学科、専攻間で少なからず温度差があるものの、学科ごとに新たな免許・資格などの導入が積極的に検討され行われている。特に資格取得系の学科では積極的、組織的に取得がサポートされ促進され、実績も充分である。
- 卒業後評価については、学科によって取組みに温度差はあるものの、その努力は充分である。特に資格取得系の学科では、そのカリキュラム上、専門資格への取組みおよび、結果としての専門領域への就職サポート体制は構造化されており、取組み、実績、卒業後のアンケートなどによる評価聴取体制も充分である。資格取得系以外の学科でも、平成15年以降毎年100社以上の企業訪問を行い、卒業後の評価聴取の努力がされている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 地方出張入試など、様々な入試形態を採用している。入学案内、募集要項も整備され、広報、選抜制度、入学までのフォロー体制など適切に遂行されている。
- 履修に関する印刷物は分かりやすく、教職員によるマンツーマンの履修アドバイスが行われている。また、まだ組織的ではないが、基礎学力不足の学生への補習授業なども一部で行われており、支援体制はおおむね良好である
- 教員と学生部職員を中心に学生への相談体制は組織的、制度的に整備されている。職員には卒業生が多く、学生にとっては身近で親身な存在である。また、施設・設備も併設四年制大学と共用しており充実している。
- 進路支援に関して、資格取得系については特に支援体制および地元の就職先とのつながりも充分出来上がっており、内定率も高い。資格取得系以外の学科においても、支

援体制を確立すべく努力されている。

- 社会人学生や留学生などの多様な学生の入学実績は少ないものの、受け入れのために必要な制度、設備は整えられている。
- 学生への支援体制は、併設の四年制大学と連携しつつ、全学的組織的に行われているが、短期大学生の特質に応じたきめ細かい対応が望まれる。

評価領域Ⅵ 研究

- アカデミックな研究者も教員に十分に配備され、短期大学としては十分に研究活動が展開されている。
- 研究費、特別研究費などが予算化され、また、全学の図書費なども充分である。今後は、短期大学における教育活動に資する研究へのより一層の支援の充実が望まれる。
- 徳島県文化振興基金などから助成金を受けるなど、徳島地域との連携を深めている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 四国大学生涯学習センターを設置し、社会的活動を支えている。市内中心地に「四国大学交流プラザ」を開設し、地域活動の活性化を推進している。
- 教育改善活動助成事業として「学生ボランティア活動支援室」を立ち上げ、学生の社会的活動を支援している。
- アメリカ、イギリスの大学と姉妹校であり、国際交流を実施し、教員の国際会議への出席も行われている。
- 学生の活動への支援体制も整えられ、徳島名物の阿波踊りへの大学の“連”としての参加実績には定評がある。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事長は、学校法人の適切な運営と改革に注力している。理事会、評議員会も寄附行為の規定に基づき適切に運営されている。また監事も毎回理事会に出席するなど、十分に機能を果たしている。
- 教授会は、学則の審議規定に基づき、適切に運営されている、また教授会のもとに各種委員会が設置され、その目的に応じて適切に開催されている。学長も予算の策定から執行まで把握し、優れた教育・研究活動には、学長施策費が設けられている。
- 多くの職員を配置し、その60%が短期大学の状況を熟知している卒業生であり、きめ細かな支援体制がとられている。事務処理のための事務室、施設、機器・備品も整備されている。

- 就業に関する規程も整備され、教職員に周知されて、各責任者のもと適切に人事管理が行われている。また保健管理課を中心に、健康相談、健康増進支援に取り組んでいる。

評価領域IX 財務

- 中・長期計画も策定され、予算の編成、予算の執行、資金資産の管理など適正に行われている。
- 学園全体の収支状況は、良好である。
- 必要な施設・設備は、適切に整備されている。

評価領域X 改革・改善

- 過去3回、平成5年、平成8年、今回と、自己点検・評価が行われている。
- 改革・改善については、全学的なシステム構築が図られているが、その有効な活用はこれからの課題である。

九州造形短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 中村産業学園
理事長	山下 寛彦
学 長	谷口 治達
A L O	飯田 一博
開設年月日	昭和43年4月1日
所在地	福岡県福岡市東区松香台2-3-2

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
美術科		20
デザイン科		170
写真科		40
	合計	230

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

九州造形短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年6月30日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

理事長のリーダーシップのもと、これまで以上に建学の精神・教育理念の推進を図る取組みがなされている。また、「行動理念等構築に伴うプロジェクトチーム」を発足させ（平成17年）、教育目標の共有への取組みを行っている。

教育課程は科目選択の幅は広く、クラス規模も少人数である。資格取得については九州産業大学との単位互換により可能で、多様なニーズに対応できており、教育内容の評価はおおむね良とされる。

校舎、実習室の教育環境は良好であり、教育の実施体制は適正と判断する。

授業改善や資格取得支援体制は整っており、教育目標の達成へ向けての努力がなされている。

入学に関する支援は問題ないと思われる。学習支援では芸術系短期大学という点から、個々の学生の能力を理解し、個性をのばすことが重要であると思われ、この点について、全教職員が組織的に行っていることがうかがわれる。学生生活支援はおおむね整備されている。メンタルケア・カウンセリングの体制、奨学金（特待生など）は特に優れている。

研究活動、またそのための条件整備ともおおむね良好とみる。

建学の精神である「産学一如」に基づいて、社会活動の位置づけを明確に示し、芸術系短期大学の特性でもある「ものづくり」を通して社会的活動（地域貢献）が推進されている。また、社会人入学制度や科目等履修生制度があり、社会人の受け入れ体制が整備されている。

理事会、評議員会はおおむね適正に運営されている。教授会、委員会ともに組織として整っている。

財務についても、おおむね適正といえる。

自己点検・評価活動の実施体制は確立していると考えられる。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 「行動理念等構築に伴うプロジェクトチーム」を発足させ（平成17年）、教育目標の共有への取組みを行っている。

評価領域Ⅴ 学生支援

- AO入試入学予定者へのスクーリングが実施されている。
- メンタルケア・カウンセリング体制が整備されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 社会人向けに造形芸術センターで21に及ぶ公開講座を開講している。
- 在学する留学生に対しては、九州産業大学の国際交流センターと連携を図り、日本の伝統文化、風土に触れる機会を多く得られるように努力している。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 昨年度就任した新理事長の強いリーダーシップの下、法人全体の改革が行われている。短期大学にあっても平成19年度から学科の改組が計画されている。

評価領域Ⅸ 財務

- 学内掲示、広報誌、ウェブサイトによって財務情報の公開が行われている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域Ⅴ 学生支援

- オフィス・アワーとして教員が在席する曜日、時間を学生に明示することが望まれる。
- 就職委員会の組織化、就職資料室の整備、社会人入学生に対する対応の検討が望まれる。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- ボランティア体験Ⅰ、ボランティア体験Ⅱが単位認定されているが、履修ガイドに掲載するとともに積極的な周知が望まれる。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 委員会の中には開催頻度の著しく少ないものがみられるので、委員会の必要性、組織的位置づけなどを再検討し、より効果的な運営をすることが望まれる。
- 事務運営に関する研修は行われているが、短期大学職員として必要な知識、能力に関するスタッフ・ディベロップメント（SD）研修の実施が望まれる。

評価領域Ⅸ 財務

- 法人全体では財務体質は健全であるが、短期大学では支出超過となっており、法人全体の財務への依存度が高くなりすぎている。平成19年度から学科改組を計画しているが、改組の効果が十分に発揮され、学生数の増加につながるような施策と改革が求められる。

（3）早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神は「産学一如」、教育理念は「造形の伝統の継承」、「産業社会の有力な人材育成」であり、ともに明確にされている。
- 新理事長のもと、これまで以上に建学の精神、教育理念の推進を図る取組みとして「行動理念等構築に伴うプロジェクトチーム」を発足させ（平成17年）、教育目標の共有への取組みを行っている。
- 3学科それぞれの教育目標が示されており、大学案内、学生便覧作成時に点検されている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 芸術系短期大学の教育課程として、専任教員、専門科目とも体系的に設置、編成されている。
- 科目選択の幅は広く、クラス規模も少人数であり、資格取得については九州産業大学との単位互換により可能であり、多様なニーズに対応出来ている。
- 履修ガイド、シラバスともにおおむね良好であり、明示されていると評価する。
- 授業評価は定期的に行われており、報告書にまとめられている。教育懇談会も実施され、FD（ファカルティ・ディベロップメント）委員会も設置されており、努力はみられると判断する。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教員組織などは整備されていると評価できる。
- 短期大学設置基準を充たしており、校舎、実習室の広さ、環境も充分であると評価できる。
- 図書館は、広さ、座席数、書籍購入予算など、若干少ないように思われるが、九州産業大学の図書館と外部データベースも利用可能であることから、整備されていると判断する。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 単位認定の方法は、各学科とも適切に行われている。学生による授業評価アンケートも適切に実施され、その結果は各教員が把握している。留年については、若干多いと思われる学科があるが、退学、休学については全体的に妥当な範囲である。
- 資格については13講座からなる「情報処理資格取得講座」や「色彩検定」、「CG（コンピュータグラフィックス）検定」など数多くの資格取得を推奨している。編入学希望者には個別に指導を行っており、九州産業大学などへの編入学実績がある。
- 専門職はデザイナーやカメラマンなどであり、就職希望者の約半数の学生が専門職に就職している。就職実績のある企業への企業訪問を毎年実施し報告書にまとめている。
- 就職先および進学先からの卒業生評価の実施、充実が望まれる。
- 卒業生は、同窓会年会報「薫風」や個展、グループ展を通じて交流があり、強い連携がみられる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 平成19年度入学案内より明示されるようになったが、建学の精神、望ましい学生像の明示が必要である。アドミッション・オフィス（AO）入学予定者へのスクーリングが実施され、入学次オリエンテーションも適切に実施されている。入試選抜も公正かつ正確に実施されているが、入学説明会・見学会は少ない。
- 2年次オリエンテーションを実施している。授業についていけない学生に対して個別指導をしている。クラス担任、オフィス・アワーも実施している。
- 学生委員会を中心に全教職員が学生生活支援体制を確立している。メンタルケア・カウンセリング体制は良好である。奨学金（特待生など）制度が充実している。
- 学生委員会と卒業研究担当教員が進路指導を行っている。就職委員会を組織し、就職資料室を配置することで、さらに就職指導が充実すると思われる。
- 留学生の支援は日常的に全教職員が行っているが、社会人を組織的に支援する体制はない。

評価領域Ⅵ 研究

- 芸術系短期大学の特徴として、教員の実社会における創作デザイン活動や個展などの作品発表も多い。さらに研究費、研究室、研究日とも条件はおおむね整備されている。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 建学の精神である「産学一如」に基づいて、社会活動の位置づけを明確に示し、芸術系短期大学の特性である「ものづくり」を通して学生の社会的活動（地域貢献）が積極的に推進されている。社会人入学制度や科目等履修生制度があり、社会人の受け入れ体制が整備されている。社会人向けの公開講座は、絵画、陶芸、写真など21講座に及び、芸術系短期大学の特色を出している。地域社会との交流活動も活発で、平成17年度は芦屋町主催の「砂浜の美術展」や全国都市緑化フェアなどへ参画した。
- 学生は、学科の特性である芸術を通じて地域と交流している。ボランティア体験Ⅰ、ボランティア体験Ⅱは単位認定科目となっており、個々の作品や共同制作の成果を社会に発表することで地域社会に貢献している。
- 留学生の派遣制度はないが、留学生の受け入れについては実績がある。海外教育機関との密接な双方向的交流は実施されていない。教員の国内・海外留学制度はあるが活発には制度が活用されていない状況にある。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 寄附行為に基づいて理事会、評議員会が定期的開催されている。また、理事長のリーダーシップのもと、理事会、評議員会で経営的な判断が適切に行われており、学校法人の運営体制は確立できている。
- 9つの委員会が設置されているが、ほとんど開催されていない委員会がある。教授会の諮問機関などとして明確な位置づけを行い、活発な委員会運営を行うことが望まれる。
- SD活動として、事務能力向上と学校業務を遂行する能力向上の両面があるが、事務能力向上のための研修会が法人全職員を対象として実施されている。
- 教職員の就業規則、給与規程などが整備され、諸規程に基づいた人事管理が行われている。

評価領域Ⅸ 財務

- 事業計画に基づいて事業予算が決定され、予算の執行も適切に行われている。

- 学校法人では委員会を設置して短・中期教育研究計画を策定しているが、短期大学として独自の中・長期計画が明確に示されていない。
- 学内掲示、広報誌、ウェブサイトによって財務情報の公開が行われている。
- 法人全体としては財務状況に問題はないが、短期大学については支出超過となっている。
- 短期大学の教育研究経費比率は、高い水準を維持できている。
- 短期大学として必要な施設設備は整備されている。また、管理の運用については、短期大学単独ではないが法人全体として規程を定めており、諸規程に沿って問題なく管理がなされている。
- 年1回の防火訓練を実施し、災害対策として設備面でも対応がなされている。ただし、学生を含めた防犯・避難訓練が行われていないので、全学的な防災・防犯対策の充実に向けた対応を実施してほしい。
- コンピュータウイルス対策については、現状でも対策はとられているが、さらなる改善が予定されている。

評価領域X 改革・改善

- 自己点検・評価委員会を設置し、下部組織として、自己点検実施委員会を設け、活動を開始している。

近畿大学九州短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 近畿大学
理事長	世耕 弘昭
学 長	寺西 昭男
A L O	遠藤 敏廉
開設年月日	昭和41年4月1日
所在地	福岡県飯塚市菰田東1-5-30

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活福祉情報科		50
保育科		70
	合計	120

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

なし

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

学科	入学定員
保育科	400
生活福祉情報科	300
	合計 700

機関別評価結果

近畿大学九州短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月6日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神・教育理念、教育目標が明確にされ、全学的に周知徹底されている。定期的な自己点検・評価が全学的に実施されており、その成果は評価される。

教育課程においては、生活福祉情報科、保育科ともに教育目標を達成するための教育課程が体系的に編成されている。さらに授業内容、教育方法改善に資するための授業評価を組織的に行い、その結果を「授業改善報告書」にまとめている。

専任教員数、校地・校舎は短期大学設置基準を充たしており教育環境として適切に整備されている。図書館は、利用率が非常に高く、また地域住民へのサービスとして一般公開もされており充実している。

入学に対する支援、学習支援、学生生活支援、進路支援体制は、教員によるアドバイザー制度を中心に整備されており、十分な効果が現れている。

研究活動についての予算や研究環境は十分に整備されており、専任教員の研究活動はおおむね成果をあげていると判断する。

地域貢献、社会的活動については、地方公共団体との連携を中心に活発に行われている。また、学生に対し、ボランティア活動への参加を推奨していることもあり、さまざまな社会的活動に多くの学生が参加している。国際交流・協力は、教員を中心に行われている。

学校法人については、理事長および監事の業務執行ならびに理事会、評議員会とも寄附行為に基づき適正に運営されている。監事機能の強化がなされ、業務執行状況全般の監査も行われている。理事長のリーダーシップの下、法人全体の運営がなされているとともに、教授会や各種委員会は学長のリーダーシップのもと、適正に運営されており、学校法人と教学とが連携し効率的な組織運営が推進されている。また、学校法人、教員、事務職員の関係も良好で、教職員に対するファカルティ・ディベロップメント（FD）、スタッフ・

ディベロップメント（SD）活動の取組みなど就業環境にも配慮がなされており、円滑に運営されている。

学校法人は、関係部署、監事と公認会計士の関与のもとに中・長期計画を策定し、これに基づいた年度毎の事業計画および予算編成が決定され、経理諸規程に基づき適正に執行されている。また、財産目録および各種計算書類の作成、監事の監査、公認会計士による監査および私立学校法に基づく情報公開などについてもおおむね適切に実施されている。

事務体制や内部監査体制も整備され、資産・資金の運用は規程に基づき安全性を重視して運用されている。設備・備品については、学校法人で定めた管理規程があり、適切に処理されていると考える。

自己点検・評価の実施体制が整備され、短期大学全体で点検・評価が行われ、改革・改善の取組みの成果がみられる。外部の点検・評価については、学校法人である近畿大学においては格付け投資情報センター（R&I）においてAAマイナスを取得している。短期大学としては、平成18年に近畿大学豊岡短期大学との相互評価を行うことが決まっている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神を明確化するために、創立者である世耕弘一先生建学資料室広報や出版物を作成し、その精神の理解を深めている。また、アドバイザー制度や基礎ゼミナールなど、学生を大切にする教職員の態度の中に「敬・愛・信」の建学の精神が培われている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 共通科目の成果として、学生制作発表会に全学で取組み、地域周知の行事にしていること、および飯塚市チャレンジプロジェクトの採用決定により、学生が誇りを持って社会に巣立っていることは「敬・愛・信」の教育理念の具現化として評価できる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- LL機材を兼ねたパソコン実習室、画像処理室などの機器、備品ともに整備されており、学生が充分使えるだけの設備があり、パソコン室の利用時間も延長して学生のニーズに対応していることが評価される。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 保育科から生活福祉情報科への転科も可能であり、経済的理由による退学希望者には、

働きながら学べる通信課程への編入制など、学生のニーズに対する細やかな配慮が評価できる。

- 免許・資格の取得に関するガイダンスがよく整理されて、さらに指導責任者が配置されていることは、学生にとって履修しやすく評価できる。

評価領域V 学生支援

- アドバイザー制が、少人数制とあいまって効果的な教育支援の中心となり、きめ細やかな指導につながっている。
- 課外活動特待生制度により優秀な人材をリーダーに養成するシステムができ、また充分機能している。

評価領域VII 社会的活動

- 保育科授業の成果として発表しているオペレッタのコンサートは、市民に広く定着し、好評を得ている。

評価領域IX 財務

- セキュリティの面でユーザーIDとは別にUSBキーを利用した個人認証システムを構築し、安全性を高めている。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域III 教育の実施体制

- 保育科の入学定員超過の状況を改善し、適切な教育条件の保全に留意されたい。

評価領域V 学生支援

- 就職指導室や学生相談室の整備について検討が望まれる。

評価領域VIII 管理運営

- 大学を含めた自己啓発研修の短期大学職員の利用が少ないので、積極利用を期待する。

評価領域IX 財務

- 生活福祉情報科の今後を検討するうえで、生活福祉情報科部門の収支の検討（費用対効果で開講科目数の問題なども含む）が望まれる。

評価領域X 改革・改善

- 各教員に対する「自己点検・評価アンケート」の活用をどの様に行うかなど、具体的

な点検評価の結果の活用について、各関係部署において検討されたい。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神・教育理念の「敬・愛・信」は学生便覧、大学案内に加え「炎の人生」を初めとする小冊子の発行を行い、明確にしている。短期大学全体の教育目標である「幅広い教養を併せもった人間づくり」、「実際生活に即応できる能力の育成」、「個性と創造性の伸張」は、建学の精神とともに学生便覧の最初に明記されている。
- 建学の精神、教育目的などの共通理解を図るために、教職員の周知は教授会、教員連絡会で、学生に対しては入学式、新入生ガイダンス、卒業式などで折に触れ説明が行われている。また、訪問調査の折、学生5名との面談での感想であるが、大変まじめで、純朴であり学習に対する姿勢や卒業後の進路についてもしっかりした考えをもっており、3つの教育目標の効果が出ているものと感じた。以上の結果、建学の精神・教育理念が確立し、教育目的・目標が明確であり、点検の努力があり、共通に理解する努力が認められる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 両科ともに「幅広い教養を併せ持った人間づくり」、「実際生活に即応できる能力の育成」、「個性と創造性の伸張」の目標を達成するために体系的に編成されており、科目履修においても履修の自由度を高め、多様なニーズに応えようとしている。しかしながら、自由選択科目の履修人員が少ない傾向にあり、学生の自由度を考慮しながらも科目の点検、整理を行い、また、履修の奨励に努力されたい。
- 講義概要は、共通の枠組みで教育内容、教育方法および評価方法が記載され授業前に

学生に配布されている。さらに授業内容、教育方法改善に資するための授業評価を昨年より組織的に行い、その結果を「授業改善報告書」として作成しており、FDの取組み、担当教員の改善に対する意欲、授業担当者間の意思疎通は充分評価できる。以上の結果、教育課程が体系的に編成されており、学生の多様なニーズにも応えるものとなっており、授業内容、教育方法および評価方法について学生に明らかにされている。さらに授業内容、教育方法の改善への努力があると認められる。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 専任教員数は短期大学設置基準を充たしている。
- 校地は短期大学設置基準を充たしており、教育環境として適切に整備されている。校舎内も清潔な環境であり、それぞれの授業に関して、専門科目に対応した演習室の整備、設備が整えられている。
- 図書館は、通信教育学生が図書資料を中心に学習していることも加えて図書館利用率は非常に高く、また地域住民へのサービスとして一般公開もされており充実している。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 過去3年間の休学・退学者数は極めて少数であり、各アドバイザーが学生に対して十分なケアを行っている。
- 授業評価アンケートを実施し、授業改善報告書を各教員が作成し、全体的な評価に取り組むなど、入学した学生が免許・資格を取得して卒業できるよう努力が評価できる。
- 就職している卒業生の評価は、各担当教員がインターンシップ先や実習先などを訪問して、評価や意見の聴取をしている。この数年、在学生の実習生の受け入れや求人依頼に大きな変化がないことから就職先の評価は良好であると判断される。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 学校案内には建学の精神・教育理念や教育目的・教育目標、望ましい学生などについて明示されている。「人に愛され、信頼され、尊敬される人間」という建学の精神についても教職員、学生において理解がなされている。募集要項については多様な選抜方法についてわかりやすく記載してある。オリエンテーションについては2日間行われ、「事務ガイダンス」、「学科ガイダンス」などにより適切な指導が行われている。
- 基礎学力が不足する学生に対しては、アドバイザーと教科担任が個別に指導を行うなど対応がなされている。
- 学生の生活支援体制についても、アドバイザーと教学委員会の連携によりきめ細かや

かに行われている。課外活動や自治活動についての支援も教職員のサポートもあり、充実している。メンタルケアについては、アドバイザーだけでなく、特に女子学生に対しては女性の教員がさまざまなアドバイスを実施している。

- 就職支援について就職指導室はないが、就職閲覧室を設け、情報提供が充分なされている。3月31日現在の就職率も、就職希望者からすると充分であると考えられる。進学や留学に対しては実績が少ないが、対応できる体制にはある。

評価領域VI 研究

- 教員の研究活動はおおむね成果をあげていると判断する。教員個人の研究活動も公開されている。科学研究費補助金は毎年申請され、採択状況は少ないものの、研究分担者・研究協力者として活動している。
- 教員の研究に係る規程、研究紀要の年1回の発行、研究に係る機器、備品、図書などの整備状況もおおむね問題がないと思われる。個人研究費に関して不足が出た場合は、学科予算が融通できることから支給額に関しても問題がない。
- 専任教員には個人研究室があり、研究日も設けられ、研究条件は充たされていると判断する。
- 教育に関する研究のさらなる推進のために、学科またはグループでの研究会を発足させている。

評価領域VII 社会的活動

- それぞれの学科の教員が積極的に地域貢献や社会活動に関わっており、また学生もさまざまな社会活動に参加している。教員については、地域に2つしか大学が存在しないという特殊性もあり、実に多様な社会的活動を行っている。学生については、高校時代の顕著なボランティア活動が評価され、課外活動特待生制度により入学した学生が、入学後も多くの活動に参加し評価されている。
- アドバイザーとして、教科担当者として、クラブの顧問として、実に多くの教職員が積極的に多方面で活躍するなか、社会的活動も着実に重ねているところは大きいと評価できる。

評価領域VIII 管理運営

- 理事会は寄附行為に基づき適正に運営されている。また、短期大学に常勤している理事の間では正式な理事会以外でも、ことがあれば常に協議をもてる体制になっている。評議員会も寄附行為の規定に基づき開催され、理事会から諮問された事項を審議して

いる。監事も定期監査を法人の決算について実施し、理事の業務執行状況全般の監査については理事会に毎回出席し、行っている。さらに、監事の下に事務組織として審査室が置かれ、監事を補佐する体制が整っている。

- 大学協議会があり、学校法人において教学側からの意見を取入れるための仕組みもできている。
- 教授会は、学則に基づき適切に運営されている。教授会の下に置かれた各種委員会については、専任教員数に比して委員会の数が多く、開催が難しい委員会が見受けられる。
- 事務組織については、「近畿大学学園法規」に基づいて運営され、円滑に業務を進めるため、短期大学特有の事項については内規も整備している。教職員間の情報の共有や周知のためにグループウェア「ディスクネット」を導入して、数年が経過し、徐々に軌道に乗りはじめている。
- 人事管理も法人の管轄下に置かれ、人事異動も法人全体で行われ、人事考課・評価制度が実施され、事務職員の職能資格制度などの工夫がうかがえる。職員の研修についても、部長職も含めた職階別研修を実施したり、新システム導入の際には短期大学職員にも導入教育を行い、自己啓発講座として通信教育講座も実施している。
- また、学生から卒業時にアンケートを取り、事務組織の評価も行われている。

評価領域IX 財務

- 学校法人は、関係部署、監事と公認会計士の関与のもとに中・長期計画を策定している。
- 予算執行に係る経理・出納の業務は法人全体で新しいシステムを導入し、短期大学職員にも、本部において研修を実施し、出納業務には本部勘定を用いるなど、円滑に行われていると考える。また、試算表も翌月には理事長に報告され、必要に応じて状況説明がなされている。
- 事務体制や内部監査体制も整備され、資産・資金の運用は規程に基づき安全性を重視して運用されている。
- 財務情報は、現在学報により公開するとともに、同等の資料をマスコミに提供している。今後については、ウェブサイトへの掲載など、より積極的な公開を現在検討中である。
- 法人全体で財務状況は安定的に推移している。短期大学の財政面も、生活福祉情報科は定員確保に苦慮するものの、短期大学全体としては、保育科が定員を確保していることと、通信教育課程の専門学校との連携により、安定している。

評価領域X 改革・改善

- 平成15年より具体化をはじめ、平成16年に実施規程を制定し、自己点検・評価の実施を始めている。それ以前は近畿大学全体における点検評価となっていた。また、これ以外に「研究者総覧」、「図書館報」、「研究紀要」のウェブサイトでの公開や卒業時の学生アンケートの公開などを行っている。
- 実施組織の役割も具体化されており、その実施体制もフローチャート化され誰にでもわかる内容となっている。自己点検・評価のはじまりは、平成15年と後発ではあるが、実施体制など十分に整備されていると考える。
- 外部の点検評価については、法人である近畿大学においては格付け投資情報センター（R&I）においてAAマイナスを取得している。短期大学としては、平成18年に近畿大学豊岡短期大学との相互評価を行うことが決まっている。また、平成17年度には、教員免許課程認定大学実地視察において「今後も水準の維持、向上を目指し、教員養成の自己点検・評価を実施してほしい」との総合的評価を得ている。以上の点から、改革・改善においては、問題はない。

精華女子短期大学

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 精華学園
理事長	吉田 幸滋
学 長	山本 孫兵衛
A L O	菱谷 信子
開設年月日	昭和42年4月1日
所在地	福岡県福岡市博多区南八幡町2-1 2-1

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
生活科学科	生活総合ビジネス	50
生活科学科	食物栄養	100
幼児保育学科		150
	合計	300

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
保育福祉専攻	35
合計	35

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

精華女子短期大学は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月7日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

建学の精神と教育理念は明確な言葉として示されており、それに基づき、教育目的・教育目標も明確に示され、教職員、学生、保護者などに周知徹底されている。

教育課程は体系的に編成され、免許・資格への配慮、授業形態や科目数のバランスなど、学生のニーズにも応え、シラバスを通じて授業内容・方法、評価方法などが学生に明らかにされている。またこれらには常に改善の努力が払われている。

教育の実施体制は充実しており、教育環境も適正に整備されている。図書館も蔵書数の充実をはじめ、よく整備されており、学生の利用も増加している。

単位認定の状況は良好で、免許・資格の取得は高い実績を示している。クラスアドバイザー（クラス担当指導教員）制度による学生への対応が確立されており、休学者、留学者、退学者が相対的に低い。学生の満足度を考慮して授業改善が試みられ、教育目標達成への努力が認められる。また就職率、特に専門就職の割合が高い。卒業後も各学科独特の方法で就職先や卒業生から情報収集するなど、卒業後評価への取組み努力がみられる。

適切な情報提供、公正な入学者選抜が実施され、入学後の学習支援や生活支援についても組織的な取組みが行われている。基礎学力不足の学生に対する補習授業が実施され、生活や通学のための便宜も図られている。学生に対する経済面およびメンタル面の支援体制が整備され、個人情報保護に対する配慮も行われている。進路支援が組織的に行われ、高い就職率につながっている。留学生、社会人学生、障害者、長期履修生受け入れ人数は少数だが、アドバイザーや国際交流センターにより、生活学習支援が行われている。

教員の研究活動は良好に展開されており、また科学研究費補助金などの学外からの研究費を獲得した教員には個人研究費の倍額を配分することや、Good Teaching 賞受賞の教員については特別研究費を付与する研究活性化のシステムがとられている。

「開かれた学びの場」としてエクステンションセンターを中心に、正課外教育講座として地域に開かれた短期大学作りが目指されている。学生の社会的活動の促進として各学科、専攻それぞれボランティア活動を行うべく組織的に活動部を設けて活動を展開している。国際交流については、大韓民国の崇義女子大学との学術交流として語学研修などが実施されている。

学校法人の管理運営体制、短期大学の運営体制ともに、それぞれ理事長・学長が先頭に立って積極的にリーダーシップを発揮している。寄附行為や諸規程に基づいて、種々の会議や審議会、各種委員会などが設けられ、適時、適切に開催されて管理運営が円滑に進められている。また、事務組織の整備、人事管理については、関係規程に基づいて各所管の業務の遂行や事務処理が適切に行われている。

財務については、過去3年にわたり均衡している。施設設備については、関係の諸規程に基づいて適切に整備され、管理がなされている。災害・防犯・避難などの安全に係る対策にもよく配慮がなされている。

自己点検・評価に関する学則、関連規程、実施要領などが整備され、組織的、定期的に点検・評価が実施されている。また、山口短期大学との相互評価を、平成11年より2回実施しており、改革・改善に向けて努力していることは評価できる。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標などを周知するための様々な取組みと工夫が評価できる。特に、各教室はじめ学内各所に建学の精神・教育理念を示した額の設置、仏教法話、学生掲示板への「毎月の徳目」掲示、教育理念の解釈と見直しなどを日常的、組織的に継続して取組んでいることなど、その姿勢と努力は高く評価できる。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- Good Teaching 賞受賞の教員による公開授業は、各教員の授業改善・向上を高める上で大いに役立つ。また資格取得に対する教育体制も評価できる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- クラスアドバイザー制度の確立により、学生へのきめ細かな対応が続けられている。休学者や留年者が非常に少ない上、退学者が年々減少していること、また、各学科における各種資格取得に対する取組みも評価できる。
- 「里帰りの会」の実施、「幼児保育センター」の設置など卒業生のための独自の支援体

制が整備され、実施されている点も優れている。

評価領域VI 研究

- 教員の研究活動が展開されるように外部からの研究費を獲得した教員には個人研究費の倍額の配分システム、さらに **Good Teaching** 賞受賞の教員については特別研究費の付与などにより研究成果が認められることは評価できる。

評価領域VII 社会的活動

- 社会的な活動として「エクステンションセンター」の設置に加えて各学科、専攻の積極的なボランティア活動の展開が認められる。

評価領域VIII 管理運営

- 事務に関する諸管理・処理規程が充実しており、諸規則に基づいた人事組織、教職員と学生との信頼関係の重視など、事務局の運営、管理は優れていると判断する。

(2) 向上・充実のための課題

評価領域IV 教育目標の達成度と教育の効果

- 卒業後の支援を同窓会などとの連携を図ることで一層活性化させることが望まれる。

評価領域VII 社会的活動

- 地域に密着する短期大学として、エクステンションセンターの講座をより一層充実させ、地域市民など参加者を増加させる工夫と対策が期待される。
- 短期大学内における優れた諸活動を学外に情報発信し、広く社会に認知させることが望まれる。

評価領域IX 財務

- コンピュータシステムのセキュリティ対策の充実が期待される。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域		評価結果
評価領域Ⅰ	建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ	教育の内容	合
評価領域Ⅲ	教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ	教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ	学生支援	合
評価領域Ⅵ	研究	合
評価領域Ⅶ	社会的活動	合
評価領域Ⅷ	管理運営	合
評価領域Ⅸ	財務	合
評価領域Ⅹ	改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 創設者の精神を受け継ぎ、建学の精神を「仏教精神に基づく人格教育」とし、教育理念を「誠（まこと）・和（なごみ）・愛（じあい）」と明確な言葉で表現している。また、その背景、精神、教育目的などが多くの配布物に示されているとともに、建学の精神と教育理念が、理事長・学長の講話、学内諸行事、全学対象の仏教法話、オリエンテーションなどにより、教職員、学生、保護者などに周知されている。
- 教育目的・教育目標は、建学の精神・教育理念に基づき、全学、各学科・専攻科で明確にされている。また、学生への教育や指導を通じて、その内容や解釈の点検が、大学・各学科・専攻科で毎年なされている。また、自己点検・評価や山口短期大学との相互評価を定期的に行っており、短期大学の充実、発展に向けた努力は評価できる。
- 各学科・専攻などの会議、関連する学内会議などを通じて、教育目的・教育目標の共通理解が図られている。また、「自己点検・評価報告書」、そのほかの印刷物の発行、教授会、理事会での審議など組織的にも点検、周知が図られている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 建学の精神や教育理念のもと、教育課程の編成方針をみる限り、学科などの教育目的・目標に照らして、基礎・教養教育や専門教育の重視とそれに対応する科目数を備え、必修科目と選択科目のバランス、講義科目と演習・実習科目のバランスをとり、教員の配置などを考慮した、体系的に設定された教育課程だと思われる。そして単位認定の評価も適切と判断する。

- 多様な免許・資格などの取得への配慮があり、授業形態のバランス、必修科目と選択科目のバランスもとれている。おおむね適正なクラス規模などを通し、さらに卒業要件や資格取得などの周知徹底において、教育課程は、選択の自由の保障と学生達の多様なニーズに応えうる教育内容になっている。
- 講義計画（シラバス）は事前に学生に配布され、その内容は、授業の概要と授業計画を明確に示し、学生にとって理解しやすいように表現され、教育方法、評価方法とも適切に明らかにされている。
- 教職員研修委員会の研修会の実施と、さらに授業内容や教育方法の改善・向上のために **Good Teaching** 賞を受賞した教員による全教員に対する公開授業の実施、学生による授業評価の実施とそれによる活用など、授業改善へ向けての努力がなされている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 学科・専攻における短期大学設置基準の規定（教員数など）の充足、短期大学教員にふさわしい学位、研究業績や教員の採用・昇格における選考基準の整備、助手・補助職員の確保など、さらに学生指導におけるアドバイザー制度も含めて、組織の責任体制のもと、教員組織は整備されている。
- 校地面積や校舎における短期大学設置基準の充足、授業を行うにふさわしい講義室、演習室、実験・実習室や、整備システムによるパソコン・周辺機器、ネットワークやLAN、マルチメディアなどの各施設の整備、さらに運動場、体育館など、教育環境は学生達に対して適正に整備されており、それらの整備に対して学生達の利用状況も適切であり、評価できる。また施設において、学生や教職員の安全性も配慮されており、一部障害者に対応したものになっており評価できる。
- 図書館の蔵書数、学術雑誌数、AV資料数、座席数そして図書館の広さなどは適正であり、当該短期大学の蔵書数は短期大学平均数を上回っていること、最近学生の図書貸し出し冊数が増加したこと、司書2名を含めて図書検索やウェブサイト上のサービス状況などを踏まえて、図書館の整備状況は妥当と判断する。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 単位認定の方法は適切で、単位取得状況は良好である。資格取得についても高い実績がある。休学者、留年者、退学者が少なく、クラスアドバイザーを中心とした学生へのケアが充分実施されている。学生の授業評価アンケートの結果や近年の学生の資質の変化に対応して、演習や発表授業、模擬保育、視聴覚教材などを導入し、授業改善に努めている。総合的にみて、教育目標達成への努力がみられ、効果を上げていると認められる。

- 専門就職の割合は充分に高く、評価できる。また、就職先の評価に関する情報も様々な形で得ようとする努力が認められ、卒業生からの意見を取入れようとする工夫がみられる。
- 「里帰りの会」の実施、「幼児保育センター」の設置など、卒業生のための独自の支援体制が整備され、実施されている。今後、同窓会との連携を図ることで卒業生支援を一層活性化させることが望まれる。

評価領域V 学生支援

- 入学志願者に対して適切な情報提供が実施されている。多様な入試制度が確立され、入学者選抜が公正かつ適切に実施されている。
- 入学時や学期ごとに、ガイダンスや印刷物を通して学習支援や情報提供が行われている。また、基礎学力不足の学生に対しては各学科・専攻の状況に応じた補習授業や個別指導が実施されている。学生の悩みに対する相談や指導助言のための体制も整備されている。
- 生活支援についての教職員組織が整備され、19のクラブ・サークル活動や学友会活動を教職員が支援している。学生のキャンパス・アメニティへの配慮についてもおおむね良好と判断できる。学生寮の設置や宿舍の斡旋、駐輪場の確保など生活や通学のための便宜が図られ、各種奨学金の制度の利用と独自の奨学金制度の整備によって、学生への経済的支援も実施されている。学生の健康管理や精神面での支援体制が整備され、学生個々の記録の保管も適切に行われている。
- 就職ガイダンスや個別指導など就職支援が組織的に行われており、就職率や専門就職率の高さに結びついている。海外留学に関しては過去3年間実績がないが、進学に関しては、クラスアドバイザーと教務課が連携して支援を行っている。
- 留学生、社会人学生、障害者、長期履修生受け入れの歴史は浅いものが多く、受け入れ人数も少数だが、国際交流センターの設置や小論文による入試の導入、アドバイザーによる対応など、生活学習支援の体制作りがなされている。

評価領域VI 研究

- 教員の研究業績は短期大学として良好な内容であることを認める。特に、科学研究費補助金などの学外からの研究費を獲得した教員については、個人研究費を倍額とする学内研究費の配分や、Good Teaching 賞受賞の教員には特別研究費が付与される研究活動活性化のシステムは評価できる。さらに、学科ごとのグループ、共同研究の推進などの検討も望まれる。
- 研究経費についての規程が整備され、教員の研究成果を発表する機会が確保されて、

研究に係る機器、備品、図書などに関する一定の支出も確保されている。研究室についても研究を行うのに十分な体制が整備されている。

- これらの優れた研究活動をより広く一般に公開することを検討されたい。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 「開かれた学びの場」としてエクステンションセンターが整備され、正課外教育講座として、地域に開かれた短期大学作りが目指されている。
- 「特別選抜制度・社会人選抜」を設けて社会人入学の門戸が開かれ、行政、各種団体、機関などとの交流活動も活発である。今後、それらの講座をより一層充実させ、地域市民など参加者を増加させる工夫と対策が期待される。
- 専門科目「ボランティア活動」の設置、サークルによるボランティア活動、学園祭での地域住民交流などが実施されており、ボランティア活動が促進されている。今後、さらに学外での広報活動など、より一層の活性化対策が望まれる。
- 姉妹提携している大韓民国の崇義女子大学とは教員、学生共々毎年、短期の語学研修を行っている。教職員の海外派遣は大韓民国が主体だが、タイや欧米も対象に行っている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 理事会、常任理事会、幹部会、評議員会などの組織が学校法人の寄附行為および関連規程に従って整備されている。それらに基づいて、理事長の適切なリーダーシップのもと、組織的、計画的に管理運営がすすめられている。また、短期大学と高等学校に定例会を設置するなどして、意思疎通を図りながら学園の経営を行っている。監事は、寄附行為の規定に基づいて法人の財産状況および理事の業務執行状況について適切に業務を行っている。
- 短期大学の運営全般に学長のリーダーシップが適切に発揮されている。運営体制は、学則に則り教授会などいくつかの審議・検討機関が整備され適切に運営されている。教授会は、学則の規定に従って定期的開催され、教育研究上の審議機関として適切に運営されており、ほとんどの教授会において全員出席して行われていることは評価できる。
- 短期大学の規模から考えて、事務部門の規模は適当であり、事務諸規程などが整備され、それらの規程に基づいて適切に業務が行われている。公印や重要書類・データの管理については、規程に基づいて処理されており、防災対策も年2回の整備点検が実施されている。事務職員は、学生に対してきめ細やかな対応と親切な指導を心掛けている。また、日常的に業務の見直しや事務処理の改善に努力しており、学内外におけ

る各種研修への参加の機会を設け、事務職員の資質の向上、能力開発の向上を図っている。

- 学校法人は、教職員の就業に関する規程を整備し、それに基づいて適正に処理している。また、学校法人は教職員を学校の基本的財産として捉えてその立場を尊重するとともに、教員と事務職員はお互いの立場を尊重し連携しながら業務を遂行していると認められる。教職員の健康管理、就業環境の改善、就業時間の遵守などに関しても各種の配慮がなされている。

評価領域IX 財務

- 毎年度、事業計画案が作成され、理事会に諮り決定されている。予算は、3月の理事会で決定後4月に関係部署に伝達され、その後適正に執行されている。監事および会計士によれば、財務状況に特に問題はないと報告されている。寄付金の募集および学校債の発行は実施されていない。財務状況の公開に関しては、平成17年度に書類閲覧規則を定め、学園報にも掲載し、積極的に公開されている。
- 学校法人および短期大学の収支の状況は均衡しており、財務状況は健全に推移している。施設設備および学習資源（図書など）についての配分は適切であると認められる。
- 固定資産、図書、施設設備、物品（消耗品、貯蔵品など）の管理については、経理規程および学園資産運用規程に基づいて行われている。火災等災害対策、防犯対策、避難対策などの安全対策にも配慮し、整備や点検・訓練がなされている。現在、事務室が分散しているが、今後一体化して一つにまとめる計画ということなので、学生サービスのさらなる向上が図られるものと期待している。なお、コンピュータシステムのセキュリティ対策は、短期大学自らも点検しているが、今後、創立100周年記念事業の中での具体的計画に沿った整備がなされることを期待する。省エネ・省資源対策として一定の配慮がなされている。

評価領域X 改革・改善

- 精華女子短期大学における自己点検・評価は、学則、「精華女子短期大学における自己点検・評価、相互評価及び第三者評価に関する規程」、「第三者評価に関する実行委員会実施要領」などの諸規程が整備され、その実施体制も確立している。また、それに基づいて定期的に自己点検・評価、相互評価が実施され、「精華女子短期大学 現状と課題 自己点検・評価報告書」、「平成11年度 山口短期大学と精華女子短期大学 自己点検・評価相互評価報告書」が公表されている。
- 自己点検・評価報告書の執筆は各学科、各事務部門などの管理責任者が担当しているが、該当項目に係る事項については多くの教職員が審議に関与していることを認める。

また、それらの成果を活用するために、各種委員会、学科会議、各事務部門で点検・評価に係る該当内容を共有する事に努めている。特に改革・改善のための特別な組織体制は構築されていないが、既に構築されている組織で改革・改善に向けて努力している姿勢がうかがえる。

- 自己点検・評価活動は、全学的、組織的に取組まれており、相互評価も山口短期大学との間で、これまで2回、定期的に行われている。また、それらの結果を各種委員会、学科会議、各事務部門で共有に努めていることを認める。

別府大学短期大学部

評価短期大学の概要

設置者	学校法人 別府大学
理事長	西村 駿一
学 長	田中 恒治
A L O	富田 健二郎
開設年月日	昭和29年4月1日
所在地	大分県別府市大字北石垣82

設置学科および入学定員(募集停止を除く)

学科	専攻	入学定員
食物栄養科		50
初等教育科		150
地域総合科学科		140
保育科		80
	合計	420

専攻科および入学定員(募集停止を除く)

専攻	入学定員
福祉専攻	25
初等教育専攻	10
	合計 35

通信教育および入学定員(募集停止を除く)

なし

機関別評価結果

別府大学短期大学部は、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていることから、平成19年3月22日付で適格と認める。

機関別評価結果の事由

1. 総評

平成17年7月25日付で当該短期大学からの申請を受け、本協会は第三者評価を行ったところであるが、評価の結果、当該短期大学は、自らの掲げる教育理念の実現および教育目標の達成に向けて順調に進捗しており、本協会が定める短期大学評価基準を充たしていると判断した。

上記の判断に至った事由は、おおよそ次の通りである。

実学的な教育目的・教育目標は明確である。教育目的・教育目標に沿った教育体系は整備されており、自ら掲げる教育理念の達成に向けて順調に進捗している。また、学内だけでなく、学外的にも大分県下の高等教育の中心的立場で教育目的・教育目標の見直しを図る努力も払われている。

食物栄養、初等教育、地域総合科学、保育の各科および専攻科が設置され、それぞれの教育目的・教育目標に基づき教育課程が体系的に編成され、総合短期大学として学生の多様なニーズに応えられる体制が整えられている。

多様な調査を行い、教育の効果を確認し、その結果を踏まえて改善に努力している姿勢がうかがえる。教育目標の達成については個人レベルでの指導も行き、学生の満足度に配慮するとともに資格・免許取得への取組みもなされている。

併設の別府大学との連携で留学生を支援する日本語教育や学生寮の確保が図られている。学習面においても組織的あるいは個人指導の徹底など様々な取組みと工夫がなされている。学生生活支援や進路支援についても組織と担当教員によって支援体制が整っている。

短期大学という限られた時間のなか、教育活動のほか研究活動も総じて活発に行われており、研究に係る経費も適切である。

地域文化の推進という役割を十分に意識し、「国際協力と地域貢献」の理念のもとに、各学科の特色をいかした社会的活動、ボランティア活動の取組みが体系的に行われている。国際交流活動も活発で、併設の別府大学と連携して、研修、短期留学などを積極的に行っている。

理事会、評議員会において決裁された法人業務の遂行、法に基づく公認会計士の監査、監事の法人業務および財務に関する監査など適切に行われている。理事会、教授会などの

決定事項の伝達も行われており、事務組織も教職員と事務職員との信頼関係のうえに成り立った協力体制が発揮されるよう努力している。また、検討課題として教員の任期制の導入や定年年齢の引き上げなどに伴う雇用など時代の流れに即した取組みも検討されている。

入学者を順調に確保しており、このことにより過去3年間にわたり資金収支、消費収支ともに安定して推移している。教育研究経費比率については、過去3年間とも適当である。支払資金も相当額確保できており、将来に備えた積立金および第2号基本金も充実している。

自己点検・評価活動は、平成13年度より「自己点検・評価委員会」を組織し、「自己点検・評価委員会規程」に基づきほぼ毎年自己点検・評価報告書を作成し、関係機関および教職員に配布している。さらに、この結果を活用して指導内容の改善、教員の研究活動への取組みなどの工夫を行い、発表し、相互に研鑽している。また、明らかになった問題点についても率直にみつめ、必要な方途を探る意欲が認められる。さらに、「ファカルティ・ディベロップメント（FD）研究会」では組織的な検討が行われている。

2. 優れていると判断される事項など

(1) 優れていると判断される事項

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 九州大分の地で昭和21年という時代背景の下、女子教育において唱えられた「人間が人間らしく生きるためには、まず自由でなければならない」という建学の精神は現代においてもなお求められるものである。この建学の精神に基づき、総合短期大学として学生の多様なニーズに答えていること、および入学時の保護者参加によるオリエンテーション、教職員の新任者研修などの取組みは評価される。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 学生のニーズを見極め、社会ニーズにも応えられるよう絶えず改善の努力がなされている。特に、食物栄養科では教養教育の中に国際理解の立場から台湾での海外研修を取入れたり、栄養士の資格取得を第一目標としながらも中学校教諭、フードスペシャリスト、司書教諭などの資格・免許も取得可能な課程としている。さらに調理技術確立のための「基礎調理」（一年入学時、集中講義）はユニークである。初等教育科ならびに保育科の「研究会活動」はゼミ形式で教員と学生の交流の場となっている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 教育環境はよく整備され、メディアセンターの完成により一層の情報教育の充実が期待される。また、大分キャンパスの恵まれた自然環境と周囲の雰囲気にもマッチしたセ

ミナーハウスでの「研究会活動」は特筆に値する。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 学生による授業アンケートの実施や、卒業生や就職先に対する教育効果の調査を行い、教育内容の改善に利用したり、短期大学独自の緊急時貸与金制度を設け、経済的理由による退学を防ぐよう努めたりしている点は優れた取組みである。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 就職希望者は高い比率で就職しており、その支援体制も整っている。食物栄養科では、2学年合同での研修会実施などにより学年間の意思疎通も図っている。地域総合科学科では入学後1人の学生に30分の個人指導を実施し進路指導、助言を行っている。特に初等教育科、保育科で活発に行われている「研究会活動」は優れた取組みである。

評価領域Ⅵ 研究

- 小学校教諭二種免許状取得済みの学生が、「教育マイスタープロジェクト」のもとで補助教員（AT）などとして研修を行うという画期的な取組みで、短期大学では唯一「大学・大学院における教員養成推進プログラム」に採択されたということは特筆に値する。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 「国際協力と地域貢献」の理念のもと、周辺地区の防犯パトロール、ごみ拾いという身近の社会活動をはじめ県主催の研修会などにも協力し、積極的に地域貢献を行っている。国際交流においても多くの学生が交流協定校と相互訪問を行うなど実績をあげている。また、高大連携など、ほかの教育機関との連携面での活発な社会貢献活動がなされている。

評価領域Ⅸ 財務

- 正味財産は増加し、将来予想される資金については、特定預金として積み立てられている。

（2）向上・充実のための課題

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 図書館の開館時間および休暇中の開館方策については検討が望まれる。
- 食物栄養科の実験・実習室については、より学生の便益を図るため、建物、設備に努力されたい。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 成績評価については、学科間の共通基準の導入などの検討が望まれる。

評価領域Ⅴ 学生支援

- 大分キャンパスでは通学バスの便数確保などについてさらなる充実が求められる。

(3) 早急に改善を要すると判断される事項

なし

領域別評価結果

評価領域	評価結果
評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標	合
評価領域Ⅱ 教育の内容	合
評価領域Ⅲ 教育の実施体制	合
評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果	合
評価領域Ⅴ 学生支援	合
評価領域Ⅵ 研究	合
評価領域Ⅶ 社会的活動	合
評価領域Ⅷ 管理運営	合
評価領域Ⅸ 財務	合
評価領域Ⅹ 改革・改善	合

評価領域Ⅰ 建学の精神・教育理念、教育目的・教育目標

- 「真理はわれらを自由にする」を建学の精神とし、人間が生きるための法則を明らかにし、いかに生きるかの指針となるべき真理探究を行うことが大学の使命であるとして、学生には先人の知恵を学び、さらに自らの研究、実践の中からも真理・法則を見つけ、自由に生きて欲しいと教えている。この建学の精神は教育理念と一体化されており、栄養士養成、保育、介護など実学的教育に目標を設定し、教育目的を明確に打ち出している。
- 教育課程は資格取得を前提として編成されており、実学的な教育のなかに学生のニーズが盛り込まれ、体系的に教育理念が反映されている。また、学科毎の学科会議や学科長会議などにおいて教育目的・教育目標と学生の動向や社会のニーズとのすり合わせも行われている。
- 教育目的・教育目標は、学生に対しては入学式や「大学案内」、「学生生活」などの冊子およびオリエンテーションを通して、教職員に対しては年度当初の理事長訓話や学長挨拶、新任者研修などを通して、共通理解が得られるよう努めている。
- 学内だけでなく、学外的にも大分県下の高等教育の中心的立場で教育目的・教育目標の見直しを図る努力も払われている。

評価領域Ⅱ 教育の内容

- 教育課程には建学の精神や教育理念が反映され、それぞれの学科・専攻の教育目的・

教育目標に基づき体系的に編成されている。教養教育にも配慮がみられ、専門教育も十分な内容を備えている。

- 教育課程は、各学科・専攻で具体的に示されており、多様な免許・資格が取得できるよう工夫されており、学生のニーズに充分応えている。授業形態あるいは必修・選択のバランスもよく、クラス規模も適当である。
- 授業内容、教育方法の取組みとして学生による授業評価が行われており、それらを取りまとめた「授業評価結果統計データ集」を参考に、FD研究会においてお互いの授業内容を評価し、討論を行うなど積極的な改善努力がなされている。

評価領域Ⅲ 教育の実施体制

- 専任教員数は短期大学設置基準を充たしている。
- 校地、校舎は、短期大学設置基準を充たしている。教育環境は、別府キャンパス、大分キャンパスの2地域に分かれ、双方とも広大な敷地を有している。研究棟のほかセミナーハウス、音響効果を持つ文化ホールも周辺の緑の中にあり、環境は充分である。情報インフラも整っており、メディアセンターの設置により情報教育はさらに発展すると思われる。障害者への対応もトイレ、スロープ、駐車場と整備されている。なお、食物栄養科の実験・実習室については、就職や学外実習の点から改善を求めたい。また、大分キャンパスでは教育環境が素晴らしい反面、通学や学生生活への支援体制の一層の充実が望まれる。
- 図書館は別府、大分の両キャンパスにあり、キャンパス間は光ファイバーで結ばれ、双方で資料の検索や貸出が行われている。入館数は増加しているが、学生の貸出冊数は減っているのが気になるところではある。さらに県内大学と県立の図書館とも連携を保っている。学外利用者にも館内閲覧のみは認めており、今後は地域開放も視野に入れているところから十分に学習資源は整備され環境は整っている。開館時間および休暇中の開館方策については検討が望まれる。

評価領域Ⅳ 教育目標の達成度と教育の効果

- 学生による授業評価の結果を踏まえ、学生自身の授業の取組み姿勢や理解度、満足度を授業形態別に比較し、改善すべき点について言及している。退学・休学者や留学生に対しても担任制を敷いて対応している。資格取得についても、取得を目指した学生の多数が資格を手に入れている。単位認定の方法は、適切であり、単位の取得状況も妥当である。しかし、成績評価については学科間の共通基準の導入などの検討が望まれる。また、食物栄養科では資格取得に関して到達度の遅い学生に対しては、2年後期まで延長して機会を与えるなどの工夫をしている。

- 各学科・専攻毎の専門就職状況は高い。学生たちの就職先にアンケート調査を依頼し、「卒業生の就職先に対するアンケート調査結果統計データ集」の結果を踏まえ、問題点についてはその対策を検討している。卒業生に対しては、学生時代についてのアンケート調査を行い、その結果を当該短期大学の改善の資料としている。

評価領域V 学生支援

- オリエンテーションの指導を軸に、各学科の特色を考慮し、基本的には個別指導を行っている。クラス担任制を設け、学習および学生生活面の指導、支援が行われており、基礎学力不足の学生に対しては補習・補講用授業科目の設定、2年次再指導などを、一方、進度の早い学生に対しては「研究会活動」などそれぞれの学生の満足度を高める学習支援が組織的に取組まれている。
- 月1回学生部委員会を開き、学生に関する問題を協議している。留学生に対しても留学生課を設置し、月1回は留学生委員会を開き、問題を協議する体制が整っている。学園祭は学生が主となって行っているが、経費に関し学園が予算化し補助している。
- 学生寮も充実している。新入生の受け入れを優先し、留学生に対しても開放している。学生の健康管理も保健師が常駐しており、カウンセリングも臨床心理士の資格を持つ教員が対応している。留学生に対しては、韓国人、中国人教員が留学生担当として相談にのっている。
- 経済面では外部奨学金のほか、短期大学独自の支援対策資金制度を設け体制整備の努力がみられる。
- 食堂については、スペース、座席数など一考の余地がある。
- 総体的に就職希望者は多く、地域総合科学科が目立つところではあるが、食物栄養科および初等教育科、保育科、専攻科ともに就職率は非常に高い。就職支援については、進路情報センターの組織とクラス担任、就職担当、進路委員の担当と全学一体となったきめ細かい支援体制が整っている。
- 留学生は年々増加している。別府大学文学部の日本語課程において日本語能力を身に付けてからそれぞれの専門課程に進む。入学してからも留学生担当教員を中心に指導を行っており、受け入れ体制が整っている。少数ではあるが社会人学生は意欲的で一般学生の範となっている。長期履修生については、今後、会社経営者などに呼びかけ、積極的に支援し特徴として位置づけたいとしている。

評価領域VI 研究

- 初等教育科ならびに保育科では、学生と教員が一体となって行っている「研究会活動」の体験を通して得たテーマを「特色ある大学教育支援プログラム」に申請し、不採択

となったものの一次審査はパスしている。また、専攻科初等教育専攻の「教育マイスタープロジェクト」が短期大学では唯一「大学・大学院における教員養成推進プログラム」として採択されている。教育業績、国際的活動、社会的活動についてはかなりの実績が認められるが、研究業績面が活発とはいえ教員もおり、学際的な分野での共同研究などの取組みも検討が望まれる。

- 各教員には、個室の研究室が与えられ、研究環境は整備されていると認められる。また、教員の研究に係る経費も適切に予算化されている。短期大学の場合、教育面での成果が優先されることが多く学外実習などへの対応に追われがちである。

評価領域Ⅶ 社会的活動

- 教育、研究ならびに社会的貢献を3つの柱として、「国際協力と地域貢献」の理念に基づき、社会貢献活動やボランティア活動を盛んに行っている。学生たちによるゴミ拾いや周辺地域の防犯パトロールなど取組みは具体的である。日本人学生や留学生、地域住民が一体となって「国際交流のつどい」をキャンパス内で行う一方、高等学校へ出向いて進路選択の指針となる体験授業を多く行っている。
- ボランティア活動をはじめ学生の社会的活動は、学生が社会的視点を得てその意義を実感できるきっかけになると位置づけ、学生達の社会的活動への活発な参加を促している。
- 併設の別府大学との連携もあり、国際交流活動も活発で、海外諸大学などと交流協定を結び提携を深めており、平成17年度では31校となっている。一方では教職員の留学、海外派遣、国際会議の出席なども活発に行われている。

評価領域Ⅷ 管理運営

- 学長のリーダーシップのもと、教授会は平成17年度において16回開催されており、学科会議、学科長会議をはじめ学生部委員会、教職課程委員会（大学と合同）、研究出版委員会など16種類の委員会が必要に応じて随時開催され、適切に運営されている。
- 事務組織は、併設大学と一元化した組織で運営されており、「事務組織規則」、「事務組織規程」の定めるところにより事務処理を行っているが、大学と短期大学の事務区分は必ずしも明確ではないように見受けられた。また、公文書類の收受などの業務は別府キャンパス、搬送は大分キャンパスの職員が毎日行っており、2つのキャンパス間の連絡・調整の迅速化が望まれる。決裁処理および学籍簿などの取扱いについては、「文書取扱規則」、「文書保存規程」により適切に行っている。また、公印は「公印規則」により厳格に管理を行っている。事務組織の質的向上を図るため、積極的に外部研修会に参加し、学内研修も実施している。

評価領域IX 財務

- 平成14年度に「第一次中期財務計画」として事業計画を立案し、平成16年度の最終年度の総括として収支の均衡がとれている。現在は「第二次中期財務計画」が進行中である。予算も財務計画、事業計画に基づいて、教育現場に主体性をもたせた予算の編成を行い、伝達、管理と体系的に運営されている。運用財産については、寄附行為で規定されている範囲内で確実な預金と積立金で運用され、積立金は引当金および基本金である特定預金と内容も充実している。公認会計士の監査時には、監事が立会い意見交換を行っている。私立学校法に基づき学園通信、学内掲示板およびウェブサイトで財務の概要を公開している。閲覧者に対しては「財務書類等の閲覧に関する規程」に基づき主要3表および財産目録、事業報告書、監事による監査報告書を閲覧に供している。
- 入学者を順調に確保しており、このことにより過去3年間にわたり資金収支、消費収支ともに安定して推移している。支払資金も相当額確保できており、将来に備えた積立金および第2号基本金も充実している。
- 「固定資産及び物品管理規程」、「図書館管理規程」などの財務諸規程は整備されている。防災管理体制は「保安規程」、「消防計画」、「防火管理規程」に基づき、防火管理者を中心に消防設備の点検、報告、自衛消防隊の編成を含め災害の防止に努めている。設備、セキュリティについては専門業者と保守契約を締結して学内管理者と提携して施設管理に努めている。情報のセキュリティ対策として、情報教育センターの下に侵入防止、ウイルス、業務用のデータ管理を適切に行っている。

評価領域X 改革・改善

- 「自己点検・評価委員会規程」に基づき「自己点検・評価委員会」を組織し、全ての教員と事務職員が関わり、授業評価を中心とした自己点検・評価報告書を毎年度末に作成し公表している。
- 自己点検・評価結果を踏まえ、教員は授業評価から自己の授業の在り方を省みるとともに、研究活動の充実に努めている。学園の状況などを提示することにより各教職員が共通の認識の上に立って自己研鑽および短期大学の改善に有効的に働いている。また、今後学生による職員の業務評価を行うことも検討している。
- 外部評価は、今回の第三者評価が初めての試みである。そのほかの相互評価や外部評価については未定であるが、今後は自己点検・評価報告書を学外の多くの機関に配布し、評価や意見を求める予定である。

浅井学園大学短期大学部	羽陽学園短期大学	城西短期大学
旭川大学女子短期大学部	山形短期大学	武蔵丘短期大学
小樽短期大学	いわき短期大学	武蔵野短期大学
帯広大谷短期大学	郡山女子大学短期大学部	山村学園短期大学
釧路短期大学	桜の聖母短期大学	植草学園短期大学
光塩学園女子短期大学	福島学院大学短期大学部	三育学院短期大学
國學院短期大学	茨城女子短期大学	昭和学院短期大学
札幌大谷短期大学	つくば国際短期大学	聖徳大学短期大学部
札幌国際大学短期大学部	常磐短期大学	清和大学短期大学部
札幌大学女子短期大学部	水戸短期大学	千葉敬愛短期大学
専修大学北海道短期大学	足利短期大学	千葉経済大学短期大学部
拓殖大学北海道短期大学	宇都宮短期大学	千葉明德短期大学
函館短期大学	宇都宮文星短期大学	帝京平成看護短期大学
函館大谷短期大学	國學院大學栃木短期大学	東京経営短期大学
文化女子大学室蘭短期大学	作新学院大学女子短期大学部	東洋女子短期大学
北星学園大学短期大学部	佐野短期大学	日本基督教短期大学
北海道自動車短期大学	育英短期大学	愛国学園短期大学
北海道文教大学短期大学部	関東短期大学	青山学院女子短期大学
北海道武蔵女子短期大学	桐生短期大学	亜細亜大学短期大学部
酪農学園大学短期大学部	群馬社会福祉大学短期大学部	大妻女子大学短期大学部
青森明の星短期大学	群馬松嶺福祉短期大学	嘉悦大学短期大学部
青森中央短期大学	高崎健康福祉大学短期大学部	共立女子短期大学
東北女子短期大学	高崎商科大学短期大学部	国際短期大学
八戸短期大学	新島学園短期大学	駒沢女子短期大学
弘前福祉短期大学	明和学園短期大学	実践女子短期大学
岩手看護短期大学	秋草学園短期大学	自由が丘産能短期大学
修紅短期大学	上野学園大学短期大学部	淑徳短期大学
盛岡大学短期大学部	浦和大学短期大学部	昭和女子大学短期大学部
尚絅学院大学女子短期大学部	川口短期大学	女子栄養大学短期大学部
聖和学園短期大学	共栄学園短期大学	女子美術大学短期大学部
東北生活文化大学短期大学部	国際学院埼玉短期大学	白梅学園短期大学
宮城誠真短期大学	埼玉短期大学	杉野服飾大学短期大学部
秋田栄養短期大学	埼玉医科大学短期大学	星美学園短期大学
聖霊女子短期大学	埼玉純真女子短期大学	創価女子短期大学
日本赤十字秋田短期大学	埼玉女子短期大学	鶴川女子短期大学
聖園学園短期大学	十文字学園女子大学短期大学部	帝京短期大学

帝京大学短期大学	洗足学園短期大学	正眼短期大学
戸板女子短期大学	鶴見大学短期大学部	高山自動車短期大学
東海大学短期大学部	田園調布学園大学短期大学部	中京短期大学
東京家政学院短期大学	東海大学医療技術短期大学	中部学院大学短期大学部
東京家政大学短期大学部	文教大学女子短期大学部	東海女子短期大学
東京交通短期大学	横浜女子短期大学	中日本自動車短期大学
東京女子体育短期大学	横浜創英短期大学	静岡英和学院大学短期大学部
東京成徳短期大学	横浜美術短期大学	静岡福祉大学短期大学部
東京田中短期大学	新潟工業短期大学	常葉学園短期大学
東京農業大学短期大学部	新潟青陵大学短期大学部	浜松学院大学短期大学部
東京富士大学短期大学部	新潟中央短期大学	愛知学院大学短期大学部
東京文化短期大学	日本歯科大学新潟短期大学	愛知学泉短期大学
東京立正短期大学	明倫短期大学	愛知きわみ看護短期大学
東邦音楽短期大学	富山短期大学	愛知工科大学短期大学部
桐朋学園芸術短期大学	富山福祉短期大学	愛知江南短期大学
東横学園女子短期大学	金沢学院短期大学	愛知産業大学短期大学
日本体育大学女子短期大学部	金城大学短期大学部	愛知新城大谷大学短期大学部
日本大学短期大学部	小松短期大学	愛知大学短期大学部
文化女子大学短期大学部	星稜女子短期大学	愛知文教女子短期大学
文京学院短期大学	北陸学院短期大学	愛知みずほ大学短期大学部
宝仙学園短期大学	仁愛女子短期大学	一宮女子短期大学
目白大学短期大学部	敦賀短期大学	岡崎女子短期大学
ヤマザキ動物看護短期大学	帝京学園短期大学	光陵女子短期大学
山野美容芸術短期大学	山梨学院短期大学	中京女子大学短期大学部
山脇学園短期大学	飯田女子短期大学	東邦学園短期大学
立教女学院短期大学	上田女子短期大学	豊橋創造大学短期大学部
和泉短期大学	信州短期大学	名古屋短期大学
小田原女子短期大学	信州豊南短期大学	名古屋学芸大学短期大学部
鎌倉女子大学短期大学部	清泉女学院短期大学	名古屋経営短期大学
カリタス女子短期大学	長野経済短期大学	名古屋経済大学短期大学部
相模女子大学短期大学部	長野女子短期大学	名古屋芸術大学短期大学部
上智短期大学	松本短期大学	名古屋女子大学短期大学部
湘南短期大学	松本大学松商短期大学部	名古屋造形芸術大学短期大学部
湘北短期大学	大垣女子短期大学	名古屋文化短期大学
昭和音楽大学短期大学部	岐阜医療技術短期大学	名古屋文理大学短期大学部
聖セシリア女子短期大学	岐阜聖徳学園大学短期大学部	名古屋柳城短期大学

南山短期大学	大阪成蹊短期大学	湊川短期大学
藤田保健衛生大学短期大学	大阪体育大学短期大学部	武庫川女子大学短期大学部
鈴鹿短期大学	大阪千代田短期大学	大阪樟蔭女子大学短期大学部
高田短期大学	大阪夕陽丘学園短期大学	畿央大学短期大学部
三重中京大学短期大学部	関西外国語大学短期大学部	奈良芸術短期大学
滋賀女子短期大学	関西女子短期大学	奈良佐保短期大学
滋賀文化短期大学	近畿大学短期大学部	奈良文化女子短期大学
滋賀文教短期大学	堺女子短期大学	白鳳女子短期大学
聖泉大学短期大学部	四條畷学園短期大学	和歌山信愛女子短期大学
池坊短期大学	四天王寺国際仏教大学短期大学部	鳥取短期大学
華頂短期大学	樟蔭東女子短期大学	岡山短期大学
京都短期大学	千里金蘭大学短期大学部	川崎医療短期大学
京都医療技術短期大学	相愛女子短期大学	作陽短期大学
京都外国語短期大学	常磐会短期大学	山陽学園短期大学
京都経済短期大学	梅花女子大学短期大学部	就実短期大学
京都光華女子大学短期大学部	東大阪大学短期大学部	順正短期大学
京都嵯峨芸術大学短期大学部	プール学院大学短期大学部	中国短期大学
京都西山短期大学	平安女学院大学短期大学部	美作大学短期大学部
京都文教短期大学	芦屋女子短期大学	呉大学短期大学部
聖母女学院短期大学	大手前短期大学	山陽女子短期大学
龍谷大学短期大学部	近畿大学豊岡短期大学	鈴峯女子短期大学
藍野学院短期大学	賢明女子学院短期大学	比治山大学短期大学部
大阪青山短期大学	甲子園短期大学	広島国際学院大学自動車短期大学部
大阪大谷大学短期大学部	神戸松蔭女子学院大学短期大学部	広島文化短期大学
大阪音楽大学短期大学部	神戸女子短期大学	安田女子短期大学
大阪学院短期大学	神戸常盤短期大学	岩国短期大学
大阪キリスト教短期大学	神戸文化短期大学	宇部フロンティア大学短期大学部
大阪薫英女子短期大学	神戸山手短期大学	下関短期大学
大阪芸術大学短期大学部	産業技術短期大学	山口短期大学
大阪健康福祉短期大学	夙川学院短期大学	山口芸術短期大学
大阪国際大学短期大学部	頌栄短期大学	四国大学短期大学部
大阪産業大学短期大学部	聖和大学短期大学部	徳島工業短期大学
大阪城南女子短期大学	園田学園女子大学短期大学部	徳島文理大学短期大学部
大阪女学院短期大学	東洋食品工業短期大学	香川短期大学
大阪女子短期大学	姫路日ノ本短期大学	瀬戸内短期大学
大阪信愛女学院短期大学	兵庫大学短期大学部	高松短期大学

今治明德短期大学
愛媛女子短期大学
聖カトリック大学短期大学部
松山短期大学
松山東雲短期大学
高知学園短期大学
折尾愛真短期大学
九州大谷短期大学
九州女子短期大学
九州造形短期大学
近畿大学九州短期大学
久留米信愛女学院短期大学
香蘭女子短期大学
純真女子短期大学
精華女子短期大学
西南女学院大学短期大学部
聖マリア学院短期大学
第一保育短期大学
筑紫女学園大学短期大学部
東海大学福岡短期大学
中村学園大学短期大学部
西日本短期大学
東筑紫短期大学
福岡医療短期大学
福岡工業大学短期大学部
福岡女学院大学短期大学部
福岡女子短期大学
九州龍谷短期大学
佐賀短期大学
佐賀女子短期大学
玉木女子短期大学
長崎短期大学
長崎外国語短期大学
長崎女子短期大学
尚綱大学短期大学部
中九州短期大学

大分短期大学
東九州短期大学
別府大学短期大学部
別府溝部学園短期大学
聖心ウルスラ学園短期大学
南九州短期大学
宮崎女子短期大学
鹿児島国際大学短期大学部
鹿児島純心女子短期大学
鹿児島女子短期大学
第一幼児教育短期大学
沖縄キリスト教短期大学
沖縄女子短期大学

以上 (373 校)